2023年度
シラバス
（講義要綱）

2022年度以前入学生
環境情報学部

四日市大学

目　　次

【環境情報学部】卒業必要単位数

【2017年度以降入学生】

<table>
<tr><th colspan="3">区分</th><th colspan="5">卒業必要単位数</th></tr>
<tr><td rowspan="19">全学共通教育科目</td><td colspan="2">基礎科目</td><td>必修</td><td colspan="3">6単位</td><td rowspan="19">50単位以上</td><td rowspan="28">全学共通教育科目・専門教育科目から自由に18単位以上</td><td rowspan="28">合計130単位以上</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">語学科目</td><td>必修</td><td colspan="3">4単位　留学生は日本語で4単位</td></tr>
<tr><td>選択</td><td colspan="3">4単位以上
留学生は日本語で4単位以上</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">情報科目</td><td>必修</td><td colspan="3" rowspan="2">6単位</td></tr>
<tr><td>選択</td></tr>
<tr><td colspan="2">地域科目</td><td>選択</td><td colspan="3">4単位以上</td></tr>
<tr><td rowspan="3">一般教養科目</td><td>社会科学系列</td><td>選択</td><td colspan="3">4単位以上</td></tr>
<tr><td>人文科学系列</td><td>選択</td><td colspan="3">4単位以上</td></tr>
<tr><td>自然科学系列</td><td>選択</td><td colspan="3">4単位以上</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">キャリア科目</td><td>必修</td><td colspan="3">4単位</td></tr>
<tr><td>選択</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td colspan="2">※特別科目</td><td>選択</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td rowspan="5">スキル科目</td><td>社会調査士養成ユニット</td><td>選択</td><td colspan="3" rowspan="5">いずれかのユニットから10単位以上</td></tr>
<tr><td>公務員養成ユニット</td><td>選択</td></tr>
<tr><td>おもてなし経営ユニット</td><td>選択</td></tr>
<tr><td>英語力養成ユニット</td><td>選択</td></tr>
<tr><td>メディアデザインユニット</td><td>選択</td></tr>
<tr><td rowspan="9">専門教育科目</td><td colspan="2">学部基礎科目</td><td>必修</td><td colspan="3">6単位</td><td rowspan="9">62単位以上</td></tr>
<tr><td colspan="2">セミナー</td><td>必修</td><td colspan="3">12単位</td></tr>
<tr><td colspan="2">自然環境分野</td><td rowspan="2">選択必修</td><td rowspan="4">いずれかの分野を選択し、分野必修6単位と同じ分野から18単位以上</td><td rowspan="5">選択した以外の分野および分野共通科目から12単位以上</td><td rowspan="5">左記の条件を満たし、さらに8単位以上</td></tr>
<tr><td colspan="2">メディア情報分野</td></tr>
<tr><td colspan="2">自然環境分野</td><td rowspan="2">選択</td></tr>
<tr><td colspan="2">メディア情報分野</td></tr>
<tr><td colspan="2">分野共通科目</td><td>選択</td><td></td></tr>
</table>

※特別科目の他大学開放科目については、全学共通教育科目の必要単位数を超えて修得した科目として認定し、10単位まで含めることができる。

カリキュラム表の見方

区　　分	基礎や専門、分野・コースなどの区分を記載します。
授業科目名	科目の名称・サブタイトルを記載します。
単　位　数	科目ごとの単位数を記載します。丸付数字は必修科目を表します。
年　　次	科目が開講されている学年・学期を記載します。 ○　…半期週１回開講 ◎　…半期週２回開講 集　…集中講義 ▲　…その他の開講 　　…不開講科目
講師区分	本学の教員かそうでないかを記載します。 兼　…他学部所属教員 非　…他大学、他組織所属教員 空白　…本学部所属の教員を表します。
担当教員	科目を担当する教員名を記載します。
地　　域	地域志向科目（地域と結び付き具体的に学び、実践する科目）
ベーシック	ファンタジスタ科目ー三重創生ファンタジスタ（ベーシック）資格科目
実　　践	実践交流科目ー三重創生ファンタジスタ（アドヴァンス）資格科目
実　　務	実務家教員授業科目

環境情報学科（17カリキュラム表）

区分			2017～2022年度入学生授業科目名	読み替え科目名	単位数	配当年次 1年次 前	1年次 後	2年次 前	2年次 後	3年次 前	3年次 後	4年次 前	4年次 後	講師区分	担当教員	ページ	地域	ベーシック	実践	実務	備考
全学共通教育科目	基礎科目	必修	「人間たれ」	「人間たれ」Ⅰ	②	○								兼	岩崎　恭典	1					
			入門演習Ⅰ	入門演習a	②	○									池田　幹男	2					
															大八木　麻希						
															樋口　晶子						
															前川　督雄						
															柳澤　翔士						
			入門演習Ⅱ	入門演習b	②		○								池田　幹男	3					
															大八木　麻希						
															樋口　晶子						
															前川　督雄						
															柳澤　翔士						
	語学科目	必修	基礎英語Ⅰ		②	○									青木　陽子	4					
															樋口　晶子						
														兼	ゴードン　リース						
														非	ケント・スコット						
														非	柴田　啓文						
														非	武藤　和成						
			基礎英語Ⅱ		②		○								青木　陽子	5					
															樋口　晶子						
														兼	ゴードン　リース						
														非	ケント・スコット						
														非	柴田　啓文						
														非	武藤　和成						
			基礎日本語Ⅰ		②	◎								非	伊藤　晴苗	6					留学生科目
														非	角田　延之						
														非	安田　由紀子						
			基礎日本語Ⅱ		②		◎							非	伊藤　晴苗	7					留学生科目
														非	角田　延之						
														非	安田　由紀子						
		選択科目	英語コミュニケーションⅠ		2			○							青木　陽子	8					
															樋口　晶子	9					
														兼	ゴードン　リース	10					
			英語コミュニケーションⅡ		2				○						青木　陽子	11					
															樋口　晶子	12					
														兼	ゴードン　リース	13					
			中国語Ⅰ		2			○							吉山　青翔	14					
														兼	加納　光	15					
			中国語Ⅱ		2				○						吉山　青翔	16					
														兼	加納　光	17					
			ポルトガル語Ⅰ		2			○						兼	フェリペ　フェハーリ	18					
			ポルトガル語Ⅱ		2				○					兼	フェリペ　フェハーリ	19					
			海外語学研修a（英語）		2				▲												
			海外語学研修b（中国語）		2			▲													
			日本語中級Ⅰ		2			○						非	伊藤　晴苗	20					留学生科目
														非	角田　延之						
														非	安田　由紀子						
			日本語中級Ⅱ		2				○					非	伊藤　晴苗	21					留学生科目
														非	角田　延之						
														非	安田　由紀子						
			日本語上級Ⅰ		2					○				兼	加納　光	22					留学生科目
														非	伊藤　晴苗						
														非	角田　延之						
														非	安田　由紀子						
			日本語上級Ⅱ		2						○			兼	加納　光	23					留学生科目
														非	伊藤　晴苗						
														非	角田　延之						
														非	安田　由紀子						
	情報科目	必修	コンピュータリテラシー		④	○									田中　伊知郎	24					
			情報倫理		②		○								田中　伊知郎	25					
		選択	情報科学	情報科学概論	2	○									池田　幹男	26					オンデマンド
			情報と職業		2	○								非	井岡　幹博	27					
			アプリケーション演習I	文書表現ツール1	2		○								池田　幹男	28					
			アプリケーション演習II		2			○							柳澤　翔士	29					
	地域科目		四日市学		2	○									鬼頭　浩文	30	○	○			
														兼	岡　良浩						
														兼	永井　博						
														非	李　修二						
			地域社会の歴史		2		○							兼	浅井　雅	31	○	○			
			市民教育		2	○								兼	フェリペ　フェハーリ	32	○	○			
			人権論	「人間たれ」Ⅱ	2		○								青木　陽子	33	○	○			
														兼	浅井　雅						
														兼	岩崎　恭典						
			地域社会と環境		2	○									野呂　達哉	34	○	○		○	
			地域防災		2	○									鬼頭　浩文	35	○	○	○	○	オンデマンド
			地域連携特別講義a	全学共通特別講義a	2									兼	倉田　英司	36	○	○	○	○	
			地域連携特別講義b		2																

環境情報学科（17カリキュラム表）

区分			2017～2022年度入学生授業科目名	読み替え科目名	単位数	配当年次 1年次 前	1年次 後	2年次 前	2年次 後	3年次 前	3年次 後	4年次 前	4年次 後	講師区分	担当教員	ページ	地域	ベーシック	実践	実務	備考
全学共通教育科目	一般教養科目	社会科学系列	経営学		2		○							兼	川崎　綾子	37					
			経済学	経済学概論	2		○								鬼頭　浩文	38					
			政治学	政治学概論	2	○								兼	吉川　和挟	39					
			社会学	社会学概論	2	○								兼	三田　泰雅	40					
			ジェンダー論		2		○							兼	高田　晴美	41					
														兼	三田　泰雅						
			メディアリテラシー		2	○									前川　督雄	42					
			社会福祉概論		2	○								非	李　修二	43					
			日本国憲法	日本国憲法概論	2	○								兼	中西　紀夫	44					
			法学		2		○							兼	中西　紀夫	45					
			民法入門	民法概論	2		○							非	土志田　佳枝	46				○	
		人文科学系列	倫理学		2		○							兼	フェリペ　フェハーリ	47					
			哲学	哲学概論	2	○								兼	フェリペ　フェハーリ	48					
			文学	文学概論	2	○								兼	永井　博	49					
			文章表現論		2	○	○							兼	永井　博	50					
														非	杉谷　克芳	51					
			文化論	表象文化論	2		○							兼	高田　晴美	52					
														兼	富田　与						
														兼	永井　博						
														兼	三田　泰雅						
			教育学	教育学概論	2		○							非	長谷川　誠	53					
			日本史概論	歴史学概論	2	○								兼	浅井　雅	54					
			世界史概論	近現代史概論	2		○							兼	浅井　雅	55					
			地理学概論		2																
			地誌		2																
		自然科学系列	科学的思考論		2	○									吉山　青翔	56					
			科学思想史		2		○														
			自然科学概論		2	○									田中　伊知郎	57					
			数学概論		2	○								非	金岩　稔	58					
			化学概論		2	○									牧田　直子	59					
			地学概論		2	○								非	森　康則	60					
			生物学概論		2		○								田中　伊知郎	61					オンデマンド
			生物と進化		2	○									田中　伊知郎	62					
			環境論		2		○								吉山　青翔	63					
			心理学	心理学概論	2		○								田中　伊知郎	64					
	キャリア科目	必修	キャリア基礎Ⅰ		②		○								吉山　青翔	65				○	
														兼	岡　良浩						
			キャリア基礎Ⅱ		②			○							田中　伊知郎	66				○	
															樋口　晶子						
															牧田　直子						
															吉山　青翔						
														兼	岩崎　祐子						
														兼	岡　良浩						
														兼	永井　博						
														兼	中西　紀夫						
														非	李　修二						
		選択	キャリア基礎Ⅲ		2				○						田中　伊知郎	67				○	
															樋口　晶子						
															牧田　直子						
															吉山　青翔						
														兼	岩崎　祐子						
														兼	岡　良浩						
														兼	永井　博						
														兼	中西　紀夫						
														非	李　修二						
	特別科目		ボランティア活動a		2	▲								兼	倉田　英司	68	○				
			ボランティア活動b		2	▲								兼	倉田　英司	69	○				
			国際協力研修		2		▲							兼	岩崎　祐子	70					
			インターンシップ		2			▲							鬼頭　浩文	71	○	○			
			他大学開放科目a		2			▲													
			他大学開放科目b		2			▲													
			他大学開放科目c		2			▲													
			他大学開放科目d		2			▲													
			他大学開放科目e		2			▲													
	スキル科目	公務員養成	公務のための数的推理		2		○							兼	高田　晴美	72					
			公務のための判断推理		2	○								兼	高田　晴美	73					
			公務のための現代文		2		○							兼	高田　晴美	74					
			公務のための政治学		2				○					兼	小林　慶太郎	75					
			公務のための経済学		2				○						鬼頭　浩文	76					
			公務のための法学		2			○						兼	中西　紀夫	77					
			公務のための人文科学		2			○						兼	浅井　雅	78					
			公務のための自然科学		2					○				兼	高田　晴美	79					
			公務のための英文理解		2						○			兼	ゴードン　リース	80					
			公務のための論文・面接		2							○		兼	小林　慶太郎	81					

区分			2017～2022年度入学生 授業科目名	読み替え科目名	単位数	配当年次 1年次 前	1年次 後	2年次 前	2年次 後	3年次 前	3年次 後	4年次 前	4年次 後	講師区分	担当教員	ページ	地域	ベーシック	実践	実務	備考
全学共通教育科目	環境情報学部スキル科目	おもてなし経営	ビジネスマナー		2		○							非	長野ゆき子	82				○	
			サービス経営論		2	○								兼	岡　良浩	83					
			販売士講座		2			○						非	山川　和美	84				○	
			ビジネスコミュニケーション		2			○						非	長野ゆき子	85				○	
			グローバルコミュニケーション		2				○					兼	富田　与	86					
			オペレーション演習		2			集						兼 兼 兼	岡　良浩 川崎　綾子 永井　博	87	○	○	○		
			ビジネスマネジメント		2					○				兼 兼	岩崎　祐子 奥原　貴士	88					
			マーケティング演習		2						○			兼 兼	岩崎　祐子 岡　良浩	89	○	○		○	
			おもてなし特別講義a		2			○						兼 兼	岩崎　祐子 岡　良浩	90	○	○		○	
			おもてなし特別講義b		2				○					 兼 兼	池田　幹男 岩崎　祐子 岡　良浩	91	○	○		○	
		英語力養成	観光英語Ⅰ		2	○								兼	ゴードン　リース	92					
			観光英語Ⅱ		2		○							兼	ゴードン　リース	93					
			コンピュータ英語Ⅰ	ビジネス英語a	2	○								非	柴田　啓文	94					
			コンピュータ英語Ⅱ	ビジネス英語b	2		○							非	柴田　啓文	95					
			英語表現Ⅰ		2			○						兼	ゴードン　リース	96					
			英語表現Ⅱ		2				○					兼	ゴードン　リース	97					
			ビジネス英語Ⅰ		2			○							樋口　晶子	98					
			ビジネス英語Ⅱ		2				○						樋口　晶子	99					
			検定英語Ⅰ		2					○				非	武藤　和成	100					
			検定英語Ⅱ		2						○			非	武藤　和成	101					
		メディアデザイン	メディアツールa	グラフィックツール1	2	○								非	西尾　秀樹	102				○	
			メディアツールb	グラフィックツール2	2		○							非 非	西尾　秀樹 山本　努武	103				○ ○	
			メディアツールc		2			○						非	田中　麻衣	104				○	
			メディアツールd		2				○						柳澤　翔士	105				○	
			Webデザインa		2				○					非	堀内　敬弘	106				○	
			Webデザインb		2					○				非	堀内　敬弘	107				○	
			Webプログラミングa	Webプログラミング1	2		○							 	池田　幹男 片山　清和 柳澤　翔士	108				 ○	
			Webプログラミングb		2			○						 	池田　幹男 柳澤　翔士	109				 ○	
			インターネット論	ITリテラシー	2			○							柳澤　翔士	110				○	
		数理・統計力養成	基礎数学		2		○							非	金岩　稔	111					
			統計リテラシー		2		○							非	井岡　幹博	112					
			確率基礎		2			○						非	金岩　稔	113					
			微分積分		2			○							池田　幹男	114					
			線形代数		2			○						非	金岩　稔	115					
			データ分析の基礎	統計学入門	2				○						田中　伊知郎	116					オンデマンド
			統計的分析		2				○						田中　伊知郎	117					
			データ解析の技法		2				○					非	古山　歩	118					
			データ統計処理		2					○					片山　清和	119					

区分			2017～2022年度入学生授業科目名	読み替え科目名	単位数	配当年次 1年次 前	1年次 後	2年次 前	2年次 後	3年次 前	3年次 後	4年次 前	4年次 後	講師区分	担当教員	ページ	地域	ベーシック	実践	実務	備考
専門教育科目	学部基礎	必修	環境情報学概論Ⅰ		2	○									前川　督雄	120					
			環境情報学概論Ⅱ		2		○								田中　伊知郎	121					自然環境分野
															前川　督雄	122					メディア情報分野
			四日市公害論		2			○							鬼頭　浩文	123	○	○		○	
															千葉　賢						
	演習科目	必修	基礎演習a		②			○							片山　清和	124					
															前川　督雄						
															足立　明信	125					
															黒田　淳哉						
															柳瀬　元志						
															野呂　達哉	126					
															廣住　豊一						
															牧田　直子						
			基礎演習b		②				○						片山　清和	127					
															前川　督雄						
															足立　明信	128					
															黒田　淳哉						
															柳瀬　元志						
															大八木　麻希	129					
															野呂　達哉						
															廣住　豊一						
			専門演習a		②					○					足立　明信	130					
															大八木　麻希	131					
															片山　清和	132					
															黒田　淳哉	133					
															千葉　賢	134					
															野呂　達哉	135					
															廣住　豊一	136					
															前川　督雄	137					
															牧田　直子	138					
															柳瀬　元志	139					
			専門演習b		②						○				足立　明信	140					
															大八木　麻希	141					
															片山　清和	142					
															黒田　淳哉	143					
															千葉　賢	144					
															野呂　達哉	145					
															廣住　豊一	146					
															前川　督雄	147					
															牧田　直子	148					
															柳瀬　元志	149					
			専門演習c		②							○			足立　明信	150					
															池田　幹男	151					
															大八木　麻希	152					
															片山　清和	153					
															黒田　淳哉	154					
															千葉　賢	155					
															野呂　達哉	156					
															廣住　豊一	157					
															前川　督雄	158					
															牧田　直子	159					
															柳瀬　元志	160					
			専門演習d		②								○		足立　明信	161					
															池田　幹男	162					
															大八木　麻希	163					
															片山　清和	164					
															黒田　淳哉	165					
															千葉　賢	166					
															野呂　達哉	167					
															廣住　豊一	168					
															前川　督雄	169					
															牧田　直子	170					
															柳瀬　元志	171					
	自然環境分野	分野必修	地球環境学総論	地球環境学	2	○									廣住　豊一	172					
			生態学		2			○							大八木　麻希	173					
			環境保全学		2				○						野呂　達哉	174				○	
		環境基礎	環境化学		2		○								牧田　直子	175					
			環境化学実験		2		○								牧田　直子	176					
			自然調査法		2				○						大八木　麻希	177					
		環境保全	地域環境論	地域連携環境講義	2	○									千葉　賢	178	○	○		○	
			環境エネルギー論		2						○			非	森　康則	179				○	
			資源循環論		2						○			非	村田　静昭	180				○	
			地理情報システム論		2					○				非	井岡　幹博	181					
			環境倫理学	環境科学	2		○								廣住　豊一	182					
			環境政策		2			○							鬼頭　浩文	183					
														兼	岡　良浩						
			環境保全とツーリズム		2			集							千葉　賢	184	○	○	○		
														兼	岡　良浩						
			環境社会学		2				○					非	村田　静昭	185				○	
			環境法		2					○				兼	中西　紀夫	186					
			都市環境論		2					○				兼	本部　賢一	187					
		環境生態学	海洋学		2		○								千葉　賢	188					
			生物分類学		2				○						大八木　麻希	189					
			海洋調査法	伊勢湾海洋実習	2			集							千葉　賢	190	○	○	○		
			環境実験・調査a		2				○						大八木　麻希	191					
															廣住　豊一						
			陸水学		2				○						大八木　麻希	192					
			森林学	森林環境学	2						○				田中　伊知郎	193					
			土壌学		2					○					廣住　豊一	194	○	○			

区分			2017～2022年度入学生授業科目名	読み替え科目名	単位数	配当年次 1年次 前	1年次 後	2年次 前	2年次 後	3年次 前	3年次 後	4年次 前	4年次 後	講師区分	担当教員	ページ	地域	ベーシック	実践	実務	備考
専門教育科目	自然環境分野	食糧と環境	食糧生産学		2		○								廣住　豊一	195					
			食品微生物学		2			○							大八木　麻希	196					
			食品衛生学	生活環境学	2				○						廣住　豊一	197					
			環境実験・調査b		2			○							大八木　麻希 廣住　豊一	198					
			農産物流論		2					○				兼	川崎　綾子	199					
			農業経営論		2						○			兼 非	鶴田　利恵 杉谷　克芳	200					
	メディア情報分野	分野必修	メディア情報と文化		2		○								前川　督雄	201					
			脳・音・光の科学Ⅰ		2			○							前川　督雄	202					
			ソフトウェア論	ソフトウェア概論	2				○						池田　幹男	203					
		メディアと社会	メディアの歴史	メディア概観	2	○									黒田　淳哉	204				○	
			情報と感性		2		○														
			音楽とまちづくり		2		○								鬼頭　浩文 前川　督雄	205	○	○	○	○	
			脳・音・光の科学Ⅱ		2				○						前川　督雄	206					
			グラフィックデザイン概論		2																
			コミュニケーションデザイン論		2						○			非	木村　真知子	207				○	
			次世代メディア社会		2					○					前川　督雄	208					
			コンピュータ音楽論		2					○					柳澤　翔士	209				○	
			コンピュータグラフィックス		2						○			非	山本　努武	210				○	
			ポップカルチャー論		2						○			非	山本　伸	211					
		スタジオと制作	感性と創造		2		○								黒田　淳哉	212				○	
			表現と思想		2			○						非	木村　真知子	213				○	
			映像概論		2			○							柳瀬　元志	214				○	
			照明概論		2			○							黒田　淳哉	215				○	
			音響概論	音響照明概論	2				○						足立　明信 黒田　淳哉	216				○ ○	
			クリエイティブワークⅠ		2				○						柳瀬　元志	217				○	
			クリエイティブワークⅡ		2					○					柳瀬　元志	218				○	
			スタジオ技術論		2																
			イベント制作演習		2						○				黒田　淳哉 柳瀬　元志	219				○ ○	
		情報	ハードウェア論	ハードウェア概論	2	○									片山　清和	220					
			プログラミング		2				○						足立　明信	221				○	
			コンピュータ動作論		2			○							片山　清和	222					
			システム管理論		2				○					非	井岡　幹博	223					
			データベースプログラミング		2					○				非	井岡　幹博	224					
			情報システム論		2						○				池田　幹男	225					
			メディア情報産業論		2						○				前川　督雄	226					
	分野共通科目	特別講義	環境情報特別講義Ⅰ	海外環境研修	2																
			環境情報特別講義Ⅱ		2																
			環境情報特別講義Ⅲ		2			○							片山　清和 前川　督雄	227					
		文化論	音楽史		2		○														
			生命－情報－環境		2			○							前川　督雄	228					
			日本文化論		2			○						兼	永井　博	229					
			出版文化論		2			○						非	稲葉　年計	230				○	
			アジア文化論		2				○					兼	加納　光	231					
			欧米文化論		2				○					非	山本　伸	232					

シラバスの見方

例

授業科目名	社会学概論			科目コード	181203	授業コード	100221
担当教員	三 田 泰 雅			科目ナンバリング	GELA1003		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選択
授業の位置づけ	大学生として身につけるべき教養を主に修得する						
授業のねらい	この授業では社会学の基礎的な考え方を学びます。私たちは他者と関わり合って社会を作　っています。一方で人間は社会によって作られる側面もあります。私たちはどのように社　会を作り、そして社会に作られているのか。この両面を明らかにすることで社会の仕組み を考えてゆく授業です。						
到達目標	社会学的なものの見方や考え方を身につける						
授業計画	第１講 ガイダンス 第２講 規範と価値 第３講 自分とは何だろうか 第４講 スポーツから近代社会を考える 第５講 人は集団をつくる 第６講　家族とは何だろうか 第７講 ジェンダーのはたらき 第８講 格差と社会階層 第９講 なぜ学校に行くのか 第10講　都市を生きる 第11講 国家と国民社会 第12講 医療と健康 第13講 環境を考える 第14講 社会的排除 第15講 社会学の誕生						
テキスト・教材（参考文献含む）	＜参考文献＞ 出口剛司（2019）『大学4年間の社会学が10時間でざっと学べる』KADOKAWA.						
事前・事後学習	1日10分以上かけて新聞やニュースに目を通す						
成績評価方法	平常点45%，期末試験55%。 平常点は各回の授業の参加度とミニッツペーパーの内容で評価します。						
授業内の課題・提出方法	各授業内でミニッツペーパーを提出。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	ミニッツペーパーの質問等は次回以降の講義で適宜コメントします。						
担当者から一言	社会はどんなふうに動いているのか、私たちが生きているこの社会のしくみを一緒に考え てゆきましょう。						

・授業科目名：本年度開講の授業科目名です。
・担当教員：授業科目担当者です。
・科目コード：カリキュラム内の科目ナンバーです。
・授業コード：時間割順を示すナンバーです。
・科目ナンバリング：後掲の科目ナンバリングを参照のこと。
・配当年次：学年（年次）は、その科目を履修することができる最低学年を表記しています。
・開講学期：授業科目がいつ開講されるかを表記しています。
・単位数：単位数を表記しています。
・必修/選択：「必修」は、卒業のために必ず単位修得しなければならない科目です。「選択」は選択科目を表しています。各学部・各専攻で必要な科目かどうかは異なります。各自のカリキュラム表で確認してください。
・授業の位置づけ：卒業認定・学位授与の方針（ＤＰ）と当該授業科目の関連が記載されています。
・授業のねらい：どのような授業科目か、この授業の目的・意義を簡潔に示しています。
・到達目標：具体的に習得すべき知識や技能等について記載されています。授業の終了時点でどのような知識や技能（スキル）を身につけることが出来るか、教育目標としているかについて記載されています。
・授業計画：15回の授業について、各回の「テーマ」「内容」を明記しています。なお、授業の進行具合や受講学生の興味・関心に合わせて適宜変更する授業科目もあります。
・テキスト・教材（参考文献含む）：テキストには，授業内で実際に使用する教科書を明記しています。授業開始前までに必ず準備してから授業に臨んでください。参考文献については、各授業担当にお尋ねください。
・事前・事後学習：事前・事後学習とは、毎回の授業に出席する際の予習及び復習と考えて取り組んでください。また、履修上他の科目を先行して履修することが望ましい科目がある場合は、こちらに『「 ○○○Ｉ 」を先行して履修していることが望ましい』など記載されています。
・成績 評価方法：定期試験 ６０ %、小テスト 40 %のように、評価（ポイント）基準を明記しています。
授業内の課題・提出方法、フィードバック方法：授業内で課される課題の内容や提出方法、また、それらのフィードバック方法が記載されています。
・担当者から一言：履修上の注意の他、シラバスの他の項目で書ききれなかった内容を補足して記載されています。

授業科目名	「人間たれ」			科目コード	171001	授業コード	415101
担当教員	岩崎　恭典			科目ナンバリング	GEF1001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	「基礎科目」では、本学の建学の精神を学ぶとともに、大学生として身に付けておかなければならない基本的な学修・研究方法の習得をめざします。						
授業のねらい	本学に入学した環境情報・総合政策両学部の全新入生が、本学の建学の理念、歴史・伝統を学ぶとともに、今後激変する社会に出る準備として大学で学ぶということ、大学での生活上の留意点、卒業後を見通したキャリア形成、生活設計など、学生としての基本事項を学ぶことを本講義のねらいとします。						
到達目標	１．本学の建学の精神を理解する。 ２．満30周年を迎えた本学の歴史を、満75周年を迎えた学校法人暁学園の歴史を、昭和・平成・令和・平成という時代とともに振り返り、今後の社会に生きていく力とは何かについて理解を深める。 ３．各分野の専攻やスキル科目、地域志向科目等本学の特徴的な講義、また、学友会主催事業等についての理解を深める。						
授業計画	第１講で、講師のスケジュールを確定させたうえで、改めて詳細な講義計画を示す。 第１講　ガイダンス　君たちが大学で学ぶべきこと 第２講　18歳成人に伴う社会的責任について 第３講　地震・風水害に備える、そして、被災地を支援すること 第４講　交通安全・車の免許取得に際して考慮すべきこと(JAF) 第５講　先輩に学ぶ　本学卒業生のインタビュー動画をみる 第６講　先輩に学ぶ　本学ベトナムからの留学生のインタビュー動画をみる 第７講　先輩に学ぶ　本学ネパールからの留学生のインタビュー動画をみる 第８講　先輩に学ぶ　他大学の長期インターンシップ学生のインタビュー動画をみる 第９講　外国で働くということ(オイスカ) 第10講　本学の海外研修について 第11講　日本の財政状況と税金、家計、金融知識（財務省津財務事務所） 第12講　人生の先輩に聴く①　四日市北ロータリークラブ会長 第13講　人生の先輩に聴く②　本学社会人OB 第14講　前学期のまとめ　建学の精神について 第15講　夏休みを前に　産婦人科医は語る 定期試験						
テキスト・教材（参考文献含む）	できるだけレジメと資料を配布する。						
事前・事後学習	大学は社会に出るための準備期間です。講義の中では、時事問題も積極的に触れるので、新聞を読む習慣をつけておいてください（１日30分以上）。						
成績評価方法	出席することを基本として、時折実施する小テスト（50%）、定期試験の成績（50%）により評価する。						
授業内の課題・提出方法	ほぼ毎回提出してもらう小レポートは時間内に解答できるものとする予定である。回答時間がない場合には、翌週までにレポートボックスまで提出してもらう。また、感想・岩崎あるいは大学に対する質問・意見等については、「大福帳」の往復によって意思疎通を図るものとする。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小レポート、「大福帳」、前学期試験答案については、個人別にまとめたうえで、後学期の一年生演習授業の担当者を通じて返却するものとする。なお、再履修のものは、希望すれば小生との面談のうえ、返却を求めることができる。						
担当者から一言	私立大学には「建学の精神」というものがあります。本学の「建学の精神」＝「人間たれ」とその精神に由来する教育方針・教育課程の全体像を理解し、有意義な４年間を過ごすための基礎をこの講義を通じて、作り上げてください。						

授業科目名	入門演習Ⅰ			科目コード	171002	授業コード	412106
担当教員	前川　督雄			科目ナンバリング	GEF1002		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	「基礎科目」では、本学の建学の精神を学ぶとともに、大学生として身に付けておかなければならない基本的な学修・研究方法の習得をめざします。						
授業のねらい	大学に慣れて、大学生活を順調に送ることができるよう担当教員がサポートします。 学生生活を進める上で必要な、以下のスチューデントスキル（四日市大学生として最低限身に付けておいてもらいたい基礎的な知識・技能など）を学びます。 １．授業を受ける上で必要なスキル ２．人間関係の基礎を作るスキル ３．大学での学修を助けてくれる施設を知ること ４．自分が所属する学部のことを知ること						
到達目標	四日市大学環境情報学部の学生としての自覚を得ること。 大学生として必要なスチューデントスキルを知り、実践してみること。						
授業計画	第１講　ガイダンス 第２講　シラバスを読み、自分の履修登録を点検する 第３講　スケジュール管理を身に着ける 第４講　授業の受け方、ノートの取り方① 第５講　授業の受け方、ノートの取り方② 第６講　（クラス独自課題）第７講　図書館（情報センター）の使い方 第８講　リーディング基本① 第９講　リーディング基本② 第10講　リーディング応用① 第11講　リーディング応用② 第12講　レポート作成基本① 第13講　レポート作成基本②／研究倫理 第14講　プレゼンテーション基本① 第15講　プレゼンテーション基本② （必要に応じて、講義の順番・内容を変更します）						
テキスト・教材（参考文献含む）	「知へのステップ　第５版」（くろしお出版）（2019） 必要に応じて資料を配布します。 ノートを必ず用意してください。						
事前・事後学習	新聞の第一面を読む。（1日20分） 授業内容の資料を事前に読んでくる。（10分） ノートと使用したプリントなどを読む。（30分） 宿題となった課題を解く。（60分）						
成績評価方法	定期試験を行ないません。 授業・課題への取り組みなどを100%で評価します。積極的な受講態度を心掛けて下さい。						
授業内の課題・提出方法	授業中に課題を与え、教室で提出してもらいます。 また、翌週までの宿題を出すこともあります。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題の個別指導を行います。						
担当者から一言	大学で学んでいくための根幹となる必修科目です。積極的な授業参加を望みます。また、各種の連絡事項の伝達なども行ないます。毎回必ず出席してください。						

授業科目名	入門演習Ⅱ			科目コード	171003	授業コード	412506
担当教員	前川　督雄			科目ナンバリング	GEF1003		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	「基礎科目」では、本学の建学の精神を学ぶとともに、大学生として身に付けておかなければならない基本的な学修・研究方法の習得をめざします。						
授業のねらい	前期「入門演習Ⅰ」に引き続き、大学で学んでいくために必要な、以下のスタディースキル（四日市大学生として最低限身に付けておいてもらいたい学修技法など）を学びます。 １．目標・目的を決め、情報を収集し、調べるスキル ２．情報を整理し、資料を読みこなすスキル ３．調べ、整理した情報をレポートにまとめるスキル ４．資料を発表し、議論するスキル						
到達目標	大学生としての学修・研究活動へと進むために必要なスタディースキルを獲得し、学修スタイルを確立すること。						
授業計画	第１講　ガイダンス 第２講　テーマを決める 第３講　調べる① 第４講　調べる② 第５講　読む① 第６講　読む② 第７講　まとめる① 第８講　まとめる② 第９講　まとめる③ 第10講　発表する① 第11講　発表する② 第12講　話し合う① 第13講　話し合う② 第14講　話し合う③ 第15講　まとめ／基礎演習について （必要に応じて、講義の順番・内容を変更します）						
テキスト・教材（参考文献含む）	「知へのステップ　第５版」（くろしお出版）（2019） 必要に応じて資料を配布します。 ノートを必ず用意してください。						
事前・事後学習	新聞の第一面を読む。（1日20分） 授業内容の資料を事前に読んでくる。（10分） 宿題となった課題を解く。（90分）						
成績評価方法	定期試験を行ないません。 授業・課題への取り組みなどを100%で評価します。積極的な受講態度を心掛けて下さい。						
授業内の課題・提出方法	授業中に課題を与え、教室で提出してもらいます。 また、翌週までの宿題を出すこともあります。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題の個別指導を行います。						
担当者から一言	「入門演習Ⅰ」に引き続き、大学で学んでいくための根幹となる必修科目です。積極的な授業参加を望みます。また、各種の連絡事項の伝達なども行います。毎回必ず出席してください。						

授業科目名	基礎英語Ｉ			科目コード	171101	授業コード	415401
担当教員	樋口　晶子			科目ナンバリング	GEL1001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	英語力を総合的に高めることを第１のねらいにしています。２つ目には、教養的な要素として、外国文化に接し、多様な文化に触れることで異文化に対する興味・関心を高め、理解力を磨き、自国文化との比較を通し、それぞれの文化への理解の深まりを促進します。３つ目には、企業が求める人材、マンパワーとして必要になる語学運用能力の向上を推進することもねらいとしています。						
到達目標	英語力を総合的に高め、実社会や実生活で英語を運用できる（日常生活で使える）力を構築する土台の形成を到達目標にしています。また、同時に、国際人としての教養を高め、文化的マナーの向上にも英語学習を通して貢献することを目標にしています。						
授業計画	各学部で複数の講座が並行して開講され、担当者が異なります。各講座によります。（下記は例） 第１講義　ガイダンス　及び　Unit 1 第２講義　U nit 2　以下　第１５講義まで同じ展開						
テキスト・教材（参考文献含む）	それぞれの担当者がテキスト・教材を具体的に指示します。						
事前・事後学習	担当者の指示に従って下さい。						
成績評価方法	担当者のガイダンス等を参考にして下さい。						
授業内の課題・提出方法	担当者の指示に従って下さい。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	担当者の指示に従って下さい。						
担当者から一言	高等学校までの英語学習とは違った、興味深い教材や授業展開に刺激を受け、全く新しい英語学習を始めましょう。						

授業科目名	基礎英語Ⅱ			科目コード	171102	授業コード	415801
担当教員	樋口　晶子			科目ナンバリング	GEL1002		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	英語力を総合的に高めることを第１のねらいにしています。２つ目には、教養的な要素として、外国文化に接し、多様な文化に触れることで異文化に対する興味・関心を高め、理解力を磨き、自国文化との比較を通して、それぞれの文化への理解の深まりを促進します。３つ目には、企業が求める人材、マンパワーとして必要になる語学運用能力の向上を推進することもねらいとしています。						
到達目標	英語力を総合的に高め、実社会や実生活で英語を運用できる（日常生活で使える）力を構築する土台の形成を到達目標にしています。また、同時に、国際人としての教養を高め、文化的マナーの向上に英語学習を通して貢献することを目標にしています。						
授業計画	各学部で複数の講座が並行して開講され、担当者が異なります。各講座によります。（下記は例） 第１講義　ガイダンス　及び　Unit 1 第２講義　U nit 2　以下　第１５講義まで同じ展開						
テキスト・教材（参考文献含む）	それぞれの担当者がテキスト・教材を具体的に指示します。						
事前・事後学習	担当者の指示に従って下さい。						
成績評価方法	担当者のガイダンス等を参考にして下さい。						
授業内の課題・提出方法	担当者の指示に従って下さい。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	担当者の指示に従って下さい。						
担当者から一言	世界の共通言語である英語の総合的な力（聴く、話す、読む、書く）を高めるため、大学から新たな英語学習を始める、という気持ちで受講して下さい。						

授業科目名	基礎日本語Ⅰ			科目コード	171103	授業コード	413103
担当教員	安田　由紀子			科目ナンバリング	GEL9001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	言語の四技能–読む、書く、聞く、話す–を学びながら、総合的な 日本語能力を身につけます。この授業では特に大学の授業で必要とな る専門用語や表現、レポートの書き方を学んでいきます。適切な専門用語や表現を用い、論理的でわかりやすいレポートの書き方を習得す ることを、この授業のねらいとします。また、加えて日本語能力試験対策の授業も行います。						
到達目標	この授業では大学の授業で必要な専門語彙や表現、レポートの書き 方の習得を中心に、大学の授業を理解し、授業に積極的に参加するために必 要となる日本語能力を身につけることを、到達目標とします。						
授業計画	第１講　ガイダンス　レポート作成の基礎、読解、語彙① 第２講　レポート作成、読解、語彙② 第３講　レポート作成、読解、語彙③ 第４講　レポート作成、読解、語彙④ 第５講　能力試験対策模擬試験①、② 第６講　能力試験対策①（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第７講　能力試験対策②（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第８講　能力試験対策③（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第９講　能力試験対策④（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第10講　能力試験対策⑤（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第11講　能力試験対策⑥（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第12講　能力試験対策⑦（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第13講　レポート作成、読解、語彙⑤ 第14講　レポート作成、読解、語彙⑥ 第15講　レポート作成、読解、語彙⑦ 定期試験 ※授業の進度および内容は状況により、若干変更する場合もあります。						
テキスト・教材（参考文献含む）	『読解厳選テーマ10［中、中上級］』凡人社 清水 『日本語能力試験問題N1、2語彙 スピードマスター』Ｊリサーチ出版 菊池 『日本語能力試験問題N1文法 スピードマスター』　〃　有田 『１回で合格 日本語能力試験 N2文法』ナツメ社 渡辺						
事前・事後学習	Ｎ１までの問題集や参考書などで語彙や文法を身につけておくこと。（30分） 毎日、継続的に新聞を読むこと。（30分） 事前に授業内容を調べ予習をしておくこと（90分） 授業後は、内容を復習し、確実に学習した日本語語彙、表現を使える ようにしていくこと（90分）						
成績評価方法	授業での積極性やレポート、小テスト（採点、添削後授業時に返却し ます）50%、期末試験50%。						
授業内の課題・提出方法	課題内容と提出方法は、各授業の担当講師の指示に従ってください。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	フィードバック方法については課題内容によって異なります。その都度、担当講師により案内をしますので、それに従ってください。						
担当者から一言	日本語学校やアルバイト先での日本語と大学で必要な日本語とは異な ります。大学生に相応しい質の高い日本語が駆使できるよう、日頃 から心がけてください。なお、 遅刻、授業中の中座、飲食、私語、携帯電話の使用は、原則禁止します。 真面目な態度で受講するように心がけて下さい。						

授業科目名	基礎日本語Ⅱ			科目コード	171104	授業コード	413503
担当教員	安田　由紀子			科目ナンバリング	GEL9002		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	言語の四技能−読む、書く、聞く、話す−を学びながら、総合的な 日本語能力を身につけます。この授業では特に「聞く・話す」に焦点を当てて強化をはかります。聞いたことを理解するにとどまらず、相手の言いたいことをはかり、それを受けて返事をしたり行動したりする能力を身につけることがねらいです。また、加えて日本語能力試験対策の授業も行います。						
到達目標	この授業では、「聞く・話す」ことより相手の伝えたいことをくみ取り、どんな場合にでも対応できるコミュニケーション能力を身につけることを目標とします。						
授業計画	第１講　合同ガイダンス（クラス分け日本語テストも含む） 第２講　日本を知る　議論、発表①　語彙学習① 第３講　能力試験対策模擬試験①、② 第４講　能力試験対策①（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第５講　能力試験対策②（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第６講　能力試験対策③（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第７講　能力試験対策④（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第８講　能力試験対策⑤（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第９講　能力試験対策⑥（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第10講　能力試験対策⑦（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第11講　日本を知る　議論、発表③　語彙学習③ 第12講　日本を知る　議論、発表④　語彙学習④ 第13講　日本を知る　議論、発表⑤　語彙学習⑤ 第14講　日本を知る　議論、発表⑥　語彙学習⑥ 第15講　日本を知る　議論、発表⑦　語彙学習⑦ 定期試験 ※授業の進度および内容は状況により、若干変更する場合があります。						
テキスト・教材（参考文献含む）	『読解厳選テーマ10［中、中上級］』凡人社 清水 『日本語能力試験問題N1、2語彙 スピードマスター』Ｊリサーチ出版 菊池 『日本語能力試験問題N1文法 スピードマスター』　〃　有田 『１回で合格 日本語能力試験 N2文法』ナツメ社 渡辺						
事前・事後学習	Ｎ１向まで問題集や参考書などで語彙や文法を身につけておくこと。（30分） 毎日、継続的に新聞を読むこと。（30分） 事前に授業内容を調べ予習をしておくこと（90分） 授業後は、内容を復習し、確実に学習した日本語語彙、表現を使える ようにしていくこと（90分）						
成績評価方法	授業での積極性やレポート、小テスト（採点、添削後授業時に返却し ます）50%、期末試験50%。						
授業内の課題・提出方法	課題内容と提出方法は、各授業の担当講師の指示に従ってください。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	フィードバック方法については課題内容によって異なります。その都度、担当講師により案内をしますので、それに従ってください。						
担当者から一言	日本語学校やアルバイト先での日本語と大学で必要な日本語とは異な ります。大学生に相応しい質の高い日本語が駆使できるよう、日頃 から心がけてください。なお、 遅刻、授業中の中座、飲食、私語、携帯電話の使用は、原則禁止します。 真面目な態度で受講するように心がけて下さい。						

授業科目名	英語コミュニケーションⅠ			科目コード	171105	授業コード	411402
担当教員	青木　陽子			科目ナンバリング	GEL1003		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	本授業では、「話す」「聞く」「読む」という技能を中心に、英語コミュニケーション能力の習得を目指します。 多様なコミュニケーション手段・媒体における表現方法の違いに着目しながら、英語表現を学びます。具体的に、日常会話、プレゼンテーション、メールでのやり取り、新聞・雑誌・SNS等での言葉の使い方等、様々な場面における英語表現を授業で取り上げます。 授業で取り上げた英語表現を実践の場で生かしながら、自分の意見を発信できるように、コミュニケーション能力の向上を目指します。						
到達目標	1. 初級レベルの英語表現を習得すること 2. 多様なコミュニケーション媒体の英語表現を理解すること 3. 自分の意見・考えを英語で発信する力を身につけること						
授業計画	第1講　ガイダンス、授業の概要、Unit 1 College Life 第2講　Unit 1 College Life 第3講　Unit 2 Future Plans / Jobs 第4講　Unit 2 Future Plans / Jobs 第5講　Unit 3 Part-Time Jobs and Otakatsu 第6講　Unit 3 Part-Time Jobs and Otakatsu 第7講　Unit 4 Movies 第8講　Unit 4 Movies 第9講　Unit 5 Parties and Festivals 第10講　Unit 5 Parties and Festivals 第11講　Unit 6 Friends 第12講　Unit 6 Friends 第13講　Unit 7 Study Abroad / World Englishes 第14講　Unit 7 Study Abroad / World Englishes 第15講　Unit 8 SNS / Fashion / Weather 定期試験						
テキスト・教材（参考文献含む）	塩澤正・Adam Martinelli著「Activator Next 大学生の自信を促す英語コミュニケーション」金星堂（2023年）						
事前・事後学習	事前学習：授業で扱う内容について、事前に予習しておくこと（90分） 事後学習：授業で扱ったテキスト及び配布資料を復習しておくこと、授業で出された課題を行うこと（90分）						
成績評価方法	定期試験60%、課題・小テスト20%、学習態度20%						
授業内の課題・提出方法	＜課題＞毎回の授業で課題を提出していただきます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	＜フィードバック＞提出された課題は、内容を確認後、次回の授業でフィードバックします。						
担当者から一言	英語学習は、予習と復習が大事です。しっかり準備して授業に臨んで下さい。						

授業科目名	英語コミュニケーションⅠ			科目コード	171105	授業コード	411202
担当教員	樋口　晶子			科目ナンバリング	GEL1003		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	基礎レベルの英語によるコミュニケーション能力の習得をめざします。相手（「読み手」「聞き手」など）があることを意識した英語の使用を実践的に学びます。スピーキング・リスニング・リーディング・ライティングの4技能に加え、異文化への理解も深めます。たとえば、映画などの英語を聞き取って内容を理解し、英語及び英語文化の理解を深めます。ペアワーク・グループワークを多く行い、積極的にコミュニケーションを取る姿勢を身につけます。						
到達目標	1. 教材やプリント、補助教材などをマスターする。 2. 英語の4技能を、受講開始時よりも伸ばす。 3. 下手でもいいので、積極的にコミュニケーションを取ろうとする姿勢を習得する。						
授業計画	第1講　ガイダンス Unit 1 What is Important to You? (2-1) 第2講　Unit 1 What is Important to You? (2-2) 第3講　Unit 2 My Morning Routine (2-1) 第4講　Unit 2 My Morning Routine (2-2) 第5講　Unit 3 Your Recommended Restaurant (2-1) 第6講　Unit 3 Your Recommended Restaurant (2-2) 第7講　Unit 4 The Best Film Ever (2-1) 第8講　Unit 4 The Best Film Ever (2-2) 第9講　Unit 5 What is a True Friend? (2-1) 第10講　Unit 5 What is a True Friend? (2-2) 第11講　Unit 6 The Best Pizza in Town (2-1) 第12講　Unit 6 The Best Pizza in Town (2-2) 第13講　Unit 7 An Ideal Private Tour Plan (2-1) 第14講　Unit 7 An Ideal Private Tour Plan (2-2) 第15講　Unit 8 Useful Apps for Your Smartphone 定期試験 テキスト以外にも、適宜プリントや動画などを使用し、上記の単元に関連する内容を補足します。						
テキスト・教材（参考文献含む）	テキスト：『SPEAKING STEPS』 (金星堂) 参考文献：英単語学習のための問題集 『英単語の語源図鑑』（かんき出版）、『英検でる順パス単』（旺文社）など自分の好きなものでよいです。 英和辞典・和英辞典など、辞書の使用を奨励します。						
事前・事後学習	予習・復習として、毎日1時間程度の英語学習が必要です。授業で出される課題や小テストは、必ず提出・試験準備をしてください。						
成績評価方法	学習態度・小テスト・課題　５０％ 定期試験　５０％ ※出席率は、「学習態度」に含みます。 特に「学習態度」については、コミュニケーションを取る姿勢を習得するという観点から、単に教室にいるだけで、授業に積極的に参加しない場合は、欠席扱いにすることがあります。（授業に取り組む姿勢については、英語スキルの高さとは別に高く評価します)						
授業内の課題・提出方法	課題ごとに、提出方法を説明します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出課題の添削や小テストの結果などについて、必要に応じて、各学生またはクラス全体への講評としてフィードバックします。						
担当者から一言	学生参加型の授業です。出席しても授業に参加しない学生は、評価しません。下手でもいいのでコミュニケーション（相互意思疎通）する気持ちを自分から示し、積極的に発言・情報発信してください。						

授業科目名	英語コミュニケーションⅠ			科目コード	171105	授業コード	411201
担当教員	ゴードン　リース			科目ナンバリング	GEL1003		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	The main overall goal of this course is for participants to improve their English listening and speaking skills. The text that will be utilized provides a framework for developing communication skills and increasing vocabulary.						
到達目標	1. 英語の聴解力と話す力を高める。 2. 英語の語彙を増やす。 3. 人の前で英語で話す自信を身につける。						
授業計画	1. Guidance， Greetings and Introductions 2. Unit 1- Where are you from? Subject-Verb Agreement　主語と動詞の一致 3. Unit 1- Where are you from? Subject-Verb Agreement　主語と動詞の一致 4. Unit 2- How are you doing? Be Verbs & Do Verbs　Be 動詞と一般動詞0 5. Unit 2- How are you doing? Be Verbs & Do Verbs　Be 動詞と一般動詞0 6. Unit 3- How many classes do you have? Countable Nouns　数えられる名詞 7. Unit 3- How many classes do you have? Countable Nouns　数えられる名詞 8. Unit 4- How much food do you need for your party? Uncountable Nouns　数えられない名詞 9. Unit 4- How much food do you need for your party? Uncountable Nouns　数えられない名詞 10. Unit 5- How many people are there in your family? There is / There are / It is / They are 「ある」「いる」の表現と It is / They are との違い 11. Unit 5- How many people are there in your family? There is / There are / It is / They are 「ある」「いる」の表現と It is / They are との違い 12. Final presentation- preparation 13. Final presentation- preparation 14. Final presentation- preparation 15. Final presentation- 定期試験						
テキスト・教材（参考文献含む）	Project English Vivian Morooka Nanundo 9784523179368						
事前・事後学習	In addition to homework， after each class spend about 60 minutes reviewing class handouts， and textbook exercises covered in the lesson. Also， spend about 30 minutes reading ahead in the text and preparing for the following lesson.						
成績評価方法	学習態度　30% 課題・小テスト　30% スピーキングテスト・スキット　20% 定期試験　20% 授業中もしくは授業後に寄せられた質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。						
授業内の課題・提出方法	担当教員の指示に従ってください。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	必要の都度、各学生またはクラス全体への講評としてフィードバックします。詳細はガイダンス（第1講）及び課題などの提示時に説明します。						
担当者から一言	対面授業を予定している。しかし、新型コロナウイルスの感染状況によって、担当教員の判断でオンデマンド型授業に変えることがある。 １。5回以上欠席すると単位なし。 2。履修者が18名を超えた場合は抽選あり。 ３。テキストがないと欠席扱いになります。						

授業科目名	英語コミュニケーションⅡ			科目コード	171106	授業コード	411802
担当教員	青木　陽子			科目ナンバリング	GEL1004		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	本授業は、「英語コミュニケーションⅠ」からの継続授業です。「話す」「聞く」「読む」という技能を中心に、英語コミュニケーション能力の習得を目指します。 多様なコミュニケーション手段・媒体における表現方法の違いに着目しながら、英語表現を学びます。具体的に、日常会話、プレゼンテーション、メールでのやり取り、新聞・雑誌・SNS等での言葉の使い方等、様々な場面における英語表現を授業で取り上げます。 授業で取り上げた英語表現を実践の場で生かしながら、自分の意見を発信できるように、コミュニケーション能力の向上を目指しま						
到達目標	1. 初級レベルの英語表現を習得すること 2. 多様なコミュニケーション媒体の英語表現を理解すること 3. 自分の意見・考えを英語で発信する力を身につけること						
授業計画	第1講 ガイダンス、授業の概要、Unit 8 SNS / Fashion / Weather 第2講 Unit 9 Cultures / Idols / Anime 第3講 Unit 9 Cultures / Idols / Anime 第4講 Unit 10 Music 第5講 Unit 10 Music 第6講 Unit 11 Relationships 第7講 Unit 11 Relationships 第8講 Unit 12 Travelling Overseas 第9講 Unit 12 Travelling Overseas 第10講 Unit 13 Shopping 第11講 Unit 13 Shopping 第12講 Unit 14 Social Media 第13講 Unit 14 Social Media 第14講 Unit 15 SDGs 第15講 Unit 15 SDGs 定期試験						
テキスト・教材（参考文献含む）	塩澤正・Adam Martinelli著「Activator Next 大学生の自信を促す英語コミュニケーション」金星堂（2023年）						
事前・事後学習	事前学習：授業で扱う内容について、事前に予習しておくこと（90分） 事後学習：授業で扱ったテキスト及び配布資料を復習しておくこと、授業で出された課題を行うこと（90分）						
成績評価方法	定期試験60%、課題・小テスト20%、学習態度20%						
授業内の課題・提出方法	＜課題＞毎回の授業で課題を提出していただきます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	＜フィードバック＞提出された課題は、内容を確認後、次回の授業でフィードバックします。						
担当者から一言	英語学習は、予習と復習が大事です。しっかり準備して授業に臨んで下さい。						

授業科目名	英語コミュニケーションⅡ			科目コード	171106	授業コード	411602
担当教員	樋口　晶子			科目ナンバリング	GEL1004		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	「英語コミュニケーションⅠ」で修得した英語によるコミュニケーション能力をさらに磨きます。相手があることを意識した実践的な英語スキル（スピーキング・リスニング・リーディング・ライティング）に加え、異文化理解もさらに深めます。たとえば、映画などの英語を聞き取って内容を理解し、英語及び英語文化の理解を深めます。ペアワーク・グループワークを多く行い、学生同士が積極的にコミュニケーションを取る姿勢を身につけます。意欲のある学生には、英語資格試験（TOEIC、英検等）への挑戦を期待します。						
到達目標	1. 教材やプリント、補助教材などをマスターする。 2. 英語の4技能を、受講開始時よりも伸ばす。 3. 下手でもいいので、積極的にコミュニケーションを取ろうとする姿勢を習得する。						
授業計画	第1講　ガイダンス Unit 8 Useful Apps for Your Smartphone 第2講　Unit 9 A Proposal for New Flavors (2-1) 第3講　Unit 9 A Proposal for New Flavors (2-2) 第4講　Unit 10 A Great Figure in the Business World (2-1) 第5講　Unit 10 A Great Figure in the Business World (2-2) 第6講　Unit 11 Cheese for Uncle David -Comedy- (2-1) 第7講　Unit 11 Cheese for Uncle David -Comedy- (2-2) 第8講　Unit 12 The Babysitter #1 -Horror- (2-1) 第9講　Unit 12 The Babysitter #1 -Horror- (2-2) 第10講　Unit 13 The Babysitter #2 -Horror- (2-1) 第11講　Unit 13 The Babysitter #2 -Horror- (2-2) 第12講　Unit 14 Unsent Letter #1 -Romance- (2-1) 第13講　Unit 14 Unsent Letter #1 -Romance- (2-2) 第14講　Unit 15 Unsent Letter #2 -Romance- (2-1) 第15講　Unit 15 Unsent Letter #2 -Romance- (2-2) 定期試験 テキスト以外にも、適宜プリントや動画などを使用し、上記の単元に関連する内容を補足します。						
テキスト・教材（参考文献含む）	テキスト：『SPEAKING STEPS』 (金星堂)【「英語コミュニケーションⅠ」と同じ】 参考文献：英単語学習のための問題集 『英単語の語源図鑑』（かんき出版）、『英検でる順パス単』（旺文社）など自分の好きなものでよいです。 英和辞典・和英辞典など、辞書の使用を奨励します。						
事前・事後学習	予習・復習として、毎日1時間程度の英語学習が必要です。授業で出される課題や小テストは、必ず提出・試験準備をしてください。						
成績評価方法	学習態度・小テスト・課題　５０％ 定期試験　５０％ ※出席率は、「学習態度」に含みます。 特に「学習態度」については、コミュニケーションを取る姿勢を習得するという観点から、単に教室にいるだけで、授業に積極的に参加しない場合は、欠席扱いにすることがあります。（授業に取り組む姿勢については、英語スキルの高さとは別に高く評価します)						
授業内の課題・提出方法	課題ごとに、提出方法を説明します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出課題の添削や小テストの結果などについて、必要に応じて、各学生またはクラス全体への講評としてフィードバックします。						
担当者から一言	「英語コミュニケーションⅠ」と同様に、学生参加型の授業です。下手でもいいので、積極的にコミュニケーションする姿勢を身につけてください。出席しても授業に積極的に参加しない場合は、評価しません。英語資格試験受験を考えている方には、個別に相談に応じますので、担当教員にお尋ねください。						

授業科目名	英語コミュニケーションⅡ			科目コード	171106	授業コード	411601
担当教員	ゴードン　リース			科目ナンバリング	GEL1004		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	The main overall goal of this course is for participants to improve their English listening and speaking skills. The text that will be utilized provides a framework for developing communication skills and increasing vocabulary.						
到達目標	1. 英語の聴解力と話す力を高める。 2. 英語の語彙を増やす。 3. 人の前で英語で話す自信を身につける。						
授業計画	1. Guidance/Talking about the past/ "How was your vacation?" 2. Unit 6- When is your report due? Cardinal & Ordinal Numbers　数 3. Unit 6- When is your report due? Cardinal & Ordinal Numbers　数 4. Unit 7- How was your weekend? Past Tense　過去形 5. Unit 7- How was your weekend? Past Tense　過去形 6. Unit 8- What time is your first class? Time　時間の表現 7. Unit 8- What time is your first class? Time　時間の表現 8. Unit 9- Have you ever been to Kyoto? Present Perfect　現在完了形 9. Unit 9- Have you ever been to Kyoto? Present Perfect　現在完了形 10. Unit 10- Can I ask you a favor? Auxiliary Verbs　助動詞 11. Unit 10- Can I ask you a favor? Auxiliary Verbs　助動詞 12. Unit 11- I'm going to visit my grandparents. Future Tense　未来形 13. Unit 11- I'm going to visit my grandparents. Future Tense　未来形 14. Final presentation- preparation 15. Final presentations- 定期試験						
テキスト・教材（参考文献含む）	Project English Vivian Morooka Nanundo 9784523179368						
事前・事後学習	In addition to homework， after each class spend about 60 minutes reviewing class handouts， textbook exercises and videos that were covered in the lesson. In addition， spend about 30 minutes reading ahead preparing for the following class.						
成績評価方法	学習態度　30% 課題・小テスト　30% スピーキング・テスト(2)　20% 定期試験　20% 授業中もしくは授業後に寄せられた質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。						
授業内の課題・提出方法	クラスの担当教員の指示に従ってください。詳細はガイダンス（第1講）及び課題などの提示時に説明 します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	必要の都度、各学生またはクラス全体への講評としてフィードバックします。詳細はガイダンス（第1講）及び課題などの提示時に説明します。						
担当者から一言	対面授業を予定している。しかし、新型コロナウイルスの感染状況によって、担当教員の判断でオンデマンド型授業に変えることがある。 １。5回以上欠席すると単位なし。 2。履修者が18名を超えた場合は抽選あり。 ３。テキストがないと欠席扱いになります。						

授業科目名	中国語Ⅰ			科目コード	171107	授業コード	411403
担当教員	吉山　青翔			科目ナンバリング	GEL1005		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	本講義は中国語をゼロから始める中国語初心者に向け、国連など国際会議で公用語と指定されている中国語の標準語（＝普通話）の基本発音・基本文法・基本語彙・基本文型と、中国語日常会話の基本的なスキル、及び中国文化との一体化的な中国語学習を目指します。						
到達目標	中国語の門に入り、より中国語を学ぶための基礎を据えることができるでしょうし、そして、国際感覚の養成にも役に立つでしょう。						
授業計画	第１講　ガイダンス、中国語と日本語の相違点 第２講　中国語発音１、あいさつの表現１ 第３講　復習と小テスト、中国語発音２、あいさつの表現２ 第４講　復習と小テスト、中国語発音復習、中国語による唐詩鑑賞 第５講　中国語人称代名詞、語順、「Yes/No式疑問文」、「是」の用法 第６講　復習と小テスト、会話「我是日本人」（私は日本人です） 第７講　中国語の「Wh式疑問文１」、「什么」、名前の名乗りかたと尋ねかた 第８講　復習と小テスト、会話「我姓小林」（小林と申します） 第９講　中国語の指示代名詞、動詞述語文、「的・都・也」の用法 第10講　復習と小テスト、会話「妈妈也是老师」（母親も教師です） 第11講　中国語の「Wh式疑問文２」「動詞否定表現」、「打算」「想」「喜欢」の用法 第12講　復習と小テスト、会話「你想不想吃蛋糕」（ケーキを食べたくありませんか） 第13講　中国語の数詞量詞表現、年齢の言い方、「有」の用法 第14講　復習と小テスト、会話「我今年十九岁，有一个弟弟」 第15講　総括						
テキスト・教材（参考文献含む）	テキスト： 相原茂他『日中いぶこみ交差点』（朝日出版社、2019年） 参考文献 王青翔（＝吉山青翔）・栄隈真人司共著『徹底復習式　きょう忘れてもあした覚える　実用中国語』（東洋書店、2013年）						
事前・事後学習	授業前に90分ほどをかけて予習し、授業後にも90分ほどをかけて復習してください。						
成績評価方法	平常授業中に行われる書き取りテストなど（40点）、期末定期試験（60点）の出来具合により総合評価。						
授業内の課題・提出方法	単語の書き取りテスト、会話練習を行います。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	文法・文型・翻訳などの宿題を確認したうえ、返却し、授業中講評します。						
担当者から一言	本講義では、平常授業中、ほぼ毎回書き取りテストを行い、会話暗記などの課題を課しますので、よく考えた上で、受講登録してください。必ずテキストを用意してください。						

授業科目名	中国語Ⅰ			科目コード	171107	授業コード	411203
担当教員	加納　光			科目ナンバリング	GEL1005		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	この授業では、「音声」「語彙」「文法」「表現」の各分野における基礎学習を通し、中国語の基礎的な運用能力を養成します。学期の前半は、主に「音声面」に重点を置き、声調（高低アクセント）と400余りの音節を正しく発音できようにします。それを踏まえ、学期の後半から中国語の初級レベルの「語彙」「文法」「表現」を学習します。言語事情のほか、中国の社会や文化に関する解説も行い、中国および中国語に対する理解を深めることが、この授業のねらいです。なお、中国語母語話者の受講はできません。						
到達目標	この授業では、言語活動の中心をなす「話す」「聴く」「読む」の三要素の反復練習に多くの時間を費やしながら、中国語の基礎をしっかりと身につけていきます。簡単な日常会話を話すことのできる初級レベルの語学力の習得を、この授業の到達目標とします。						
授業計画	第１講　ガイダンス、授業の概要、中国語概要１ 第２講　中国語概要２、中国概況１ 第３講　声調（４）と単母音（７）の発音、概況２ 第４講　複合母音（13）の発音、概況３ 第５講　鼻母音（16）の発音、概況４ 第６講　子音（21）の発音、概況５ 第７講　発音、表記上の規則、概況６ 第８講　発音のまとめ、小テスト、概況７ 第９講　どうぞよろしく（point１～４）、概況８ 第10講　お名前は（point１～４）、概況９ 第11講　ご出身は（point１～４）、概況10 第12講　飲み物は（point１～４）、概況11 第13講　おいくつ（point１～４）、概況12 第14講　和食はいかが（point１～４）、概況13 第15講　復習、概況14 定期試験 注　授業内容、進度については、状況に応じて変更することもあります。毎回の発音・表現練習には積極的にチャレンジしてください。						
テキスト・教材（参考文献含む）	１）教材：相原茂他『日中いぶこみ交差点（エッセンシャル版）』 （朝日出 版社）2，400円＋税 ２）参考書：『WHY？に答えるはじめての中国語の文法書』（相原茂） ３）辞書：『簡約現代中国語辞典』（光生館）						
事前・事後学習	毎回与えられる復習（90分）、予習（90分）のための課題や宿題を欠かさずに行い、中国語の基礎を着実に固めていってください。						
成績評価方法	①定期試験60% ②小テスト20% ③課題、宿題（評価した後返却します）20%により総合的に評価します。						
授業内の課題・提出方法	授業内の課題など提出方法はMoodleか、あるいは次回の授業時に直接手渡しのいずれかの方法により提出していただきます。どちらの方法にするかは、授業の際に、そのつど指示します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	平常授業中に行われる書き取りテストは採点後返却し、フィードバックします。課題などの提出物も状況に応じて返却しフィードバックする予定です。						
担当者から一言	本講義では、平常授業中、ほぼ毎回書き取りテストを行い、会話暗記などの課題を課しますので、よく考えた上で、受講登録してください。必ずテキストを用意してください。						

授業科目名	中国語Ⅱ			科目コード	171108	授業コード	411803
担当教員	吉山　青翔			科目ナンバリング	GEL1006		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	本講義は中国語の入門編ではなく、すでに中国語の入門程度の知識を修得した学習者に向け、前学期で開講した「中国語Ⅰ」に続き、基礎中国語の学習を展開します。						
到達目標	前学期の「中国語Ⅰ」と合わせて履修すれば、中国語をより学ぶための文法的な基礎と中国語会話の基本的なスキルを身につけることができるでしょう。						
授業計画	第１講　ガイダンス、中国語Ⅰの復習 第２講　中国語の選択疑問文、形容詞述語文、動詞過去経験表現、「还是」の用法 第３講　復習と小テスト、会話「你吃过日本料理吗」 第４講　中国語述術文、比較の表現、助動詞「要」の用法、前置詞「跟」の用法 第５講　復習と小テスト、会話「你比照片漂亮」 第６講　中国語助動詞「可以」、動詞の重ね型、方向補語、連動文、お金の言い方 第７講　復習と小テスト、会話「这个多少钱」 第８講　中国語の動作の完了実現表現「了」、前置詞「从」「得」「在」の用法 第９講　復習と小テスト、会話「去北京站怎么走」 第10講　中国語年月日曜日の言い方、状態変化と新事態発生の表現 第11講　復習と小テスト、会話「今天几月几号」 第12講　中国語辞書の使い方 第13講　中国語総合チャレンジ「閲覧と翻訳」１　ユーモア：「助听器」「二十年后的我」 第14講　中国語総合チャレンジ「閲覧と翻訳」２漫画：「考试」「外面吃」 第15講　総復習						
テキスト・教材（参考文献含む）	テキスト 相原茂他『日中いぶこみ交差点』（エッセンシャル版）（朝日出版社、2019年） 参考資料 王青翔（＝吉山青翔）・栄隈真人司共著『徹底復習式　きょう忘れてもあした覚える　実用中国語』（東洋書店、2013年）						
事前・事後学習	授業前に90分ほどをかけて予習して、授業後にも90分ほどをかけて復習してください。						
成績評価方法	平常授業中に行われる書き取りテスト等（40）と期末定期試験（60点）の出来具合により総合評価。						
授業内の課題・提出方法	単語の書き取りテスト・会話練習・丸暗記を行います。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	文法・文型に関する宿題を確認したうえで、返却し、授業中講評します。						
担当者から一言	本講義では平常授業中にほぼ毎回書き取りテストを行い、会話など暗記課題を課しますので、よく考えた上で、受講登録してください。必ずテキストを用意してください。						

授業科目名	中国語Ⅱ			科目コード	171108	授業コード	411603
担当教員	加納　光			科目ナンバリング	GEL1006		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	この授業は中国語Ｉを継続するものです。中国語Ｉと同様、「書く」「聞く」「話す」の反復練習を通して、中国語の基礎学力の習得を目指します。また、引き続き、中国語初級文法の学習を進め、中国語の基礎固めをしていきます。 コミュニケーション能力の向上を目指し、初級語彙および初級文法を取り入れた会話練習に多く時間を割く予定です。中国語に対する理解をさらに深め、中国語の運用能力に磨きをかけることを、この授業のねらいとします。なお、中国語母語話者の受講はできません。						
到達目標	中国語の初級レベルの内容を理解し、それを書いたり、話したりすることができるようになることが、この授業の達成目標です。						
授業計画	「中国語Ｉ」からの継続 第１講：ガイダンス、授業の概要、家庭訪問（１） 第２講：家庭訪問（２）、買い物（１） 第３講：買い物（２）、道案内（１） 第４講：道案内（２）、中秋節（１） 第５講：中秋節（２）、食事の前は（１） 第６講：食事の前は（２）、第１～５講の復習（１） 第７講：第１～５講の復習（２） 第８講：手作り料理（１） 第９講：手作り料理（２）、カ二の季節（１） 第10講：カ二の季節（２）、スキー場で（１） 第11講：スキー場で（２）、おみやげ（１） 第12講：おみやげ（２）、空港まで（１） 第13講：空港まで（２）、第６～12講の復習（１） 第14講：第６～12の復習（２） 第15講：総復習とまとめ 定期試験 注　授業内容、進度はクラスの状況に応じて、変更する場合があります。 毎回実施する、発音、会話練習には積極的にチャレンジしてください。						
テキスト・教材（参考文献含む）	１）教　材：『日中いぶこみ交差点　エッセンス版』（朝日出版社）、相原茂　他 ２）副教材：『中国語の文法書』（同学社） ３）辞　書：『中国語辞典』（光生館） ４）参考書：『中国語はじめの一歩』（ちくま新書）						
事前・事後学習	授業の予習、復習、課題、宿題は必ず行ってください（予習90分＋復習90分）。 加えて日頃から、中国語を聴いたり、話したりするように心がけてください（毎日30分以上）。						
成績評価方法	学期末試験60%、小テスト20%、課題、宿題（採点後返却します）20%をもとにして、総合的に評価します。						
授業内の課題・提出方法	授業j内の課題や宿題は、Moodleないしは次回の授業の際に直接手渡しの、いずれかの方法により提出していただきます。いずれの方法かは、授業時にその都度指示をします。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題、宿題などの提出物は採点後返却しフィードバックします。						
担当者から一言	予習、復習を欠かさないようにして積極的に講義に臨んでください。常に旺盛な勉学意欲を忘れずに、中国、中国語に対する興味、関心を持ち続けていってください。なお、授業中の私語、中座は原則禁止します。						

授業科目名	ポルトガル語Ⅰ			科目コード	171109	授業コード	411404
担当教員	フェリペ　フェハーリ			科目ナンバリング	GEL1007		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	日本は、1895年にブラジルと外交関係を樹立しましたが、ポルトガル人は1543年に初めて日本に上陸したので、日伯関係（日本−ブラジル間の交流関係）の歴史は450年以上に渡ると言えます。現在、ブラジルには世界最大の日系人居住地（約150万の日経ブラジル人がいます）です。同時に、日本には約20万人のブラジル人が住んでおり、ここ東海地方には多くの集住地域があることから、教育、医療や企業分野においてポルトガル語に対する関心が高まっています。						
到達目標	ポルトガル語の発音を習得し、すぐにでも実践の場で生かせるような平易な会話能力を身につけ、ポルトガル語話者とコミュニケーションが出来ること。 ポルトガル語話者への理解を深めるために、同言語圏の社会、歴史、習慣など背景知識について学び、異文化受容の態度を育むこと。						
授業計画	第１講　ガイダンス 第２講　アルファベットと発音 第３講　挨拶と自己紹介 第４講　名詞の性と数 第５講　冠詞と数字 第６講　ser動詞（1） 第７講　ser動詞（2） 第８講　所有表現（１） 第９講　所有表現（２） 第10講　所有表現（３） 第11講　gostar動詞 第12講　規則動詞（１） 第13講　規則動詞（２） 第14講　規則動詞（３） 第15講　まとめ						
テキスト・教材（参考文献含む）	Vamos falar Portugu?s - Edi??o Revisada 『ブラジルポルトガル語を話そう！改訂版』 重松由美・瀧藤千恵美・Felipe Ferrari (朝日出版社) （2，300円＋税）ISBN 978-4-255-55505-8						
事前・事後学習	毎回の講義で配布した資料をしっかり読んで、授業で出された課題や宿題を行う（毎週約60分）。						
成績評価方法	受講態度：30% 小テスト：20% 定期試験：50%						
授業内の課題・提出方法	授業で宿題を提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業で宿題のチェックを行います。						
担当者から一言	ポルトガル語を勉強しながら、他国の文化を楽しく学びましょう！						

授業科目名	ポルトガル語Ⅱ			科目コード	171110	授業コード	411804
担当教員	フェリペ　フェハーリ			科目ナンバリング	GEL1008		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	本授業は前学期の「ポルトガル語Ⅰ」の続きです。日本は、1895年にブラジルと外交関係を樹立しましたが、ポルトガル人は1543年に初めて日本に上陸したので、日伯関係（日本–ブラジル間の交流関係）の歴史は450年以上に渡ると言えます。現在、ブラジルには世界最大の日系人居住地（約150万の日経ブラジル人がいます）です。同時に、日本には約20万人のブラジル人が住んでおり、ここ東海地方には多くの集住地域があることから、教育、医療や企業分野においてポルトガル語に対する関心が高まっています。						
到達目標	ポルトガル語の発音を習得し、すぐにでも実践の場で生かせるような平易な会話能力を身につけ、ポルトガル語話者とコミュニケーションが出来ること。 ポルトガル語話者への理解を深めるために、同言語圏の社会、歴史、習慣など背景知識について学び、異文化受容の態度を育むこと。						
授業計画	第１講　前期の総合復習 第２講　前置詞 第３講　不規則動詞：ir 第４講　不規則動詞：terとfazer 第５講　不規則動詞：poder 第６講　不規則動詞：querer 第７講　estar動詞 第８講　ser動詞とestar動詞の違い 第９講　現在分詞と現在進行形 第10講　規則動詞の過去形（１） 第11講　規則動詞の過去形（２） 第12講　規則動詞の過去形（３） 第13講　様々な表現（１） 第14講　様々な表現（２） 第15講　まとめ						
テキスト・教材（参考文献含む）	Vamos falar Portugu?s - Edi??o Revisada 『ブラジルポルトガル語を話そう！改訂版』 重松由美・瀧藤千恵美・Felipe Ferrari (朝日出版社) （2，300円＋税）ISBN 978-4-255-55505-8						
事前・事後学習	毎回の講義で配布した資料をしっかり読んで、授業で出された課題や宿題を行う（毎週約60分）。						
成績評価方法	受講態度：30% 小テスト：20% 定期試験：50%						
授業内の課題・提出方法	授業で宿題を提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業で宿題のチェックを行います。						
担当者から一言	ポルトガル語を勉強しながら、他国の文化を楽しく学びましょう！						

授業科目名	日本語中級Ⅰ			科目コード	171113	授業コード	415303
担当教員	安田　由紀子			科目ナンバリング	GEL9003		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	言語の四技能―読む、書く、聞く、話すーを学びながら、総合的な日本語能力を身につけていきます。特にこの授業では、読解能力の強化をおこないます。与えられた読み物より内容を読み取り、文章の意図を考え、内容分析を進めていきます。						
到達目標	著書やメールや手紙など、活字での提示の場合の内容理解を深め、相手の言いたいことをはかり知る能力を身につけることを目標とする。						
授業計画	第１講　合同ガイダンス 第２講　文章読解①　語彙学習① 第３講　文章読解②　語彙学習② 第４講　文章読解③　語彙学習③ 第５講　文章読解④　語彙学習④ 第６講　文章読解⑤　語彙学習⑤ 第7講　能力試験対策①（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第8講　能力試験対策②（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第9講　能力試験対策③（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第10講　能力試験対策④（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第11講　能力試験対策⑤（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第12講　文章読解⑥　語彙学習⑥ 第13講　文章読解⑦　語彙学習⑦ 第14講　文章読解⑧　語彙学習⑧ 第15講　文章読解⑨　語彙学習⑨ 定期試験 ＊授業の進度および内容はクラスの状況により、若干変更する場合が あります。日本語能力試験 　のための文法、語彙、文型などについても必要に応じて学習して いきます。						
テキスト・教材（参考文献含む）	『日本語能力試験問題集 N1（N2）読解 スピードマスター』Ｊリサーチ出版　菊池富美子 ほか著 『日本語能力試験問題集 N1（N2）語彙 スピードマスター』Ｊリサーチ出版　菊池富美子 ほか著 その他各クラスの担当者が適宜、指示を出します。						
事前・事後学習	読み物にはいろいろな専門用語をはじめとする語彙、文法などが織り込まれています。授業後は、講義内容を振り返り、問題点や不明点などについてもう一度調べ直し、自分の考えを しっかりまとめておきましょう（90分）。						
成績評価方法	授業での積極性や発表、議論、小テスト（採点後返却します）50%、期 末試験50%。						
授業内の課題・提出方法	課題内容と提出方法は、各授業の担当講師の指示に従ってください。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	フィードバック方法については課題内容によって異なります。その都度、担当講師により案内をしますので、それに従ってください。						
担当者から一言	日頃から新聞やインターネットなど、様々な分野の記事を読むことを 心がけること。 遅刻、授業中の中座、飲食、私語、必要時以外の携帯の使用などは、 原則禁止します。真剣な授業への参加を期待します。						

授業科目名	日本語中級Ⅱ			科目コード	171114	授業コード	415703
担当教員	安田　由紀子			科目ナンバリング	GEL9004		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	言語の四技能―読む、書く、聞く、話すーを学びながら、総合的な日本語能力を身につけていきます。特にこの授業では、読解能力の強化をおこないます。与えられた読み物より内容を読み取り、文章の意図を考え、内容分析を進めていきます。						
到達目標	著書やメールや手紙など、活字での提示の場合の内容理解を深め、相手の言いたいことを活字からはかり知る能力を身につけることを目標とする。						
授業計画	第１講　合同ガイダンス 第２講　文章読解①　語彙学習① 第３講　文章読解②　語彙学習② 第４講　文章読解③　語彙学習③ 第5講　能力試験対策①（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第6講　能力試験対策②（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第7講　能力試験対策③（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第8講　能力試験対策④（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第9講　能力試験対策⑤（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第10講　文章読解④　語彙学習④ 第11講　文章読解⑤　語彙学習⑤ 第12講　文章読解⑥　語彙学習⑥ 第13講　文章読解⑦　語彙学習⑦ 第14講　文章読解⑧　語彙学習⑧ 第15講　文章読解⑨　語彙学習⑨ 定期試験 ＊授業の進度および内容はクラスの状況により、若干変更する場合が あります。日本語能力試験　のための文法、語彙、文型などについても必要に応じて学習して いきます。						
テキスト・教材（参考文献含む）	『日本語能力試験問題集 N1（N2）読解 スピードマスター』 Ｊリサーチ出版　菊池富美子 ほか著 『日本語能力試験問題集 N1（N2）語彙 スピードマスター』 Ｊリサーチ出版 菊池富美子 ほか著 その他各クラスの担当者が適宜、指示を出します。						
事前・事後学習	読み物にはいろいろな専門用語をはじめとする語彙、文法などが織り込まれています。授業後は、講義内容を振り返り、問題点や不明点などについてもう一度調べ直し、自分の考えを しっかりまとめておきましょう（90分）。						
成績評価方法	授業での積極性や発表、議論、小テスト（採点後返却します）50%、期 末試験50%。						
授業内の課題・提出方法	課題内容と提出方法は、各授業の担当講師の指示に従ってください。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	フィードバック方法については課題内容によって異なります。その都度、担当講師により案内をしますので、それに従ってください。						
担当者から一言	日頃から新聞やインターネットなど、様々な分野の記事を読むことを 心がけること。 遅刻、授業中の中座、飲食、私語、必要時以外の携帯の使用などは、 原則禁止します。真剣な授業への参加を期待します。						

授業科目名	日本語上級Ⅰ			科目コード	171115	授業コード	413201
担当教員	加納　光			科目ナンバリング	GEL9005		
配当年次	3	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	言語の四技能―読む、書く、聞く、話すーを学びながら、総合的な 日本語能力を身につけていきます。特にこの授業では、新聞やインター ネットなどの情報をもとに、より高度な読解能力を身につけることを、 そのねらいとします。また、就職後に役立つ日本語の応用能力も高めていきます。						
到達目標	この授業では、雑誌、新聞、インターネットなどのより高度な情報を読み、その内容が理解できるようになることを、到達目標とします。 （＊日本語能力試験Ｎ１レベルの語彙、文法を用いる）						
授業計画	第１講　合同ガイダンス　（クラス分けアンケートも含む） 第２講　文章読解①　語彙学習① 第３講　文章読解②　語彙学習② 第４講　文章読解③　語彙学習③ 第５講　文章読解④　語彙学習④ 第６講　文章読解⑤　語彙学習⑤ 第７講　文章読解⑥　語彙学習⑥ 第８講　文章読解⑦　語彙学習⑦ 第９講　文章読解⑧　語彙学習⑧ 第10講　文章読解⑨　語彙学習⑨ 第11講　文章読解⑩　語彙学習⑩ 第12講　文章読解⑪　語彙学習⑪ 第13講　文章読解⑫　語彙学習⑫ 第14講　文章読解⑬　語彙学習⑬ 第15講　文章読解⑭　語彙学習⑭　まとめ 定期試験 ＊授業の進度および内容はクラスの状況により、若干変更する場合が あります。日本語能力試験　のための文法、語彙、文型などについても必要に応じて学習して いきます。						
テキスト・教材（参考文献含む）	『日本語能力試験問題集 N1（N2）読解 スピードマスター』 Ｊリサーチ出版　菊池富美子 ほか著 『日本語能力試験問題集 N1（N2）読彙 スピードマスター』 Ｊリサーチ出版 菊池富美子 ほか著、その他各クラスの担当者が適宜、指示を出します。						
事前・事後学習	授業で扱う新聞記事やインターネットニュースなどについて、事前に 内容を確認したり、関連記事を読んでおくようにするなど、授業に臨 むにあたり十分な準備をおこなうこと（90分）。授業後は、内容を振り 返り、問題点や不明点などをもう一度調べ直し、理解を深めておくこ と（90分）。						
成績評価方法	授業での積極性や発表、議論、小テスト（採点後返却します）50%、期 末試験50%。						
授業内の課題・提出方法	授業での課題はMoodle、あるいは授業の際直接手渡しで返却する予定です。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業での小テスト、課題は採点後返却します。						
担当者から一言	日頃から新聞やインターネットなど、様々な分野の記事を読むことを 心がけること。 遅刻、授業中の中座、飲食、私語、必要時以外の携帯の使用などは、 原則禁止します。真剣な授業への参加を期待します。						

授業科目名	日本語上級Ⅱ			科目コード	171116	授業コード	413601
担当教員	加納　光			科目ナンバリング	GEL9006		
配当年次	3	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	言語の四技能—読む、書く、聞く、話すーを学びながら、総合的な 日本語能力を身につけていきます。特にこの授業では、新聞やインター ネットなどの情報をもとに、より高度な読解能力を身につけることを、 そのねらいとします。また、就職後に役立つ日本語の応用能力 も高めていきます。						
到達目標	この授業では、雑誌、新聞、インターネットなどのより高度な情報 を読んで、その内容が理解できるようになることを、到達目標とします。 （＊日本語能力試験Ｎ１レベルの語彙、文法を用いる）						
授業計画	第１講　合同ガイダンス　（クラス分けアンケートも含む） 第２講　文章読解①　語彙学習① 第３講　文章読解②　語彙学習② 第４講　文章読解③　語彙学習③ 第５講　文章読解④　語彙学習④ 第６講　文章読解⑤　語彙学習⑤ 第７講　文章読解⑥　語彙学習⑥ 第８講　文章読解⑦　語彙学習⑦ 第９講　文章読解⑧　語彙学習⑧ 第10講　文章読解⑨　語彙学習⑨ 第11講　文章読解⑩　語彙学習⑩ 第12講　文章読解⑪　語彙学習⑪ 第13講　文章読解⑫　語彙学習⑫ 第14講　文章読解⑬　語彙学習⑬ 第15講　文章読解⑭　語彙学習⑭　まとめ 定期試験 ＊授業の進度および内容はクラスの状況により、若干変更する場合が あります。日本語能力試験　のための文法、語彙、文型などについても必要に応じて学習して いきます。						
テキスト・教材（参考文献含む）	『日本語能力試験問題集 N1（N2）読解 スピードマスター』 Ｊリサーチ出版　菊池富美子 ほか著 『日本語能力試験問題集 N1（N2）読彙 スピードマスター』 Ｊリサーチ出版　菊池富美子 ほか著 その他各クラスの担当者が適宜、指示を出します。						
事前・事後学習	授業で扱う新聞記事やインターネットニュースなどについて、事前に 内容を確認したり、関連記事を読んでおくようにするなど、授業に臨 むにあたり十分な準備をおこなうこと（90分）。授業後は、内容を振り 返り、問題点や不明点などをもう一度調べ直し、理解を深めておくこ と（90分）。						
成績評価方法	授業での積極性や発表、議論、小テスト（採点後返却します）50%、期 末試験50%。						
授業内の課題・提出方法	授業での課題はMoodle、あるいは授業内に直接手渡しで提出していただきます。どの方法によるのかは、その都度指示をします。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業の課題は採点後返却します。						
担当者から一言	日頃から新聞やインターネットなど、様々な分野の記事を読むことを 心がけること。遅刻、授業中の中座、飲食、私語、必要時以外の携帯の使用などは、 原則禁止します。真剣な授業への参加を期待します。						

授業科目名	コンピュータリテラシー			科目コード	171201	授業コード	412301
担当教員	田中　伊知郎			科目ナンバリング	GEI1001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	4.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	「情報科目」では情報社会に必須の知識を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	コンピュータの実習を中心とした授業です。コンピュータの「読み書き能力」の習熟に重点を置きます。 具体的には、仕事をする上でよく使われているワープロと表計算ソフトを中心に実習します。授業は、実際にデータを入力して加工する実習を主体にして行います。教員が質問に答えて個別指導を行う形で実習は進みます。毎回実習の提出物がありますから、それで習熟度がチェックされます。						
到達目標	ワープロソフトWord2021と表計算ソフトExcel2021の基本的な機能に習熟し、ビジネス文書の作成ができるようになること。　両者を連携し、ネット検索した情報をグラフにまとめ、グラフ入りの説得力の高い文書ができるようにします。						
授業計画	第１講　ガイダンスとテストによるコンピュータ習熟度の判別 第２講　Word①：文字の入力 第３講　Word②：文書の作成 第４講　Word③：編集・表の作成・画像の挿入 第５講　Word④：自分で調べたレポートの作成 第６講　メール：携帯メールとの連携・他の授業を含めた課題提出の仕方 第７講　メール：エチケット 第８講　Excel①：データの入力、ワークシートの編集 第９講　Excel②：グラフの作成 第10講　Excel③：グラフの編集と表計算 第11講　Excel④：基本的な関数と条件関数 第12講　Excel⑤：データベース機能 第13講　Excel⑥：Wordとの連携：グラフ入りレポートの作成 第14講　自分で調べて、グラフ入りレポートを作る。 第15講　PowerPoint：利用法とプレゼンテーションの実践						
テキスト・教材（参考文献含む）	テキスト（必須）「30時間でマスターWord&Exel 2021」実教出版 1000円 教科書が無いと実習が出来ません。						
事前・事後学習	習うより慣れろという内容なので授業に毎回出席して実習に励んでください。また、Office 365のスマホ版の使い方も教授しますので、スマホや自宅のPCでも学習(30分ほどの復習を週2回行うのが効率的)を進めるようにしてください。						
成績評価方法	実習は、印刷して完了しますので、その印刷物を毎回採点して、その合計点が成績となります。定期テストは行いません。						
授業内の課題・提出方法	印刷物として、授業末に提出します。オンラインになった場合は、メール等での提出も可能とします。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出された課題を採点し、単に評価だけでなく、理解できていないところを指摘して、そこを見直して、再学習してもらい、再提出します。						
担当者から一言	コンピュータ教室での実習を中心とした科目です。毎回の授業は前回までの授業の積み重ねで進めるので、欠席すると次の実習が難しくなるので、できるだけ、毎回出席してください。						

授業科目名	情報倫理			科目コード	171202	授業コード	411606
担当教員	田中　伊知郎			科目ナンバリング	GEI1002		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	「情報科目」では情報社会に必須の知識を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	インターネットとネット上の各種サービスの発展により、世界中の人々が直接に繋がる新しい社会が形成され、またデジタル技術の進展により、高品位の著作物を皆で共有し楽しめるようになりました。ネット上に出来たこの新しい社会は人間社会を根本から変えようとしていますが、情報の非対称性の問題が生じ、ネットに詳しくない人が被害を受けるようになっています。この状況での守り方を身につけてもらいます。						
到達目標	自己に関する情報の使用は自分自身が決めるプライバシーの原則をどのように守るかの理解と、創造物(著作物)は対価を払い、有料で使用することが、創造の発展につながることの実践を理解してもらいます。						
授業計画	第１講　ガイダンス：IT環境での守り方) 第2講　ネット産業の繁栄その裏側 第３講　不正を働く者の実態 第４講　ウィルスなど不正を働く者への対抗 第５講　通信販売と個人認証：特に、生体認証 第６講　暗号の限界：通信販売の利用の目安 第７講　現代の情報の性質 第８講　プライバシーの原則 第９講　購買履歴分析 第10講　ターゲット広告の拒絶 第11講　創造物の有料利用：著作権 第12講　創造物の二次使用：著作権の保護 第13講　恣意的情報への対処：なぜ広告はすたれたのか 第14講　メディアリテラシー 第15講　まとめ 定期試験　持ち込み不可						
テキスト・教材（参考文献含む）	なし						
事前・事後学習	授業当日に講義内容のノートを見返して、メモした疑問点を調べてください(60分)。2・3日後に、ノートを再度読んで (30分)、その次に当たることを考えてください (30分)。講義の前日に、ノートを読み返して、ノートの空白に書き込み整理してください(60分)。						
成績評価方法	講義の各回の終わりに練習問題(実践課題)をやります。講義中の課題は、コメントをつけて、合格するまでやり直してもらいます。実践課題60%　定期試験　40%						
授業内の課題・提出方法	授業内容を理解したかを測る課題を授業末に出し、すぐにはできないので、1週間以内にメールなどで教員に送ってもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	送られた課題に対する回答を採点し、単に評価だけでなく、理解できていないところを指摘して、ノートを見直して、再学習してもらい、再提出します。						
担当者から一言	情報の非対称性から、ネットに詳しい人は、簡単にいろいろな情報を手にできますが、それは他の人のプライバシーを侵す危険があります。そのことをしっかり意識してもらいます。						

授業科目名	情報科学			科目コード	171203	授業コード	414203
担当教員	池田　幹男			科目ナンバリング	GEI1003		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「情報科目」では情報社会に必須の知識を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	近年、デジタル化の急速な発展とインターネットによる高速な情報拡散によって、情報処理は急速に変化してきました。情報処理について理解することがますます重要になってきています。この授業では、パーソナルコンピュータ、スマートフォン、インターネットなどで行われている情報通信の現在の状況を学びます。						
到達目標	現代の情報処理技術の概要を理解する。						
授業計画	第１講　ガイダンス　人間はどうやって情報を伝えているか 第2講　情報メディア 第3講　身の回りの情報機器 第4講　コンピュータシステム 第5講　文字符号化 第6講　アナログからデジタルへ 第7講　マルチメディア（オーディオ、画像、ビデオ） 第8講　インターネット 第9講　WWW 第10講　ＳＮＳ 第11講　ビッグデータと人工知能 第12講　生体認証 第13講　暗号化とセキュリティ 第14講　デジタルトランスフォーメーション（DX） 第15講　情報処理の将来 定期試験						
テキスト・教材（参考文献含む）	指定しない。教材はMoodleを通じて呈示します。						
事前・事後学習	教育支援システム(Moodle)に呈示されている資料や参考サイトを見て予習(90分)し、インターネットを通じて関連項目を調査して復習(90分)します。						
成績評価方法	教育支援システム(Moodle)を使用したディスカッション等での授業参加 30%、Moodleでの課題よ小テスト30%、定期テスト40%で評価します。						
授業内の課題・提出方法	Moodleを通じて、ディスカッションしたり、課題を提出したりします。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	Moodleを通じて評価等のフィードバックします。						
担当者から一言	情報通信の発展と変化は非常に速いので、常に変化に対応できるように情報を集めるように心がけてください。						

授業科目名	情報と職業			科目コード	171204	授業コード	411206
担当教員	井岡　幹博			科目ナンバリング	GEI1004		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「情報科目」では情報社会に必須の知識を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	本講義では、事例を通して情報システムと社会とのかかわり方を学び、情報システム関連の職業に関する職業観を持つことを目的とします。そのために、コンピュータやネットワークが社会インフラやビジネスの場面で、どのように活用されているかを学びます。情報システムの発達により、社会の仕組みや仕事の仕方が変わる中で、人間社会とコンピュータ、ネットワークとの望ましい関係も考えていきたいと思います。						
到達目標	ITパスポート試験のストラテジ系およびマネジメント系の問題を解けるレベルを目指す。						
授業計画	第１講：ガイダンス、iPhoneのビジネスモデル 第２講：情報のデジタル化 第３講：インターネット 第４講：インターネットビジネス　アマゾン 第５講：インターネットビジネス　アマゾンと楽天のビジネスモデルの違い 第６講：デジタル社会と製造　SCM① 第７講：デジタル社会と製造　SCM② 第８講：知的財産権とビジネス　産業財産権 第９講：知的財産権とビジネス　著作権 第10講：情報セキュリティ① 第11講：情報セキュリティ② 第12講：自動識別技術 第13講：Googleのビジネスモデル 第14講：GAFAと個人情報保護 第15講：まとめ 定期試験						
テキスト・教材（参考文献含む）	プリント配布。						
事前・事後学習	情報技術およびその利用に関する新聞記事の熟読（予習90分）。各回で課されるレポート課題を作成すること（復習90分）。						
成績評価方法	レポート50%、定期試験50%　レポート課題に問題があればフィードバックします。						
授業内の課題・提出方法	毎回レポート課題を提出してもらいます．提出場所は，Moodleを予定していますので，自己登録してください.						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	Moodle内で個別にフィードバックします.						
担当者から一言	急速に進む情報化は、ビジネス環境はもちろん、私たちの生活自体も大きく変え、大きな影響を与えています。ニュース番組などで具体的な例を見ながら、情報システム進化の方向やその影響を一緒に考えましょう。						

授業科目名	アプリケーション演習Ⅰ			科目コード	171205	授業コード	413803
担当教員	池田　幹男			科目ナンバリング	GEI1005		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「情報科目」では情報社会に必須の知識を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	Word は、卒業後の実社会では必須の道具です。単に文書を作成するだけではない Word の様々な機能が使えるなることを目指します。						
到達目標	Word の便利な新機能を実際に使って、実社会での使い方を身につけることを到達目標とします。さらに、講義を終えれば、MOS Word の資格取得試験の準備が整うようにします。						
授業計画	第１講 ガイダンス 第２講 文書の作成 第３講 文書の管理 第４講 文字・段落の書式設定 第５講 セクションの書式設定 第６講 表やリストの作成と変更 第７講 引用文献 第８講 図表の管理 第９講 文書パーツ 第10講 SmartArt 第11講 画像の挿入 第12講 MOS word 模擬試験問題１ 第13講 MOS word 模擬試験問題２ 第14講 MOS word 模擬試験問題３ 第15講 MOS word 模擬試験問題４						
テキスト・教材（参考文献含む）	MOS攻略問題集 Microsoft Word 日経BP社 MOS， Office のバージョンによって変わります。						
事前・事後学習	大学や個人所有のPCで、テキストの練習問題の予習・復習およびテキストの模擬試験を繰り返し行ってください。（週180分）						
成績評価方法	毎回の課題（６０％）、模擬試験演習（４０％）で評価します。定期テストは実施しません。						
授業内の課題・提出方法	Moodle を通じて課題を提出します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	Moodle を通じて適宜、提出物にコメントを付けてフィードバックします。						
担当者から一言	人数制限があるので、初回は必ず出席してください。						

授業科目名	アプリケーション演習Ⅱ			科目コード	171206	授業コード	414102
担当教員	柳澤　翔士			科目ナンバリング	GEI1006		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「情報科目」では情報社会に必須の知識を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	Wordと使いこなす技術は、ビジネスシーンにおいて必須のスキルです。Word2019を使いこなす技術と知識の習得を目指す。						
到達目標	Word2019を実社会で活用できる技術と知識の習得を目標とする。受講後はMOS Word 2019の資格取得を目指せるレベルになることを目指す。						
授業計画	1. ガイダンス・基礎知識 2. 文書の作成 3. 文書の管理 4. 文字・段落の書式設定 5. セクションの書式設定 6. 表やリストの作成と変更 7. 引用文献 8. 図表の管理 9. 文書パーツ 10. SmartArt 11. 画像の挿入 12. MOS word 2019模擬試験問題１ 13. MOS word 2019模擬試験問題２ 14. MOS word 2019模擬試験問題３ 15. MOS word 2019模擬試験問題４ 定期試験 ※学習状況により変更の可能性があります						
テキスト・教材（参考文献含む）	佐藤　薫　著　「MOS攻略問題集Word 365&2019」 日経BP　￥2200						
事前・事後学習	テキストでの予習(90分)講義で出た小課題の回答・予習(90分)						
成績評価方法	受講態度40%(レポート・小課題の提出状況・授業に取り組む姿勢) 模擬試験・定期試験60%						
授業内の課題・提出方法	学内サーバー指定フォルダを利用する場合と、Moodle・メールを利用する場合があります。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	講義の課題・質問等へのフィードバックは当日中か翌週に行う。						
担当者から一言	Wordを使った文書作成において必要となる知識・技術について共に学びましょう。						

授業科目名	四日市学			科目コード	171301	授業コード	415201
担当教員	鬼頭　浩文、李　修二、岡　良浩、永井　博			科目ナンバリング	GEC1001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「地域科目」では、地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材を目指します。						
授業のねらい	この講義は、四日市市を対象として、地域の社会、歴史、文化、自然、産業、環境などの現状を学び、この地域の将来の発展方向を考えることをねらいとしています。四日市を深く知ることを通し、地域社会の抱える課題を見つけ、それを市民・企業・行政などがどのように解決するのか、学んでいきます。また、四日市の伝統・文化・芸術について触れ、多面的に四日市について考える機会とします。なお、フィールドワークでは、交通費や入館料など、2，000円～5，000円ほどが自己負担になります。						
到達目標	講義は9回にわたる様々なテーマの座学、2つのフィールドワークによって構成されます。この講義の到達目標は、この地域の様子や現在の課題を積極的に学んでいくという興味や意欲を持てるようになることです。						
授業計画	第１講(4/7)　ガイダンス＋フィールドワークの説明（鬼頭） 第２講(4/14)　「地域と宗教的文化・伝統」（李；ゲスト 北島義信） 第３講(4/21)　「四日市公害に向き合う」（鬼頭；ゲスト 四日市公害と環境未来館職員） 第４講(4/28)　「四日市の産業」（岡） 第５講(5/12)　「ふるさと・四日市の文学者たち」（永井） 第６講(5/19)　「四日市の抱える今日的問題～人権問題～」（李） 第７講(5/26)　「四日市の歴史」（永井；ゲスト 四日市市博物館学芸員） 第８講(6/2)　「四日市市の発信～シティプロモーション戦略～」 （鬼頭；ゲスト 四日市市職員） 第９講(6/9)　「四日市の文化財を保存・活用」（鬼頭；ゲスト講師 四日市市職員） 第10～12講　フィールドワーク①「四日市市博物館で学ぶ」 第13～15講　フィールドワーク②「四日市で学ぶ」 ＊講師都合や感染の状況によっては、内容が変更になることがあります。 ■10～12週目　フィールドワーク①「四日市市博物館で学ぶ」 6月中旬～7月中旬の間で博物館でのフィールドワークを行い、ワークシートを完成させる。 ■13～15週目　フィールドワーク②「四日市で学ぶ」 6月中旬から7月中旬の間で自由に日程を決め、設定したコースの神社や寺などを街あるきし、指定したチェックポイントで自撮りした写真とレポートをMoodleに提出する。						
テキスト・教材（参考文献含む）	とくに設定しない。必要に応じて資料を配布する。						
事前・事後学習	次回講義の内容をシラバスの計画で確認し、WEBで関連する情報をみる準備学習を約1時間すること。また、講義で配布された資料などを使った振り返り学習も約1時間する。また、フィールドワークに2日間、その課題作成に6時間ほどを要する。						
成績評価方法	成績評価は、1～9週目に課す簡単なリアクションペーパー各200字程度（45%）、2回のフィールドワークに関するレポート（30%）、学期末試験（25%）で総合評価します。						
授業内の課題・提出方法	テーマごとに課題を設定し小レポートを提出						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	Moodleを通して課題に対するフィードバックをします。						
担当者から一言	四日市を深く知ることのできる貴重な科目です。しっかりと「四日市」を学んでほしい。						

授業科目名	地域社会の歴史			科目コード	171302	授業コード	415705
担当教員	浅井　雅			科目ナンバリング	GEC1002		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「地域科目」では、地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材を目指します。						
授業のねらい	地域の歴史・文化を知ることで、政治だけでない人々の営みを理解し、自分たちも未知なる社会に立ち向かう態度を先人たちの経験を追体験することにより養う。						
到達目標	1．地域社会の歴史・文化に関する知識を身につける。 2．知識を活用し、発信できる力を身につける。 3．地域社会から日本や世界の課題を探り、検討する姿勢を身につける。						
授業計画	1．ガイダンス 2．時代区分等歴史の基礎知識 3．考古 4．古代（1） 5．古代（2） 6．中世（1） 7．中世（2） 8．中世（3） 9．近世（1） 10．近世（2） 11．近世（3） 12．近世（4） 13．近代（1） 14．近代（2） 15．まとめ 期末レポート						
テキスト・教材（参考文献含む）	講義資料については、電子もしくは紙で毎回配布する。 参考図書については、授業中に提示する。						
事前・事後学習	事前学習については、新聞の地域面、タウン誌あるいは広報、行政のHP等を通して、日頃から地域情報・地域文化に関する情報に触れ、考える機会を設けること。（60分） 事後学習については毎回の講義に関して不明な点を残さないよう調べておくこと。また、講義に関する事柄を自ら調べ、視野を広げる機会を設けてほしい。（60分）						
成績評価方法	毎回の授業の最後に提出してもらう小レポート（コメントペーパー）＝30% 期末レポート＝70% なお、2/3以上の出席がない場合は採点の対象外とする。（病欠・公欠等は、別途相談のこと。）						
授業内の課題・提出方法	コメントペーパーに関しては、MoodleにGoogleフォームのリンク先を毎回上げる。 期末レポートもMoodle内に提出先を設けるので、期限内に電子データで提出とのこと。 課題・書式・締切の詳細は授業内で発表する。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出してもらった小レポート（コメントペーパー）はすべて目を通し、全体で共有すべきことがあれば次回の授業の最初にフィードバックする時間を設ける。						
担当者から一言	授業内容・計画は時事的状況や受講生の興味・関心等で変更する場合がある。 授業中に受講にふさわしくない態度・行為（携帯・メールなども含む）をとった者は退室させるので、あらかじめ了解しておくこと。						

授業科目名	市民教育			科目コード	171303	授業コード	415305
担当教員	フェリペ　フェハーリ			科目ナンバリング	GEC1003		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「地域科目」では、地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材を目指します。						
授業のねらい	マイケル・サンデルによると、「公共哲学」の目的が日常生活にある政治的及び法的問題や矛盾を見出し、道徳哲学の立場から現代社会を分析することです。本講義の目的は、「哲学」の公共性の歴史の学びながら、倫理的な生活への道具としての「哲学」を考えることです。						
到達目標	哲学の立場から、現代社会の問題を議論すること。						
授業計画	第１講　ガイダンス・「公共哲学」とは何か 第２講　マイケル・サンデルにおける「公共哲学」 第３議　日常生活の哲学 第４講　道徳と倫理 第５講　エートス 第６講　「カ」と「責任」 第７講　権威主義と民主主義 第８講　人権の誕生 第９講　多元主義 第10講　ジェンダー 第11講　マイノリティー 第12講　動物の権利 第13講　SDGs の問題 第14講　これからの哲学 第15講　まとめ						
テキスト・教材（参考文献含む）	毎回、教員が資料を配布する。						
事前・事後学習	毎回の講義で配布した資料をしっかり読んで（毎週約90分）、不明な点があれば、次の授業でミニレポート用紙に書いてください。						
成績評価方法	受講態度：30% ミニレポート：20% 最終レポート：50%						
授業内の課題・提出方法	授業で小レポートを提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	学生自身が記入したミニレポートを講義中にコメントします。						
担当者から一言	真剣に哲学を教える人、学ぶ人、研究する人は必ず哲学的に生活していると思いますか？ 一緒に現代社会における哲学の価値と「公共哲学」の意味を探しましょう。						

授業科目名	人権論			科目コード	171304	授業コード	415501
担当教員	岩崎　恭典、青木　陽子、浅井　雅			科目ナンバリング	GEC1004		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「地域科目」では、地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材を目指します。						
授業のねらい	前学期の「人間たれ１」に引き続き、本学に入学した環境情報・総合政策両学部の全新入生が、本学の建学の理念、歴史・伝統を学ぶとともに、今後激変する社会に出る準備として大学で学ぶということ、大学での生活上の留意点、卒業後を見通したキャリア形成、生活設計など、学生としての基本事項を学ぶことを本講義のねらいとします。						
到達目標	１．本学の建学の精神を理解する。 ２．満30周年を迎えた本学の歴史を、満75周年を迎えた学校法人暁学園の歴史を、昭和・平成・令和・平成という時代とともに振り返り、今後の社会に生きていく力とは何かについて理解を深める。 ３．各分野の専攻やスキル科目、地域志向科目等本学の特徴的な講義、また、学友会主催事業等についての理解を深める。						
授業計画	第１講で、講師のスケジュールを確定させたうえで、改めて詳細な講義計画を示す。 第１講　ガイダンス　「人間たれ」Ⅰの振り返り、ⅠとⅡの違いについて 第２講　UD(ユニバーサルデザイン)について　①　(NPO法人UDほっとねっと伊藤さん) 第３講　UD(ユニバーサルデザイン)について　②　(NPO法人UDほっとねっと石山さん) 第４講　本学の建学の精神について 第５講　暁学園・四日市大学の歴史　昭和時代の暁学園 第６講　暁学園・四日市大学の歴史　平成時代・令和の四日市大学 第７講　本学の建学の精神と君たちの将来　人口減少社会 第８講　本学の建学の精神と君たちの将来　シンギュラリティ、Society5.0 第９講　人口減少社会を生きる力 第10講　PBLとは何か-祭りや鉄道を素材として 第11講　環境問題と総合政策-ゴミ問題をテーマとして 第12講　新任教員は語る①　何をどう勉強してきたか 第13講　新任教員は語る②　何をどう勉強してきたか 第14講　新任教員は語る③　何をどう勉強してきたか 第15講　一年間の総まとめ　改めて「建学の精神」について 定期試験						
テキスト・教材（参考文献含む）	できるだけレジメと資料を配布する。						
事前・事後学習	大学は社会に出るための準備期間です。講義の中では、時事問題も積極的に触れるので、新聞を読む習慣をつけておいてください（１日30分以上）。						
成績評価方法	出席することを基本として、時折実施する小テスト（50%）、定期試験の成績（50%）により評価する。						
授業内の課題・提出方法	ほぼ毎回提出してもらう小レポートは時間内に解答できるものとする予定である。回答時間がない場合には、翌週までにレポートボックスまで提出してもらう。また、感想・岩崎あるいは大学に対する質問・意見等については、「大福帳」の往復によって意思疎通を図るものとする。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小レポート、「大福帳」、後学期試験答案については、個人別にまとめたうえで、後学期の二年生演習授業の担当者を通じて返却するものとする。						
担当者から一言	私立大学には「建学の精神」というものがあります。本学の「建学の精神」＝「人間たれ」とその精神に由来する教育方針・教育課程の全体像を理解し、有意義な４年間を過ごすための基礎をこの講義を通じて、作り上げてください。						

授業科目名	地域社会と環境			科目コード	171305	授業コード	415307
担当教員	野呂　達哉			科目ナンバリング	GEC1005		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「地域科目」では、地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材を目指します。						
授業のねらい	現代の地域社会はどのような問題を抱えているのか、その事例として「里山の衰退」と「獣害問題」、「外来生物問題」をとりあげます。これらの問題の背景や現状、また、地域でどのような取り組みが行われているのか理解することを目標とします。						
到達目標	農村の過疎化や都市への人口集中、通勤圏としての郊外の開発は「獣害問題」や「外来生物問題」、「生物多様性の減少」の背景ともなっています。これらは地域の問題というだけではなく全国的な課題でもあります。ディスカッションを通じて、身近な環境問題としてこれらを理解することを目指します。						
授業計画	第１講　ガイダンス 第２講　地域社会と環境問題 第３講　農村と里山 第４講　里山の自然と維持管理 第５講　里山の衰退と獣害問題 第６講　里山の再利用とエコツーリズム 第７講　郊外の自然と身近な生物の減少と消失 第８講　都市の自然と生物多様性 第９講　外来生物問題 第10講　ペットの遺棄と地域ネコ 第11講　グローバル化と感染症問題 第12講　都市化とエキゾチックペット由来の新たな外来生物 第13講　地域住民による外来生物対策 第14講　地域住民による生物調査と保全の取り組み 第15講　まとめ						
テキスト・教材（参考文献含む）	自作プリント、および関連資料配布。また、映像、スライドなども併用する。参考文献：「里山の環境学（武内和彦ほか）東京大学出版会，2001」、「都市で進化する生物たち（メノ・スヒルトハウゼン）草思社，2020」「野生動物問題への挑戦（羽山伸一）東京大学出版会，2019」など。						
事前・事後学習	前回までの内容を復習した上で講義に臨んでください（毎週30分）。また、講義後に分からないことや関心を持ったことについては書籍やインターネットなどで調べ、自分の中で整理してください（１日平均30分）。						
成績評価方法	授業に対する積極性（50%）、期末試験（50%）を元に総合的に評価します。授業に対する積極性は小レポートの提出や授業内でのディスカッションへの参加、発言によって評価します。						
授業内の課題・提出方法	講義の内容に即した身近な環境問題の題材から出題します。課題は基本的に授業内の提出とします。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出物のフィードバックは必要に応じて行います。提出課題の中からいくつかの題材を選び、講義のはじめでディスカッションします。質問や意見など遠慮せず積極的に発言してください。						
担当者から一言	環境問題は複雑な現代社会を背景として生じてきた問題ですが、問題解決のためには地域社会とそこで生活する個人の参加が不可欠です。問題解決のために学生の積極的な参加を望みます。						

授業科目名	地域防災			科目コード	171306	授業コード	415306
担当教員	鬼頭　浩文			科目ナンバリング	GEC1006		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「地域科目」では、地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材を目指します。						
授業のねらい	この講義では、NPO法人日本防災士機構が認証する防災士の資格取得を目指します。この資格は、消防・警察・行政などの公務員志望者にはぜひ取得してほしいです。講師には、行政・社協・自主防災隊・消防団など、さまざまな防災に関わる機関から招聘します。 ＊テキスト・受験料などの実費18,000円が必要(看護大B館で証紙購入)です。						
到達目標	この講義を通して、大規模災害時に自分や家族の命を守り、復旧・復興に向けた企業や地域などでの活動をリードできる人材になるのが目標である。						
授業計画	対面：ガイダンス(テキスト販売や書類配布)と週末に実施する第5～10講は対面 オンデマンド：テキスト解説の25講目はオンデマンド 1 4/7 ガイダンス(対面)／補講1；近年の災害 2 4/14 第1講；地震・津波／第2講；気象災害・風水害／第9講；行政の災害対策 3 4/21 第7講；ハザードマップ／補講2；耐震補強／第20講；災ボラ／第17講；自主防 4 4/28 第11講；復旧・復興／第12講；災害医療／第18講；避難所 5 5/13 午前；防災士養成講座（会場研修）① 6 5/13 午後；普通救命講習（場所：体育館） 7 5/14 午前；防災士養成講座（会場研修）② 8 5/14 午後；防災士養成講座（会場研修）③ 9 5/20 午前；防災士養成講座（会場研修）④ 10 5/20 午後；防災士養成講座（会場研修）⑤ 11 5/26 第3講；土砂災／第4講；火山／第5講；火災 12 6/2 第6講；予報・警報／第8講；災害情報／第10講；行政 13 6/9 第13講；ライフライン／第14講；事業継続／第15講；地震への備え 14 6/16 第16講；風水害への備え／補講3；損保 15 6/23 第19講；多様性／第21講；防災士／補講4；訓練 ★8月5日(土)午後に防災士試験を実施する。 ★日程は変更することがある。						
テキスト・教材（参考文献含む）	『防災士教本』日本防災士機構 テキスト代は、実費負担18,000円に含まれる。						
事前・事後学習	OD動画は、講目ごとに分けてある。講目ごとに事前にテキストを30分ほどかけて読んでから動画の視聴をし、指示に従ってマーカーを引き、視聴後に重要個所を履修確認レポートにまとめてもらう。また、週末の集中講義で学習したこともあわせ、期末試験や防災士試験までに必ず15～20時間の復習をすること。						
成績評価方法	講義で学んだことをまとめる履修確認レポート(60%)、期末試験(8月の防災士試験の模擬試験を兼ねる)の結果(40%)から、総合的に成績をつける。						
授業内の課題・提出方法	テキストの各項目について重要個所をまとめる履修確認レポートを書き、Moodleで提出する。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出されたレポートは内容を確認し、間違いなどがあれば訂正してフィードバックする。						
担当者から一言	講義を履修するものは、防災士試験にチャレンジすることを条件とする。						

授業科目名	地域連携特別講義ａ			科目コード	171307	授業コード	416503
担当教員	倉田　英司			科目ナンバリング	GEC1007		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「地域科目」では、地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材を目指します。						
授業のねらい	食と観光に関して、三重県内でフィールドワークを交えた体験型実習を行う。観光客など地域への愛着を持つ者を増やすことで、地域で作られてきた食品や地域で育まれてきた食文化を継承し発展させていくことにつなげることができないかを考えていく。主体的に考え、グループワークにおいて所属や専門の異なる他者と議論し、生産者や観光客などに対してインタビューを行うなどといった一連のプロセスによって、地域イノベーションを実践する人材育成を目指す。						
到達目標	地域住民や観光客など自らとは異なる立場の人たちにインタビューし、その内容に対してグループ討議を経てそれぞれの専門性に則った意見を述べることで主体性を発揮できる。						
授業計画	10月上旬　「ガイダンス」 13：00−14：00　現状把握と課題解決の考え方 14：10−15：10　ご当地グルメを活用した町おこし 15：20−17：00　グループワーク 10月中旬　「三重県の基礎情報を学ぶ」 13：00−15：30　展示見学・講義 15：40−17：00　グループワーク 10月下旬　「食を活かした観光開発」 10：00−12：00　施設見学・体験 12：00−13：00　昼食・移動 13：00−14：00　農を活かした観光開発 14：10−16：10　グループワーク 11月下旬　「食と観光を踏査する」 10：00−16：10　フィールドワーク 12月上旬　「食と観光を考える」 13：00−17：00　グループワーク 12月中旬　「食と観光を発表する」 13：00−16：00　成果発表会 16：00−17：00　講評・まとめ ※ 新型コロナウイルスの感染拡大の状況や受け入れ先の都合などによっては、変更になる場合があります。						
テキスト・教材（参考文献含む）	なし。（必要に応じて資料等を配布する場合があります）						
事前・事後学習	三重県内の食品生産や食文化の現状・課題や、観光業の現状・課題等について、事前に情報収集をし、考察を深めておく（36時間）。 成果発表に向けてグループの仲間と連絡を取り合いながら、時間外に準備を行う（９時間）。						
成績評価方法	①グループワーク等への取組姿勢　60% ②成果発表レポート　40% ※ 一部でも欠席した場合には、単位は与えられないので、日程管理に留意すること。 ※ グループワーク、フィールドワークにおいては、教員が適宜アドバイスする。グループワークなどで出された質疑にも教員が適宜回答する。						
授業内の課題・提出方法	成果発表の内容について、レポートを提出してもらう。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	フィールドワークで出た意見については、適宜コメントを行う。						
担当者から一言	三重県内の複数の高等教育機関との合同授業になります。グループワーク・ プレゼンテーション等、学生諸君には相応の負担もかかりますし、現地学習などで費用もかかりますが、それに見合うだけの意義深い学習と経験ができるはずです。他校に友人関係を広げるチャンスにもなりますので、ぜひ積極的に参加してみてください。						

授業科目名	経営学			科目コード	171401	授業コード	413701
担当教員	川崎　綾子			科目ナンバリング	GLAS1001		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の３分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	本講義では，経営学の諸理論を理解し身につけることで，受講生の経営学の研究能力とリーダーとしての資質を醸成する。経済社会や企業に潜む問題を自ら発見し，解決する能力の育成を目指す。						
到達目標	経営の理論的な用語を駆使し，企業社会の問題解決に自ら分析的に取り組むことができる。 文献などの資料から必要な証拠を収集し，説得性の高い論理的なレポートの作成能力をもつ。						
授業計画	第１講　ガイダンス／単位取得に関する注意事項 第２講　経営の目的（１）／顧客価値の提供 第３講　経営の目的（２）／価値提供のための組織づくり 第４講　組織と不確実性 第５講　人のマネジメント（１） 第６講　人のマネジメント（２） 第７講　組織デザインと分業（１）／外部業者の活用 第８講　組織デザインと分業（２）／アウトソーシングと製品のモジュラー化 第９講　組織デザインと統合 第10講　様々な取引形態　／取引コストと信頼 第11講　資源依存理論 第12講　提携の様々な形 ／製作委員会とプロデューサー 第13講　商品開発 第14講　流通のしくみ 第15講　まとめ						
テキスト・教材（参考文献含む）	教科書は指定しない。資料を配布する。						
事前・事後学習	レポートへの解答，書籍やインターネットの閲覧などを通して，理論的用語の予習や復習， マネジャーの立場における課題解決の練習に取り組むことが望ましい（毎週３時間程度）。						
成績評価方法	中間レポート　50% 最終レポート（レポート試験）50%						
授業内の課題・提出方法	中間および最終レポートはmoodleから提出すること. 毎回の出席確認の質問は講義内で紙提出してもらう予定.						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	中間レポートについては，講義中にコメントする。 優秀な中間レポートは，講義中に紹介する場合がある。						
担当者から一言	院生レベルのレポートを要求しますが，経営学は１から教えますので大丈夫です。 ※２回以上，私語の注意を受けた人には，原則単位を認めません。 経営は目的達成のために持続的に事を行うことです。生活にもお役に立てれば幸いです。						

授業科目名	経済学			科目コード	171402	授業コード	412801
担当教員	鬼頭　浩文			科目ナンバリング	GLAS1002		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の３分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	ここでは、経済学の基礎的考え方を学ぶため、映像による事例を紹介し、その背後にある経済の仕組みや動きについて説明していく。受講生には、映像や解説の内容をノートテイクするためのレジュメを配布する。映像や解説をメモしながら授業が進み、授業終了直後に完成したレジュメをスマホで撮影しMoodleに提出する。遅刻したり、他ごとをしていた部分は確実に減点されるので、90分の講義に集中しなければならなくなる。また、できるだけ教室の中を動き、学生からの発言を求め、時にはディスカッションの時間を設ける。						
到達目標	経済学の基本的知識を映像から体感し、経済社会の背後にある仕組みを理解して将来の仕事や生活に役立つ知識を身に着けることが到達目標である。						
授業計画	1：ガイダンス、感染症が経済に与えた影響から経済の仕組みを学ぶ 2：コロナ禍で地域の金融機関が果たした事例から経済を知る 3：金融制度の表側と裏側を知る 4：中国の医療政策から学ぶ経済の仕組み① 5：中国の医療政策から学ぶ経済の仕組み② 6：日本の医療保険政策から学ぶ経済の仕組み① 7：日本の医療保険政策から学ぶ経済の仕組み② 8：日本経済における「働き方」の変化 9：文化・スポーツなどの経済活動 10：税の仕組みを知る（四日市市税務署） 11：企業経営の事例から経済を学ぶ① 12：企業経営の事例から経済を学ぶ② 13：インバウンド・外国人と日本経済 14：経済のいまを映像で知る 15：復習とレポート試験の説明						
テキスト・教材（参考文献含む）	テキストは購入しない。講義でプリントを配布する。						
事前・事後学習	この講義は、復習が重要である。講義後にプリントに書き込みをした内容を2～3時間かけて振り返り、理解できないところは次回の講義で必ず質問をすること。また、期末試験に向け、10時間ほどは振り返り学習をすること。						
成績評価方法	毎回Moodleに提出するレポート(75%)、対面・持ち込み不可で実施する学期末試験(25%)により、総合的に評価する。						
授業内の課題・提出方法	毎回レジュメにノートをとり、写真に撮影してMoodleに提出する。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	Moodle上で課題に対するフィードバックを行う。						
担当者から一言	社会に出て役立つ経済の知識を獲得できる講義を目指す。						

授業科目名	政治学			科目コード	171403	授業コード	412201
担当教員	吉川　和挟			科目ナンバリング	GLAS1003		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の３分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	この授業では政治制度や政府の役割について扱い、政治関連科目受講のための基礎知識を獲得することを目的とします。 　誰もが「政治」という言葉を知っており、当たり前のように使っています。それほど私たちの生活と政治は不可分に結びついたものとなっていますが、一方で政治を身近に感じるという人は残念ながらあまり多くないでしょう。 　この講義では、可能な限り身近な例を参照しつつ、日ごろ目にする政治ニュースに少しでも関心を抱き、自分事として考えてもらうための手助けを行います。						
到達目標	・主に日本の政治制度についての基本的用語や知識を理解し、他の政治系科目を履修するための基礎知識を獲得する ・一人の市民として、各種媒体の政治ニュースについて理解できるようになる。						
授業計画	01.　ガイダンス/政治学とは 02.　政治のとらえ方 03.　国家という枠組み 04.　政治体制 05.　選挙と投票 06.　政党と政党システム 07.　政権とアカウンタビリティ 08.　執政・立法・司法 09.　政策過程と官僚制・利益団体 10.　連邦制と地方制度 11.　安全保障と平和 12.　国際政治経済 13.　国際社会と集団・個人 14.　シティズンシップ 15.　デモクラシー 定期試験						
テキスト・教材（参考文献含む）	テキストは使用せず、必要に応じて配布資料を準備します。 【参考文献】 ・砂川庸介、稗田健志、多湖淳「政治学の第一歩［新版］」有斐閣（2020） ・田村哲樹、松元雅和、乙部延剛、山崎望「ここから始める政治理論」有斐閣（2017）						
事前・事後学習	事前学習①：新聞やニュースに目を通し、政策・政治に関する問題を意識すること（毎日10分） 事前学習②：上記活動を通し、知らない単語・気になった話題などについて調べること（毎日5分） 事後学習①：レジュメ・ノートなどを見直し、不明点を整理、参考文献などで調べること（90分）						
成績評価方法	成績は以下の配分により評価します。 ・講義時に配布する小テスト/コメントシートの提出状況・授業態度：50% ・定期テスト（自筆ノートのみ持ち込み可）：50%						
授業内の課題・提出方法	講義後半に数問の小テスト/コメントシートを配布・実施し、講義終了時に回収します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	回収した小テスト/コメントシートに関しては、次回以降の講義開始時にフィードバックを行います。						
担当者から一言	他受講生の学習を阻害する行為は原則禁止とし、退室を命じることがあります。						

授業科目名	社会学			科目コード	171404	授業コード	411301
担当教員	三田　泰雅			科目ナンバリング	GLAS1004		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の３分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	この授業では社会学の基礎的な考え方を学びます。私たちは他者と関わり合って社会を作っています。一方で人間は社会によって作られる側面もあります。私たちはどのように社会を作り、そして社会に作られているのか。この両面を明らかにすることで社会の仕組みを考えてゆく授業です。						
到達目標	社会学的なものの見方や考え方を身につける						
授業計画	第１講　ガイダンス 第２講　規範と価値 第３講　自分とは何だろうか 第４講　スポーツから近代社会を考える 第５講　人は集団をつくる 第６講　家族とは何だろうか 第７講　ジェンダーのはたらき 第８講　格差と社会階層 第９講　なぜ学校に行くのか 第10講　都市を生きる 第11講　国家と国民社会 第12講　医療と健康 第13講　環境を考える 第14講　社会的排除 第15講　社会学の誕生						
テキスト・教材（参考文献含む）	＜参考文献＞ 出口剛司（2019）『大学4年間の社会学が10時間でざっと学べる』KADOKAWA.						
事前・事後学習	1日10分以上かけて新聞やニュースに目を通す						
成績評価方法	平常点45%，期末試験55%。 平常点は各回の授業の参加度とミニッツペーパーの内容で評価します。						
授業内の課題・提出方法	各授業内でミニッツペーパーを提出。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	ミニッツペーパーの質問等は次回以降の講義で適宜コメントします。						
担当者から一言	社会はどんなふうに動いているのか、私たちが生きているこの社会のしくみを一緒に考えてゆきましょう。						

授業科目名	ジェンダー論			科目コード	171405	授業コード	412702
担当教員	高田　晴美、三田　泰雅			科目ナンバリング	GLAS1005		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の３分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	ジェンダーの問題とは、性差別的な問題から、差別とまではいかないけれども理不尽に思う人が出てくるという問題まで、様々あります。それだけに、解決方法も、制度やルールを変えていけば解決しうるものから、意識変革をしていかないと無理なものまで様々。社会通念や慣習の中でのジェンダーが、個人としての生きにくさにつながっていることをまずは知り、意識してもらいたい。その上で、ではどうすればいいのかを考えていきましょう。授業は２名の教員（高田・三田）で実施します。						
到達目標	１　ジェンダーとは何か、基本概念が説明できる。 ２　社会の中にあるジェンダーに気づき、問題として意識することができる。 ３　性別ではなく、個人を基礎とする考え方に立って行動できる。						
授業計画	第１講　ガイダンス、ジェンダーバイアス（高田） 第２講　ネーミング問題（高田） 第３講　〈女らしさ〉の罠ー女はつらいよ（高田） 第４講　ハッピーエンドとプリンセス—ポストフォーディズムとジェンダー（三田） 第５講　家制度と選択的夫婦別姓問題（高田） 第６講　おばあさんは川へ洗濯に？—近代社会の性別役割分業（三田） 第７講　不払い労働、見えない家事問題（高田） 第８講　メディアにおけるジェンダー表現①—フィクション編（高田） 第９講　メディアにおけるジェンダー表現②—CM・広告編（高田） 第10講　＜男らしさ＞の罠—男もつらいよ—男性学の視点（三田） 第11講　続＜男らしさ＞の罠—男性性とホモソーシャルな関係（三田） 第12講　それでも僕であるために—弱者男性論（三田） 第13講　身体にまつわる問題（高田） 第14講　ジェンダーに関わるハラスメント（高田） 第15講　恋愛にまつわる〈女性学〉〈男性学〉（高田） 講義の順番は入れ替わる可能性があります。						
テキスト・教材（参考文献含む）	毎回講義時に、教員が作成する資料を配布します。						
事前・事後学習	（授業前）日頃からニュースなどに目を通しておく。（毎日20分程度） （授業後）学んだ内容を復習し、世の中の様々な場面に、授業で取り上げた問題にひっかかることがないか見つけ、考える。（40分）						
成績評価方法	毎回の小レポート　50% 定期試験　50%						
授業内の課題・提出方法	毎回の講義の終わりに、小レポート（コメント）を書いて提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小レポート（コメント）については、適宜、講義でコメントを返し、さらなる深化をはかります。						
担当者から一言	「女性学」「男性学」の視点を持った２人の教員が、それぞれの持ち味を生かして分担します。ジェンダーを多角的に学べるチャンスです。						

授業科目名	メディアリテラシー			科目コード	171406	授業コード	411306
担当教員	前川　督雄			科目ナンバリング	GLAS1006		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の３分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	メディアリテラシーとは社会に溢れる様々なメディアを読み解き、それぞれのメディアを介して伝えられる情報の背景や意味を評価できる能力を言う。そして、メディアを通じて適切にコミュニケーションをとることのできる能力でもある。 社会のなかでのメディアの有り様は、変革を続けている。今のメディア状況の概要を知るとともに、生まれ育った社会、世代、人生経験によって当たり前に思うことが互いに異なることに気づくこと、そして、メディアの向こうにある存在との付き合い方を考えることを手助けする授業となる。						
到達目標	現代社会に展開されている多様なメディアの特徴と危険性を知るとともに、自身が一個人として、社会人として責任あるメディア行動をとる見識を得る。						
授業計画	第１講　ガイダンス／メディアとは／メディアリテラシーとは 第２講　デジタルネイティブ 第３講　Society5.0／DX～フィンテック 第４講　国家・ネット起業が握る個人情報 第５講　メタバース／XR 第６講　メディアエコロジー 第７講　スマホ依存 第８講　特別講義（外部講師等） 第９講　AIとの付き合い方 第10講　レガシーメディアとの付き合い方 第11講　SNSでのふるまい 第12講　インターネットとマスメディア 第13講　音・光・身体 第14講　コミュニケーションの実質 第15講　まとめ （内容・順序を変更することがあります）						
テキスト・教材（参考文献含む）	テキストはありません。 必要に応じて資料を配布します。						
事前・事後学習	各自の1日の中で、スマホでネットを見たり新聞やテレビを視聴する時間がどれくらいあるかなど、メディアと接する行動を事前に把握しておいてください（90分）。毎回の講義の後での自分のメディア行動を振り返り、考えを深めてください（90分）。						
成績評価方法	定期試験を行いません。 受講態度、学習意欲、小レポートを総合して評価する。						
授業内の課題・提出方法	授業内に小レポートを課し、原則として教室で提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小レポートで示された重要な論点をその後の講義で採り上げます。						
担当者から一言	特になし。						

授業科目名	社会福祉概論			科目コード	171407	授業コード	411204
担当教員	李　修二			科目ナンバリング	GLAS1007		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の３分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	社会福祉とは、現代社会を生きる人々にとって無くてはならない事柄の一つと言えます。そうした社会福祉の理念や考え方を学び、さらに社会福祉の歴史、対象、制度について基本的な理解を得ることをねらいとした授業となります。授業の後半では、より具体的に、社会福祉の主要な分野での現状と今後の課題についても掘り下げて学ぶことをねらいとします。						
到達目標	社会福祉の理念や歴史などの学習を通じて、社会福祉についての正しく専門的な基礎知識を理解することを目標とします。						
授業計画	１．ガイダンス、社会福祉の理念 ２．社会福祉の歴史　イギリス(1) ３．社会福祉の歴史　イギリス(2) ４．社会福祉の歴史　イギリス(3)＜映画教材視聴＞ ５．社会福祉の歴史　アメリカ、ドイツ、スウェーデン、日本 ６．少子化・高齢化をめぐる日本と世界(1) ７．少子化・高齢化をめぐる日本と世界(2) ８．日本の社会保障をめぐる現状と国際比較(1) ９．日本の社会保障をめぐる現状と国際比較(2) １０．資本主義経済の歴史的変化と福祉国家 １１．これからの社会保障(1) １２．これからの社会保障(2) １３．医療への新たな視点(1) １５．医療への新たな視点(2) １５．持続可能な福祉社会に向けて 定期試験						
テキスト・教材（参考文献含む）	書き込み式の講義ノートを毎回プリントにして配布します。他にテキストは使用しません。 参考文献： 武川正吾『福祉社会（新版）』2011年、有斐閣 広井良典『人口減少社会のデザイン』2019年、東洋経済						
事前・事後学習	毎回の授業後、復習課題の小レポートを書いてもらい、次の授業回までに提出してもらいます。また、必ず前回分の講義ノートを復習して授業にのぞんでください。（復習、45分以上） さらに、毎週、参考文献、あるいは、新聞やウェブサイトなどでの社会福祉関係の記事など、授業内容に関連した資料から学習してください。（予習、45分以上）						
成績評価方法	毎授業ごとの小レポート課題で30%評価し、講義ノートを試験範囲とする学期末の試験で70%評価します。						
授業内の課題・提出方法	課題の小レポートは、Moodleを通じて提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題の小レポートの評価基準はガイダンス時に説明します。また小レポートやその他の質問等には、Moodleを通じて、評価結果や応答をフィードバックします。						
担当者から一言	社会福祉の考え方や知識は今日きわめて重要かつ有用なものとなっています。ぜひ関心を持って、しっかり学習してください。細かな知識を覚える必要はありません。意味や意義を少しでも深く理解するように学んでください。						

授業科目名	日本国憲法			科目コード	171408	授業コード	412202
担当教員	中西　紀夫			科目ナンバリング	GLAS1008		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の３分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	憲法は、国内法では最高法規であり、すべての法律の基本法であるといえます。したがって、憲法を基本に法律や命令が作られるため、日本の法秩序の維持につながっているのです。また、憲法に違反する国の行為は違憲となりますので、最近では、日本版NSC（国家安全保障会議）の創設が国民の知る権利への侵害にならないか、あるいは、集団的自衛権の解釈変更による安保関連法制定の問題などが議論されています。このように、憲法も新たな局面を迎えていますので、しっかりと認識を深めてもらいたいと思っております。						
到達目標	大学での一般教養課程で履修対象の社会科学系列科目の中に「憲法」が加えられているのは、すべての法律の基本法というだけでなく、将来どの方向に進むにせよ、立派な社会人として世の中に貢献していくのに重要な教養であると考えられているからです。したがって、各項目の内容把握だけでなく、できるだけ多くの規定を認識できるようになってもらいたいと考えています。						
授業計画	第１講　ガイダンス 第２講　憲法の機能 第３講　天皇と国民の関係 第４講　国民の三大義務 第５講　基本的人権とその種類 第６講　環境権（判例的考察） 第７講　憲法上の権利と義務 第８講　法の下の平等 第９講　絶対平和主義 第10講　国家機密と国民の知る権利 第11講　平等な投票にするための権利義務 第12講　行政救済 第13講　国際私法 第14講　憲法改正問題 第15講　まとめ 定期試験						
テキスト・教材（参考文献含む）	下記の著書のこの科目の部分を最新版に編集したものと、必要に応じて新聞などを印刷して配布します。なお、ほかに補足資料が必要な部分は、対応しますので安心してください。 参考文献：中西紀夫著『社会環境と法』嵯峨野書院（2010年11月30日）						
事前・事後学習	毎回、予習90分と復習90分はお願いします。内容は、教材を読むこと及び自筆ノートや確認問題のチェックなどです。また、発展的な学び方を希望される方は、自分に合った六法を購入しておくとよいでしょう。						
成績評価方法	成績は、次のような評点配分です。 受講態度　30%：授業中に行う小テストの出来や出席状況も含む。 定期試験　70%：試験は論述形式で、すべて持込可です。						
授業内の課題・提出方法	課題のある場合は、Moodleを使用する予定です。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業中に小テストを実施した場合は、５段階評価を付けて２週間以内に返却します。						
担当者から一言	授業中は私語厳禁とします。また、こちらの許可を得ない中座や勝手にスマホを見ることなども、もちろん禁止です。学生さんも体調等の問題や諸活動で、こちらも臨機応変な対応が必要となることもありますが、中座や退室は私の許可を取ってください。出席する以上は、集中して受講しましょう。						

授業科目名	法学			科目コード	171409	授業コード	415602
担当教員	中西　紀夫			科目ナンバリング	GLAS1009		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の３分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	法学の発達の歴史を通して、法律と人との関わりについて学びます。すなわち、「法とは何か」という素朴な疑問から講義を始めていく予定です。講義形式は法に慣れ親しんでもらうため、特に六法（憲法・民法・商法・民事訴訟法・刑法・刑事訴訟法）の由来あたりから説明し、これらの法律の概要を歴史的経緯を踏まえて、現代社会の様々な問題と照らし合わせながら講義します。もちろん、骨子や規定の理解のために、一方的な講義形式のみの形にならないように工夫をしていきます。						
到達目標	社会科学系の学部で「法学」が中心的な教養科目に位置付けられているのが多いのは、各方面の指導者養成等のための単位取得要請科目であるというだけでなく、みなさんの将来の生活の糧となる学問であるということではないかと思いますので、その視点に立って講義を進めていきたいと考えています。最終的な到達目標としては、常に法律的な視点に立って物事を見れるようになることを目指します。						
授業計画	第１講　ガイダンス 第２講　六法の意味、社会規範 第３講　実定法と自然法、法源 第４講　制定法の体系、法の形式による分類 第５講　法の種別（国内法）、国内法と国際法 第６講　公法と私法、裁判による権利の実現 第７講　法の適用、法解釈における問題点 第８講　権利と義務、権利義務の主体と客体 第９講　罪刑法定主義 第10講　法と裁判（裁判の仕組み） 第11講　民事裁判、刑事裁判、行政裁判 第12講　司法権の独立と公開主義 第13講　自由心証主義、今日までの裁判の課題 第14講　裁判員制度とその課題 第15講　まとめ 定期試験						
テキスト・教材（参考文献含む）	下記の著書のこの科目の部分を最新版に編集したものと、必要に応じて新聞などを印刷して配布します。なお、ほかに補足資料が必要な部分は、対応しますので安心してください。 参考文献：中西紀夫著『社会環境と法』嵯峨野書院（2010年11月30日）						
事前・事後学習	毎回、予習90分と復習90分はお願いします。内容は、教材を読むこと及び自筆ノートや確認問題のチェックなどです。また、発展的な学び方を希望される方は、自分に合った六法を購入しておくとよいでしょう。						
成績評価方法	成績は、次のような評点配分です。 受講態度　30%：授業中に行う小テストの出来や出席状況も含む。 定期試験　70%：試験は論述形式で、すべて持込可です。						
授業内の課題・提出方法	課題のある場合は、Moodleを使用する予定です。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業中に小テストを実施した場合は、５段階評価を付けて２週間以内に返却します。						
担当者から一言	授業中は私語厳禁とします。また、こちらの許可を得ない中座や勝手にスマホを見ることなども、もちろん禁止です。学生さんも体調等の問題や諸活動で、こちらも臨機応変な対応が必要になることもありますが、中座や退室は私の許可を取ってください。出席する以上は、集中して受講しましょう。						

授業科目名	民法入門			科目コード	171410	授業コード	113801
担当教員	土志田　佳枝			科目ナンバリング	GLAS1010		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の３分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	この講義は、実際に新聞やテレビなどで報道された事件や問題、身近な紛争（トラブル）を取り上げ、解決方法を考察しながら、民法の全体像を理解していくことを目的とします。新聞を下宿で購読していなくとも、テレビを持っていなくとも、今ではインターネットやSNSを通じて世界中のニュースを日本語で読めるようになりました。普段から、パソコンや携帯電話のアプリを通じて、様々な話題に興味を持って接してください。						
到達目標	新聞やテレビの報道で接した事件や問題、紛争を解決するために、民法からどのような妥当な結論を引き出せるだろうか考え、さらに解決方法を自らの筆で文章にまとめることを到達目標としたいと思います。したがって、授業には筆記用具を持参してください。なお、法令についてはオンラインで最新の条文に触れるようにしてください（e-gov法令検索「民法」「民事訴訟法」「家事事件手続法」「法の適用に関する通則法」など）。						
授業計画	予習には教科書の指示した範囲を通読します。復習には授業で学習した条文や用語を確認して定着を図ります。 1民法と民法典（予習90分：第1章）（復習90分） 2権利と義務（予習90分：第2章の1）（復習90分） 3契約1債権・債務（予習90分：第2章の2）（復習90分） 4契約2未成年（予習90分：第3章）（復習90分） 5後見（予習90分：第4章）（復習90分） 6所有権と占有（予習90分：第5章）（復習90分） 7時効（予習90分：第6章1消滅時効）（復習90分） 8不法行為と不当利得（予習90分：第6章2法定利率）（復習90分） 9事務管理（予習90分：第6章3約款）（復習90分） 10婚姻（予習90分：第6章4サービス契約）（復習90分） 11離婚（予習90分：第6章5自然災害と契約法）（復習90分） 12親子関係（予習90分：第7章）（復習90分） 13養子縁組（予習90分：おわりに）（復習90分） 14相続（予習90分：相続法改正資料）（復習90分） 15講義のまとめ（予習90分：これまでの復習）（復習90分）						
テキスト・教材（参考文献含む）	参考文献：　内田貴『民法改正—契約のルールが百年ぶりに変わる』（筑摩書店・2011）ISBN 978-448006634 参考文献は新書と電子書籍で入手可能ですが、必ずしも購入の必要はありません。グローバル化の影響は皆さんの学ぶ民法にも及んでいます。近年の法改正にあわせて、わかりやすい本が次々出版されています。ぜひ図書館で手に取ってみてください（大学図書館の図書を探す https://ci.nii.ac.jp/books/ ）。						
事前・事後学習	予習には教科書の指示した範囲を通読します（90分）。復習には授業で学習した条文や用語を確認して定着を図ります（90分）。詳細は授業計画を参照してください。						
成績評価方法	定期期末試験（50%）と平常点（50%：授業内外で実施する小テストやレポート提出などの課題）で評価します。詳細は授業担当者より初回授業時に説明します。						
授業内の課題・提出方法	課題は教室で受け取る予定です。提出日や書式などについては教室で案内します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	定期期末試験（50%）と平常点（50%：授業内外で実施する小テストやレポート提出などの課題）で評価します。詳細は授業担当者より初回授業時に説明します。						
担当者から一言	講義の内容に関する質問は、教室で受け付けています。そのほか、授業時間外学習を支援する目的で、不明な点があれば授業時間外でも回答ができるよう、メール等の手段により質問を受け付ける予定でいます。						

授業科目名	倫理学			科目コード	171501	授業コード	413806
担当教員	フェリペ　フェハーリ			科目ナンバリング	GLAH1001		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の３分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	アリストテレスは『政治学』において、「人間は社会的な動物である」と述べました。それは人間が共存し、他の動物には見られない協力することができると意味です。本講義の目的が社会学の根本的な問題を学び、現代社会の問題を分析することです。						
到達目標	主な社会学者の思想を学びながら、現代社会の特色を多面的・多角的に捉えます。						
授業計画	第１講　ガイダンス・社会学とは何か 第２講　社会学の目標 第３講　古代におけるポリス 第４講　国家の誕生 第５講　社会契約論 第６講　コントにおける社会学 第７講　唯物弁証法 第８講　階級闘争 第９講　イデオロギーの時代 第10講　冷戦と歴史の終わり 第11講　新自由主義とメリトクラシー 第12講　現代社会学の問題 ① 第13講　現代社会学の問題 ② 第14講　社会学の将来 第15講　まとめ						
テキスト・教材（参考文献含む）	毎回、教員が資料を配布する。						
事前・事後学習	毎回の講義で配布した資料をしっかり読んで（毎週約180分）、不明な点があれば、次の授業でミニレポート用紙に書いてください。						
成績評価方法	受講態度：30% ミニレポート：20% 最終レポート：50%						
授業内の課題・提出方法	授業で小レポートを提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	学生自身が記入したミニレポートを講義中にコメントします。						
担当者から一言	社会的動物として、授業で協力し社会思想史を勉強しましょう。						

授業科目名	哲学			科目コード	171502	授業コード	413401
担当教員	フェリペ　フェハーリ			科目ナンバリング	GLAH1002		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の３分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	哲学においては、過去・現代を問わず、同じ問題が異なった形で出て来ている。本講義の目的は、古代ギリシャ以降2500年以上にもおよぶ哲学（philosophia）の根本的な問題を様々な哲学者の立場から明らかにすることである。 また、本講義では哲学の立場から現在社会の問題を考え、自らの力で「哲学は何のためにあるのか」という問いの答えを探す。						
到達目標	現代社会の問題を考えながら、哲学の伝統的な問題について議論すること。						
授業計画	第１講　ガイダンス・「哲学」とは何か 第２講　哲学の起源 第３講　哲学の三つの伝統 第４講　西洋と東洋 第５講　無知の知 第６講　洞窟の比喩 第７講　現実とは何か 第８講　ファルサファ 第９講　中世哲学 第10講　理性主義 第11講　近代哲学 第12講　超越とは何か 第13講　懐疑的解釈学 第14講　現代哲学 第15講　まとめ						
テキスト・教材（参考文献含む）	毎回、教員が資料を配布する。						
事前・事後学習	毎回の講義で配布した資料をしっかり読んで（毎週約90分）、不明な点があれば、次の授業でミニレポート用紙に書いてください。						
成績評価方法	受講態度：30% ミニレポート：20% 最終レポート：50%						
授業内の課題・提出方法	授業で小レポートを提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	学生自身が記入したミニレポートを講義中にコメントします。						
担当者から一言	本当の知識は無知から生まれます。これは2400年以上前のソクラテスの考えです。世界を理解するには、私たちも同じように、まずは自分の心の中にある偏見や差別などをすべて捨て、絶対的な信頼さえも疑わなければなりません。						

授業科目名	文学			科目コード	171503	授業コード	411405
担当教員	永井　博			科目ナンバリング	GLAH1003		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の３分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	この講義では、近代日本、あるいは現代世界の反戦文学・反戦思想を取り上げる。安倍内閣による、いわゆる安全保障関連法案の参議院での可決・成立は2015年９月19日のことだった。日本はより戦争をしやすい国になっているのであり、平和憲法の理念が揺らいでいるのだ。そしてロシアのウクライナ侵攻は2022年２月のことだった。このような現代の状況の中で、近代日本、あるいは19世紀から20世紀の世界で唱えられた反戦文学・反戦思想を振り返ることで平和を構築する道について考えてみたい。						
到達目標	近代の貴重な精神的遺産である反戦文学・反戦思想をともに読むことで、平和な世界をいかに実現していくかについての考え方を学ぶことが目標である。						
授業計画	第１回　ガイダンス 第２回　日露戦争概説 第３回　与謝野晶子「君死にたもうことなかれ」 第４回　陸羯南、主戦七博士の日露戦争主戦論 第５回　トルストイ「汝悔い改めよ」 第６回　幸徳秋水「戦争来」 第７回　内村鑑三の日露戦争非戦論 第８回　前半のまとめと復習（グループワーク） 第９回　ヴェトナム戦争概説 第10回　ボブ・ディラン「風に吹かれて」 第11回　武満徹・谷川俊太郎「死んだ男の残したものは」 第12回　日本国憲法第９条 第13回　加藤周一ほか「９条の会」 第14回　核戦争と「文学者の反核声明」 第15回　全体のまとめと復習（グループワーク） 定期試験						
テキスト・教材（参考文献含む）	プリントなどの資料を配布する。						
事前・事後学習	普段から新聞やテレビやインターネットなどで、日本、アジア、そして世界の現在の戦争に関する報道に接しておくこと。講義では明治から昭和までの反戦文学・反戦思想を取り上げるが、常に現代の状況にも注意を払う必要があるからである。（90分） 　また、講義で取り上げる与謝野晶子や内村鑑三などのテクストは、それぞれのテクストの原文の一部であることも多い。図書館などで簡単に読むことができるのでその全部を自分で読むこと。（90分）						
成績評価方法	受講態度50%、定期試験50%を目安に総合的に判断する。提出物は評価を付けたうえで翌週以降の講義で返却する。						
授業内の課題・提出方法	ほぼ各回の終わりに講義の内容のまとめと、それに関する意見、質問などを簡単に書いて提出してもらう。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出されたミニ・レポートは、総評的なコメントとともに点数をつけて翌週に返却する。						
担当者から一言	この講義のテーマは反戦文学・反戦思想であり、取り上げる題材は主として日本の近代文学・現代文学である。しかし「日本」にも「文学」にもこだわるつもりはない。「外国」や「音楽などの文学以外のいろいろな表現」も取り上げるつもりである。						

授業科目名	文章表現論			科目コード	171504	授業コード	414606
担当教員	永井　博			科目ナンバリング	GLAH1004		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の３分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	日本語に限らず、ことばについて学ぶということは、それによって生きる人間についての理解を深めるということである。それは単に文法や単語を覚えたりするだけのものではなく、ことばで生きている人間のものの考え方や感じ方を学ぶとこである。私たちが日本語を学ぶ時も、日本語で考え、感じ、生きている人たちのものの考え方や感じ方を学ぶのである。このような理解に立って受講者全員で「文章」による「表現」の技術を磨きたい。なお、この永井のクラスは留学生を対象とし、添削指導の都合上、人数制限をすることがある。						
到達目標	ことばについてさまざまな視点から理解を深めつつ、文章を書くことで自分の考えや感じ方をいかに人に伝えるか、そのトレーニングをし、文章を書く力をつけることを目標にしたい。						
授業計画	第１回　ガイダンス 第２回　原稿用紙の使い方① 第３回　原稿用紙の使い方②（実習） 第４回　推敲のしかた① 第５回　推敲のしかた②（実習） 第６回　テーマの決め方 第７回　資料の探し方① 第８回　資料の探し方②（実習） 第９回　論理的文章の書き方① 第１０回　論理的文章の書き方②（実習） 第１１回　文章作成の実際①（実習） 第１２回　文章作成の実際②（実習） 第１３回　文章作成の実際③（実習） 第１４回　文章作成の実際④（実習） 第１５回　文章作成の実際⑤（実習） 定期試験						
テキスト・教材（参考文献含む）	プリントなどの資料を配布する。						
事前・事後学習	予習としては、漢字の小テストに備えてテスト範囲の漢字を練習しておくこと。（90分） 復習としては、教員の添削を経て返却された作文の課題について、訂正された箇所の正しい書き方を自分で振り返っておくこと。（90分） また、文章の書き方についての本はたくさん市販されているので、自分でいくつか読んでみること。						
成績評価方法	漢字小テスト30%、定期試験50%、提出物20%を目安に総合的に判断する。提出物は添削して翌週以降の講義で返却する。						
授業内の課題・提出方法	毎回作文を書いて時間の終わりに提出してもらう。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出された作文は添削して翌週以降の講義で返却する。						
担当者から一言	ドリルや小テスト、説明文の書き方を練習したものなど、ほぼ毎回提出物を出してもらうので、積極的に出席すること。教室に来て、自分なりに考え、文章を書く練習をすれば得るものはきっとある。						

授業科目名	文章表現論			科目コード	171504	授業コード	412204
担当教員	杉谷　克芳			科目ナンバリング	GLAH1004		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の３分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	日本語の正しい文章表現力を身につけることは、大学生のみならず、社会人にとっても欠かすことのできない必須項目の一つです。そして、それは、自分自身の大きな財産になります。 日本語という言葉の特徴を客観的に捉え直し、日本語の文章表現力に更なる磨きをかけることを、この授業のねらいとします。 なお、この授業は留学生以外の者を対象とし、添削指導の都合上人数制限をすることがあります。						
到達目標	この授業では、大学生に相応しいレベルで自分の考えを論理的に組み立て、それを正しく文章化することができるようになることを、到達目標とします。						
授業計画	第１講：ガイダンス 第２講：言葉と表現を知ろう、その１（同音異義語、同訓異義語） 第３講：　〃　その２（同音異義語、同訓異義語） 第４講：　〃　その３（四字熟語） 第５講：　〃　その４（慣用表現、ことわざ、故事成語） 第６講：　〃　その５（慣用表現、ことわざ、故事成語） 第７講：日本語の作文技術 その１ 第８講：　〃　その２ 第９講：　〃　その３ 第10講：書いてみよう、その１ 第11講：書いてみよう、その２ 第12講：　〃　その３ 第13講：　〃　その４ 第14講：　〃　その５ 第15講：まとめ ＊授業内容と進度は、場合によって変更することがあります。						
テキスト・教材（参考文献含む）	適宜プリント教材を配付します。 ①米田明美ほか『大学生のための日本語表現実践ノート（改訂版）』（風間書房、1000円＋税） ②本多勝一『日本語の作文技術』 (朝日文庫) 660円						
事前・事後学習	予習としてテキストを読み次回の学習内容を理解しておくこと（90分）。また、授業後には復習として学習した内容をしっかり確認しておくこと（90分）。						
成績評価方法	講義内の小テスト50%、提出物（小論文）50%を目安に総合的に判断する（定期試験は行わない）。						
授業内の課題・提出方法	小論文を遅れずに提出すること。提出場所はMoodleの所定のフォルダです。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出物は添削して翌週以降の講義で返却する。						
担当者から一言	日本語の表現能力を向上させるための授業です。日本語の表現力を向上させるためには、普段から日本語文を読むこと、考えを文章化すること、さらに、様々な分野の語彙と多様な表現を増やす努力が不可欠です。私語、中座、携帯の使用は原則禁止とします。授業内での意欲的な取り組みを期待しています。						

授業科目名	文化論			科目コード	171505	授業コード	415603
担当教員	富田　与、三田　泰雅、高田　晴美、永井　博			科目ナンバリング	GLAH1005		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	専攻必修
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の３分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	私たちの日常空間のほとんどは、誰かが何かを表現した表象で構成されています。この講義では、4人の担当教員がそれぞれの専門と関心から、図像（絵画、写真）、テクスト（小説、談話）そしてその組みあわせであるマンガ、アニメ、映画などを材料に、表象読解の理論（イコノロジー、記号論、ジェンダー論、フェミニズム論、テクスト理論など）と実践を紹介します。						
到達目標	表象文化の考え方を踏まえながら、言語や図像による表現を読み解く能力を身に付ける。						
授業計画	第1講：表象文化とは　富田 第2講：表象の考え方　富田 第3講：「病のアレゴリー」「病」を巡る表象（1）富田 第4講：「厄払い」「病」を巡る表象（2）富田 第5講：「〈病〉を〈業〉として機能させる物語」「病」を巡る表象（3）高田 第6講：「〈メンヘラ〉を芸術に昇華する」「病」を巡る表象（4）高田 第7講：「病んでいるのは誰か」「病」を巡る表象（5）三田 第8講：「街路の表象　バンクシーを中心に」「病」と「戦争」を巡る表象　富田 第9講：「戦いの性別役割分業」「戦争」を巡る表象（1）三田 第10講：「男性性の檻」「戦争」を巡る表象（2）三田 第11講：「女性が戦争を語るということ」「戦争」を巡る表象（3）高田 第12講：テクスト理論の基礎　永井 第13講：「捕虜の表象その１」「戦争」を巡る表象（4）永井 第14講：「捕虜の表象その2」「戦争」を巡る表象（5）永井 第15講：「「井上哲次郎の捕虜言説」」「戦争」を巡る表象（6）永井						
テキスト・教材（参考文献含む）	テキストは特に指定しません。						
事前・事後学習	授業中に出された課題を作成してください（180分）。						
成績評価方法	授業内の課題（30%）と最終レポート（70%）で評価します。						
授業内の課題・提出方法	授業内の課題はmoodleに提出してください。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	必用に応じて授業の中でコメントします。						
担当者から一言	講義に参加しながら教員が気づいていない事を見つけてください。そして新しい見方を提案してみてください。表象文化を一緒に楽しんでみましょう。						

授業科目名	教育学			科目コード	171506	授業コード	411604
担当教員	長谷川　誠			科目ナンバリング	GLAH1006		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の３分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	教育学概論は、教育が抱える社会的な課題や、社会変化に伴うさまざまな教育問題について検討することを目的とします。例えば、いじめや発達障害、不登校、若者の就労問題等、幼児、児童期から青年期にかけて生じる諸問題に対する教育的な支援や指導の在り方について考えていきます。そして、学校と家庭、地域等、教育を取りまく社会について、その相互メカニズムを理解しながら、学校教育に対する社会的期待や批判等について客観的に考えられるようになることを目指します。						
到達目標	教育を取り巻く諸問題を整理し、社会における教育の在り方への興味をより具体的なものとして意識し、議論できることを目指していきます。教育と社会の関わりについて学ぶことを通して、社会の変化が学校教育に与える影響を理解し、それによって生じる様々な教育課題を社会学的に考察することで、現象を客観的に捉える力を養います。						
授業計画	第１講：教育とは何か 第２講：教育と社会 第３講：学歴社会の成立と変貌 第４講：日本の教育政策の動向−諸外国との比較から− 第５講：教育をめぐる格差問題 第６講：いじめ問題 第７講：不登校の課題と対応 第８講：特別な支援を必要とする子どもへの対応 第９講：懲戒と体罰 第10講：情報社会と教育 第11講：グローバル化と教育 第12講：リスク社会の進展と教育 第13講：若年層就労問題① 第14講：若年層就労問題② 第15講：まとめ						
テキスト・教材（参考文献含む）	テキストはありません。適宜プリントを配布します。 参考文献：原 清治、山内 乾史（2019）『新しい教職教育講座　教職教育編③　教育社会学』ミネルヴァ書房　2，200円						
事前・事後学習	・教育に関するトピックスに日常から関心を持ち、関連文献や行政資料の下調べを通して理解を深めておくこと（学習時間：90分）。 ・授業内容をふまえ学生同士でディスカッションを行い自身の意見をまとめておくこと（学習時間：90分）。						
成績評価方法	・課題試験60%（授業で扱った教育課題に対する理解度、教育の在り方に対する自らの興味・関心の明確性・具体性） ・平常点40%（リアクションペーパーの内容についてのコメント、質問の記述の的確性）						
授業内の課題・提出方法	課題：授業内で実施するリアクションペーパー						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	翌週の授業にて適宜コメントします						
担当者から一言	積極的な授業への参加を期待しています。 現代の教育課題について一緒に考えていきましょう。						

授業科目名	日本史概論			科目コード	171507	授業コード	415304
担当教員	浅井　雅			科目ナンバリング	GLAH1007		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の３分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	歴史的事項を文化・思想などを中心として様々な面から捉え、その実態にアプローチし、当該時代の特質を理解するとともに、未知なる社会に挑んできた先人たちの知恵を追体験することにより、新たな見方を提供したい。						
到達目標	1．歴史を様々な側面から見ることで、新たな見識を得、未知なる社会への想像力を育み、視野を広げることができる。 2．「常識」を疑い、自分の力で物事を考え、根拠をもって議論する力を持つことができるようになる。 3．歴史と文化・思想の繋がりを理解することができる。						
授業計画	1．ガイダンス 2．時代区分等歴史の基礎知識 3．考古 4．古代（1） 5．古代（2） 6．中世（1） 7．中世（2） 8．中世（3） 9．近世（1） 10．近世（2） 11．近世（3） 12．近世（4） 13．近代（1） 14．近代（2） 15．まとめ 期末レポート						
テキスト・教材（参考文献含む）	毎回、プリントを電子あるいは紙で配布する。 参考文献は授業内で提示するが、歴史の教科書等があれば持参のこと。						
事前・事後学習	毎回の授業後に小レポート（コメントペーパー）を提出してもらう。次回の授業までに前回の内容については復習し、不明点を残さないこと。（60分～90分）						
成績評価方法	毎回の授業後に提出してもらう小レポート（コメントペーパー）＝45% 期末レポート＝55% なお、2/3以上の出席がない場合は採点の対象外とする。（病欠・公欠等は、別途相談のこと。）						
授業内の課題・提出方法	コメントペーパーに関しては、MoodleにGoogleフォームのリンク先を毎回上げる。 期末レポートもMoodle内に提出先を設けるので、期限内に電子データで提出とのこと。 課題・書式・締切の詳細は授業内で発表する。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出してもらった小レポート（コメントペーパー）はすべて目を通し、全体で共有すべきことがあれば次回の授業の最初にフィードバックする時間を設ける。						
担当者から一言	授業内容・計画は時事的状況や受講生の興味・関心等で変更する場合がある。 授業中に受講にふさわしくない態度・行為（携帯・メールなども含む）をとった者は退室させるので、あらかじめ了解しておくこと。						

授業科目名	世界史概論			科目コード	171508	授業コード	412602
担当教員	浅井　雅			科目ナンバリング	GLAH1008		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の３分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	歴史を単なる為政者の歴史としてとらえるのではなく、様々な側面からとらえ、その実態にアプローチし、当該時代の特質を理解するとともに新たな見方を発見していく。						
到達目標	歴史を暗記科目としてとらえるのではなく、そこにある因果関係や影響を考察し、さらには先人たちの営みや知恵を感じ取ること。また、それらを我々の生活に活かしていくことが最終目標である。						
授業計画	1．ガイダンス、歴史の基礎知識等 2．政治・行政の概要 3．戦前の政治・行政（1） 4．戦前の政治・行政（2） 5．戦前の政治・行政（3） 6．戦後の政治・行政（1） 7．戦後の政治・行政（2） 8．戦後の政治・行政（3） 9．産業・経済（1） 10．産業・経済（2） 11．産業・経済（3） 12．社会・文化（1） 13．社会・文化（2） 14．社会・文化（3） 15．まとめ 期末レポート						
テキスト・教材（参考文献含む）	毎回、プリントを電子あるいは紙で配布する。 参考文献は授業内で提示するが、歴史の教科書等があれば持参のこと。						
事前・事後学習	毎回の授業後に小レポート（コメントペーパー）を提出してもらう。次回の授業までに前回の内容については復習し、不明点を残さないこと。（60分～90分）						
成績評価方法	毎回の授業後に提出してもらう小レポート（コメントペーパー）＝45% 期末レポート＝55% なお、2/3以上の出席がない場合は採点の対象外とする。（病欠・公欠等は、別途相談のこと。）						
授業内の課題・提出方法	コメントペーパーに関しては、MoodleにGoogleフォームのリンク先を毎回上げる。 期末レポートもMoodle内に提出先を設けるので、期限内に電子データで提出とのこと。 課題・書式・締切の詳細は授業内で発表する。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出してもらった小レポート（コメントペーパー）はすべて目を通し、全体で共有すべきことがあれば次回の授業の最初にフィードバックする時間を設ける。						
担当者から一言	授業内容・計画は時事的状況や受講生の興味・関心等で変更する場合がある。 授業中に受講にふさわしくない態度・行為（携帯・メールなども含む）をとった者は退室させるので、あらかじめ了解しておくこと。						

授業科目名	科学的思考論			科目コード	171601	授業コード	412403
担当教員	吉山　青翔			科目ナンバリング	GLAN1001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の３分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	本講義は，近代西欧科学思想史を中心として、古代から近代までの科学史の通史の探求を通じて，自然科学的な思考方法を展開します。						
到達目標	自然科学の全体的な姿を歴史的に把握する。 科学技術と人間社会との関係や、近代社会にもたらす諸問題に関する思考，解決に導くための思想的な理論基礎を築くことができる。						
授業計画	第１講　ガイダンス 第２講　古代オリエント科学の概観 第３講　古代ギリシア科学の概観 第４講　アリストテレスの自然学 第５講　中世の科学と近代大学の誕生 第６講　近代科学の開始：コペルニクスの地動説の成立 第７講　地動説をめぐって科学と宗教の闘争：ガリレオ裁判 第８講　万有引力法則の発見と近代力学の成立 第９講　理髪師から近代解剖学へ 第10講　血液循環説の確立と近代医学の成立 第11講　酸素の発見と近代化学の成立 第12講　進化論の確立と近代生物学の成立 第13講　蒸気エネルギーの発見と産業革命、そして、近代環境問題の発生 第14講　女性の自然科学領域への進出と環境科学の誕生 第15講　総括 定期試験						
テキスト・教材（参考文献含む）	テキスト　とくになし。授業の内容に合わせて参考資料を指定・配布します。						
事前・事後学習	授業前に１時間半ほどをかけて指定された資料を読み、予習しておき、授業後にも１時間ほど授業の内容を確認してください。						
成績評価方法	中間テスト（30点）・期末定期試験（70点）により総合評価。						
授業内の課題・提出方法	授業の内容に関連するミニレポートを提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出してもらったレポートを、次回の授業で講評します。						
担当者から一言	１）本講義は一般教養科目ですので、公務員試験などの資格試験に直接役に立ちません。 ２）授業中、板書の量が多くて、ノートを取らない者は本講義に不向きであります。						

授業科目名	自然科学概論			科目コード	171603	授業コード	413402
担当教員	田中　伊知郎			科目ナンバリング	GLAN1003		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の３分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	個人を扱うのが文学で、ムラの人々のような集団を議論するのが社会学や文化人類学ですが、さらに大きな集合的な見方をするのが自然科学です。それは人間だけでなく、物質やその関係などの自然現象全体に広がります。そして、経済活動でも同じ動きが見られます。それらはどのように変化するかを説明します。						
到達目標	文学のように個人を扱うのでなく、集団としての見方を獲得します。さらに、たし算や掛け算などと違う自然の変化の仕方を見通す能力を身につけます。						
授業計画	第１講　ガイダンス：自然観察の有益性 第２講　自然現象と人間の思いの違い 第３講　事実 第４講　仲間(人間社会)から自然へ 第５講　個別でなく集団で考える：集合(分類からの実習) 第６講　自然数から連続量へ 第７講　指数の導入：細菌の増殖 第８講　桁数と指数(計算実習) 第９講　日常の指数: 複利と物価(計算実習) 第10講　借金と情報の非対称性(ローン計算実習) 第11講　客観的な関係である関数：一次関数と予測可能性の実習 第12講　指数関数：立ち上がりの早さ(グラフ作成実習) 第13講　ゆらぎ 第14講　統計的比較と有意確率) 第15講　まとめ：自然科学の客観性 定期試験　持ち込み不可						
テキスト・教材（参考文献含む）	なし						
事前・事後学習	授業当日に講義内容のノートを見返して、メモした疑問点を調べてください(60分)。2・3日後に、ノートを再度読んで (30分)、その次に当たることを考えてください (30分)。講義の前日に、ノートを読み返して、ノートの空白に書き込み整理してください(60分)。						
成績評価方法	講義内各回の終わりに練習問題(実習：実践課題)をやります。講義中の課題は、コメントをつけて、合格するまでやり直してもらいます。 実践課題60%　定期試験　40%						
授業内の課題・提出方法	授業内容を理解したかを測る課題を授業末に出し、すぐにはできないので、1週間以内にメールなどで教員に送ってもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	送られた課題に対する回答を採点し、単に評価だけでなく、理解できていないところを指摘して、ノートを見直して、再学習してもらい、再提出します。						
担当者から一言	できるだけ日常的な言葉で説明します。実践課題の結果、理解の浅いところは、講義を修正して再度行い、より深い理解に努力します。						

授業科目名	数学概論			科目コード	171604	授業コード	412203
担当教員	金岩　稔			科目ナンバリング	GLAN1004		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の３分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	高度な数学を学ぶための基礎力を養う講義です。 特に数学的な考え方を理解することに重点をおく。						
到達目標	（１）数学的な物の考え方ができるようになる。 （２）基礎的な数学を理解する。						
授業計画	１ ガイダンス ２ 分離量と連続量 ３ 正と負 ４ 代数 ５ 図形 ６ 円 ７ 複素数 ８ 合同式 ９ 関数 10 極限 11 回転 12 微分 13 積分 14 微分方程式 15 まとめと確認課題						
テキスト・教材（参考文献含む）	配布資料						
事前・事後学習	予習：講義の予定内容を高校までの教科書で予習する。 復習：講義中に行った演習を各自で完答できるようにする。						
成績評価方法	出席（50%）最終課題（50%）						
授業内の課題・提出方法	講義時間中に回収						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	事務を通して返却						
担当者から一言	数学の考え方を理解すると、数学に対する苦手意識がやわらぐと思います。なるべく式を使わないでわかりやすい講義を目指します。						

授業科目名	化学概論			科目コード	171605	授業コード	411302
担当教員	牧田　直子			科目ナンバリング	GLAN1005		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の３分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	高校で化学を学んでいない、もしくは文系の学生向けの化学の授業ではあるが、高校では論理的な説明が成されず暗記科目になりがちな部分を大学の化学で補うことで、化学の考え方を学ぶ。化学は物質を扱う学問であり、「化学の目＝物質を見る目」を養うことがこの授業のねらいである。身の回りも自分自身も物質でできており、それらを学ぶ化学は実生活に役立つ実学である。健康で快適な生活のため、持続可能な社会の実現のために何を選ぶのか。物質面からの道標が化学であり、ぜひ学んでもらいたい。						
到達目標	「元素の周期表から的確な情報を引き出す」 「化学の目＝物質を見る目」を養うためには、元素の周期表の学習は欠かせない。物質は元素で構成されており、元素の一覧表である周期表から非常に多くの情報を読み取ることができる。物質の構成元素わかれば、その物質の性質を予測する手がかりになる。周期表を使いこなせるようになろう。						
授業計画	第1講　ガイダンス、化学の学び方 第2講　物質とは何か 第3講　身の回りの物質 第4講　物質の性質 第5講　物質の状態 第6講　原子と電子軌道 第7講　電子配置と周期表 第8講　化学結合１ 第9講　化学結合2、物質量 第10講　気体と溶液の性質 第11講　化学反応 第12講　酸と塩基 第13講　酸化と還元 第14講　光 第15講　まとめ 定期試験						
テキスト・教材（参考文献含む）	教科書： 日本化学会 化学教育協議会「グループ・化学の本21」編「『化学』入門編 — 身近な現象・物質から学ぶ化学のしくみ」化学同人（2007）、2160円（税込）						
事前・事後学習	化学は積み上げ科目であり、土台（先に学習したこと）が大事になる。教科書をよく読み、わからないままにしないことが重要である。 (1) 予習・復習のために宿題プリントを配るので、解答する（90分）。 (2) 教科書を読む（60分）。各回の講義に該当する教科書のページ数を記載した講義計画を初回の授業で配布する。予習のポイントは宿題プリントに記載する。 (3) ノートの見直し、まとめ（30分）。 関連科目（環境情報学部）は「環境化学」、「自然調査法」、「環境基礎実験」など。特に環境情報学部の学生は、「環境化学」の前にこの科目を履修することが望ましい。						
成績評価方法	宿題プリント（13回分）：25%、定期試験：75%						
授業内の課題・提出方法	(1) 演習プリント：その日の授業の理解度と出席を確認することが目的であり、毎回授業中に取り組む。 提出方法−授業終了後に教室で提出する。 (2) 宿題プリント：授業の復習と次回の予習を含めた内容で第2講から13回分課す。 提出方法−翌週の授業開始後10分以内に教室で提出する。遅れたものは受け取らない。欠席・遅刻の予定がある者は前日までに提出すればよい。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出された演習プリントと宿題プリントは、翌週の授業で返却する。 宿題の評価は正解率ではなく、解答率（問題数に対する解答数）に準じて採点し、プリントに明記する。						
担当者から一言	講義で分からなかったことは聞きましょう。授業後の質問、プリントの事前提出・受取は6号館4階6412室へ。						

授業科目名	地学概論			科目コード	171606	授業コード	411101
担当教員	森　康則			科目ナンバリング	GLAN1006		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の３分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	環境問題を考えるための土台となる地学の基礎的事項を、地震や火山といった自然災害など、実際の地学的事象を交えながら、学びます。						
到達目標	地球の成り立ちや、その構造を理解するとともに、それらを構成する岩石の特徴や、地震や火山などの活動に伴う地層の成り立ちなど、あらゆる地学的自然現象を網羅的に理解します。						
授業計画	第１講　ガイダンス・地学とは 第２講　地球の構造と形状 第３講　岩石と鉱物１ 第４講　岩石と鉱物２ 第５講　化石 第６講　地質年代１ 第７講　地質年代２ 第８講　堆積作用 第９講　プレートテクトニクス 第10講　地震 第11講　火山 第12講　自然災害１ 第13講　自然災害２ 第14講　地下水 第15講　まとめ						
テキスト・教材（参考文献含む）	なし。						
事前・事後学習	講義前に次回の講義内容を確認し、その講義内容に関する予習を行い（90分）、講義終了後は、講義資料をもとに内容を復習してください（90分）。各講義の小テストや定期試験は、講義内容あるいはそれに関連する内容から出題します。						
成績評価方法	（１）各回の講義後の小テスト ５点×１５回＝７５点 （遅刻、早退は減点の対象になります） （２）定期試験 ２５点 計　１００点						
授業内の課題・提出方法	各回の講義の最後に小テストを行い、提出を求めます。その際、講義内容に関する質問なども受け付け、評価の対象とします。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	次回の講義の最初に、採点された小テストを返却し、答え合わせを行うとともに、質問に対する回答やコメントを行います。						
担当者から一言	高校で地学を履修していない学生が多いと思いますので、その想定の上で講義を進めます。講義の中で受講者に発言を求める場面が多々ありますので、積極的な姿勢を期待します。						

授業科目名	生物学概論			科目コード	171607	授業コード	414801
担当教員	田中　伊知郎			科目ナンバリング	GLAN1007		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の３分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	自然科学のうち生物学が扱うことを、はっきりさせて行きます。まず、生物の活動に必要なエネルギーについて、次に、生物がどのように情報を処理するのか(生理学的な情報と遺伝学的な情報)を明らかにしていきます。						
到達目標	人類の諸問題を考える上で、土台となる人間についての知識を養う。人間の生物としての特徴が生活や社会にどのように影響するのか理解する。						
授業計画	第１講　ガイダンス・自然に働きかける人間：大学周辺の森の見学(フィールドワーク) 第2講　生物のエネルギー：代謝 第３講　光合成：エネルギーの生産 第４講　呼吸：エネルギーの活用 第５講　生体物質：反応できる窒素 第６講　タンパク質：安定した生体物質 第７講　RNA：即時処理のための核酸(形を理解する実習) 第８講　遺伝的情報：安定した核酸であるDNA 第９講　遺伝子：DNA内の情報システム 第10講　遺伝子発現の情報処理 第11講　生物の環境応答：刺激の受容 第12講　生理的情報：刺激伝達と神経システム 第13講　生理的情報の統合：興奮と抑制 第14講　環境への反応：効果器の代表としての筋肉 第15講　行動：統合された反応 定期試験　持ち込み不可						
テキスト・教材（参考文献含む）	なし						
事前・事後学習	授業当日に講義内容のノートを見返して、メモした疑問点を調べてください(60分)。2・3日後に、ノートを再度読んで (30分)、その次に当たることを考えてください (30分)。講義の前日に、ノートを読み返して、ノートの空白に書き込み整理してください(60分)。						
成績評価方法	実践課題60%　定期試験　40%						
授業内の課題・提出方法	講義の各回の終わりに練習問題(実践課題)をやります。講義中の課題は、コメントして合格するまでやり直してもらいます。授業内容を理解したかを測る課題を授業末に出し、すぐにはできないので、1週間以内にメールなどで教員に送ってもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	送られた課題に対する回答を採点し、単に評価だけでなく、理解できていないところを指摘して、ノートを見直して、再学習してもらい、再提出します。						
担当者から一言	生物同士や生物と外部環境のかかわり合いのパターンを知る便利な手段が「生物学」です。DNAと遺伝子の違いなど、日常よく使われていながら誤解の多い言葉の意味に注意して、できるだけ日常的な言葉で説明します。						

授業科目名	生物と進化			科目コード	171608	授業コード	411407
担当教員	田中　伊知郎			科目ナンバリング	GLAN1008		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の３分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	自然科学のうち生物学が扱う分野の視点をはっきりさせて行きます。まず、生物が、お互いに地球上でどのようなかかわり合いを持って生きているのか明らかにしていきます(生態系)。次に、百万年単位の長い時間で見ると、生き物の生き方(姿かたちや行動パターン)は変わっていきます(進化)。特に、人類がどのように変化してきたのか明らかにしていきます。						
到達目標	環境問題を考える上で、土台となる知識(生物のエネルギー生産･生態系)を養う。 人間の生物としての特徴を進化の視点から理解する。						
授業計画	第１講　ガイダンス・自然環境と人間：大学周辺の森の見学(フィールドワーク) 第2講　生態系：動物と植物の関係 第３講　生態系：草食動物と肉食動物 第４講　生態系：肉食動物と食物連鎖(海中) 第５講　生態系：疎水性物質の生物濃縮 第６講　生態系：環境との相互作用･日本の植生の特徴 第７講　生態系：採集狩猟社会と環境変化 第８講　生態系：農業の特徴 第９講　進化の定義 第10講　進化：分岐年代 第11講　進化：化石から見た人類進化・骨の意味するもの(人類の特徴の作図実習) 第12講　進化：化石から見た人類進化・祖先の運動パターン(腕渡りの作図実習) 第13講　進化：直立二足歩行の起源(腕渡りとの関係の作図実習) 第14講　進化：人類進化のまとめ 第15講　進化：ダイナミックな進化の示唆 定期試験　持ち込み不可						
テキスト・教材（参考文献含む）	なし						
事前・事後学習	授業当日に講義内容のノートを見返して、メモした疑問点や化石や遺跡などの画像を調べてください(60分)。2・3日後に、ノートを再度読んで (30分)、その次に当たることを考えてください (30分)。講義の前日に、ノートを読み返して、ノートの空白に書き込み整理してください(60分)。						
成績評価方法	実践課題60%　定期試験　40%						
授業内の課題・提出方法	講義の各回の終わりに練習問題(実践課題)をやります。講義中の課題は、コメントをつけて、合格するまでやり直してもらいます。授業内容を理解したかを測る課題を授業末に出し、すぐにはできないので、1週間以内にメールなどで教員に送ってもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	送られた課題に対する回答を採点し、単に評価だけでなく、理解できていないところを指摘して、対応するノートの部分も示し、そこを見直して、再学習してもらい、再提出します。						
担当者から一言	生物同士や生物と外部環境のかかわり合いのパターンを知る便利な手段が｢生物学｣です。DNAと遺伝子の違いなど、日常よく使われていながら誤解の多い言葉の意味に注意して、できるだけ日常的な言葉で説明します。						

授業科目名	環境論			科目コード	171609	授業コード	412604
担当教員	吉山　青翔			科目ナンバリング	GLAN1009		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の３分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	この講義では、環境に関する基本的な概念と含意を明らかにしたうえで、環境問題史・環境運動史・環境思想史」の探求を通して、受講者に環境問題の全体像を把握させ、環境問題の解決に対する基本的な思想的基礎を据えさせることを目指します。						
到達目標	環境問題の全体像を把握し、自分の環境観を形成する。						
授業計画	第１講　ガイダンス：環境論の仕組み及び課題 第２講　「自然」の定義と仕組み 第３講　「環境」の定義と仕組み 第４講　「文化」の定義と仕組み 第５講　「人間」の定義及び「自然」「環境」「文化」との関連性 第６講　環境に関する人類の認識１：ヒポクラテスによる医学上の見解 第７講　環境に関する人類の認識２：Ｃ．ダーウィンによる生物学上の見解 第８講　中間テスト 第９講　環境に関する人類の認識３：Ｃ．ベルナールによる生理学上の見解 第10講　環境に関する人類の認識４：Ｃ．ラッツェルによる地理学上の見解 第11講　科学と技術の結合、及び蒸気エネルギーの発見 第12講　蒸気エネルギーの実用化と産業革命、及び近代環境問題の発生 第13講　環境に関してレイチェル・カーソンと「ローマ・クラブ」の警告 第14講　国連「人間環境宣言」と環境保護運動のグローバル化 第15講　総括：環境問題の解決に対する思想的基礎：環境倫理学 定期試験						
テキスト・教材（参考文献含む）	参考資料 フランク・ユケッター著、和田佐規子訳『ナチスと自然保護』（築地書館株式会社、2015年）、その他（随時に授業内容に関する資料指定・配布します）。						
事前・事後学習	授業前に次回の授業内容を確認し、授業後に授業の内容を確認してください。						
成績評価方法	中間テスト（30点）・期末定期試験（70点）により総合評価。						
授業内の課題・提出方法	授業の内容に関するミニレポートを提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出してもらったレポートを、次回の授業で講評します。						
担当者から一言	この講義は板書がやや多いので、ノートを取ることが苦手な者には不向きです。						

授業科目名	心理学			科目コード	171610	授業コード	414601
担当教員	田中　伊知郎			科目ナンバリング	GLAN1010		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の３分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	情報処理理論と自然科学に基づく認知心理学の視点から、私たちが外界から得る情報の特徴を解説します。この人類に特徴的な過程を明らかにすることと、もう一つ人類が普遍的に行っている｢相手に理解してもらえる情報伝達(教えること)｣とはどういうものかを明らかにすることを講義のねらいとします。						
到達目標	生物として、および神経系の情報処理から生じる「表現と伝達における人類の特性」を理解してもらいます。また、単に情報を発信しても相手が理解することは、ほとんどありません。人類の特性に基づく相手にわかってもらえる情報伝達の実践を到達目標にします。						
授業計画	第１講　ガイダンス・視覚情報：色彩　色の対処理 第２講　視覚情報・色彩　赤と青を同時に使わない(実習) 第３講　視覚情報・色彩　表現(映像･絵画)における補色の利用 第４講　視覚情報・色彩　色鉛筆で絵を描きます(実習) 第５講　視覚情報・形　両眼視 第６講　視覚情報・形　アフォーダンス 第７講　視覚情報・アフォーダンス　実習１　ボケの効果 第８講　視覚情報・アフォーダンス　実習２　空気遠近を用いた作画(実習) 第９講　実験心理学からみた学習 第10講　個体学習と社会学習の違い 第11講　社会学習における課題 第12講　人類における「教えること」の成立（レポート課題の配布） 第13講　理解できるコミュニケーションの基礎となる同情と共感 第14講　実験心理学の技法･統計：因子分析を例にして 第15講　レポート返却(コメント付き)･講評 定期試験　各自のコメントに関連した問題						
テキスト・教材（参考文献含む）	なし						
事前・事後学習	授業当日に講義内容のノートを見返して、メモした疑問点を調べてください(60分)。2・3日後に、ノートを再度読んで (30分)、その次に当たることを予習として調べてください(30分)。講義の前日に、ノートを読み返して、ノートの空白に書き込み整理してください(60分)。						
成績評価方法	講義中の実践課題40%　レポート　40%　定期試験　20% 講義中の課題は、コメントして合格するまでやり直してもらいます。レポートはコメントをつけて以降の講義で返却します。						
授業内の課題・提出方法	授業内容を理解したかを測る課題を授業末に出し、すぐにはできないので、1週間以内にメールなどで教員に送ってもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	送られた課題に対する回答を採点し、単に評価だけでなく、理解できていないところを指摘して、ノートを見直して、再学習してもらい、再提出します。						
担当者から一言	教育は一方向の情報発信でなく、双方向の情報通信によって達成されます。実践課題をすぐに評価するなど、みなさんの対応から授業の流れを機動的に変えて、よりよい理解を目指します。						

授業科目名	キャリア基礎Ⅰ			科目コード	171701	授業コード	411501
担当教員	岡　良浩			科目ナンバリング	GECC1001		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	「キャリア科目」では、学士にふさわしい職業観の育成を図り、人生を通じて通用する学士号を持つ職業人としての資質の獲得を目指します。						
授業のねらい	この科目では「キャリア基礎I」と「キャリア基礎Ⅱ」の30回の授業を通じて、皆さんの将来に向けた進路選択、特に就職に役立つ知識や技法、心構えの初歩を学びます。「キャリア基礎Ⅰ」では、とりわけ就職をとりまく社会環境がどのようなものかを理解することを主なねらいとします。具体的には、働き方や地域の産業・経済、労働者の権利や大学生の雇用・求人の情勢などを理解します。あわせて採用試験に備えた基礎学力の習得をめざします。						
到達目標	以下の３つが目標です。 ① 働く意義について考える。 ② 就業環境について理解する。 ③ 採用試験の基礎知識を習得する。						
授業計画	第１講　ガイダンス／キャリアをどう考えるか 9/25 第２講　課題と実習（社会人基礎力①）10/2 第３講　課題と実習（社会人基礎力②）10/9 第４講　知っておきたい採用試験の基礎① 10/16 第５講　知っておきたい採用試験の基礎② 10/23 第６講　働き方はどうなっているか 10/30 第７講　経営者によるキャリア講演会 11/6 第８講　課題と実習11/13 第９講　知っておきたい採用試験の基礎③ 11/20 第１０講　働く者の権利 11/27 第１１講　知っておきたい採用試験の基礎④ 12/4 第１２講　知っておきたい採用試験の基礎⑤ 12/11 第１３講　大学生の雇用と求人の情勢 12/18 第１４講　キャリアサポートセンターについて 1/15 第１５講　まとめ 1/22						
テキスト・教材（参考文献含む）	テキストはクラス担当教員から配付します。 毎回の講義には必ず持参してください。						
事前・事後学習	予習：あらかじめテキストを読んでおくこと（90分）。 復習：講義の内容や課題を復習しておくこと（90分）。						
成績評価方法	期末試験５０％、平常点（受講態度および課題の取り組み姿勢）５０％						
授業内の課題・提出方法	授業内で適宜課題を課します。提出は授業形態に応じて教室内で提出あるいはForms・Moodleを用いた提出を行います。毎回の指示に従ってください。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業内の課題は、コメントをつけて返却あるいは全体で講評を行います。						
担当者から一言	就職は卒業までに必ず考えなければならない事柄です。主体的に取り組んでいただきたいと思います。						

授業科目名	キャリア基礎Ⅱ			科目コード	171702	授業コード	411103
担当教員	岡　良浩			科目ナンバリング	GECC1002		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	「キャリア科目」では、学士にふさわしい職業観の育成を図り、人生を通じて通用する学士号を持つ職業人としての資質の獲得を目指します。						
授業のねらい	この科目では「キャリア基礎I」と「キャリア基礎Ⅱ」の30回の授業を通じて、将来に向けた進路選択、特に就職に役立つ知識や技法、心構えの初歩を学びます。 　「キャリア基礎Ⅱ」では、自己分析・自己ＰＲを中心に行います。自己分析とは「どんなシゴトがしたいか」「どんなシゴトが自分に向いているか」「どんな会社に行きたいか」を自覚することをいいます。ここでは初めて自己分析・自己ＰＲを行う学生を前提にその手法を学びながら自己分析・自己ＰＲを行っていただきます。あわせて採用試験に備えた基礎学力の習得をめざします。						
到達目標	以下の４つの到達目標があります。 ① 自己分析のさまざまな方法を習得し、実際に行ってみること。 ② 自己ＰＲの方法を学習し、自らの自己ＰＲを考えてみること。 ③ 履歴書やエントリーシートを作成すること。 ④ 採用試験の基礎を習得すること。						
授業計画	第１講　ガイダンス／自己分析のすすめ 4/10 第２講　自己分析実習①適性をみる　4/17 第３講　知っておきたい採用試験の基礎⑥　4/24 第４講　自己分析実習②過去の自分をふりかえる 5/8 第５講　自己分析実習③他者の意見を聞く 5/15 第６講　知っておきたい採用試験の基礎⑦ 5/22 第７講　自己分析実習④未来の自分を考える 5/29 第８講　自己分析実習⑤自己ＰＲを考える 6/5 第９講　知っておきたい採用試験の基礎⑧ 6/12 第１０講　業界・企業研究のすすめ 6/19 第１１講　企業研究実習　6/26 第１２講　知っておきたい採用試験の基礎⑨ 7/3 第１３講　履歴書・エントリーシートを書く（実習）① 7/10 第１４講　履歴書・エントリーシートを書く（実習）② 7/17 第１５講　知っておきたい採用試験の基礎⑩7/24						
テキスト・教材（参考文献含む）	テキストはクラス担当教員から配付します。 毎回の講義には必ず持参してください。						
事前・事後学習	予習：あらかじめテキストを読んでおくこと（90分）。 復習：講義の内容や課題を復習しておくこと（90分）。						
成績評価方法	期末試験５０％、平常点（受講態度および課題の取り組み姿勢）５０％						
授業内の課題・提出方法	授業内で適宜課題を課します。提出は授業形態に応じて教室内で提出あるいはForms・Moodleを用いた提出を行います。毎回の指示に従ってください。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業内の課題は、コメントをつけて返却あるいは全体で講評を行います。						
担当者から一言	自分を客観的に見つめ直し、将来を考えるよい機会です。主体的に取り組んでいただきたいと思います。						

授業科目名	キャリア基礎Ⅲ			科目コード	171703	授業コード	411702
担当教員	岡　良浩			科目ナンバリング	GECC1003		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「キャリア科目」では、学士にふさわしい職業観の育成を図り、人生を通じて通用する学士号を持つ職業人としての資質の獲得を目指します。						
授業のねらい	キャリア基礎Ⅲでは、具体的な就職活動を想定し、企業説明会・エントリー・面接など、ひととおりの就職活動を模擬的に体験することを主な内容とします。就職活動中は、学生ではなく、社会人としての行動が要求されます。このようなビジネスマナーについても演習を行います。全体を通して、実際の就職活動に向けて学生が自信を持てるように個別指導を行っていきます。また、就職活動の方法は毎年変化していくため、新しい面接の手法なども積極的に取り入れ、対応方法についても勉強していきます。						
到達目標	模擬的な就職活動を行うことによって以下の５つの能力を養うことが目標です。 ① キャリア基礎Ⅱで行った自己分析・自己ＰＲを実践的にブラッシュアップすること ② 就職活動を行うための経済・社会・企業の情報収集方法を身につけること ③ 就職活動に関するビジネスマナーを身につけること ④ グループディスカッション・面接・プレゼンなどの方法を学ぶこと ⑤ 全体として社会人としての言動や表現力を身につけること						
授業計画	第１講　ガイダンス／グループディスカッション①9/25 第２講　グループディスカッション②10/2 第３講　グループディスカッション③10/9 第４講　日本・東海地方の産業・経済はどうなっているか10/16 第５講　新聞を読む10/23 第６講　新聞を読む（実習）10/30 第７講　ビジネスマナー①（面接）11/6 第８講　模擬合同企業説明会11/13 第９講　エントリーシートの作成① 11/20 第１０講　模擬面接（実習）① 11/27 第１１講　模擬面接（実習）② 12/4 第１２講　ビジネスマナー②（書類の送付、メール・電話応対）① 12/11 第１３講　プレゼン面接（実習）② 12/18 第１４講　プレゼン面接（実習）1/15 第１５講　まとめ1/22						
テキスト・教材（参考文献含む）	テキストはクラス担当教員から配付します。 毎回の講義には必ず持参してください。						
事前・事後学習	予習：あらかじめテキストを読んでおくこと（90分）。 復習：講義の内容や課題を復習しておくこと（90分）。						
成績評価方法	期末試験５０%、平常点（受講態度および課題の取り組み姿勢）５０%						
授業内の課題・提出方法	授業内で適宜課題を課します。提出は授業形態に応じて教室内で提出あるいはForms・Moodleを用いた提出を行います。毎回の指示に従ってください。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業内の課題は、コメントをつけて返却あるいは全体で講評を行います。						
担当者から一言	3年生では就職ガイダンスがはじまります。ここで勉強したことを生かして、失敗を恐れず行動することが何より重要です。果敢にチャレンジしてください。						

授業科目名	ボランティア活動ａ			科目コード	171801	授業コード	416105
担当教員	倉田　英司			科目ナンバリング	GESC1001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「特別科目」ではボランティア、インターンシップや海外研修などの体験学習を通じて見聞を広めます。						
授業のねらい	社会貢献活動は、地域まちづくり活動、国際協力活動、災害支援活動、環境保全活動など様々である。これらの活動にボランティアとして参加することは、生きた活動を学べるまた自分自身で携われる貴重な機会であると共に、地域社会への貢献となるなど、大きな意義を持つ。四日市大学では、多くの学生の参加促進のため、一定の手続きを経て単位認定を行う。 ※ボランティア活動aの単位修得後、ｂを取得する。						
到達目標	1. 現場での体験を通じて、社会のさまざまな課題を理解する。 2. 主体的な行動力を身に着け、社会を良くするために考察する力をつける。 3. 地域の人々との交流により、より豊かな人間性を身につける						
授業計画	１　対象となる活動 ①　ボランティアセンターで紹介するボランティア活動 ②　別に大学の審査により認められたボランティア活動 ２　単位認定に必要な活動時間 実労働時間60時間以上（複数の活動や、年度を超えた活動でもよい。） ３　活動時期 授業や大学行事に支障がないと判断される時期 ４　事前申請 参加予定の１か月前、既に参加した場合は終了後１か月後に「ボランティア活動内容書」（教務課に置いてある）を教学課に提出すること。 ５　単位認定申請 実労働時間が60時間を予想されるか、超えた場合であって、単位認定を希望する場合は、教学課に下記の書類を提出すること。（卒業年次の１月末日まで） ①　ボランティア活動ａ単位認定申請書 ②　ボランティア活動団体発行の証明書 ③　活動日誌・レポート（様式自由、1000字程度） 注）活動の経験を三重県内の地域でどう活かすかを言及すること。						
テキスト・教材（参考文献含む）	なし。						
事前・事後学習	（事前）参加する活動や団体に関する情報を収集し、内容を理解しておくこと。（90分）。 （事後）学んだ内容を復習し、関連する情報にも目を通すこと（90分）。						
成績評価方法	「ボランティア活動団体の証明書」「活動日誌・レポート」の内容により単位認定する。評価は「認(認定)」となる（履修制限単位に含まれない）。						
授業内の課題・提出方法	参加した社会貢献活動について、活動日誌とレポートを提出してもらう						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業内の課題・提出物のフィードバック方法 提出した活動日誌やレポートについてコメント、希望により面談を行う。						
担当者から一言	ボランティアセンターのボランティア情報を活用し、どのような社会貢献活動があるのかを探してみましょう。積極的に参加されることを期待しています。						

授業科目名	ボランティア活動ｂ			科目コード	171802	授業コード	416106
担当教員	倉田　英司			科目ナンバリング	GESC1002		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「特別科目」ではボランティア、インターンシップや海外研修などの体験学習を通じて見聞を広めます。						
授業のねらい	社会貢献活動は、地域まちづくり活動、国際協力活動、災害支援活動、環境保全活動など様々である。これらの活動にボランティアとして参加することは、生きた活動を学べるまた自分自身で携われる貴重な機会であると共に、地域社会への貢献となるなど、大きな意義を持つ。四日市大学では、多くの学生の参加促進のため、一定の手続きを経て単位認定を行う。 ※ボランティア活動aの単位修得後、ｂを取得する。						
到達目標	1. 現場での体験を通じて、社会のさまざまな課題を理解する。 2. 主体的な行動力を身に着け、社会を良くするために考察する力をつける。 3. 地域の人々との交流により、より豊かな人間性を身につける						
授業計画	１　対象となる活動 ①　ボランティアセンターで紹介するボランティア活動 ②　別に大学の審査により認められたボランティア活動 ２　単位認定に必要な活動時間 実労働時間60時間以上（複数の活動や、年度を超えた活動でもよい。） ３　活動時期 授業や大学行事に支障がないと判断される時期 ４　事前申請 参加予定の１か月前、既に参加した場合は終了後１か月後に「ボランティア活動内容書」（教務課に置いてある）を教学課に提出すること。 ５　単位認定申請 実労働時間が60時間を予想されるか、超えた場合であって、単位認定を希望する場合は、教学課に下記の書類を提出すること。（卒業年次の１月末日まで） ①　ボランティア活動b単位認定申請書 ②　ボランティア活動団体発行の証明書 ③　活動日誌・レポート（様式自由、1000字程度） 注）活動の経験を三重県内の地域でどう活かすかを言及すること。						
テキスト・教材（参考文献含む）	なし。						
事前・事後学習	（事前）参加する活動や団体に関する情報を収集し、内容を理解しておくこと。（90分）。 （事後）学んだ内容を復習し、関連する情報にも目を通すこと（90分）。						
成績評価方法	「ボランティア活動団体の証明書」「活動日誌・レポート」の内容により単位認定する。評価は「認(認定)」となる（履修制限単位に含まれない）。						
授業内の課題・提出方法	参加した社会貢献活動について、活動日誌とレポートを提出してもらう						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業内の課題・提出物のフィードバック方法 提出した活動日誌やレポートについてコメント、希望により面談を行う。						
担当者から一言	ボランティアセンターのボランティア情報を活用し、どのような社会貢献活動があるのかを探してみましょう。積極的に参加されることを期待しています。						

授業科目名	国際協力研修			科目コード	171803	授業コード	416502
担当教員	岩崎　祐子			科目ナンバリング	GESC1003		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「特別科目」ではボランティア、インターンシップや海外研修などの体験学習を通じて見聞を広めます。						
授業のねらい	青年海外協力隊、NGO（非政府団体）、国際ボランティア等の海外における社会貢献活動など、国際協力について現地で体験的に学ぶ場を提供します。NPO論が主として地域を中心とする社会貢献活動を対象とするのに対し、この授業では海外における社会貢献活動が対象となります。 海外で実際に行われている社会貢献活動の体験を通じ、国際的な視野を広げることも目的としています。						
到達目標	１　国際的な社会貢献活動について理解を深めます。 ２　国際感覚を身に付けます。						
授業計画	第１講　ガイダンス 第２講　事前研修 第３講　事前研修 第４講　海外現地研修 第５講　海外現地研修 第６講　海外現地研修 第７講　海外現地研修 第８講　海外現地研修 第９講　海外現地研修 第10講　海外現地研修 第11講　海外現地研修 第12講　海外現地研修 第13講　海外現地研修 第14講　海外現地研修 第15講　海外研修の振り返り　※渡航先の状況により研修等を中止あるいは延期する場合があります。 ※大学外の海外研修に参加する場合は、海外協力活動への参加の事前申請を行って下さい。						
テキスト・教材（参考文献含む）	外務省（日本）ホームページ、タイ政府観光庁（日本語サイト）のホームページのタイ情報を参照してください。						
事前・事後学習	事前：参加する活動や団体、研修実施国に関する資料を収集し、よく内容を理解しておくこと。（90分） 事後：学んだ内容を理解し、関連する情報にも間を通すこと。（90分）						
成績評価方法	四日市大学の海外研修終了後に、活動日誌（様式自由）・レポート（1200字以上）を提出すること。海外研修中の参加意欲（50%）活動日誌・レポート（50%） 大学外の活動の場合は、終了後に活動した団体の証明書（様式自由）および活動日誌（様式自由）・レポート（1200字以上）を提出すること。活動日誌（50%）レポート（50%） ※評価（単位）は、次年度前学期につきます。						
授業内の課題・提出方法	海外研修終了後に、活動日誌（様式自由）・レポート（1200字以上）を提出						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	海外研修の振り返りの機会を設定します。						
担当者から一言	2024年2月にタイで１週間の研修を実施する予定です。四日市大学の研修参加希望者は説明会に必ず参加してください。研修終了後は、大学の広報活動に協力してください。 ※研修には研修参加費が必要です。 ※渡航先の状況により研修等を中止あるいは延期する場合があります。						

授業科目名	インターンシップ			科目コード	171804	授業コード	416104
担当教員	鬼頭　浩文			科目ナンバリング	GESC1004		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「特別科目」ではボランティア、インターンシップや海外研修などの体験学習を通じて見聞を広めます。						
授業のねらい	大学の長期休暇などで合計10日間をフルタイムで就労体験する。正職員と同じ責任と目線で就労体験を行う。この体験は、ハードな実習になるので、安易な受講は避けてほしい。 ■インターンシップを履修するための条件 ・３か月以上のアルバイトの経験（週２日以上の定期アルバイト）があること ・基本的なマナーが身についており、コミュニケーション能力が高いこと ・どのような研修をしたいのか、明確な目標があること						
到達目標	正職員と同じ目線で仕事を捉え、業務の全般を把握できること。						
授業計画	★日程については掲示板で発表するので、日ごろから掲示板を確認すること ★詳細は、履修要綱に記載 ４月：説明会（CSC主催）･･･スケジュール詳細説明／申込用紙配布 ４月末：申込用紙を提出　⇒　書類選考の合格者を発表 ５月中旬～下旬：面接　⇒　面接の合格者を発表 ５月下旬：ガイダンス･･･受入企業一覧配付/希望研修先用紙配付/事前研修についての連絡等 ６月下旬：研修先マッチング開始　⇒　研修先決定 ７月中旬：事前研修･･･マナー研修/インターンシップ中の心得等 ７月下旬：直前ガイダンス･･･研修中の諸注意/事後研修についての連絡等 ８～９月上旬：インターンシップ研修 11月：事後研修･･･レポート提出 12月頃：単位認定 ＊春期休業期間等にインターンシップ研修を行う場合のスケジュールなどは、担当教員が個別に対応する。						
テキスト・教材（参考文献含む）	なし。						
事前・事後学習	講義計画に記述した通り、研修前に計10時間ほどの準備学習が必要となる。原則として、準備学習において一度でも遅刻・欠席があった場合は、研修を認めない。まずは説明会に出席し、面談を受けたら実習に向けて準備学習を進めてほしい。						
成績評価方法	事前研修での評価、就業体験時の勤務状況、就業体験後に提出するレポートにより評価。						
授業内の課題・提出方法	事前研修での評価、就業体験時の勤務状況、就業体験後にレポートを提出。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	事前研修での評価、就業体験時の勤務状況、就業体験後に提出するレポートにより評価・フィードバックする。						
担当者から一言	明確な目標がない学生は、受講を認めない。安易な考えで受講することは、絶対にしないでほしい。なお、実習は平日昼の正社員と同じ勤務になる。当然、アルバイトやクラブ活動で欠席することは認められない。						

授業科目名	公務のための数的推理			科目コード	172201	授業コード	413804
担当教員	高田　晴美			科目ナンバリング	GSPO1001		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	皆さんが苦手としがちな科目であり、しかし、出題数も多く、公務員１次試験を突破するには絶対に得点源にしなければならない重要科目が「数的推理」です。数学というと難しく感じるかもしれませんが、数的推理に必要な数学の知識は、殆どが中学レベルです。努力すれば手ごたえを得やすい科目でもありますから、粘り強くコツコツと学習を積み重ねていくことが重要です。この講義では、数的推理の殆どのテーマについて、基本から中級レベルまで、解法のインプットから始めて問題を実際に解くというアウトプットまで行います。						
到達目標	１　数的推理の出題パターンとその解法を知る。 ２　今後、自力で学習を進めていくためのベースとなる学力を身に付ける。						
授業計画	第１講　ガイダンス、整数の性質 第２講　剰余系の問題、ｎ進法 第３講　比と割合 第４講　方程式と不等式① 第５講　方程式と不等式② 第６講　濃度 第７講　仕事算、ニュートン算 第８講　年齢算、平均算など 第９講　集合 第10講　速さ① 第11講　速さ② 第12講　速さ③ 第13講　場合の数 第14講　確率 第15講　数列 定期試験 順番は入れ替わる可能性があります。						
テキスト・教材（参考文献含む）	畑中敦子『畑中敦子の初級 ザ・ベストNEO 数的推理／資料解釈』エクシア出版（2021年）1，650円						
事前・事後学習	講義までに、前の週でやった単元について、以下のことをしておくこと。 ・講義で扱った問題の解きなおし（90分） ・講義では飛ばした問題を解く（90分） 自力で解けるようになるまで何度もやり直してください。						
成績評価方法	毎回の課題　30% 定期試験（資料持ち込み不可）70%						
授業内の課題・提出方法	毎回の授業で、課題を出します。 課題はMoodleに提出してください。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題の解説は、次回の授業で行います。						
担当者から一言	この科目は、公務員試験を受ける予定の学生のみを対象とした、真面目に学習しないと単位取得が困難な科目です。授業中も自ら問題演習に取り組み、授業時間中に解法を確実に自分のものにしてやるという覚悟がある学生のみ、受講して下さい。						

授業科目名	公務のための判断推理			科目コード	172202	授業コード	413405
担当教員	高田　晴美			科目ナンバリング	GSPO1002		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	公務員試験の教養科目のうち、「判断推理」は、高校までの学習内容からは外れた、公務員試験独特の科目です。理数系ではありますが、パズルのような問題が大部分であるため、解法の知識も必要ですが、それとともに、試行錯誤しながら論理的に考えていく思考力と粘り強さが要求されます。また、時間をかけずに要領よく解答するためのコツも必要であり、様々なタイプの問題に慣れておく必要もあります。講義では、各テーマについて基本的な解法を示した上で、実際に問題演習にあたり、自力で解くための学力を養成します。						
到達目標	1　判断推理の解法を一通り身に付ける。 2　論理的な思考能力と、解答のために試行錯誤をする力を養う。 3　今後、自力で学習を進めていけるだけのベースとなる学力を身に付ける。						
授業計画	第１講　ガイダンス、順序関係 第２講　順序関係 第３講　位置関係 第４講　対応関係 第５講　試合 第６講　数量関係 第７講　命題と論理 第８講　真偽 第９講　暗号と規則性 第10講　操作・手順 第11講　パズル問題 第12講　移動と軌跡 第13講　立体図形 第14講　展開図 第15講　サイコロと位相 定期試験						
テキスト・教材（参考文献含む）	畑中敦子『畑中敦子の初級 ザ・ベスト NEO 判断推理』 エクシア出版（2021年）1，650円						
事前・事後学習	講義までに、前の週でやった単元（授業でやったあたり）について、以下のことをしておくこと。 ・講義で扱った問題の解きなおし（90分） ・講義では飛ばした問題を解く（90分） 自力で解けるようになるまで何度もやり直してください。						
成績評価方法	毎回の課題　30% 定期試験（資料持ち込み不可）70%						
授業内の課題・提出方法	毎回、授業の終わりに課題を出します。 課題はMoodleに提出してください。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題の解説は、次回の授業で行います。						
担当者から一言	この科目は、公務員試験を受ける予定の学生のみを対象とした、真面目に学習しないと単位取得が困難な科目です。授業中も自ら問題演習に取り組み、授業時間中に解法を確実に自分のものにしてやるという覚悟がある学生のみ、受講して下さい。						

授業科目名	公務のための現代文			科目コード	172203	授業コード	415704
担当教員	高田　晴美			科目ナンバリング	GSPO1003		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	公務員試験科目のうちの「文章理解（国語分野）」の「現代文」のところと「資料解釈」の２科目について、問題演習を行います。「文章理解（国語）」では出題パターンの紹介とともに、どういうところに着目すべきかを解説します。「資料解釈」は出題数は少ないですが、出題タイプが限られるので、対策を取れば確実に得点源にできます。採用試験だけでなく、その後の公務員の仕事にも必要な能力でもありますから、得意科目にしていきましょう。						
到達目標	１　「文章理解（国語分野）」の出題パターンと解法のコツを身に付ける。 ２　「資料解釈」の出題パターンと解法のコツを身に付ける。						
授業計画	第１講　ガイダンス、現代文①――内容把握 第２講　現代文②――内容把握 第３講　現代文③――要旨把握 第４講　現代文④――要旨把握 第５講　現代文⑤――文章整序 第６講　現代文⑥――文章整序 第７講　現代文⑦――空欄補充 第８講　資料解釈①――実数 第９講　資料解釈②――実数 第10講　資料解釈③――割合・構成比 第11講　資料解釈④――割合・構成比 第12講　資料解釈⑤――指数・増加率 第13講　資料解釈⑥――指数・増加率 第14講　資料解釈⑦――特殊な問題 第15講　資料解釈⑧――特殊な問題 定期試験 なお、この科目はオンデマンドで行います。						
テキスト・教材（参考文献含む）	● 瀧口雅仁『公務員試験 文章理解 すぐ解ける〈直観ルール〉ブック［改訂版］』実務教育出版（2020年） ● 畑中敦子『畑中敦子の初級 ザ・ベストNEO 数的推理／資料解釈』エクシア出版（2021年）（「公務のための数的推理」と同テキスト）						
事前・事後学習	講義までに、前の週でやった単元（授業でやったあたり）について、以下のことをしておくこと。 ・（特に「資料解釈」では）講義で扱った問題の解きなおし（90分） ・講義では飛ばした問題を解く（90分） 自力で解けるようになるまで何度もやり直してください。						
成績評価方法	毎回の課題　30% 定期試験（資料持ち込み不可）70%						
授業内の課題・提出方法	課題は講義の中で説明します。 Moodleに提出してください。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題の解説は、授業もしくはMoodleで示します。						
担当者から一言	この科目は、公務員試験を受ける予定の学生のみを対象としています。授業中も自ら問題演習に取り組み、授業時間中に解法を確実に自分のものにしてやるという覚悟がある学生のみ、受講して下さい。						

授業科目名	公務のための政治学			科目コード	172204	授業コード	413504
担当教員	小林　慶太郎			科目ナンバリング	GSPO1004		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	わたしたちが、役所の人（公務員）に何かをして貰おうとする時、それはどのような仕組みに基づいて、どのように進められるのでしょう。そしてその背景には、どのような国の仕組みや権力構造、プロセス、歴史があるのでしょうか。 この授業ではこうした、地域で公務につく際に必要となってくる政治的な知識について、学生諸君が、過去の公務員採用試験などの問題を解きながら身につけていくことを、ねらいとしています。将来、公務員になろうと考えている学生にとっては、特に役に立つ演習になるはずですから、必ず受講するよう強くお勧めします						
到達目標	市役所・警察・消防等の公務員採用試験の政治的分野の問題を、確実に解ける程度の知識を身につけることが、この授業の到達目標です。						
授業計画	第１講　ガイダンス：この授業の進め方 第２講　三権分立と法の支配 第３講　議院内閣制 第４講　国会 第５講　内閣 第６講　官僚制と行政 第７講　裁判所 第８講　地方自治 第９講　直接請求権 第10講　選挙 第11講　政党政治 第12講　政治理論 第13講　各国の政治制度 第14講　国際政治 第15講　時事問題 定期試験 ※ 新型コロナウイルスの感染拡大の状況によっては、変更になる場合があります。						
テキスト・教材（参考文献含む）	資格試験研究会編「大卒程度 警察官・消防官 新スーパー過去問ゼミ　社会科学〔改訂第3版〕」実務教育出版（2022年）1，500円＋税 ※ このテキストは、公務のための法学・政治学・経済学の３科目共通です。このほかにプリントも配布することがあります。						
事前・事後学習	必ず予習・復習（各90分）をしてください。なお、講義内容の理解のためにも、出来るだけ、この講義の履修に先立って全学共通教育科目の「政治学」を履修するようにしてください。また、日頃から、テレビや新聞の政治ニュースに目を通すことを心掛けてください。						
成績評価方法	無断欠席者には原則として単位を与えません。成績は次のような配分により評価します。 ・講義時に指示する小テストの提出状況：30% ・定期試験（持込不可）：70%						
授業内の課題・提出方法	毎回小テストを実施し、授業中に回収します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出された小テストは採点し、次回の授業時に返却・解説を行います。						
担当者から一言	遅刻や、講義中の中座、飲食、私語、携帯電話の鳴動などは、原則禁止します。これらのことが守れない者には、退室を命ずることがあります。出席する以上は、真剣な態度で受講して下さい。また、講義中に指名されたら、元気に返事をするようにして下さい。						

授業科目名	公務のための経済学			科目コード	172205	授業コード	412601
担当教員	鬼頭　浩文			科目ナンバリング	GSPO1005		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	この講義では、公務員や金融機関、大学院などを目指す学生に対して、経済学の知識をわかりやすく伝授する。具体的には、職業人として必要な経済を見る力を身につけることと、企業の就職試験や公務員の教養試験における経済学分野の問題を解くための勉強を行う。できる限り、受験テクニックだけでなく、実際の社会の仕組みについても学ぶ。						
到達目標	経済学の基本的知識を理論的に理解し、試験問題の解答を導き出す能力を身につけることが到達目標である。						
授業計画	1回目のガイダンスは教室に集まってもらい、全ての回のレジュメを配布します。その後の講義はオンデマンド型授業になります。OD授業を一時停止や複数再生しながら内容を理解し、レジュメにノートテイクしてください。なお、課題はテキストの指定した範囲の説明部分を自分なりにノートにまとめ、問題は解くだけでなく解答をみて重要なポイントをノートにまとめてください。課題は、それぞれB5ノートで5ページ以上になるよう、しっかりとまとめてください。 １．ガイダンス（基礎数学復習と一次関数の演習問題） ２．無差別曲線と消費者の行動① ３．無差別曲線と消費者の行動②＜課題①＞ ４．企業の行動① ５．企業の行動②＜課題②＞ ６．需要の価格弾力性① ７．需要の価格弾力性②＜課題③＞ ８．市場メカニズムと安定性＜課題④＞ ９．比較優位の理論① 10．比較優位の理論②＜課題⑤＞ 11．財政政策・金融政策① 12．財政政策・金融政策②＜課題⑥＞ 13．公共財の供給① 14．公共財の供給②＜課題⑦＞ 15．その他の経済学の問題演習						
テキスト・教材（参考文献含む）	資格試験研究会編「大卒程度 警察官・消防官 新スーパー過去問ゼミ　社会科学〔改訂第3版〕」実務教育出版（2022年）1，500円＋税 ※ このテキストは、公務のための法学・政治学・経済学の３科目共通です。このほかにプリントも配布することがあります。						
事前・事後学習	指示した練習問題にトライして、理解できない問題は次回の講義で質問できるように準備をしておくこと。7回の課題には、各3～5時間ほどを要するので、計画的に取り組むこと。この講義は、全学共通教育科目の「経済学」単位取得後の受講が好ましい。						
成績評価方法	授業を理解した上で課題(7回を予定)を提出すること。その上で、課題50%、期末試験50%の割合で総合的に評価する。						
授業内の課題・提出方法	独学で勉強するテキストの個所を精読し、ノートにまとめを書き、練習問題を解くだけでなく解説の重要個所もまとめ、写真にしてMoodleに提出する。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題に対してMoodleを経由してフィードバックを行う。						
担当者から一言	公務員試験・社会科学系大学院では、経済学の知識は必須である。内容はとても難しいが、パワーポイントなどで分かりやすく解説する。オンデマンド型授業であるが、毎週のOD講義を決まった曜日・時間帯に視聴し、すぐにノートを提出、課題にも計画的に取り組むこと。						

授業科目名	公務のための法学			科目コード	172206	授業コード	413206
担当教員	中西　紀夫			科目ナンバリング	GSPO1006		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	公務員試験対策の法学という形ではありますが、法理論や法制度の基礎的知識はもちろんのこと、憲法上の権利等も問題を解きながら認識を深めていきます。本講義では、大卒程度の警察官や消防官を対象としたテキストを使用しますが、必要に応じて市役所等の試験に出題される問題にも対応したいと思います。当然、たくさんの問題を解いていきますが、答え合わせでも出来るだけ分かりやすい解説になるように工夫をしていきたいと思います。						
到達目標	法学や憲法の基本的な内容を論理的に理解したうえで、公務員試験の問題に対応できる能力を身につけることです。						
授業計画	第１講　ガイダンス 第２講　法の特質、法の分類、法の支配、法の解釈 第３講　大日本国憲法と日本国憲法の特徴、国民主権、平和主義、憲法改正の手続き 第４講　人権の発達、基本的人権の原理 第５講　日本国憲法における基本的人権の種類 第６講　人権の享有主体性、平等権、自由権、社会権 第７講　参政権と請求権、新しい人権と国民の義務 第８講　要約（これまでの確認） 第９講　民法、刑法、その他の法律 第10講　主な社会学者とその業績、社会集団の分類、現代社会の諸特質 第11講　労働三権、労働三法、近年の労働事情と労働問題 第12講　社会保障、高齢社会、少子社会 第13講　地球環境問題 第14講　資源・エネルギー問題 第15講　要約（これまでの確認） 定期試験						
テキスト・教材（参考文献含む）	資格試験研究会編『大卒程度 警察官・消防官 新スーパー過去問ゼミ　社会科学〔改訂第3版〕』実務教育出版（2022年）1，650円（税込）必要に応じて、プリントでも補足します。 ※ このテキストは、公務のための経済学・政治学・法学の３科目共通です。						
事前・事後学習	その日に扱う内容は出来るだけテキストを事前に読んでおくと、もう一度説明を聞くことで更に頭に入りやすいですし問題の正解率も上がりますので、是非、お願いしたいと思います。ニュース、新聞記事のチェックも忘れないようにしましょう。（毎回の予習９０分と復習９０分）						
成績評価方法	小テスト　30%：授業中に行う小テストは採点をして２週間以内に返却します。受講態度等も含みます。 定期試験　70%：択一式や用語を書く問題が中心で、テキストや資料等の持込は不可です。						
授業内の課題・提出方法	課題のある場合は、Moodleを使用する予定です。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業中もしくは授業後に寄せられた質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。						
担当者から一言	授業中は私語厳禁とします。また、こちらの許可を得ない中座や勝手にスマホを見ることなども、もちろん禁止です。学生さんも体調等の問題や諸活動で、こちらも臨機応変な対応が必要になることもありますが、中座や退室は私の許可を取ってください。出席する以上は、集中して受講しましょう。						

授業科目名	公務のための人文科学			科目コード	172207	授業コード	414401
担当教員	浅井　雅			科目ナンバリング	GSPO1007		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	幅広い人文科学の知識を問題演習を通じて学ぶ。公務員試験を目指す者のみならず、様々な業種の就職試験における一般教養も学べる授業となる。						
到達目標	教養としての人文科学を十分に理解し、確実に身につける。						
授業計画	1．ガイダンス 2．日本史（1） 3．日本史（2） 4．日本史（3） 5．世界史（1） 6．世界史（2） 7．世界史（3） 8．地理（1） 9．地理（2） 10．地理（3） 11．地理（4） 12．思想（1） 13．思想（2） 14．文化・芸術（1） 15．文化・芸術（2） 定期試験						
テキスト・教材（参考文献含む）	『大卒程度　警察官・消防官　新スーパー過去問ゼミ　人文学　改訂第3版』実務教育出版、2022年、1500円＋税 その他、電子もしくは紙でプリントを配布する場合もある。						
事前・事後学習	事前に次回の授業に向け当該範囲を予習しておく。（60分） 事後には、授業の内容・範囲について理解を深める。（60分）						
成績評価方法	毎回の授業の最後に提出してもらう小レポート（コメントペーパー）＝30% 期末試験＝70% なお、2/3以上の出席がない場合は採点の対象外とする。（病欠・公欠等は、別途相談のこと。）						
授業内の課題・提出方法	コメントペーパーに関しては、MoodleにGoogleフォームのリンク先を毎回上げる。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出してもらった小レポート（コメントペーパー）はすべて目を通し、全体で共有すべきことがあれば次回の授業の最初にフィードバックする時間を設ける。						
担当者から一言	授業内容・計画は時事的状況や受講生の興味・関心等で変更する場合がある。 授業中に受講にふさわしくない態度・行為（携帯・メールなども含む）をとった者は退室させるので、あらかじめ了解しておくこと。						

授業科目名	公務のための自然科学			科目コード	172208	授業コード	411304
担当教員	高田　晴美			科目ナンバリング	GSPO1008		
配当年次	3	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	公務員試験の「自然科学」の内容は高校レベルの「物理」「化学」「生物」「地学」です。これらは特に文系の受験生にとっては元々知識があまりないため学習困難なのですが、丸々捨てるわけにもいきません。しかし、的を絞って学習すれば、それなりに得点をできるようにはなれます。この講義では、自然科学の頻出テーマについて、特に自力では学習しづらい単元を中心に、広く浅く知識のインプットをした上で、過去問の演習を行います。						
到達目標	公務員試験の自然科学の問題のうち、簡単なものなら解ける程度の知識、学力を身に付ける。						
授業計画	第１講　ガイダンス、物理① 第２講　物理② 第３講　物理③ 第４講　物理④ 第５講　化学① 第６講　化学② 第７講　化学③ 第８講　化学④ 第９講　地学① 第10講　地学② 第11講　地学③ 第12講　地学④ 第13講　生物① 第14講　生物② 第15講　生物③ 定期試験						
テキスト・教材（参考文献含む）	『大卒程度　警察官・消防官　新スーパー過去問ゼミ　自然科学　改訂第3版』実務教育出版（2018年）1，650円（税込） その他、適宜プリントを配布。						
事前・事後学習	次週の講義までに、前の週でやった単元について、以下のことをしておくこと。 ・講義で扱った問題の解きなおし（90分） ・講義では飛ばした問題を解く（90分） 自力で解けるようになるまで何度もやり直してください。						
成績評価方法	定期試験（資料持込不可）　70% 課題　30%						
授業内の課題・提出方法	授業で課題プリントを配布します。 Moodleに提出してください。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題の解答解説は、授業で示します。						
担当者から一言	この科目は、公務員試験を受ける予定の学生のみを対象とした、真面目に学習しないと単位取得が困難な科目です。授業中も自ら問題演習に取り組み、授業時間中に解法を確実に自分のものにしてやるという覚悟がある学生のみ、受講して下さい。						

授業科目名	公務のための英文理解			科目コード	172209	授業コード	414605
担当教員	ゴードン　リース			科目ナンバリング	GSPO1009		
配当年次	3	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	現在、日本では、公務員試験のための決まった英語カリキュラムは存在しない。この講座では公務員試験によく出るテーマ、自然科学、経済、社会、についての英語の記事を毎回読んで、ディスカッションを行います。						
到達目標	1。　英語の読解力を向上させる。 2。　英語の語彙を増やす。 3。　英文法の基礎を身につける。						
授業計画	1. Guidance/Course introduction/Profile 2. Sports 3. Special Occasions 4. Families 5. Japan Quiz 6. Love and Marriage 7. Life History 8. Leisure 9. College Life 10. On Vacation 11. Out and About 12. Rules 13. Folk Tales 14. News and Events 15. Review- Final test						
テキスト・教材（参考文献含む）	Living Grammar Atsuko Yamamoto Seibido 978-4-7919-7227-2						
事前・事後学習	In addition to homework assignments， after each class spend 60 minutes reviewing handouts， textbook exercises and videos. Students should also spend about 30 minutes reading ahead in the text for the next lesson.						
成績評価方法	学習態度　30% 課題・小テスト　30% Speaking tests (2)　20% 定期試験　20% 授業中もしくは授業後に寄せられた質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。						
授業内の課題・提出方法	担当教員の指示に従ってください。詳細はガイダンス（第1講）及び課題などの提示時に説明します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	必要の都度、各学生またはクラス全体への講評としてフィードバックします。詳細はガイダンス（第1講）及び課題などの提示時に説明します。						
担当者から一言	対面授業を予定しています。しかし、新型コロナウイルスの感染状況によって、担当教員の判断でオンデマンド型授業に変えることがあります。 1. 5回以上欠席すると単位がもらえない。 ２．履修者が18名を超えた場合は抽選となります。 ３．テキストがないと欠席扱いになります。						

授業科目名	公務のための論文・面接			科目コード	172210	授業コード	412304
担当教員	小林　慶太郎			科目ナンバリング	GSPO1010		
配当年次	4	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	わたしたちが、役所の人（公務員）に何かをして貰おうとする時、それはどのように伝えられ、どのように進められるのでしょう。どのように伝えれば、間違いが生じにくいのでしょうか。 この授業では、こうした地域で公務につく際に必要となってくるコミュニケーションスキルについて、学生諸君が、実際に小論文を書いたり面接の練習をしたりしながら身につけていくことを、ねらいとしています。将来、公務員になろうと考えている学生にとっては、特に役に立つ演習になるはずですから、必ず受講するよう強くお勧めします。						
到達目標	市役所・警察・消防等の公務員採用試験の論文や面接試験を、確実にクリアできる程度のスキルを身につけることが、この授業の到達目標です。						
授業計画	第１講　ガイダンス：この授業の進め方 第２講　文章の書き方（実習） 第３講　面接の心構え（実習） 第４講　論文のテーマ（実習） 第５講　面接の態度（実習） 第６講　論文の構成（実習） 第７講　面接での性格ＰＲ（実習） 第８講　論文の文体（実習） 第９講　面接での志望動機（実習） 第10講　論文の論旨（実習） 第11講　面接での経験ＰＲ（実習） 第12講　論文の論拠（実習） 第13講　集団面接での受け答え（実習） 第14講　論文のまとめ方（実習） 第15講　集団討論（実習） ※ 新型コロナウイルスの感染拡大の状況によっては、変更になる場合があります。						
テキスト・教材（参考文献含む）	テキストは使いません（必要に応じてプリントを配布する場合があります）						
事前・事後学習	毎回宿題を課しますので、必ずやってきてください（60分）。なお、より良い論文や面接への応答のためにも、出来るだけ、日頃から、テレビや新聞のニュースに目を通し、社会に広く目を向けることを心掛けてください（毎日20分以上）。						
成績評価方法	無断欠席者には原則として単位を与えません。成績は次のような配分により評価します。 ・課題等への取り組み状況：45% ・講義時に指示する宿題の提出状況：30% ・受講態度：25%						
授業内の課題・提出方法	宿題は授業の冒頭で提出してもらいます。 また、授業中にも、口頭で応える課題や書いてもらう課題を課します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	口頭での課題に対しては、その場で適宜指導します。 文書で提出された課題・宿題は、毎回添削して返却します。						
担当者から一言	この講義は、公務員試験に間に合うよう、６月上旬までの期間に集中して週２回実施します。履修の際には注意してください。なお、履修する以上は、真剣な態度で受講して下さい。						

授業科目名	ビジネスマナー			科目コード	172301	授業コード	415601
担当教員	長野　ゆき子			科目ナンバリング	GSHM1001		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	本講義は、ビジネスマナーの初歩を学びます。 ビジネスマナーは一つのスキルではありますが、その本質は人間関係です。 そこでまずは、日常の良好な人間関係をどう作っていくかを学びます。 そのうえで、一般的なマナーを学びます。表現には、言葉（言語）以外に、身振り・手振りといった非言語コミュニケーションも含まれます。 この応用としてビジネスマナーがあります。 職場内やお客様との間でのさまざまなシーンを想定して、ビジネスマナーの基本を学びます。 講師は、実務経験者で企業向けに学外講師を務めている方です。						
到達目標	社会人としてのビジネスマナーを実践的に学ぶことです。 ①　人間関係づくりを学ぶこと。 ②　一般的なマナー（言語・非言語）を習得すること。 ③シーンごとのビジネスマナーの基礎を習得すること。						
授業計画	①　９／２９　ガイダンス人間関係づくり①　チームワークと価値交流 ②　１０／６　人間関係づくり②　コミュニケーションとは ③　１０／１３　人間関係づくり③　パフォーマンス学 ④　１０／２０　人間関係づくり④-１　話し方・聞き方・考え方 ⑤　１０／２７　人間関係づくり④-２　話し方・聞き方・考え方 ⑥　１１／３　一般的なマナー①-１　敬語 ⑦　１１／１０　一般的なマナー①-２　敬語 ⑧　１１／１７　一般的なマナー②-１　表情・声・身体表現 ⑨　１１／２４　一般的なマナー②-２　表情・声・身体表現 ⑩　１２／１　ビジネスマナー①　職場のルール・報連相 ⑪　１２／８　ビジネスマナー②　受付・案内・席次・訪問時のマナー ⑫　１２／１５　ビジネスマナー③　一般文書とビジネス文書 （メールと書類の書き方の違、封筒の書き方） ⑬　12／２２　ビジネスマナー④　プレゼンテーション（グループワーク・発表） ⑭　１／１２　ビジネスマナー⑤　クレーム応対（グループワーク・発表） ケーススタディ（場面に応じた対応） ⑮　１／１９　ビジネスマナー　総まとめ						
テキスト・教材（参考文献含む）	テキストは以下を使用するので購入すること（購入方法は講義中に別途指示します）。 有限会社幸プランニング発行 『コミュニケーション＆マナー』～自己表現を身につけコミュニケーションを磨く～ １９８０円。						
事前・事後学習	予習：毎回テキストをあらかじめ読んでおくこと。 復習：毎回の授業で学んだ技術、振り返りの小テストを事後学習すること。 留学生はNI向けの問題集や参考書などで語彙や文法を身に付けておくことが望ましいです。						
成績評価方法	定期試験５０％　参加態度および小テスト５０％。 小テストは講義の振り返りとして課します。 また、次回の講義で前回の内容を振り返ります。						
授業内の課題・提出方法	講義の最後に、講義内容の重点事項を理解度確認のため、小テストをします。 解答を明示し解説した後、丸つけ採点をし、小テスト用紙を講義終了後に回収します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	次回講義の始めに、前回講義内容・小テスト内容の振り返り授業をして 理解度・定着度を確認します。						
担当者から一言	ビジネスマナーは、社会で生きていくための必須の資質です。 授業は、外部講師による実践的な講義です。 「学生時代に先んじてビジネスマナーを学びたい」と思う学生は、意欲的に是非受講してください。						

授業科目名	サービス経営論			科目コード	172302	授業コード	411408
担当教員	岡　良浩			科目ナンバリング	GSHM1002		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	この講義はサービス業を念頭においた経営の基礎を学びます。 　日本では、経済に占めるサービス業の割合が年々増加しておりGDPの３／４を占めると言われています。サービス業は、製造業と違って、形のない扱いにくい性質を価値として販売するため、仕組み自体が製造業とは異なります。 　本講義では、このようなサービスの経営学を総合的に学びます。また社会人の考え方の基礎としての「７つの習慣」についても副読します。サービス業に関わらず社会人に求められる資質を理解し習慣づけることを目指します。						
到達目標	以下の2つを目標とします。 １．サービス業の特徴や経営の特徴を理解すること。 ２．サービス業を含めた社会人に求められる資質を理解し、習慣づけることを行うこと。						
授業計画	第1回　ガイダンス／７つの習慣①インサイド・アウト 第2回　サービス業の産業構造と経営的特徴 第３回　７つの習慣②主体的である 第４回　サービス業の事例（１）リッツカールトン 第５回　７つの習慣③終わりを思い描くことからはじめる 第６回　サービスの事例（２）クロネコヤマト 第７回　７つの習慣④最優先事項を優先する 第８回　サービスの事例（３）TESSEN（新幹線清掃チーム） 第９回　７つの習慣⑤WIN-WINを考える 第１０回　ものづくりの３S、サービスのQSC 第１１回　７つの習慣⑥まず理解に徹しそして理解される 第１２回　サービス・マーケティング 第１３回　７つの習慣⑦シナジーを創り出す 第１４回　IT・ロボットとサービス 第１５回　まとめ／７つの習慣⑧刃を研ぐ						
テキスト・教材（参考文献含む）	副読書（７つの習慣）は、冊子としてお渡しします。 その他は特にテキストは使用しません。必要に応じて資料を配布します。						
事前・事後学習	予習：資料を読んで理解しておくこと（90分） 復習：小レポートの実施（90分）						
成績評価方法	授業への参加態度（含む講義中の小レポート）40% 期末試験 60%						
授業内の課題・提出方法	講義中の小レポートは以下のように毎回課します。教学ポストに提出いただきます。 1.講義の回：キーワードとコメントの提出 2.７つの習慣の回：習慣の意味と自分の振り返り						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出された小レポートは講義中に講評しコメントをつけて返却します。						
担当者から一言	特にありません。						

授業科目名	販売士講座			科目コード	172303	授業コード	414103
担当教員	山川　和美			科目ナンバリング	GSHM1003		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	消費者ニーズが多様化・個性化しています。“消費者が何を求めているのか”ということを、流通業界ではあらゆる手段を用いて模索しています。このような時代にあって注目されているのが流通業界で唯一の公的資格「リテールマーケティング（販売士）」です。 この知識・スキルは流通・小売業界で活躍したい人は大変役立ちます。もちろん多様な分野にも活用出来ます。私達にとって親しみのあるコンビニエンスストアなど題材に、お店の売れる仕組みや、マーケティング、店舗運営、売場づくりなど幅広くビジネスの基礎を学びます。						
到達目標	目標は以下の3点です。 ● 流通業界（小売・卸売業）の知識・スキルの基礎を理解する。 ● 店舗の売上・利益が上がる仕組みを理解する。 ● 店舗側の視点で考えることができる人材を目指す。						
授業計画	第１講　ガイダンス　講義の概要 第２講　ストアオペレーションのポイント① 第３講　ストアオペレーションのポイント② 第４講　ストアオペレーションのポイント③ 第５講　小売業の類型のポイント① 第６講　小売業の類型のポイント② 第７講　小売業の類型のポイント③ 第８講　マーチャンダイジングのポイント① 第９講　マーチャンダイジングのポイント② 第10講　販売・経営管理のポイント① 第11講　販売・経営管理のポイント② 第12講　販売・経営管理のポイント③ 第13講　リテールマーケティングのポイント① 第14講　リテールマーケティングのポイント② 第15講　まとめ 定期試験						
テキスト・教材（参考文献含む）	なし（必要に応じてプリントを配布します） 【参考文献】日本商工会議所・全国商工会連合会編「販売士３級ハンドブック（２冊セット）」カリアック（2019年）						
事前・事後学習	予習：日頃からテレビや新聞など小売業界に関連したニュースに目を通す。（１日15分） 復習：学んだ内容を復習し、ショッピングセンターやコンビニエンスストアなどに出かけた時に授業の検証に心がけること。（90分）						
成績評価方法	成績は次のような配分により評価します。 ・課題60点、定期試験40点						
授業内の課題・提出方法	課題：毎回の講義で簡単な課題を提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題・提出物は返却しませんが、内容について取りまとめ、適宜授業でフィードバックします。						
担当者から一言	店舗経営の視点でお店の見方が変わり買物が楽しくなりますよ。						

授業科目名	ビジネスコミュニケーション			科目コード	172304	授業コード	412401
担当教員	長野　ゆき子			科目ナンバリング	GSHM1004		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	本科目では、ビジネスコミュニケーションの上級者をめざして、さまざまな技術を実践的に学んでいただきます。 経済産業省は「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的力」として「社会人基礎力」を2006年に提唱しました。社会人基礎力とは「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」の3つの能力（12の能力要素）です。 企業人となるためにはこの社会人基礎力が求められます。 講義では、とりわけ対顧客を意識した接客技術・説明力・説得力・プレゼンテーションに重点を置いた内容となります。 実務経験者で学外の企業研修講師の多彩な話から、企業人としてのコミュニケーションを実践的に学んでいただきます。						
到達目標	コミュニケーションスキルを実践的に学び 社会で生きるための土台であり必要不可決である「人間関係作りの基本」を身に付けます。						
授業計画	①　４／１１　ガイダンス ②　４／１８　接遇マナー「おもてなし」　「おもてなしとマナーの違い」 ③　４／２５　パフォーマンス学　場と関わりの自己表現 ④　５／９　おもてなしの接客技術①　第一印象 ⑤　５／１６　おもてなしの接客技術②　接客力 ⑥　５／２３　おもてなしの接客技術③　電話・レター・メール ⑦　５／３０　おもてなしの接客技術④　社会的ルールとモラル 「コンプライアンス・リスク管理」 ⑧　６／６　コミュニケーションスキル①　心理学TA ⑨　６／１３　コミュニケーションスキル②　アサーション ⑩　６／２０　コミュニケーションスキル③　コーチングの基本 ⑪　６／２７　ビジネススキル①　説明力・説得力 ⑫　７／４　ビジネススキル②　合意形成 ⑬　７／１１　ビジネススキル③　プレゼンテーションⅠ ⑭　７／１８　ビジネススキル④　プレゼンテーションⅡ ⑮　７／２５　総復習　おもてなしの取り組みとは						
テキスト・教材（参考文献含む）	講義資料・プリントを配ります。また、参考図書として、有限会社幸プランニング発行『コミュニケーション＆マナー』～自己表現を身につけコミュニケーションを磨く～1，980円を購入することが望ましいです。						
事前・事後学習	予習：次回の講義内容について出された課題を調べておくことです。 復習：毎回の授業で学んだ技術と振り返りの小テストを事後学習することです。						
成績評価方法	定期試験５０％　参加態度および小テスト５０％。 小テストは、講義の振り返りとして課します。 また、次回の講義で前回の内容を振り返ります。						
授業内の課題・提出方法	講義の最後に、講義内容の重点事項を理解度確認のため、小テストをします。 解答を明示し解説した後、丸つけ採点をし、小テスト用紙を講義終了後に回収します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	次回講義の始めに、前回講義内容・小テスト内容の振り返り授業をして 理解度・定着度を確認します。						
担当者から一言	この授業は、外部講師による実践的なコミュニケーション技術を学びます。 オペレーション演習を受講する前提となります。意欲的な学生を期待します。 「ビジネスマナー」を先行して履修していることが望ましいです（必須ではありません）。						

授業科目名	グローバルコミュニケーション			科目コード	172305	授業コード	411503
担当教員	富田　与			科目ナンバリング	GSHM1005		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	この講義では、「遠く」に住む人あるいは「遠く」から来た人と、自分の「近く」でコミュニケーションを行うための考え方を見ていきます。ここで「遠く」、「近く」というのは必ずしも空間的距離の問題だけではなく、価値観、生活様式、宗教など生活世界を構成する様々な局面での距離感も含まれます。文化人類学の考え方を手掛かりに、他者との対話を継続していくための方策を考えていきたいと思います。						
到達目標	文化人類学の理論を対話の実践に応用する能力を身に付ける。						
授業計画	第1講：ガイダンス、コミュニケーションとは 第2講：自然と知識 第3講：技術と環境 第4講：呪術と科学 第5講：現実と異世界 第6講：モノと芸術 第7講：贈り物と負債 第8講：貨幣と信用 第9講：国家とグローバリゼーション 第10講：戦争と平和 第11講：子どもと大人 第12講：親族と名前 第13講：ケアと共同性 第14講：市民社会と政治 第15講：まとめ						
テキスト・教材（参考文献含む）	『文化人類学の思考法』（村松圭一郎、中川理、石井美保編）世界思想社　1800円						
事前・事後学習	毎回、予習用の課題を出すのでテキストに従って課題を作成してください。（180分）						
成績評価方法	講義への参加度（発言等）：30% 講義期間中のレポート：30% 最終レポート：40%						
授業内の課題・提出方法	講義期間中の予習課題は、講義中に指名して発表してもらうのでいつでも発表できるように準備しておいてください。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	講義内での発表にその都度コメントします。指名時に発表の準備ができていない場合は、その時間は欠席扱いとします。						
担当者から一言	コミュニケーション技術の発達は、お互いの理解促進よりむしろ対立の顕在化を引き起こしているように見えます。技術では克服しにくい距離感の存在とそれへの対応を考えてみましょう。						

授業科目名	オペレーション演習			科目コード	172306	授業コード	416101
担当教員	永井　博、川崎　綾子、岡　良浩			科目ナンバリング	GSHM1006		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	サービス業の中心となる技術である接客技術を、現地研修を通して身につけることが本講義のねらいである。ホテルや旅館などの宿泊施設、土産物店やレストランなどの物販・飲食店、その他の観光関連事業は接客が仕事の最前線である。客から言えば、接客に当たる店員の「おもてなし」の態度・印象、それを支える知識や技術がその店のすべてであると言っても過言ではない。その技術は座学だけではすべてを身につけることはできない。実際にホテル・土産物店・レストランなどの現場の業務を体験しながらノウハウを身につけてもらう。						
到達目標	サービス業の中心である接客技術を身につけることが目標である。						
授業計画	受け入れ先企業において、夏季休暇中に15コマ相当の研修を行う。 前期授業期間中に事前説明会を行い、受け入れ企業を決定する。受講を希望する学生は事前説明会に必ず出席すること。 受け入れ企業が決まるまで夏季休暇中の予定を空けておくこと。（受け入れ先の調整に当たっては学生の私的な都合は考慮しない。） 参考までに、2022年度の受け入れ企業とそれぞれの実習期間をあげておく。 伊勢忍者キングダム（８月11日～８月15日／８月16日～８月20日） 鳥羽国際ホテル（８月11日～８月15日／８月18日～８月22日／８月25日～８月29日／９月１日～９月５日） 戸田家（８月18日～８月22日） 志摩スペイン村（８月25日～８月29日） 鳥羽わんわんパラダイスホテル（８月25日～８月29日） 鳥羽シーサイドホテル（８月27日～８月31日）						
テキスト・教材（参考文献含む）	大学からは特になし。受け入れ先企業から資料が配布される場合がある。						
事前・事後学習	２年生前期の「ビジネスコミュニケーション」を履修していないと受講できません。（同時履修は可能） 予習：上記「ビジネスコミュニケーション」で学習した接客技術の基礎事項を復習しておくこと。（90分相当） 復習：研修内容を整理すること。（90分相当）						
成績評価方法	研修の態度70%、課題レポート30%。必要に応じてフィードバックします。						
授業内の課題・提出方法	実習中に実習先の指導担当者あての「日報」を提出する。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	実習先の指導者から「日報」にフィードバック・コメントがある。						
担当者から一言	研修だが客からは企業の業務である。社会人の自覚をもって臨むこと。説明会に欠席、遅刻の場合、頭髪や服装に問題がある場合、日本語能力が著しく不足する留学生は参加させないことがある。コロナで緊急事態宣言などが出た場合には予定変更もある。９月卒業予定者は実習終了前に卒業になることがあるので履修できない。						

授業科目名	ビジネスマネジメント			科目コード	172307	授業コード	411305
担当教員	奥原　貴士、岩崎　祐子			科目ナンバリング	GSHM1007		
配当年次	3	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	本講義の第2講～第6講（担当：岩崎）は、企業側の立場からみたコーポレートファイナンス（企業の資金調達）の基礎を学びます。 次に、ビジネスをマネジメントするには企業の会計情報を利用する知識が必要になります。そこで本講義の後半 (第7講～第15講、担当：奥原) では、企業の売上高・純利益などの会計情報を用いて、企業の収益性・安全性・生産性・不確実性などの経営分析を行う方法について学習します。そして、これら経営分析の結果と株価との関係についても調査します。						
到達目標	・コーポレートファイナンスの基本を理解する ・経営分析の方法を理解する。 ・企業の会計情報を使用して経営分析を行うことができる。 ・経営分析の結果と株価との関係を考察できる。						
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講　企業の資金構成 第3講　コーポレートファイナンスの実際 第4講　銀行の役割と課題 第5講　外部講師（企業経営者）による講義 第6講　中間試験 第7講　経営分析の視点と方法 第8講　収益性の分析 第9講　収益性の分析 第10講　収益性の分析 第11講　安全性の分析 第12講　安全性の分析 第13講　安全性の分析 第14講 生産性の分析 第15講 不確実性の分析 定期試験						
テキスト・教材（参考文献含む）	講義資料は毎回プリントを配布する。 (参考文献) 桜井久勝『財務諸表分析』中央経済社。						
事前・事後学習	事前：新聞や雑誌などを読んで、企業経営について学ぶ（90分） 事後：授業の復習と関連情報の収集（90分） 普段から新聞や雑誌などを読んで、この企業の経営はうまくいってそうだ、こっちの企業は倒産の危険があるんじゃないか、というように企業の経営状態に関心をもつようにしてください。						
成績評価方法	平常点 (授業への積極的な参加、授業内レポートなど) 40% 中間試験20% 授業内レポート (第7講～第15講の間に行う) 定期試験40%						
授業内の課題・提出方法	適宜指示します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	レポートなど課題は適宜コメントをします。						
担当者から一言	本講義で学習する経営分析の知識は社会に出てから自社やライバル企業の経営状態を分析する際に不可欠です。すなわち、ビジネスの世界で活躍するために必要な知識です。 進捗により各テーマの講義回数を変更する可能性があります。						

授業科目名	マーケティング演習			科目コード	172308	授業コード	411806
担当教員	岡　良浩、岩崎　祐子			科目ナンバリング	GSHM1008		
配当年次	3	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	この科目では、マーケティングに必要なスキルを実践的に学びます。 マーケティングとは、「顧客のニーズに合ったものを、最適な形で提供される市場を作り出すための活動」のことを言います。その内容は様々ありますが、「顧客のニーズは何か」が起点となります。その意味で、マーケティング＝市場調査と思っても良いでしょう。 ここではMicrosoft Formを用いて、アンケート調査と集計を体験します。単純集計・クロス集計や報告書作成を演習します。 この体験を踏まえて、実際の企業を想定した市場調査を考えていただきます。						
到達目標	到達目標は以下の３点です。 ①市場調査の一連の技法を身につけること （調査票設計→配布→回収→集計・分析→提案） ②市場調査の分析結果を発表する能力を身につけること ③実際の企業を想定した市場調査を企画できる能力をつけること						
授業計画	第1回　ガイダンス 第2回　マーケティングと市場調査の基礎理解 第3回　Microsoft Formsの使い方 第4回　Microsoft Formsによるアンケートの設計と回答 第5回　エクセルを使った単純集計 第6回　エクセルを使ったクロス集計 第7回　報告書の作成 第8回　仮設を設定した市場調査の設計 第9回　市場調査の実施 第10回　市場調査の集計 第11回　報告書の作成 第12回　報告書の確認 第13回　報告書の発表 第14回　市場調査の実際 第15回　まとめ						
テキスト・教材（参考文献含む）	テキストは特に指定せず、毎回Moodle上に資料を提示します。						
事前・事後学習	予習：配付資料をあらかじめ読んでおくこと。(90分) 復習：学んだ技法を復習し、身につけておくこと。(90分)						
成績評価方法	毎回の課題提出　30% 報告書および発表　40% 定期試験（レポート試験）30%						
授業内の課題・提出方法	毎回、Moodle内で課題を課し提出いただきます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出された課題は、授業内で適宜参照し、コメントします。 その都度、理解度を確認しながらすすめます。						
担当者から一言	原則、コンピュータ室で演習を行います。 希望者が多数の場合は抽選になることがあります。 欠席すると課題がわからなくなるので、欠席しないでください。						

授業科目名	おもてなし特別講義ａ			科目コード	172309	授業コード	413406
担当教員	岩崎　祐子、岡　良浩			科目ナンバリング	GSHM1009		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	本講義は、サステナブル経営企業の成功事例を、総合的に理解することを目的とする。おもてなし経営が成功しているのは、個々の技術要素というより、総合力が勝っているからだと思われる。このような総合力を見ることがこの講義のねらいである。 企業においては、経営理念や事業目標がどのように企業内に反映されているか、そのポイントはどこにあるかなど、三重県内の経営者層を招聘して伺う。						
到達目標	・サステナブル経営の成功事例を理解する。 ・成功事例から、成功の要因や他事業への応用（普遍化）を考察する。						
授業計画	第1回　ガイダンス 第2回　サステナブル経営とは 第3回　外部講師による講義 第4回　外部講師（企業経営者）による講義 第5回　外部講師（企業経営者）による講義 第6回　外部講師（企業経営者）による講義 第7回　授業中レポート 第8回　外部講師（企業経営者）による講義 第9回　外部講師（企業経営者）による講義 第10回　外部講師（企業経営者）による講義 第11回　授業中レポート 第12回　外部講師（企業経営者）による講義 第13回　外部講師（企業経営者）による講義 第14回　企業レポート作成 第15回　企業レポート発表（プレゼンテーション） 定期試験 第4-6，8-10，12，13回　グループワーク、第15回　プレゼンテーション ※日程は変更する可能性があります。 ※外部講師の講演企業・日程などの詳細は、第1回ガイダンス時に配布します。						
テキスト・教材（参考文献含む）	テキストは使用せず、毎回、資料を配付します。 参照資料として三重県「三重のサステナブル経営アワード」のホームページを参照してください。						
事前・事後学習	日頃から、企業経営、サステナブル経営に関するニュースに目を通すようにして下さい（30分、週3日以上）。授業内容を復習して、さらに他の事例研究もおこなってください（90分）。						
成績評価方法	授業中に作成するレポート（40%）、グループワーク・発表（30%）、定期試験（30%）により評価します。						
授業内の課題・提出方法	授業中にレポートを作成します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業時に提出した課題については、コメントをつけて返却します。						
担当者から一言	ビジネスマナーを重視します。経営者とコミュニケーションをとるため、講演後はグループワークを行ない、経営者に向けて発表を行ないます。多くの経営者との出会いは、これから社会に出る学生にとっていい経験になりますし、就職活動にも役立ちます。						

授業科目名	おもてなし特別講義 b			科目コード	172310	授業コード	414802
担当教員	池田　幹男、岩崎　祐子、岡　良浩			科目ナンバリング	GSHM1010		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	様々な情報技術を使用した「おもてなし」サービスの効率化について理解します。また、最後に応用としてデジタルサイネージ向けの短い広告を作成します。						
到達目標	情報技術を利用したサービス産業の効率化について理解する。 PowerPoint を利用した短い広告作成を通じて、情報技術のサービス業での応用実践につなげる。						
授業計画	第１講 ガイダンス 第２講 「おもてなし」と情報技術 第３講 おもてなしとロボット 第４講 おもてなしサービスの事例研究(へんなホテルを中心として) 第５講 観光資源としてのロボット 第６講 インターネットとクラウドシステム 第７講 キャッシュレス決済 第８講 ビッグデータ 第９講 AI（音声合成、音声認識） 第10講 AI（対話システム、翻訳、ディープラーニング） 第11講 デジタルサイネージ 第12講 サイネージ向けコンテンツ作成(1) 第13講 サイネージ向けコンテンツ作成(2) 第14講 サイネージ向けコンテンツ作成(3) 第15講 フリーディスカッション						
テキスト・教材（参考文献含む）	教材は、教育支援システム （Moodle） を通じて呈示します。						
事前・事後学習	観光産業を中心としたサービス産業や、人工知能・クラウド・ロボットなどの情報通信技術に関するニュースや情報を日常的に調査してください。（毎日30分）						
成績評価方法	授業態度30%、 教育支援システムを通じたノート提出やディスカッション 30%、 最終レポート40%で採点します。定期試験は実施しません。						
授業内の課題・提出方法	教育支援システム(Moodle)でディスカッションを行い、課題、レポートを提出します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	教育支援システム（Moodle）を通じてフィードバックします。						
担当者から一言	この授業は単なる教員が行う講義ではなくて、皆さんが自ら参加する形式で進めていきます。授業中や教育支援システムを通じたフリーディスカッションへの積極的な参加や発言を期待しています。						

授業科目名	観光英語Ⅰ			科目コード	172401	授業コード	411303
担当教員	ゴードン　リース			科目ナンバリング	GSET1001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	Students will do listening and conversation activities to prepare for travel abroad. This will be a challenging class and recommended for serious intermediate level students. この講座は1年生から参加できますが、英語のレベルは高く感じるかもしれません。『基礎英語I・II』と『英語コミュニケーションI・II』を受けてからこの講座をお勧めします。						
到達目標	The main goal of this class is to prepare students for travel abroad experiences， as well as for work in the travel and hospitality industry.						
授業計画	1. Course introduction/Guidance 2. Travel 3. Travel 4. Jobs and People 5. Jobs and People 6. Getting on the Plane 7. Getting on the Plane 8. At Immigration and Customs 9. At Immigration and Customs 10. At the Airport 11. At the Airport 12. Hotel (Accommodations) 13. Hotel (Accommodations) 14. Final presentation preparation 15. Final presentation- 定期試験						
テキスト・教材（参考文献含む）	English for Tourism- Basic 観光英検センター Sanshusha 9784384334371 2，200 yen						
事前・事後学習	Students are expected to spend time on both written homework (about 60 minutes) and previewing the following lesson in the textbook (30 minutes).						
成績評価方法	Homework/quizzes 30% Speaking tests 20% Final presentation 20% 学習態度 30% テキストがないと欠席扱いになります。 5回以上欠席すると単位なし。						
授業内の課題・提出方法	担当教員の指示に従ってください。　詳細はガイダンス（第1講）及び課題などの提示時に説明します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	必要の都度、各学生またはクラス全体への講評としてフィードバックします。詳細はガイダンス（第1講）及び課題などの提示時に説明します。						
担当者から一言	この科目は本気で英語を取得したい学生の為にあります。授業の内容は容易ではありません。成績評価も厳格にいたします。対面授業を予定している。しかし、新型コロナウイルスの感染状況によって、担当教員の判断でオンデマンド型授業に変えることがある。履修者が18名を超えた場合は抽選あり。						

授業科目名	観光英語Ⅱ			科目コード	172402	授業コード	411711
担当教員	ゴードン　リース			科目ナンバリング	GSET1002		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	This course is a continuation of 観光英語 I. However， while 観光英語 I is concerned with English used when traveling abroad， 観光英語 II focuses on "hospitality" English， or English that is used to describe Japanese culture and life in Japan to foreign travelers。						
到達目標	1. 英語の聴解力と話す力を高める。 2. 英語の語彙を増やす。 3. 観光英語の知識を身に付けるとともに，日本文化をより深く理解する。						
授業計画	1. Course introduction/guidance 2. Restaurant（Breakfast and Fast Food） 3. Restaurant（Breakfast and Fast Food） 4. Sightseeing 5. Sightseeing 6. Shopping 7. Shopping 8. Transportation 9. Transportation 10. Problems and Complaints 11. Problems and Complaints 12. Traveling in Japan 13. World Heritage Site- presentation preparation 14. World Heritage Site- presentation preparation 15. World Heritage Site- student presentations (Submit report on World Heritage Site)						
テキスト・教材（参考文献含む）	English for Tourism- Basic 観光英検センター Sanshusha 9784384334371 2，200 yen						
事前・事後学習	After each class， spend 60 minutes reviewing the class handouts and textbook exercises we covered in the lesson. Then spend about 30 minutes reading ahead and preparing for the following class.						
成績評価方法	World Heritage Site- presentation 20% Homework/quizzes 30% Speaking tests 20% 学習態度						
授業内の課題・提出方法	担当教員の指示に従ってください。詳細はガイダンス（第1講）及び課題などの提示時に説明します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	必要の都度、各学生またはクラス全体への講評としてフィードバックします。詳細はガイダンス（第1講）及び課題などの提示時に説明します。						
担当者から一言	この科目は本気で英語を取得したい学生の為にあります。授業の内容は容易ではありません。対面授業を予定している。しかし、新型コロナウイルスの感染状況によって、担当教員の判断でオンデマンド型授業に変えることがある。 １。履修者が18名を超えた場合は抽選あり。 ２。テキストがないと欠席扱いになります。						

授業科目名	コンピュータ英語Ⅰ			科目コード	172403	授業コード	413205
担当教員	柴田　啓文			科目ナンバリング	GSET1003		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	コンピュータやインターネットに関わる英語の基礎を広く学びます。 それぞれの授業は、はじめに英文ニュース（BBC NewsかAljazeera）を読み、次にその日のテーマを学びます。 AIチャットボット（予定）と担当者が、英語だけではなく、ExcelやPythonおよび、各テーマの理解と学習を支援します。						
到達目標	1.英文ニュースを理解する基礎力をやしないます。 2.ExcelやPythonを英語で学ぶ基礎力をやしないます。 3.画像処理に関わる英語の基礎力をやしないます。 4.インターネット上の英語動画を聞き取るための英語力の基礎をやしないます。 5.インターネット上の英語情報を利用した自己学習の方法をやしないます						
授業計画	第１回 ガイダンス：授業の内容と評価の説明、教育支援システムの利用法 第２回 ニュースの英語の基礎（以降毎回）、翻訳サイトと英語辞書の使用法 第３回 ChatGPT（予定）の英語の基礎：使用法と会話法 第４回 Excelの英語の基礎：簡単な計算 第５回 Pythonの英語の基礎：Google Colaboratoryの使用法 第６回 プログラムを独学するための英語の基礎。 第７回 データ処理の英語の基礎：Pythonの使用法 第８回 写真処理の英語の基礎：GIMPの基礎 第９回 写真処理の英語の基礎：GIMPによる写真の処理 第10回 イラスト作成の英語の基礎：Inkscapeの基礎 第11回 イラスト作成の英語の基礎：Inkscapeによるイラスト作成 第12回 暗号通貨や株の英語の基礎 第13回 プログラムの英語の基礎：エディターの使用法 第14回 プログラムの英語の基礎：Python、JavaScript、Rustの比較 第15回まとめ						
テキスト・教材（参考文献含む）	テキスト 使用しません。インターネット上の英文を読みます。						
事前・事後学習	ニュース、映画、音楽、スポーツ、プログラム、英語など、関心のある話題の英文、動画を毎日30分学んでください。						
成績評価方法	成績評価方法 平常点50%と学期末試験50%により評価します。平常点は、毎回のノート（主にExcel）の提出や小テストなどによります。						
授業内の課題・提出方法	授業ノートや小テストやフォーラムは教育支援システムを利用します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	すべて教育システムのコースのGrades、あるいはForumに表示します。						
担当者から一言	各回の内容を見ると難しそうに感じるかもしれませんが、基礎から学びますので、事前にプログラムやExcelの知識は必要ありません。また、特別な英語の知識も必要ありません。						

授業科目名	コンピュータ英語Ⅱ			科目コード	172404	授業コード	413605
担当教員	柴田　啓文			科目ナンバリング	GSET1004		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	コンピュータやインターネットに関わる英語を広く学びます。 それぞれの授業は、はじめに英文ニュース（BBC NewsかAljazeera）を読み、次にその日のテーマを学びます。 AIチャットボット（予定）と担当者が、英語だけではなく、ExcelやPythonおよび、各テーマの理解と学習を支援します。						
到達目標	1.英文ニュースを理解する力をやしないます。 2.ExcelやPythonを英語で学ぶ力をやしないます。 3.画像処理に関わる英語の力をやしないます。 4.インターネット上の英語動画を聞き取るための英語力をやしないます。 5.インターネット上の英語情報を利用した自己学習の方法をやしないます。						
授業計画	第１回 ガイダンス：授業の内容と評価の説明、教育支援システムの利用法 第２回 ニュースの英語（以降毎回）、翻訳サイトと英語辞書の使用法 第３回 ChatGPT（予定）の英語：使用法と会話法 第４回 Excelの英語：計算 第５回 Pythonの英語：Google Colaboratoryの使用法 第６回 プログラムを独学するための英語。 第７回 データ処理の英語：Pythonの使用法 第８回 写真処理の英語：GIMPの基礎 第９回 写真処理の英語：GIMPによる写真の処理 第10回 イラスト作成の英語：Inkscapeの基礎 第11回 イラスト作成の英語：Inkscapeによるイラスト作成 第12回 暗号通貨や株の英語 第13回 プログラムの英語：エディターの使用法 第14回 プログラムの英語：Python、JavaScript、Rustの比較 第15回まとめ						
テキスト・教材（参考文献含む）	使用しません。インターネット上の英文を読みます。						
事前・事後学習	ニュース、映画、音楽、スポーツ、プログラム、英語など、関心のある話題の英文、動画を毎日30分学んでください。						
成績評価方法	平常点50%と学期末試験50%により評価します。平常点は、毎回のノート（主にExcel）の提出や小テストなどによります。						
授業内の課題・提出方法	授業ノートや小テストやフォーラムは教育支援システムを利用します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	教育システムのコースのGradesおよびForumに表示します。						
担当者から一言	各回の内容を見ると難しそうに感じるかもしれませんが、基礎から学びますので、事前にプログラムやExcelの知識は必要ありません。また、特別な英語の知識も必要ありません。						

授業科目名	英語表現Ⅰ			科目コード	172405	授業コード	414101
担当教員	ゴードン　リース			科目ナンバリング	GSET1005		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	パフォーマンスやプレゼンテーションを通じて、学生の英語コミュニケー ション能力の向上を図る事がこの講座の狙いです。 In this course we will work on improving our English presentation and performance skills. We will use a textbook. Students will be expected to make short presentations in English.						
到達目標	1. 英語の聴解力と話す力を高める。 2. 英語の語彙を増やす。 3. 人の前で英語で話す自信を身につける。						
授業計画	1. Guidance/ Radio Thriller 2. Radio Thriller- Group performance 3. Presentation Structure 4. Presentation Skills 5. Slow Food 6. Slow Food 7. Slow Food- group presentation 8. How to arrange a presentation setting 9. Listing 10. Listing 11. My Favorite Restaurant 12. My Favorite Restaurant 13. Classification 14. Classification 15. Final presentation- 定期試験						
テキスト・教材（参考文献含む）	Winning Presentations Akira Morita Seibido 2，750 yen 978-4791934249						
事前・事後学習	In addition to any homework assignments， after each class try to spend about 60 minutes reviewing the class handouts and textbook exercises that were covered in the lesson. In addition， try and spend about 30 minutes reading ahead for the following clas						
成績評価方法	学習態度　30% Presentations and performances　30% Homework and quizzes　20% Final presentation　20%						
授業内の課題・提出方法	担当教員の指示に従ってください。詳細はガイダンス（第1講）及び課題などの提示時に説明します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	必要の都度、各学生またはクラス全体への講評としてフィードバックします。詳細はガイダンス（第1講）及び課題などの提示時に説明します。						
担当者から一言	対面授業を予定しています。しかし、新型コロナウイルスの感染状況によって、担当教員の判断でオンデマンド型授業に変えることがあります。ご了承ください。 1. 5回以上欠席すると単位がもらえない。 2. 履修者が18名を超えた場合は抽選となります。 3. テキストがないと欠席扱いになります。						

授業科目名	英語表現Ⅱ			科目コード	172406	授業コード	413802
担当教員	ゴードン　リース			科目ナンバリング	GSET1006		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	This course is a continuation of 「英語表現 I」。パフォーマンスやプレゼンテーションを通じて、学生の英語コミュニケー ション能力の向上を図る事がこの講座の狙いです。 In this course we will work on improving our English presentation and performance skills. We will use a textbook. Students will make short presentations an						
到達目標	1. 英語の聴解力と話す力を高める。 2. 英語の語彙を増やす。 3. 人の前で英語で話す自信を身につける。						
授業計画	1. Course introduction and guidance 2. The Killers- Radio drama 3. The Killers- Radio drama 4. The Killers- Radio drama 5. Final performance- The Killers- Radio drama 6. Process presentation 7. Process presentation 8. Demonstration speech-preparation 9. Demonstration speech-preparation 10. Demonstration speech 11. The War of the Worlds 12. The War of the Worlds 13. Movie review-preparation 14. Movie review-preparation 15. Final presentation- Movie review						
テキスト・教材（参考文献含む）	Winning Presentations Akira Morita Seibido 2，750 yen 978-4791934249						
事前・事後学習	Spend about 60 minutes reviewing the class handouts and textbook exercises covered in the previous class， as well as spend 30 minutes reading aloud and studying the skits introduced in class.						
成績評価方法	学習態度　30% 課題・小テスト　30% Presentations and performances　40%						
授業内の課題・提出方法	クラスの担当教員の指示に従ってください。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	必要の都度、各学生またはクラス全体への講評としてフィードバックします。詳細はガイダンス（第1講）及び課題などの提示時に説明します。						
担当者から一言	対面授業を予定している。しかし、新型コロナウイルスの感染状況によって、担当教員の判断でオンデマンド型授業に変えることがある。 １。5回以上欠席すると単位なし。 2。履修者が18名を超えた場合は抽選あり。 ３。テキストがないと欠席扱いになります。						

授業科目名	ビジネス英語Ⅰ			科目コード	172407	授業コード	412302
担当教員	樋口　晶子			科目ナンバリング	GSET1007		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	基礎的なレベルの英語を使い、実際のビジネスの場で使える表現や対応について学びます。ビジネスやフォーマルな場でのマナーや常識を英語を通して知ることにより、適切な対応とは何かを考えます。						
到達目標	1.　基礎的な英語を使ったフォーマルな表現を学ぶ。 2.　フォーマルな場で、相手を不快にさせない対応について理解する。 3.　自分の意見をアピールし、相手と交渉する手法を学ぶ。 4.　TOEIC(L/R) 450～550点程度に相当する英語力獲得をめざす。						
授業計画	第1講　ガイダンス Introduction、Chapter 1/ 自己紹介・スモールトーク (2-1) 第2講　Chapter 1/ 自己紹介・スモールトーク(2-2) 第3講　Chapter 2/ オフィスの案内 (2-1) 第4講　Chapter 2/ オフィスの案内 (2-2) 第5講　Chapter 3/ 電話表現1 （基本表現・メモの取り方）(2-1) 第6講　Chapter 3/ 電話表現1 （基本表現・メモの取り方）(2-2) 第7講　Chapter 4/ 電話表現2 （予定を決める・予定変更をする）(2-1) 第8講　Chapter 4/ 電話表現2 （予定を決める・予定変更をする） (2-2) 第9講　Chapter 5/ 簡単なスピーチ・プレゼンテーション1 (2-1) 第10講　Chapter 5/ 簡単なスピーチ・プレゼンテーション2 (2-2) 第11講　Chapter 6/ ビジターの来日・旅程の確認 (2-1) 第12講　Chapter 6/ ビジターの来日・旅程の確認 (2-2) 第13講　Chapter 7/ プレゼンテーション2・観光のアドバイス (2-1) 第14講　Chapter 7/ プレゼンテーション2・観光のアドバイス (2-2) 第15講　実践練習（プレゼンテーションまたは電話応対） 定期試験 テキスト以外にも、適宜プリントや動画などを使用し、上記の単元に関連する内容を補足します。						
テキスト・教材（参考文献含む）	テキスト：『Politeness in Business Context』（三修社） 参考文献：英単語学習のための問題集 『英単語の語源図鑑』（かんき出版）、『英検でる順パス単』（旺文社）など自分の好きなものでよいです。 辞書の使用を奨励します。						
事前・事後学習	適宜、課題と小テストを出します。 １　事前学習：小テストの準備と単語学習（３０分）、授業内容の予習（６０分） ２　事後学習：課題と単語学習（３０分）、授業内容の復習（６０分）						
成績評価方法	学習態度・小テスト・課題　５０％ 定期試験　５０％ ※出席率は、「学習態度」に含みます。また、授業中のマナー、積極性は特に重視します。						
授業内の課題・提出方法	課題ごとに、提出方法を説明します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出課題の添削や小テストの結果などについて、必要に応じて、各学生またはクラス全体への講評としてフィードバックします。						
担当者から一言	ビジネスの現場を想定して、大人としての礼儀を守り、まじめに学習に取り組んでください。授業中のマナーは、評価の際に重視します。						

授業科目名	ビジネス英語Ⅱ			科目コード	172408	授業コード	412701
担当教員	樋口　晶子			科目ナンバリング	GSET1008		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	「ビジネス英語II」を継続し、基礎的なレベルの英語で、実際のビジネスの場で使える表現や対応について学びます。英語を通してフォーマルな場での適切な対応について学びを深め、相手を不快にさせずに自分の意見を伝える手法について考えます。						
到達目標	1.　基礎的な英語を使ったフォーマルな表現を学ぶ。 2.　フォーマルな場で、相手を不快にさせない対応を工夫する。 3.　自分の意見をアピールし、相手と交渉する手法を磨く。 4.　TOEIC(L/R) 450～550点程度に相当する英語力獲得をめざす。						
授業計画	第1講　ガイダンス Chapter 8/ 採用1（応募者の条件）(2-1) 第2講　Chapter 8/ 採用1（応募者の条件）(2-2) 第3講　Chapter 9/ 採用2（面接の英語）(2-1) 第4講　Chapter 9/ 採用2（面接の英語）(2-2) 第5講　Chapter 10/ 会議1（賛成の仕方・司会の表現） (2-1) 第6講　Chapter 10/ 会議1（賛成の仕方・司会の表現） (2-2) 第7講　Chapter 11/ 会議2（反対の仕方・緩和表現） (2-1) 第8講　Chapter 11/ 会議2（反対の仕方・緩和表現） (2-2) 第9講　Chapter 12/ 苦情への対応 (2-1) 第10講　Chapter 12/ 苦情への対応 (2-2) 第11講　Chapter 13/ 謝罪 (2-1) 第12講　Chapter 13/ 謝罪 (2-2) 第13講　Chapter 14/ さまざまな挨拶 (2-1) 第14講　Chapter 14/ さまざまな挨拶 (2-2) 第15講　実践練習（模擬会議または模擬面接） 定期試験 テキスト以外にも、適宜プリントや動画などを使用し、上記の単元に関連する内容を補足します。						
テキスト・教材（参考文献含む）	テキスト：『Politeness in Business Context』（三修社）【「ビジネス英語Ⅰ」と同じ】 参考文献：英単語学習のための問題集 『英単語の語源図鑑』（かんき出版）、『英検でる順パス単』（旺文社）など自分の好きなものでよいです。 辞書の使用を奨励します。						
事前・事後学習	適宜、課題と小テストを出します。 １　事前学習：小テストの準備と単語学習（３０分）、授業内容の予習（６０分） ２　事後学習：課題と単語学習（３０分）、授業内容の復習（６０分）						
成績評価方法	学習態度・小テスト・課題　５０％ 定期試験　５０％ ※出席率は、「学習態度」に含みます。また、授業中のマナー、積極性は特に重視します。						
授業内の課題・提出方法	課題ごとに、提出方法を説明します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出課題の添削や小テストの結果などについて、必要に応じて、各学生またはクラス全体への講評としてフィードバックします。						
担当者から一言	ビジネスの現場を想定して、大人としての礼儀を守り、まじめに学習に取り組んでください。授業中のマナーは、評価の際に重視します。						

授業科目名	検定英語Ｉ			科目コード	172409	授業コード	411406
担当教員	武藤　和成			科目ナンバリング	GSET1009		
配当年次	3	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	検定英語のねらいは、実践的な４技能（聴く、話す、読む、書く）を総合的な英語力として 高めることにあります。特に、「聴く」力は大切で、話しを聞くことができなければ物事はスタートしませんj。「聴くことができる」ということを大切にし、英語の総合力を育成します。						
到達目標	各人のスタート位置で、検定英語の到達目標は俯瞰できます。 堅苦しく考えないで、自分のスタート位置から推測すると、８月の段階では１～２段階向上していた、と実感できるように展開されるのが「検定英語」です。無理なく、無駄なく、各自の持ち味を大切にして総合的な英語力、役に立つ英語を自分のものにしましょう。高校期までの到達度を気にする必要はありません。あなたの英語への心がけが大切です。						
授業計画	第１講　ガイダンス　テキスト　Unit１　と「リーディング」、そして「英文法」に関する 問題 第２講　から　第１５講　まで　同じ展開 各講義でのUnitでは、リスニングを積極的に導入し、「聴く力」を中心に総合的な英語力を形成します。聞く力に自信がなくても、英語に慣れることによって、自然の流れの中で英語力が身についていきます。						
テキスト・教材（参考文献含む）	テキストは　KINSEIDO SCORE BOOSTER FOR THE TOEIC L and R TEST INTERMEDIATE　を使用する予定です。その他については、資料として適宜 配布します。						
事前・事後学習	事前学習よりも事後学習が大切です。事後学習で語彙力、解釈力等をアップさせて下さい。						
成績評価方法	１　講義への出席が第１に重要です。 ２　上記１がクリアーできていれば、定期試験で成績・評価が算出されます。						
授業内の課題・提出方法	課題等は講義の中で指示します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	事例に応じて説明、指示します。						
担当者から一言	「検定」にこだわる必要は全くありません。 使える英語、英語力を高める講座と認識してもらえば結構です。 気楽に「英語力」を高める、と思って下さい。						

授業科目名	検定英語Ⅱ			科目コード	172410	授業コード	411805
担当教員	武藤　和成			科目ナンバリング	GSET1010		
配当年次	3	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	検定英語のねらいは、実践的な４技能（聴く、話す、読む、書く）を総合的な英語力として 高めることにあります。特に、「聴く」力は大切で、話しを聞くことができなければ物事はスタートしませんj。「聴くことができる」ということを大切にし、英語の総合力を育成します。						
到達目標	各人のスタート位置で、検定英語の到達目標は俯瞰できます。 堅苦しく考えないで、自分のスタート位置から、８月の段階では１～２段階向上していた、と実感できるように展開されるのが「検定英語」です。無理なく、無駄なく、各自の持ち味を大切にして総合的な英語力、役に立つ英語を自分のものにしましょう。高校期までの到達度を全く気にする必要はありません。要するに、あなたの英語への心がけ次第です。						
授業計画	第１講　ガイダンス　テキスト　Unit１　と「リーディング」、そして「英文法」に関する 問題 第２講から　第１５講まで　同じ展開 各講義でのUnitでは、リスニングを積極的に導入し、「聴く力」を中心に総合的な英語力を形成します。「聴く力」に自信がなくても、英語に慣れることによって、自然の流れの中で英語力が身についていきます。						
テキスト・教材（参考文献含む）	使用予定の教材が改定となるようです。後日、提示します。						
事前・事後学習	事前学習よりも事後学習が大切です。事後の学習で語彙力、解釈等をアップさせて下さい。						
成績評価方法	１　講義への出席が第１に重要です。 ２　上記１がクリアーできていれば、定期試験で成績・評価が算出されます						
授業内の課題・提出方法	課題等は講義の中で指示します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	必要に応じて適宜指示します。						
担当者から一言	語学学習の基本は、「習うより慣れよ」です。軽い、楽な気持ちで「聴く、話す、読む、書く」の原則を繰り返すことによって英語を身につけましょう。						

授業科目名	メディアツールa			科目コード	172501	授業コード	415308
担当教員	西尾　秀樹			科目ナンバリング	GSMD1001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	Web/DTPなど様々なメディアでビジュアル作成に利用されるAdobe illusratorを使ったグラフィックアプリケーションの入門コースです。 授業は講義と実践（課題）を繰り返し、アプリケーションの基礎技術と各メディアの特徴や各メディアに適したデータ作成方法も理解を深めます。 デジタル環境では、Webを中心とし資料作りや掲示物などもadobe系アプリケーションを使用することによってクオリティを上げることができます。メディアコミュニケーション力アップを目的としたスキル習得していきます。						
到達目標	将来業務でアプリケーションを使用しようと思った時にスムーズにスタートできる程度の基本スキルを身につけ、且つビジュアルコミュニケーション能力アップにも努める。						
授業計画	1.ガイダンス 2.基本操作（何ができるのか解説） 3.描画の基本（図形ツール・レイヤー・カラーパレット　など） 4.色の基本（CMYK/RGB・面と線　など） 5.自由曲線1（ベジェ曲線の基本） 6.自由曲線2（下絵をトレースして着色） 7.文字の入力・アウトライン（ロゴタイプ作成） 8.その他ツール（グラフ・フィルター　など） 9.Webデータと印刷用データについて 10.画像の配置とレイアウト（Photoshopとの連動） 11.デザインデータ作成時の機能活用について 12.デザイン・レイアウトの実践（サンプルに基づいてデータ作成） 13.オリジナル作品作成1 14.オリジナル作品作成2（13-14でじっくり多機能を駆使した作品を作成） 15.合評会						
テキスト・教材（参考文献含む）	実習内容に応じて、教員からデータを配布します。						
事前・事後学習	デザインやレイアウトのヒントや参考は、広告物やWebサイトなど世の中に溢れています。 意識して眼にするだけでも自分自身の引き出しへの蓄積は変わってきますので、良いと思ったもののストックや自分ならどうするかを考えて接してください。具体的な事前準備が必要な場合は指示します。						
成績評価方法	授業内提出課題の3-12番まで50%、13-14番の合評会用データ50%						
授業内の課題・提出方法	授業終了時に、クラウドの指定ディレクトリにアップロード						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題の講評によってフィードバックします。						
担当者から一言	思考をグラフィック的に具現化できると表現も広がりますし、将来、クリエイティブ専門の業種ではなくても、広告・告知物・プレゼンテーション資料作りなど多岐にわたり活用できるスキルですので、多くの学生が身につけてもらえればと思います。 ※20名の履修制限があります。希望者が多い場合は、初回授業で抽選を行いますので、欠席・遅刻をしないようにして下さい。						

授業科目名	メディアツールb			科目コード	172502	授業コード	415604
担当教員	西尾　秀樹			科目ナンバリング	GSMD1002		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	Web/DTPなど様々なメディアでビジュアル作成に利用されるAdobe Photoshopを使ったグラフィック（画像処理）アプリケーションの入門コースです。 授業は講義と実践（課題）を繰り返し、アプリケーションの基礎技術と各メディアの特徴や各メディアに適したデータ作成方法も理解を深めます。 デジタル環境では、Webを中心とし資料作りや掲示物などもadobe系アプリケーションを使用することによってクオリティを上げることができます。メディアコミュニケーション力アップを目的としたスキル習得していきます。						
到達目標	将来業務でアプリケーションを使用しようと思った時にスムーズにスタートできる程度の基本スキルを身につけ、且つビジュアルコミュニケーション能力アップにも努める。						
授業計画	1.ガイダンス 2.基本操作（何ができるのか解説） 3.解像度について（Web/DTPデータの違い・カラーモードなど） 4.色調整・サイズ調整 5.選択範囲作成1（画像の切り抜き） 6.選択範囲作成2（背景変更・合成　など） 7.画像修正・コラージュ・変形・拡大縮小 8.ペイント・色変換 9.文字入力・加工 10.illustratorとの連動 11.フィルター・その他ツール 12.デザインの実践（サンプルに基づいてデータ作成） 13.オリジナル作品作成1（自身のスマートフォンで撮影した画像を使用） 14.オリジナル作品作成2（13-14でじっくり多機能を駆使した作品を作成） 15.合評会						
テキスト・教材（参考文献含む）	実習内容に応じて、教員から画像データを配布します。						
事前・事後学習	綺麗な画像や加工された画像は、広告物やWebサイトなど世の中に溢れています。 ［これ面白い画像だな］とか［どうやって作ったんだろう］という気付きが作品の幅を広げますので、眼にした画像から何かを感じる習慣を意識してみてください。具体的な事前準備が必要な場合は指示します。						
成績評価方法	授業内提出課題の4-12番まで50%、13-14番の合評会用データ50%						
授業内の課題・提出方法	授業終了時に、クラウドの指定ディレクトリにアップロード						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題の講評によってフィードバックします。						
担当者から一言	Webの活用には画像は重要な要素です。画像の加工・修正ができるだけでも使用できる画像は格段に増えます。将来、クリエイティブ専門の業種ではなくても、Webサイト更新・広告・告知物・プレゼンテーション資料作りなど多岐にわたり活用できるスキルですので、多くの学生が身につけてもらえればと思います。 ※20名の履修制限があります。希望者が多い場合は、初回授業で抽選を行いますので、欠席・遅刻をしないようにして下さい。						

授業科目名	メディアツールc			科目コード	172503	授業コード	412101
担当教員	田中　麻衣			科目ナンバリング	GSMD1003		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	この授業はAdobe Premiere Proを使用し、動画編集技術を学ぶ授業です。						
到達目標	Premiere Proを触ったことがない、編集ソフトを触ったことがない初心者が最終的には映像作品の制作ができるようになることが目標です。						
授業計画	第１回：ガイダンス 第２回：色んな種類の映像を楽しむ 第３回：Premiere Pro 「初期設定」 第４回：Premiere Pro 「基本操作１」 第５回：Premiere Pro 「基本操作２」 第６回：Premiere Pro 「応用編１」 第７回：Premiere Pro 「応用編２」 第８回：実習１ 第９回：実習１（編集） 第１０回：実習２ 第１１回：実習２ 第１２回：実習２（編集） 第１３回：最終課題制作（企画＆撮影） 第１４回：最終課題制作（編集） 第１５回：最終課題制作（編集）						
テキスト・教材（参考文献含む）	必要に応じてプリントを配布します。						
事前・事後学習	みなさんには映像を制作してもらいます。ですので、どのような映像作品があるか、 どのように作品ができているのかを自分なりに考えながら、 YoutubeやTVドラマ、CM、映画を一日１本みることを事前準備とします。						
成績評価方法	最終的に一人１作品を制作していただきます。 その作品の出来栄えと授業に対する意欲、各授業での課題の出来栄えなどを総合評価し成績を出します						
授業内の課題・提出方法	授業の度に、課題を出します。 課題とはどの様なものか例えば、事前学習で見た映像制作に対してのレポートなど。 提出は、その日中、または、次回の授業までに提出できる課題を出します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	フィードバックは、提出してもらい、直接本人と話しをしながら、提出物へのフィードバックとします。また、教師からだけではなく、同じ授業を受けている仲間からのフィードバックをする場合もあります。						
担当者から一言	楽しみながら、一緒に学びましょう。 ※20名の履修制限があります。希望者が多い場合は、初回授業で抽選を行いますので、欠席・遅刻をしないようにして下さい。						

授業科目名	メディアツールd			科目コード	172504	授業コード	412605
担当教員	柳澤　翔士			科目ナンバリング	GSMD1004		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	本講義では、Macをつかった音楽制作についてgarageBandや、LogicProXといったアプリケーションを使って第一歩から学びます。						
到達目標	コンピュータを使った音楽制作の基礎知識と、作品制作における技術を身に着ける。						
授業計画	・講義ではMac(GarageBand，Logic Pro X)を用いた実習を行います。 (※はMac実習) 1.ガイダンス・基礎知識 2.コンピュータをつかった音楽制作とは 3.音楽の基礎 4.ループ音源を組み合わせる1※ 5.ループ音源を組み合わせる2※ 6.楽譜を音にする1※ 7.楽譜を音にする2※ 8.エフェクトとは 9.MixDownとは※ 10.生音の加工1※ 11.生音の加工2※ 12.効果音の世界1※ 13.効果音の世界2※ 14.音作品製作1※ 15.音作品制作2※ 定期試験 ※※授業計画は受講者の理解・技術習得に合わせて内容・順序を変更することがあります。						
テキスト・教材（参考文献含む）	データ保存用にUSBメモリーや外付けSSD(16GB USB3.0規格以上推奨)を必ず用意してください。 必要な資料は適時配布します。						
事前・事後学習	実習ではMacを使用します。Windowsとは操作が異なるので、Mac教室(5201)で実際に使用して予習を行ってください。授業中にできなかった課題をすることで、早く慣れる事ができるでしょう(90分) 音楽をしっかり聴きこみ、どういう音で構成されているのかというのを気にしておく事。分析しながら曲を聴きこむ(90分)						
成績評価方法	受講態度30%(課題に取り組む姿勢・受講の態度) 作品提出30% レポート・定期試験40%						
授業内の課題・提出方法	学内サーバーの指定フォルダに提出 授業外では、Moodleやメールを利用。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	講評が必要なものは、当日・翌週に講評。 質問などのフィードバックは適時行う。						
担当者から一言	音楽制作は難しいイメージがありますが、第一歩から音楽制作を学びます。 共に音楽を学びましょう。 ※20名の履修制限があります。希望者が多い場合は、初回授業で抽選を行いますので、欠席・遅刻をしないようにして下さい。						

授業科目名	Webデザインa			科目コード	172505	授業コード	411605
担当教員	堀内　敬弘			科目ナンバリング	GSMD1005		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	この授業ではWebデザインに必要なツール「Adobe Illustrator」を主に用いたデザインワークの学習を行います。一連のプロセスを学習し、業界のワークフローの根幹に触れることで業界への関心を高めてもらうことがこの授業の狙いです。						
到達目標	この授業では、学生諸君がWebデザインに関する基本的な用語や構造、知識、手法を身につけ、イラストレーターを用いた簡易的なWebサイトデザイン操作ができるようになる事を到達目標としています。						
授業計画	Macを用いた演習を行います。 第１講 <ガイダンス>　先生の自己紹介/今後の講義内容、試験について/今、WEBデザインに求められていること/体験してみよう 第２講　Web デザインとは /Web サイトの構造 第３講　実践の準備をしよう / Adobe Illustrator 基本演習（1） 第４講　Adobe Illustrator 基本演習（2） 第５講　Adobe Illustrator 基本演習（3） 第６講　Adobe Illustrator 基本演習（4） 第７講　Adobe Illustrator 基本演習（5） 第８講　Adobe Illustrator 基本演習（6） 第９講　Adobe Illustrator 基本演習（7） 第１０講　Adobe Illustrator 基本演習（8） 第１１講　Adobe Illustrator 基本演習（9） 第１２講　Adobe Illustrator 基本演習（10） 第１３講Adobe Illustrator 応用演習（1） 第１４講 Adobe Illustrator 応用演習（2） 第１５講 Adobe Illustrator 応用演習（3）						
テキスト・教材（参考文献含む）	特になし						
事前・事後学習	毎講義ごとに行った操作方法やショートカットキーなどをその場でメモしていただき、復習しておくこと						
成績評価方法	成績は次のような配分により評価します。 ・授業時に教える操作方法やショートカットキーの理解度及び受講態度：20% ・全授業終了後に提出する課題の提出状況及びクオリティ・理解度：80% ・定期試験：定期試験はありません						
授業内の課題・提出方法	提出物：講義を通して作成する基礎演習データおよび応用演習データ 提出方法：講義時にデータにて提出						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	成績登録にてフィードバック						
担当者から一言	本講義はメディアツールａの事前受講が前提となっております。メディアツールａを受講し、よりデザインの業界へ興味のある学生は是非受講してみて下さい。 先生と一緒にデザインの難しさも達成感も全て楽しみながら授業しましょう。						

授業科目名	Webデザインb			科目コード	172506	授業コード	411207
担当教員	堀内　敬弘			科目ナンバリング	GSMD1006		
配当年次	3	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	この授業ではWebデザインaで学習したデザインツールのスキルを活かしてより実際の現場に近いWebデザイン業務を疑似体験しながらデザインまでのプロセスをチーム（コロナウイルスの感染状況や受講人数により個人で行う場合もございます。）で学びます。						
到達目標	この授業では、学生諸君がWebデザインに関する基本的な用語や構造、知識、手法を身につけ、簡易的なWebサイトデザインができるようになる事を到達目標としています。						
授業計画	Macを用いた演習を行います。 第１講　ガイダンス　最新Webデザインのトレンド / お気に入りのWEBサイト集め 第２講　チーム決めと架空クライアントによる要望の発表とコンセプトメイキング 第３講　ワイヤーフレーム制作① 第４講　ワイヤーフレーム制作② 第５講　デザイン制作① 第６講　デザイン制作② 第７講　デザイン制作③ 第８講　デザイン制作④ 第９講　デザイン制作⑤ 第１０講　デザイン制作⑥ 第１１講　デザイン制作⑦ 第１２講　デザイン制作⑧ 第１３講　デザイン制作⑨ 第１４講 プレゼンテーション準備 第１５講　プレゼンテーション/投票・評価/まとめ						
テキスト・教材（参考文献含む）	特になし						
事前・事後学習	・毎講義ごとに行った操作方法やショートカットキーなどをその場でメモしていただき、復習しておくこと ・インターネットを用いて、WEBデザイン参考サイトなど制作に必要な資料のリサーチ、ストック						
成績評価方法	成績は次のような配分により評価します。 ・チーム制作時における協調性や積極的な態度：30% ・全授業終了後に提出する課題の提出状況、プレゼンカ、及びクオリティ・理解度：80% ・定期試験：定期試験はありません						
授業内の課題・提出方法	提出物：講義を通して作成する基礎演習データおよび応用演習データ 提出方法：講義時にデータにて提出						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	成績登録にてフィードバック						
担当者から一言	Webデザインaを受講済みの学生のみ履修できます。 Webデザインの授業の集大成でもあります。Webデザインaで学習したデザインスキルを活かしてチームで１つのWebページのデザインカンプを作り上げる大変さと楽しさを体験しましょう。						

授業科目名	Webプログラミングa			科目コード	172507	授業コード	414604
担当教員	片山　清和			科目ナンバリング	GSMD1007		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	ホームページ作りを通してWebの仕組みとプログラミングの基礎を学びます。具体的には、HTMLの基本タグを使うことでホームページの論理構造を記述し、スタイルシートを使うことでホームページのレイアウト・デザインを記述することを学びます。						
到達目標	HTMLの基本タグやスタイルシートを使った簡単なホームページが作れる。						
授業計画	第１講　ガイダンス、WWWとWeb 第２講　HTML概要 第３講　画像とリンク 第４講　箇条書き 第５講　表組み 第６講　入力フォーム 第７講　CSS概要 第８講　見出しと段落 第９講　boxモデル 第10講　ヘッダー 第11講　表のスタイリング 第12講　問合せフォーム 第13講　Webサイト制作（１） 第14講　Webサイト制作（２） 第15講　Webサイト制作（３）						
テキスト・教材（参考文献含む）	＜テキスト＞赤間公太郎、狩野咲、鈴木清敬　「世界一わかりやすい　HTML5 & CSS3 コーディングとサイト制作の教科書［改訂２版］」　技術評論社						
事前・事後学習	講義前には、該当部分のテキストを読んで理解して来ること（60分） 講義後には、学習した内容を復習し、もう一度演習を行うこと（120分）。 本講義の内容をふまえ、発展した内容を「Webプログラミング２」で学習します。						
成績評価方法	＜評価＞「提出物」（５５％）、「作品」（４５％）						
授業内の課題・提出方法	＜課題＞毎回の授業で作成したコードを提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	＜フィードバック＞提出物はその場でチェックし、問題点のある提出物は受理しません。						
担当者から一言	プログラミングはコンピュータの基本を学ぶために必須です。 各講義では演習問題を解きます。授業中に終わらない場合は宿題となります。 積み重ねの内容なので、演習問題をしっかり行い、理解してから進むようにしてください。 また、出席状況が悪い場合には減点します。						

授業科目名	Webプログラミングｂ			科目コード	172508	授業コード	413404
担当教員	池田　幹男			科目ナンバリング	GSMD1008		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	この授業では主にJavaScriptを使用したプログラミングを学びます。特に、Webページの基本であるHTMLやCSSと連携してそれらを操作するプログラミングや、CanvasAPI を使用したグラフィックを操作するプログラミング、イベントハンドラーを使用したプログラミングについて学びます。						
到達目標	JavaScriptによる動的なWebページの制作、スタイルの操作、簡単なグラフィックプログラムが出来るようになることを目標にします。						
授業計画	Windows PCを用いた演習を行います。 第１講　ガイダンス Moodle の使用法 第２講　JavaScript を使用した動的なウェブページの例 第３講　アウトプットの基本 第３講　JavaScript の文法と基本的な機能① 第４講　JavaScript の文法と基本的な機能② 第５講　JavaScript の文法と基本的な機能③ 第６講　JavaScript の文法と基本的な機能④ 第７講　インプットとデータの加工① 第８講　インプットとデータの加工② 第９講　一歩進んだテクニック① 第10講　一歩進んだテクニック② 第11講　JQuery入門 第12講　Canvas API ① 第13講　Canvas API ② 第14講　応用課題① 第15講　応用課題② 授業はいずれもＰＣを用いた実習です。						
テキスト・教材（参考文献含む）	『確かな力が身につく JavaScript 「超」入門』第二版、狩野 祐東 著、SBクリエイティブ刊、ISBN978-4-8156-0157-7、定価2480円＋税 必要な教材はMoodleでも提示します。						
事前・事後学習	教育支援システムを通じて提示する例題や課題、Mozilla developer での解説や例を予習（毎週90分）復習として例題をもとに新しいプログラムを自分の力で作る（毎週90分）ことを推奨します。						
成績評価方法	毎回の授業の演習課題（70%）と、授業への参加態度（30%）で評価します。定期テストは実施しません。						
授業内の課題・提出方法	教育支援システム（Moodle）に毎回課題を提出します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	教育支援システム（Moodle）を通じてフィードバックします。						
担当者から一言	「Webプログラミングa」の単位を事前に修得することを勧めます。学ぶことが多いので、予習と復習をしっかりと行い、頭の中で知識を整理していかないと、訳が分らなくなります。また、自分でプログラムを作成しないと身に付きません。						

授業科目名	インターネット論			科目コード	172509	授業コード	412409
担当教員	柳澤　翔士			科目ナンバリング	GSMD1009		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	WebサイトやWebアプリを制作・開発するにあたって持っておきたい、Webの基礎知識と原理を学びます。Webデザイン技能検定3級レベルの知識を得る事を目標とします。						
到達目標	インターネットの概要理解と、ネットワークの動作原理の理解、セキュリティを理解し、WebサイトやWebアプリ制作に活かせる知識の習得を目標とする。						
授業計画	1. ガイダンス・Webの概要1 2. Webの概要2 3. Webサイトの技術1 4. Webサイトの技術2 5. Webサーバーとファイル1 6. Webサーバーとファイル2 7. ネットワーク・TCP/IP 8. ネットワーク・HTTP 9. セキュリティ 1 10. セキュリティ2 11. Webサイトの設計1 12. Webサイトの設計2 13. Webサイトの運用1 14. Webサイトの運用2 15. まとめ 定期試験 ※学習状況により変更の可能性があります						
テキスト・教材（参考文献含む）	増井　敏克　著　「基礎からのWeb開発リテラシー」 技術評論社　￥2300＋税						
事前・事後学習	テキストでの予習(90分)講義で出た小課題の回答・予習(90分)						
成績評価方法	受講態度40%(レポート・小課題の提出状況・授業に取り組む姿勢) 定期試験60%						
授業内の課題・提出方法	学内サーバー指定フォルダを利用する場合と、Moodle・メールを利用する場合があります。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	講義の課題・質問等へのフィードバックは当日中か翌週に行う。						
担当者から一言	Webは身近な存在で、必要不可欠レベルの存在となっています。身近だけど知らないWebの技術や歴史を共に学びましょう。Web技能検定3級レベルの知識を得られるような講義を目指す。						

授業科目名	基礎数学			科目コード	172601	授業コード	415605
担当教員	金岩　稔			科目ナンバリング	GSMS1001		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	高度な数学を学ぶための基礎的な数学について講義します。 この講義を受講すると、基礎的な計算方法を習得するとともに、関数、微分、積分について考え方を理解することができます。						
到達目標	（１）関数とグラフの関係を理解する。 （２）微分、積分の基礎を理解する。						
授業計画	第１回 ガイダンス 第２回 modの計算 第３回 余りの規則 第４回 関数とそのグラフ 第５回 極限の値 第６回 細かく分けること 第７回 微分の考え方 第８回 微分の計算の仕方 第９回 取りまとめること 第10回 積分の考え方 第11回 積分の計算の仕方 第12回 微分と積分のつながり 第13回 微分と積分の歴史 第14回 微分と積分の応用 第15回 まとめ、最終課題						
テキスト・教材（参考文献含む）	特に指定しません						
事前・事後学習	予習：ニュースやインターネットを通じて数学に関することに触れたら、その根拠や計算方法について考えましょう。 復習：講義中の課題について完答できるようにする。						
成績評価方法	出席と最終課題						
授業内の課題・提出方法	講義内で回収						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	講義内で返却						
担当者から一言	数学の基礎をなす、関数とその微分・積分に関して、手を動かして理解してもらうことを目指します。						

授業科目名	統計リテラシー			科目コード	172602	授業コード	413606
担当教員	井岡　幹博			科目ナンバリング	GSMS1002		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	環境関連の実験を行うと計測結果としてのデータが得られます。フィールド調査やアンケート調査を行っても、様々なデータが得られます。得られたデータを整理・分析し、データの中に潜む対象物の本来の姿を引き出す技術が統計学と言えます。たとえば、限られた数のデータから全体の姿を推定すること、得られたデータから役に立つ情報を引き出すことができるのみならず、確率の問題まで、統計学は含みます。ここでは基本的な事柄から応用までを具体的な例、グラフ等を使って説明し、実習していきます。						
到達目標	確率変数の意味を理解する。 ２つの確率変数の相関係数が計算できる。 正規分布の意味を理解する。 回帰分析が実行できる。						
授業計画	第１講　ガイダンス 第２講　平均の性質 第３講　分散と標準偏差 第４講　回帰分析① 第５講　回帰分析② 第６講　相関係数 第７講　順列と組み合わせ 第８講　標本空間と事象 第９講　確率 第10講　条件付き確率 第11講　ベイズの公式 第12講　確率変数 第13講　正規分布（１） 第14講　正規分布（２） 第15講　データが世の中でどのように使われているか 定期試験						
テキスト・教材（参考文献含む）	参考文献・教材長谷川勝也著「イラスト図解　確率・統計のしくみがわかる本」　技術評論社　1，706円・宮川公男著　「基礎統計学　第４版」　有斐閣　￥2，800＋税						
事前・事後学習	配付されるプリントを熟読すること（予習）。毎回課される課題を自宅で演習すること（復習）。						
成績評価方法	課題提出50%　　定期試験50%						
授業内の課題・提出方法	課題プリントとして課題を課します．翌週提出.						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出した課題を，コメントを付して返却.						
担当者から一言	授業内容確認のための課題を出します。とくに予備知識は必要としません。加減乗除が計算できれば、課題は解けます。まずは、ちゃんとノートを準備することです。数学概論、基礎数学を履修していることが望ましい。						

授業科目名	確率基礎			科目コード	172603	授業コード	412303
担当教員	金岩　稔			科目ナンバリング	GSMS1003		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	この講義では初学者にも分かりやすいように、確率計算の基礎を学んでいただき、統計学の理解への礎とすることを目的としています。						
到達目標	統計学の理解に必要な確率計算を行えるようになること。						
授業計画	第１講 ガイダンス、統計学とは 第２講 順列・組み合わせ 第３講 標本空間と事象 第４講 確率 第５講 条件付き確率 第６講 ベイズの公式 第７講 確率変数 第８講 ２項分布 第９講 ポアソン分布 第10講 正規分布（１） 第11講 正規分布（２） 第12講 確率分布の期待値（１） 第13講 確率分布の期待値（２） 第14講 確率分布の分散 第15講 まとめと確認課題						
テキスト・教材（参考文献含む）	参考文献：長谷川勝也 著 「イラスト図解 確率・統計のしくみがわかる本」 技術評論社 ￥1，580＋税						
事前・事後学習	講義前には、これまでに学習した内容を復習しておくこと（60分）。 講義後には、学習した内容を復習し、課題を行うこと（120分）。						
成績評価方法	最終課題により評価します。講義中に小テストや課題を課した場合はその結果もプラスします。 講義中に問題を解いてもらい、その場で解法を説明しフィードバックします。						
授業内の課題・提出方法	講義時間内に回収						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	必要な場合は事務を通して返却いたします。						
担当者から一言	復習が大変重要で、事前の講義内容を理解していることを前提に講義を進めるため、欠席した場合には各自の責任の下講義内容の把握を行ってください。						

授業科目名	微分積分			科目コード	172604	授業コード	411409
担当教員	池田　幹男			科目ナンバリング	GSMS1004		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	この講義では微分と積分について学びます。微分は情報の変化を理解するための基本的な方法であり、近傍における変化量を求めることになります。積分は面積を求める計算方法になりますが、この講義では特に統計学における確率分布を意識して講義を行います。						
到達目標	①微分・積分の概念を理解している ②微分・積分の簡単な計算ができる						
授業計画	第１講　ガイダンス、微分・積分とは 第２講　微分の定義 第３講　和の微分と差の微分 第４講　積の微分と商の微分 第５講　合成関数の微分 第６講　指数関数の微分と対数関数の微分 第７講　微分とグラフ（１） 第８講　微分とグラフ（２） 第９講　正規曲線のグラフ 第10講　不定積分 第11講　定積分 第12講　定積分の基本公式 第13講　部分積分と置換積分 第14講　正規曲線と正規分布 第15講　まとめ 定期試験						
テキスト・教材（参考文献含む）	教育支援システム(Moodle)を通じて提示します。						
事前・事後学習	講義前には、これまでに学習した内容を復習しておくこと（60分）。 講義後には、学習した内容を復習し、課題を行うこと（120分）。 「数学概論」「基礎数学」「統計リテラシー」を履修していることが望ましい。						
成績評価方法	「提出物」（４０％）、「定期試験」（６０％）						
授業内の課題・提出方法	教育支援システム（Moodle）を利用して課題を提出します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	教育支援システム（Moodle）を介して課題のフィードバックします。						
担当者から一言	学習支援システム（Moodle）を利用します。 なるべく分かり易い授業を目指します。そのため、履修者の理解度に応じて内容を変更することがあります。						

授業科目名	線型代数			科目コード	172605	授業コード	412408
担当教員	金岩　稔			科目ナンバリング	GSMS1005		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	この講義では線形代数の基礎を理解するために、一般的な集合と写像の理解からはじめ、ベクトルや行列の性質を理解します。 これらを用いて連立一次方程式の解法の理論化を行います。						
到達目標	集合・写像の理解と、線形代数における関数の理解、ベクトル行列の性質や解法を理解する。						
授業計画	第１講 ガイダンス、線形代数とは 第２講 集合と写像 第３講 数ベクトルと行列 第４講 行列とその演算 第５講 行列とその演算（つづき） 第６講 色々な行列 第７講 逆行列の求め方 第８講 内積と直交行列 第９講 連立方程式の解き方 第10講 平面上の一次変換 第11講 固有値と固有ベクトル 第12講 行列式の展開公式 第13講 行列式の計算法 第14講 行列式の計算法（つづき） 第15講 まとめと最終課題						
テキスト・教材（参考文献含む）	特に指定しません。						
事前・事後学習	講義前には、これまでに学習した内容を復習しておくこと（60分）。 講義後には、学習した内容を復習し、課題を行うこと（120分）。						
成績評価方法	最終課題により評価します。講義中に小テストや課題を課した場合はその結果もプラスします。 講義中に問題を解いてもらい、その場で解法を説明しフィードバックします						
授業内の課題・提出方法	講義時間中に回収。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	講義時間中に返却						
担当者から一言	復習が大変重要で、事前の講義内容を理解していることを前提に講義を進めるため、欠席した場合には各自の責任の下講義内容の把握を行ってください。						

授業科目名	データ分析の基礎			科目コード	172103	授業コード	414701
担当教員	田中　伊知郎			科目ナンバリング	GSSR1003		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	公的統計や簡単な調査報告・フィールドワーク論文が読めるための基本的知識を学びます。単純集計、度数分布、代表値、散布度、クロス集計などの記述統計データの読み方や、グラフの読み方、また、それらの計算や作成のしかた。さまざまな質的データの読み方と基本的なまとめ方を明らかにしていきます。社会調査士認定に関するC科目に相当します。						
到達目標	相関係数など基礎的統計概念、擬似相関の概念などを身に着けて、実際のデータに適用できるようにします。また、因果関係と相関関係が区別できるようにします。						
授業計画	第１講　ガイダンス：平均値が便利なこと(買い物で使っている)の確認 第2講　度数分布表の作成：いろいろな値段のある回転寿司屋さん 第３講　いろいろな代表値(中央値・最頻値・分散・標準偏差) 第４講　既存統計資料の読み方と使い方 第５講　量的データと伴って変わる量 第６講　比例と1次関数 第７講　1次関数のグラフの拡張：散布図 第８講　Excelを使っての散布図の作成 第９講　1次関数と相関係数 第10講　Excelを使っての相関係数の求め方 第11講　相関係数の性質 第12講　データの性質の拡張：質的データ 第13講　データの入力と照合(統計的資料を使って) 第14講　クロス集計(質的データにおける関連性)の説明 第15講　相関関係・関連性と因果関係の違い：擬似相関と実験計画 定期試験　持ち込み不可 第2講から第14講までパソコン・スマホなどを使っての実習となります。						
テキスト・教材（参考文献含む）	なし						
事前・事後学習	授業当日の夕方、パソコン実習で保存したファイルまたはプリントアウトを見返してください(30分)。2・3日後に、プリントアウトを見直して (30分)、その次に当たることを考えてください (30分)。講義の前日に、パソコン実習で保存したファイルを見返して、ノートに書き込み整理してください(60分)。						
成績評価方法	毎回の課題の達成度を採点し、点数として合計(60点満点)します。定期試験(40点)と合計して成績とします。						
授業内の課題・提出方法	授業内容を理解したかを測る課題を授業末に出し、すぐにはできない場合は、1週間以内にメールなどで教員に送ってもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	送られた課題に対する回答を採点し、単に評価だけでなく、理解できていないところを指摘して、ノートを見直して、再学習してもらい、再提出します。						
担当者から一言	パソコン教室の実習形式で行います。パソコン(スマホでも)を使うと、統計解析がスムーズに進むとわかってもらいます。						

授業科目名	統計的分析			科目コード	172104	授業コード	413805
担当教員	田中　伊知郎			科目ナンバリング	GSSR1004		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	統計的データをまとめたり分析したりするために必要な、推測統計学の基礎的な知識を学びます。確率論の基礎、基本統計量、検定・推定理論とその応用（平均や比率の差の検定、独立性の検定）、サンプリングの理論、属性相関係数（クロス表の統計量）、相関係数、偏相関係数、変数のコントロール、回帰分析の基礎などを明らかにしていきます。社会調査士認定に関するD科目に相当します。						
到達目標	量的データにおける相関係数の利用・質的データにおけるクロス集計の利用をパソコン実習で身に付けます。さらに、正規分布しているデータの平均値の検定などを使い、集団を分けるもの(要因)を見つける力を養います。						
授業計画	第１講　ガイダンス：平均値・中央値と度数分布の確認 第2講　サンプリング：標本と母集団の関係とヒストグラムの作成 第３講　正規分布：確率論の基礎、ゆらぎ(分散)の概念の獲得 第４講　正規分布かの検定(Kolmogorov−Smirnov検定) 第５講　平均値の差の検定：二つの正規分布か、同じ分布か：実習 第６講　分散分析(3要因への検定の拡張)と効果量 第７講　分散分析の実習 第８講　一次関数と相関係数：Excelを使っての求め方 第９講　相関係数の性質と回帰分析 第10講　データの性質の拡張・測定の尺度としての順位変数など 第11講　ノンパラメトリック検定(正規分布でない場合) 第12講　クロス集計(質的データにおける関連性)の説明と実践・ 第13講　クロス集計の実践：質的アンケートと円グラフ 第14講　クロス集計の検定(正確確率検定など) 第15講　クロス集計の検定：実習 定期試験　持ち込み不可 第2講から第15講までパソコン(スマホなど)を用いた実習となります。						
テキスト・教材（参考文献含む）	なし						
事前・事後学習	授業当日の夕方、パソコン実習で保存したファイルまたはプリントアウトを見返してください(30分)。2・3日後に、プリントアウトを見直して (30分)、その次に当たることを考えてください (30分)。講義の前日に、パソコン実習で保存したファイルを見返して、ノートに書き込み整理してください(60分)。						
成績評価方法	毎回の課題の達成度を採点し、点数として合計(60点満点)します。定期試験(40点)と合計して成績とします。						
授業内の課題・提出方法	授業内容を理解したかを測る課題を授業末に出し、すぐにはできないので、1週間以内にメールなどで教員に送ってもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	送られた課題に対する回答を採点し、単に評価だけでなく、理解できていないところを指摘して、ノートを見直して、再学習してもらい、再提出します。						
担当者から一言	パソコン教室の実習形式で行います。パソコン(スマホなど)を使うと、統計解析がスムーズに進むとわかってもらいます。平方根の計算などが入りますので、数学の知識が必要となります。						

授業科目名	データ解析の技法			科目コード	172105	授業コード	415803
担当教員	古山　歩			科目ナンバリング	GSSR1006		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	複雑な現代社会を読み解く方法の一つに、数量データを用いた多変量解析がある。本講義では多変量解析の基本的な考え方や代表的な技法の本質を理解し、それらを活用するための基礎力を身につけることを目的とする。						
到達目標	（１）多変量解析に必要な基礎力を身につける。 （２）回帰分析をはじめとした主要な解析法について理解する。 （３）回帰分析をはじめとした主要な解析法を実行し，結果を適切に評価できるようになる。						
授業計画	１．ガイダンス ２．数学の基礎 ３．データ解析のためのExcelの基本操作 ４．データ準備１　データサンプリング・まとめ方 ５．データ準備2　データの表し方・読み方 ６．統計の基礎知識の復習1　確率分布 ７．ミニテスト・統計の基礎知識の復習2　基礎的な統計検定 ８．回帰分析1　回帰分析の考え方・単回帰の実行 ９．回帰分析2　回帰分析の精度評価 １０．重回帰分析 １１．ミニテスト・二項ロジスティック回帰分析 １２．分散分析 １３．共分散分析 １４．クラスター分析 １５．まとめ 定期試験						
テキスト・教材（参考文献含む）	教科書：なし，適宜資料を配布する 参考書：倉田博史著「大学4年間の統計学が10時間でざっと学べる」KADOKAWA（2017年） 栗原伸一・丸山敦史著「統計学図鑑」オーム社（2018）						
事前・事後学習	予習：インターネットなどのニュースで統計データの内容について確認する（60分）。 復習：講義中の実習課題の見直しと不備の修正を行う（30分）						
成績評価方法	講義中の実習課題（20%）、講義中のミニテスト（30%）、定期試験（50%）、必要に応じてフィードバックします。						
授業内の課題・提出方法	適宜指示する。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	講義中の実習課題、講義中のミニテストを必要に応じてフィードバックする。						
担当者から一言	データ解析は、市場調査をはじめとしたあらゆるところで行われています。本講義では様々なデータ解析手法についてパソコンのExcelを用いた実践を通して、解析スキルの習得を目指します。						

授業科目名	データ統計処理			科目コード	172606	授業コード	411307
担当教員	片山　清和			科目ナンバリング	GSMS1009		
配当年次	3	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	現在、自然科学の分野だけでなく、人文／社会科学の分野でも数字データが用いられています。それらの数字データを分析する道具として、統計学が用いられています。特に近年では、ビッグデータと呼ばれる大規模データを統計処理して、社会生活に役立てる試みがさかんに行われています。そのため、統計学はより身近になっており、統計学なくして社会生活が成り立たないと言っても言い過ぎではありません。 この講義では、Excelの関数を用いて大規模なデータに対して統計処理を行う方法と、推定や検定を行う方法についても学びます。						
到達目標	Excelを用いて大規模なデータに対して統計処理ができる。						
授業計画	第１講　　ガイダンス、 第２講　　１次元データの整理（１） 第３講　　１次元データの整理（２） 第４講　　２次元データの整理（１） 第５講　　２次元データの整理（２） 第６講　　確率分布（１） 第７講　　確率分布（２） 第８講　　確率分布（３） 第９講　　検定（１） 第10講　　検定（２） 第11講　　検定（３） 第12講　　推定（１） 第13講　　推定（２） 第14講　　推定（３） 第15講　　まとめ 定期試験						
テキスト・教材（参考文献含む）	＜テキスト＞ 長谷川勝也 著　「イラスト図解　確率・統計のしくみがわかる本」　技術評論社 ￥1,706 ＜参考文献＞ 宮川公男 著　「基礎統計学　第４版」　有斐閣　￥2,800+税 「基礎統計学Ｉ　統計学入門」　東京大学出版会　￥2,800+税						
事前・事後学習	講義前には前回までの内容を復習しておくこと（60分）。 講義後には復習を行い、演習問題をしっかり解くこと（120分）。 「基礎数学」「統計リテラシー」「確率基礎」「微分積分」「線形代数」「データ分析の基礎」「統計的分析」を履修していることが望ましい。						
成績評価方法	＜評価＞「提出物」（４０％）、「定期試験」（６０％）						
授業内の課題・提出方法	＜課題＞毎回の授業で演習課題を行って提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	＜フィードバック＞教育支援システム（Moodle）に提出した課題は、100点満点で採点し、コメントを付加してMoodleを介して返却します。						
担当者から一言	学習支援システム（Moodle）を利用します。 積み重ねの講義なので、欠席しないようにしてください。 また、出席状況が悪い場合には減点します。						

授業科目名	環境情報学概論Ⅰ			科目コード	371001	授業コード	413301
担当教員	前川　督雄			科目ナンバリング	EFC1001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	専門技術者に求められる倫理観を身につけている						
授業のねらい	環境情報学部での学びへの導入を行い、全貌を概観する。 環境科学専攻とメディア情報専攻の多様な授業を交互に配置し、実習を交えて両専攻の学問の特徴を伝えるとともに。自身が学修する専攻の選択に導く。選択した専攻ごとに後学期に実施する環境情報学概論Ⅱに繋がる内容とする。多数の教員がオムニバス形式で授業を担当するので、1年次配当科目を担当していない教員を知る機会にもなる。また、進路選択や学修機会に関わる情報を提供する場としても活用する。						
到達目標	環境情報学部、特に環境科学専攻とメディア情報専攻の両専攻の学問・実践の特徴を知りるとともに、今後４年間の学生生活で学ぶ場となる専攻を選択する。						
授業計画	第１講　ガイダンス／学部概要（鬼頭、前川はじめ全教員） 第２講　里山と竹林保全（牧田、外部講師） 第３講　竹山保全実習（牧田、外部講師） 第４講　アプリ開発／北勢地域の野生動物（片山、野呂） 第５講　収録体験（柳瀬、足立、黒田） 第６講　地域農業と環境／光と表現（廣住、黒田） 第７講　上級生の活動報告・スペシャリスト育成プログラム紹介（演習担当教員） 第８講　海洋のプラスチック問題／（大八木、柳澤） 第９講　メディアとクリエイティビティ／プランクトンの世界（柳瀬、牧田） 第10講　環境政策／録音シミュレーション（鬼頭、足立） 第11講　アナログからデジタルへ／伊勢湾の水質問題（池田、千葉） 第12講　外来生物問題／AI深層学習（野呂、片山） 第13講　メディアと情報の融合／水環境（前川、大八木） 第14講　メディアライブ（柳瀬、足立、黒田） 第15講　まとめ／専攻選択（全教員） （内容・順序を変更することがあります）						
テキスト・教材（参考文献含む）	テキストはありません。 必要に応じて資料を配布します。						
事前・事後学習	環境情報学部の概要を知り、大学での専門教育の出発点となる講義・実習です。 興味を持った点について積極的に教員を訪ね、自分で探索するなどしてさらに理解を深めてください（180分）。						
成績評価方法	定期試験を行いません。 各回の講義・実習ごとに、取り組み態度と成果で評価し、合算します。						
授業内の課題・提出方法	授業ごとに小レポートなどを課し、原則的に教室で提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	疑問に思ったことは積極的に発言・質問して下さい。						
担当者から一言	幅広い領域にわたりますが、全て欠席することなく積極的に参加してください。 毎回担当する教員が入れ替わりますが、とりまとめは前川（6号館6418）です。						

授業科目名	環境情報学概論Ⅱ			科目コード	371002	授業コード	413702
担当教員	田中　伊知郎			科目ナンバリング	EFC1002		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	専門技術者に求められる倫理観を身につけている 多様な社会の価値観を理解し、自分の考えを的確に表現し、伝えることができる 環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組ことができる						
授業のねらい	基礎演習への導入として、自然環境分野についての知見を深める。						
到達目標	自然科学の研究内容の基礎を知り、各研究室の研究手法について理解する。						
授業計画	第1講　ガイダンス：詳しいスケジュールの説明（田中）以下()内が担当教員 第2講　自然科学の研究方法(IMRD)と再現性（田中） 第3講　自然科学の発表方法(統計検定)と客観性（田中） 第4講　統計検定の実習（田中） 第5講　伊勢湾の水質と海洋ゴミ（千葉） 第6講　大学周辺の里山環境（千葉） 第7講　伊勢湾とマイクロプラスティック（大八木） 第8講　四日市周辺の陸水環境（大八木） 第9講　地域の生物多様性モニタリング（野呂） 第10講　北勢地域の野生動物（野呂） 第11講　地域資源を農業に活かす取り組み1（廣住） 第12講　地域資源を農業に活かす取り組み2（廣住） 第13講　湖沼と水田のプランクトン1（牧田） 第14講　湖沼と水田のプランクトン2（牧田） 第15講　まとめと基礎演習の進め方（田中） 第5講から第14講まで担当教員と内容を、ガイダンスで案内します。						
テキスト・教材（参考文献含む）	なし						
事前・事後学習	講義でとったノートの見返しと、与えられた課題に取り組むこと（180分）。						
成績評価方法	授業のノートを取り、また与えられた課題に取り組み、提出する（90%）。これを各回の担当教員が採点し（6点／回）、フィードバックを行う。授業への取り組み姿勢などを考慮して採点（10%）する。						
授業内の課題・提出方法	授業内容の理解度を測る課題を授業末に課す。すぐに提出できない場合は、1週間以内にメールなどで教員に送る。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出された課題は採点・評価だけでなく、理解できていないところを指摘する。 ノートを見直して、再学習、再提出する。						
担当者から一言	自然環境分野の教員や学生たちが行った具体的な環境情報学を学ぶことができる授業です。必ず参加してください。						

授業科目名	環境情報学概論Ⅱ			科目コード	371002	授業コード	413703
担当教員	前川　督雄			科目ナンバリング	EFC1002		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	専門技術者に求められる倫理観を身につけている 多様な社会の価値観を理解し、自分の考えを的確に表現し、伝えることができる 環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組ことができる						
授業のねらい	配属されたメディア情報分野での学生生活を確立していくための導入を行います。 専攻の教員全員が分担して講義・実習を行って、専攻の概要を伝え、体験してもらいます。また、２年次以降の学修の核となる演習科目（いくつかの研究室・ゼミに分かれての少人数指導になります）への導入を行います。						
到達目標	メディア情報専攻の概要を把握します。また、自分自身が進む方向性・興味の対象を見定めて、大学生活の核となる演習科目（研究室・セミナー）の配属希望を提出し、配属内定を受けます。						
授業計画	第１講　ガイダンス／メディア情報専攻概要（前川） 第２講　WebコンピューティングからAIに至る情報技術（片山、柳澤） 以下第３講～第６講、第７講～第10講は、２グループに分かれて並行・交代して実施する。 第３講　パソコン分解組立て実習①（池田、片山、柳澤） 第４講　パソコン分解組立て実習②（池田、片山、柳澤） 第５講　パソコン分解組立て実習③（池田、片山、柳澤） 第６講　パソコン分解組立て実習④（池田、片山、柳澤） 第７講　映像を柱とする作品制作体験（柳瀬） 第８講　音響を柱とするライブ演出体験（足立） 第９講　照明を柱とするライブ演出体験（黒田） 第10講　メディア表現・情報技術の境界領域（前川） 第11講　メディア情報の背景となる文化（樋口、青木） 第12講　寺院見学（北島名誉教授） 第13講　特別講義（豊島名誉教授） 第14講　基礎演習にむけて（足立、片山、黒田、前川、柳澤、柳瀬） 第15講　４年生の卒業研究・卒業制作発表会見学 （内容・順序を変更することがあります）						
テキスト・教材（参考文献含む）	テキストはありません。 必要に応じて資料を配布します。						
事前・事後学習	メディア情報専攻の専門的な学修の出発点となる講義・実習です。 興味を持った点について積極的に教員を訪ね、自分で探索するなどしてさらに理解を深めてください（180分）。						
成績評価方法	定期試験を行いません。 各回の講義・実習ごとに、取り組み態度と成果で評価し、合算します。 基礎演習（2年次）配属にむけて、期間中（12月頃）の授業時間外に個別面談を行います。						
授業内の課題・提出方法	授業ごとに小レポートや実習課題を課し、原則的に教室で提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	疑問に思ったことは積極的に発言・質問して下さい。						
担当者から一言	幅広い領域にわたりますが、全て欠席することなく積極的に参加してください。 毎回担当する教員が入れ替わりますが、とりまとめ教員は、前川（6号館6418）です。						

授業科目名	四日市公害論			科目コード	371003	授業コード	411308
担当教員	千葉　賢、鬼頭　浩文			科目ナンバリング	EFC2001		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	専門技術者に求められる倫理観を身につけている。 地域の持続的発展のために貢献できる。						
授業のねらい	四日市公害は日本の四大公害の一つに数えられ、日本の公害対策、環境政策、環境関連法の整備に大きな影響を与えた。コンビナート企業群が引き起こした公害であり、環境問題における共同不法行為が争われたという点で特色を持つ。その後、総量規制という有効な環境対策も生み出され、排水・排気ガス・振動・騒音などの問題が大きく軽減されてきた歴史を持つ。このような四日市公害を学び、公害当時に人々がどのように行動したのかを知り、自分の立場に置き換えながら、今後の環境問題への教訓と知識と心構えを受講者が得られるようにする。						
到達目標	①環境情報学部で学ぶ学生として、四日市公害について語ることができるようにする。 ②四日市公害の歴史と背景についての知識を深める。 ③現代の環境問題等の社会問題を多角的に捉える視点を身につける。						
授業計画	第1講　ガイダンス、授業の概要　千葉 第2講　四日市公害と4大公害の歴史　千葉 第3講　四日市公害と4大公害の歴史　千葉 第4講　四日市公害と4大公害の歴史　千葉 第5講　技術的側面から見た四日市公害　千葉 第6講　ここまでのまとめとフィールドワークのガイダンス　千葉 第7～10講　四日市公害と環境未来館でのフィールドワーク　鬼頭 フィールドワークにどうしても参加できない人には課題を与えますので、第11講までに同館にて各自で学習してください。 第11講　フィールドワークの振り返り学習　鬼頭 第12講　四日市公害から得られた教訓（資料調査とグループディスカッション） 第13講　四日市公害から得られた教訓（資料調査とグループディスカッション） 第14講　四日市公害から得られた教訓（グループディスカッションと発表） 第15講　まとめと試験範囲の説明						
テキスト・教材（参考文献含む）	なし。毎回の講義で資料を配布する。						
事前・事後学習	シラバスを参照して次回の講義内容を確認し、インターネット等を利用して、予備的な知識を得ること（180分）。予備的に調べたサイトや図書があれば、その名称と内容の両方をレポートに書くことで加点する。						
成績評価方法	毎回の講義後に、ミニレポートを作成して提出させる。1回3点満点×8回＝24点（優秀レポートには加点する）。フィールドワークの振り返りテスト21点。レポートを採点してフィードバックする。グループディスカッションへの参加姿勢15点満点。期末試験40点満点。						
授業内の課題・提出方法	教員の配布する課題の用紙を提出するか、Moodleで提出。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	次の授業までに提出された課題を評価して学生に返却する。Moodleを利用する場合もある。						
担当者から一言	経済発展の過程で必ず発生する環境問題と、その改善への人々の様々な取り組みについて、四日市公害の事例から学んでください。悲惨な経験をされた患者さんたちの話も出てきます。真剣に授業に取り組むことを求めます。						

授業科目名	基礎演習 a			科目コード	371101	授業コード	413209
担当教員	片山　清和			科目ナンバリング	ESS2001		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	専門技術者に求められる倫理観を身につけている。 メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信ができる。						
授業のねらい	情報学やプログラミングの基礎である論理学、離散数学、アルゴリズムを学びます。論理学では命題論理を中心に学びます。離散数学では主に集合、ブール代数、グラフについて学びます。アルゴリズムでは計算オーダー、アルゴリズムについて学びます。						
到達目標	①命題論理を説明でき、論理演算ができる。 ②ブール演算ができる。 ③アルゴリズムを考えることができる。						
授業計画	第１講　　ガイダンス、ゼミの進め方 第２講　　アルゴリズム（１） 第３講　　アルゴリズム（２） 第４講　　アルゴリズム（３） 第５講　　論理学（１） 第６講　　論理学（２） 第７講　　論理学（３） 第８講　　離散数学（１） 第９講　　離散数学（２） 第10講　離散数学（３） 第11講　アルゴリズム（４） 第12講　アルゴリズム（５） 第13講　アルゴリズム（６） 第14講　アルゴリズム（７） 第15講　まとめ （内容・順序を必要に応じて変更することがあります）						
テキスト・教材（参考文献含む）	＜テキスト＞ なし（必要に応じて配布します） ＜参考文献＞ 野矢茂樹　「論理学」　東京大学出版会 石村園子　「やさしく学べる離散数学」　共立出版 「はじめての情報理論」　森北出版						
事前・事後学習	講義前には、これまでに学習した内容を復習すること（60分） 講義後には、学習した内容を十分に復習すること（120分）						
成績評価方法	授業への取り組み姿勢や課題提出などによって総合的に評価する。						
授業内の課題・提出方法	＜課題＞毎回の授業で課題を提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	＜フィードバック＞課題は次回の授業でコメントを付けて返却します。						
担当者から一言	情報工学の基礎を学ぶので、少し難しく、やや退屈に感じるかもしれませんが、プログラミングを行う上で重要な内容です。なるべく丁寧にわかりやすい講義・演習を目指します。 積み重ねの演習ですので、欠席はしないでください。						

授業科目名	基礎演習 a			科目コード	371101	授業コード	413208
担当教員	黒田　淳哉			科目ナンバリング	ESS2001		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信ができる。						
授業のねらい	講義の前半では映像・音響・照明の基礎となる機材の使い方や理論を学び、後半では、前半で学んだ基礎を応用しながら実践的な演習を行います。本講義は、ライブイベントや映像コンテンツ制作の基礎を身につけるだけでなく、仲間とコミュニケーションをとりながら、作品やライブ制作に向き合うための適切な取り組み方（姿勢）や知識、及び技術を身につけます。						
到達目標	①映像・音響・照明の基礎知識を身につける。 ②映像・音響・照明の機材を適切に扱うことができる。 ③仲間と建設的なコミュニケーションをとりながら制作に向き合うことができる。						
授業計画	第１講　ガイダンス、授業の概要 第２講　映像・音響・照明の基礎１ 第３講　映像・音響・照明の基礎２ 第４講　映像・音響・照明の基礎３ 第５講　映像・音響・照明の基礎４ 第６講　映像・音響・照明の基礎５ 第７講　映像・音響・照明の基礎６ 第８講　報告会～ライブ制作について 第９講　ライブ制作実習１ 第10講　ライブ制作実習２ 第11講　ライブ制作実習３ 第12講　ライブ制作実習４ 第13講　ライブ制作実習５ 第14講　本番 第15講　まとめ						
テキスト・教材（参考文献含む）	なし。（必要に応じてプリントを配布します）						
事前・事後学習	毎回、講義の最後に課題を提示します。 予習　課題についてインターネットや書籍で調べてくること（90分）。 復習　配布資料や講義ノートを見返すなど復習しておくこと（90分）。						
成績評価方法	ルーブリックによって評価を行います。評価基準は、第１講のガイダンスにて配布します。なお、４回以上欠席した学生には原則として単位を与えません。また、無断欠席者には減点等のペナルティーを課すことがあります。						
授業内の課題・提出方法	毎回の講義でミニッツペーパーを提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題等のフィードバックは翌週の講義で適宜コメントします。						
担当者から一言	知識や技術を積み重ねながらグループワークで講義を進めますので、講義は休まないで下さい。積極的な参加を期待しています。						

授業科目名	基礎演習ａ			科目コード	371101	授業コード	413211
担当教員	廣住　豊一			科目ナンバリング	ESS2001		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	専門技術者に求められる倫理観を身につけている。 地域の持続的発展のために貢献できる。 環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組ことができる。						
授業のねらい	基礎演習では、専門演習で行う実践的な調査研究に向けて必要な「基礎スキル」を身に付けることがねらいである。この授業は３クラスに分かれ、３人の担当教員の授業を順に受講する。つまり、全員が同一の内容を少人数で学習できる。次の５項目は、基礎演習ａとｂを通して学ぶものであり、扱うテーマや項目は担当教員によって異なる。①レポート作成、②プレゼンテーション（質疑応答を含む）、③文献・論文講読、④野外調査・実験実習、⑤データ処理（表、グラフの作成）。						
到達目標	記録をつけることを習慣化する。表・グラフ等のデータ整理の方法を身につける。調査地・実験方法などの作図ができる。科学論文・レポートの形式を学び、作成できる。						
授業計画	第１講　ガイダンス、野外での土壌調査（廣住） 第２講　調査方法のまとめ方（廣住） 第３講　調査データの整理（廣住） 第４講　調査結果に基づく考察の書き方（廣住） 第５講　調査報告書のまとめ方（廣住） 第６講　科学論文の構成と読み方（牧田） 第７講　論文の輪読（牧田） 第８講　論文検索（牧田） 第９講　論文紹介の準備（牧田） 第10講　論文紹介（牧田） 第11講　生物多様性モニタリングとその意義（野呂） 第12講　身近な自然の生物調査（野呂） 第13講　種の同定と標本の作製（野呂） 第14講　生物リストの作成とその評価（野呂） 第15講　調査結果のまとめとレポート作成（野呂） フィールドワーク・実験実習・グループワークを含むアクティブラーニング科目である。						
テキスト・教材（参考文献含む）	各担当教員から自作のテキストや参考資料を配布する。参考となる文献があれば授業時間中に紹介する。						
事前・事後学習	授業での学習内容、調査や実験での実施内容をノートにまとめ、レポートなどを作成する（90分）。担当教員から指示された課題に取り組む（90分）。						
成績評価方法	3人の担当教員で1人33.3%を配分する。受講態度および実験ノート・レポート・プレゼンテーション等によって評価する。						
授業内の課題・提出方法	課題の提出にはMoodle等を活用する。課題およびその提出方法は担当教員ごとに指示する。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	実験ノートやレポート、プレゼンテーションファイル等は適宜内容を確認し、添削や指導を行う。						
担当者から一言	基礎演習では受講生を3クラスにわけて授業行います。クラスによって授業の開講順序が異なります。詳しくは第1講のガイダンスにおいて説明します。ガイダンスには必ず出席してください。						

授業科目名	基礎演習ｂ			科目コード	371102	授業コード	413609
担当教員	片山　清和			科目ナンバリング	ESS2002		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	専門技術者に求められる倫理観を身につけている。 メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信ができる。						
授業のねらい	ホームページは今や企業だけでなく一般の人も作成しており、情報発信の主要な手段となっています。ホームページはHTMLで構造を記述され、スタイルシートでレイアウトやデザインが記述されています。さらにインタラクティブ性を持たせるためにJavaScriptが使用されています。 この演習では、電卓アプリやカレンダーアプリ制作を通し、機能実現のためのアルゴリズムを考え、HTML、スタイルシート、JavaScriptを用いてプログラミングすることでその機能を実現できるようにします。						
到達目標	①アルゴリズムを考えることができる ②HTMLタグ、スタイルシート、JavaScriptを使って機能を実現できる						
授業計画	第１講　ガイダンス、HTML（１） 第２講　HTML（２） 第３講　HTML（３） 第４講　スタイルシート（１） 第５講　スタイルシート（２） 第６講　スタイルシート（３） 第７講　JavaScript（１） 第８講　JavaScript（２） 第９講　JavaScript（３） 第10講　電卓アプリ作成（１） 第11講　電卓アプリ作成（２） 第12講　電卓アプリ作成（３） 第13講　カレンダーアプリ作成（１） 第14講　カレンダーアプリ作成（２） 第15講　カレンダーアプリ作成（３）						
テキスト・教材（参考文献含む）	＜テキスト＞ なし（必要に応じて配布します） ＜参考文献＞ 赤間公太郎、狩野咲、鈴木清敬　「世界一わかりやすい　HTML5 & CSS3 コーディングとサイト制作の教科書［改訂２版］」　技術評論社						
事前・事後学習	講義前には、これまでに学習した内容を復習すること（60分） 講義後には、学習した内容を十分に復習すること（120分）						
成績評価方法	授業への取り組み姿勢や提出などによって総合的に評価する。						
授業内の課題・提出方法	＜課題＞完成した作成したソースプログラムをMoodleに提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	＜フィードバック＞その場でソースコードを見ながら、誤りを修正してもらいます。						
担当者から一言	アルゴリズムを考えることは、プログラミングでは最重要事項で、卒業研究においてアプリ作成やAI研究のために必要です。多くの経験を通してしか身につかないため、根気が要る地味な作業ですが、興味深いアプリ制作で楽しめる演習になるように目指します。						

授業科目名	基礎演習ｂ			科目コード	371102	授業コード	413607
担当教員	黒田　淳哉			科目ナンバリング	ESS2002		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信ができる。						
授業のねらい	基礎演習aで学んだ知識、技術、そして経験をもとにして、本講義では映像コンテンツ制作をテーマに進めます。その過程で、映像、音響、照明など、制作に必要な各ステップを学びます。						
到達目標	①企画・構成ができる ②シナリオ・絵コンテを作成することができる ③絵コンテに沿って撮影、編集ができる ④収録した音源の整音をコンソールやアプリケーションを用いて調整することができる ⑤光の効果を用いた撮影ができる						
授業計画	第１講　ガイダンス、授業の概要 第２講　企画について～作成 第３講　企画書（プレゼンテーション） 第４講　構成案作成１ 第５講　構成案作成２ 第６講　構成案（プレゼンテーション） 第７講　機材の取り扱いについて 第８講　撮影１ 第９講　撮影２ 第10講　撮影3 第11講　編集1 第12講　編集2 第13講　編集3 第14講　編集完成 第15講　発表						
テキスト・教材（参考文献含む）	なし。（必要に応じてプリントを配布します）						
事前・事後学習	毎回、講義の最後に課題を提示します。 予習　課題についてインターネットや書籍で調べてくること（90分）。 復習　配布資料や講義ノートを見返すなど復習しておくこと（90分）。						
成績評価方法	ルーブリックによって評価を行います。評価基準は、第１講のガイダンスにて配布します。なお、４回以上欠席した学生には原則として単位を与えません。また、無断欠席者には減点等のペナルティーを課すことがあります。						
授業内の課題・提出方法	毎回の講義でミニッツペーパーを提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題等のフィードバックは翌週の講義で適宜コメントします。						
担当者から一言	知識や技術を積み重ねながらグループワークで講義を進めますので、講義は休まないで下さい。積極的な参加を期待しています。						

授業科目名	基礎演習ｂ			科目コード	371102	授業コード	413611
担当教員	廣住　豊一			科目ナンバリング	ESS2002		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	専門技術者に求められる倫理観を身につけている。 地域の持続的発展のために貢献できる。 環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組ことができる。						
授業のねらい	基礎演習では、専門演習で行う実践的な調査研究に向けて必要な「基礎スキル」を身に付けることがねらいである。この授業は３クラスに分かれ、３人の担当教員の授業を順に受講する。つまり、全員が同一の内容を少人数で学習できる。次の５項目は、基礎演習ａとｂを通して学ぶものであり、扱うテーマや項目は担当教員によって異なる。①レポート作成、②プレゼンテーション（質疑応答を含む）、③文献・論文講読、④野外調査・実験実習、⑤データ処理（表、グラフの作成）。						
到達目標	記録をつけることを習慣化する。測定したデータの正しい取り扱いや計算の方法を学ぶ。表やグラフを用いた適切な結果のまとめ方を学ぶ。学術的なプレゼンテーションの方法を学び、習得する。						
授業計画	第１講　ガイダンス、実験室の使い方（廣住） 第２講　農作物の品質測定（廣住） 第３講　有効数字と実験データの計算（廣住） 第４講　表計算ソフトによる実験データの計算（廣住） 第５講　表やグラフによる実験データのまとめ方（廣住） 第６講　水質データ分析（大八木） 第７講　水質データのまとめ（大八木） 第８講　文献検索（大八木） 第９講　プレゼンテーション作成（大八木） 第10講　プレゼンテーション発表（大八木） 第11講　野生動物の調査手法と野外調査の心得（野呂） 第12講　センサーカメラの設置（野呂） 第13講　センサーカメラのデータ回収（野呂） 第14講　データの整理（野呂） 第15講　報告書の作成（野呂） フィールドワーク・実験実習・グループワークを含むアクティブラーニング科目である。						
テキスト・教材（参考文献含む）	各担当教員から自作のテキストや参考資料を配布する。参考となる文献があれば授業時間中に紹介する。						
事前・事後学習	授業での学習内容、調査や実験での実施内容をノートにまとめ、レポートなどを作成する（90分）。担当教員から指示された課題に取り組む（90分）。						
成績評価方法	3人の担当教員で1人33.3%を配分する。受講態度および実験ノート・レポート・プレゼンテーション等によって評価する。						
授業内の課題・提出方法	課題の提出にはMoodle等を活用する。課題およびその提出方法は担当教員ごとに指示する。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	実験ノートやレポート、プレゼンテーションファイル等は適宜内容を確認し、添削や指導を行う。						
担当者から一言	基礎演習では受講生を3クラスにわけて授業行います。クラスによって授業の開講順序が異なります。詳しくは第1講のガイダンスにおいて説明します。ガイダンスには必ず出席してください。						

授業科目名	専門演習 a			科目コード	371103	授業コード	412305
担当教員	足立　明信			科目ナンバリング	ESS3001		
配当年次	3	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	専門技術者に求められる倫理観を身につけている。メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる。						
授業のねらい	スタジオ、ステージと音響機器を活用して、前年次より更に高度なスタジオワークの実際を訓練し会得する。パッケージとしての最終商品(例えばCD、DVD等)の完成までのプロセスを学び、その制作過程を体験する。常に進歩するデジタル音響処理技術の情報を得ると共に、それらを評価する力をつける。行事のPA運用を実践して全体の流れを把握する。						
到達目標	・大学祭などのイベントに向けてPA機器の操作や進行の流れを理解する。 ・下級生に指導できるようなコミュニケーション能力を得る。 ・4年次の卒業制作の論文の前段階として、学内コンペ向けの作品を制作・発表する。						
授業計画	第1講 ガイダンス、ゼミの進め方 第2講 PA(アナログ調整卓)の復習 第3講 マイクロフォンの種類 第4講 マイクロフォンの音の聞き比べ 第5講 マイクロフォンのセッティング 第6講 エフェクターEQ理論 第7講 エフェクターEQ実習 第8講 エフェクターリバーブ理論 第9講 エフェクターリバーブ実習 第10講 エフェクターコンプレッサー等理論 第11講 エフェクターコンプレッサー等実習 第12講 エフェクター小テスト 第13講 外部機器をコンソールにつなぎPA実習 第14講 PA仕込み図 第15講 大学祭PA企画 セミナー内発表会						
テキスト・教材（参考文献含む）	配布するプリント。						
事前・事後学習	日頃から自分の好きなジャンルの音楽だけではなく、様々な音楽を意識して聞くようにすること(毎日30分程度)実習が中心になるので、毎回の授業で学んだ内容は、次回の授業でその通りに実行できるように、手順などを各自復習をする。(実習時にとったメモなどを参考にして、不明な点は参考文献やマニュアルなどで調べておくこと−60分)						
成績評価方法	課題への取り組みや提出等によって総合評価する。						
授業内の課題・提出方法	制作物の場合はUSBメモリなどで直接に手渡しで、またはメールに添付などの方法で提出する。 レポート課題の場合は、紙に印刷もしくは手書きで書いたものを直接に手渡しで、またはメールに 添付などの方法で提出する。 課題によって提出方法が異なる場合は随時、指示をします。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	すぐに評価できる 課題などはその場でフィードバックをし、評価に時間のかかるものは後日コメントを含めた形でフィードバックする。						
担当者から一言	基礎演習より一歩進んだ形でレコーディングとPAのエンジニアリングを学びます。また自分のセミナーに新たに加わった後輩とも積極的にコミュニケーションをとり、後輩にとって人間的にも、技術的にも尊敬できる先輩になれるように学修してください。						

授業科目名	専門演習 a			科目コード	371103	授業コード	412306
担当教員	大八木　麻希			科目ナンバリング	ESS3001		
配当年次	3	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し、自分の考えを的確に表現し、伝えることができる。 環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる。 専門技術者に求められる倫理観を身につけている。						
授業のねらい	調査結果を検討するにあたり、文献が大きなウェイトを占めるため、既往の文献にとらわれることなく、しかしじっくり吟味して考察することが重要である。専門性の高い作業であるが卒業研究で大切なポイントであるために、そのためのスキルを身につけてもらいたい。						
到達目標	本セミナーでは調査地での分析結果からデータ整理を行うための専門知識を深める。						
授業計画	第1回　ガイダンス、 第2回　水圏関連文献（邦文）検索 第3回　水圏関連文献（邦文）講読 第4回　水圏関連文献（邦文）発表 第5回　研究・調査進捗中間報告会 第6回　卒論研究テーマに関する文献検索 第7回　卒業研究テーマに関する文献講読 第8回　卒業研究テーマに関する文献発表 第9回　フィールドワーク（施設見学） 第10回　施設見学のまとめ、プレゼン 第11回　フィールドワーク（調査地見学） 第12回　調査地見学のまとめ、プレゼン 第13回　卒業研究対象地の概要まとめ 第14回　卒業研究ポスター作製 第15回　研究・調査進捗報告会② 簡易な実習後、添削し返却を行うため、アクティブラーニング要素を含む科目である。						
テキスト・教材（参考文献含む）	テキストなし 資料配布						
事前・事後学習	参考文献などで予習して、重点、問題点等を検討した上で授業に臨むことを推奨する（90分）。また、関連するニュースや書籍に日頃から関心を持ち、講義の理解に役立ててもらいたい。さらに、講義後には復習し講義内容の定着化を心掛けること（90分）。						
成績評価方法	受講態度50%、レポート50%。						
授業内の課題・提出方法	moodleで提出する。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	レポートは採点後、返却する。						
担当者から一言	分析には責任を持ち、真摯な姿勢で取り組んでください。						

授業科目名	専門演習 a			科目コード	371103	授業コード	412107
担当教員	片山　清和			科目ナンバリング	ESS3001		
配当年次	3	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	専門技術者に求められる倫理観を身につけている。 メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信ができる。						
授業のねらい	ホームページは今や企業だけでなく一般の人も作成しており、情報発信の主要な手段となっています。ホームページの中にはデータベースと連携することでウェブサービスを提供しているものがあります。 この講義では、データベースの操作と、PHPを用いてHTML文書を生成することと、PHPを用いてデータベースを操作することを学びます。						
到達目標	PHPとデータベースを連携したアプリを作成できる。						
授業計画	第１講　　ガイダンス、復習（１） 第２講　　復習（２） 第３講　　PHP（１） 第４講　　PHP（２） 第５講　　PHP（３） 第６講　　日記アプリ作成（１） 第７講　　日記アプリ作成（２） 第８講　　データベース（１） 第９講　　データベース（２） 第10講　PHPでのデータベース操作（１） 第11講　PHPでのデータベース操作（２） 第12講　日記アプリ作成（３） 第13講　日記アプリ作成（４） 第14講　日記アプリ作成（５） 第15講　まとめ						
テキスト・教材（参考文献含む）	＜テキスト＞なし（必要に応じて配布します）						
事前・事後学習	講義前には、これまでに学習した内容を復習すること（60分） 講義後には、学習した内容を十分に復習すること（120分）						
成績評価方法	＜評価＞授業への取り組み姿勢や課題提出などによって総合的に評価する。						
授業内の課題・提出方法	＜課題＞完成した作成したソースプログラムをMoodleに提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	＜フィードバック＞その場でソースコードを見ながら、誤りを修正してもらいます。						
担当者から一言	積み重ねの演習ですので、欠席はしないでください。						

授業科目名	専門演習 a			科目コード	371103	授業コード	413407
担当教員	黒田　淳哉			科目ナンバリング	ESS3001		
配当年次	3	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	・専門技術者に求められる倫理観を身につけている。 ・メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信ができる。						
授業のねらい	チームで目標や目的をプロジェクト化し、実行に向けて取り組みます。意義の設定から計画の立案、そしてタスクの割り振りから実行までを、チームで協力して自分たちの力で完結できるようになることを目指します。技術的な習得としては、照明コンソールを使用し、照明表現の幅を広げることを目指します。本講義は、専門演習 b に向けた基礎づくりとなります。						
到達目標	①プロジェクトに関する計画立案ができ、計画通り実行することができる。 ②チーム運営では、仲間と適切なコミュニケーションがとれる。 ③基本的な照明コンソールの使用方法が理解できる。						
授業計画	第１講　ガイダンス、授業の概要 第２講　プロジェクトに関する計画立案１ 第３講　プロジェクトに関する計画立案２ 第４講　発表～修正 第５講　制作・研究（グループワーク） 第６講　制作・研究（グループワーク） 第７講　制作・研究（グループワーク） 第８講　チェック～修正 第９講　制作・研究（グループワーク） 第10講　制作・研究（グループワーク） 第11講　制作・研究（グループワーク） 第12講　制作・研究（グループワーク） 第13講　中間発表 第14講　後期に向けた計画立案 第15講　まとめ						
テキスト・教材（参考文献含む）	なし。（必要に応じてプリントを配布します）						
事前・事後学習	毎回、講義の最後に課題を提示します。 予習　課題についてインターネットや書籍で調べてくること（90分）。 復習　配布資料や講義ノートを見返すなど復習しておくこと（90分）。						
成績評価方法	ルーブリックによって評価を行います。評価基準は、第１講のガイダンスにて配布します。なお、４回以上欠席した学生には原則として単位を与えません。また、無断欠席者には減点等のペナルティーを課すことがあります。						
授業内の課題・提出方法	毎回の講義でミニッツペーパーを提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題等のフィードバックは翌週の講義で適宜コメントします。						
担当者から一言	知識や技術を積み重ねながらグループワークで進めていきますので、講義は休まないで下さい。講義内の発言や質問など、積極的な参加を期待しています。						

授業科目名	専門演習 a			科目コード	371103	授業コード	415309
担当教員	千葉　賢			科目ナンバリング	ESS3001		
配当年次	3	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	地域の持続的発展のために貢献できる 環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組ことができる 専門技術者に求められる倫理観を身につけている						
授業のねらい	積極的に地域に出て、自分で環境問題を見て感じる機会を多く設けます。また、環境問題に取り組む人々に出会う機会を多く設けます。休日に調査に出かけることもあります。多様な観測機材を使って環境を測定し、そのデータを実験室やパソコンで分析し、結果をまとめ、発表する訓練を繰り返し行います。セミナーのメンバーで協力して調査し、議論もします。このような経験を通じて、自分の卒業研究のテーマを見つけてください。						
到達目標	北勢地域の環境問題への関心と知識を高め、自分なりの見識を持てるようにします。地域の問題と世界の問題がどのように関係しているのか、そのような視点を育てることも目標とします。プレゼンテーション能力を高め、議論に慣れることも目標とします。また、環境測定に用いる情報機器の使用方法、観測結果を整理するためのPCの使い方を習得します。						
授業計画	第1講　ガイダンス、過去の専門演習abの調査内容の紹介 第2講　専門演習abの調査内容の検討 第3講　専門演習abの調査内容の検討 第4講　鈴鹿山系のブナ林に関する事前学習 第5講　鈴鹿山系のブナ林観察（別日程で実施） 第6講　鈴鹿山系のブナ林観察（別日程で実施） 第7講　論文・報告書の書き方、報告書の作成 第8講　報告書の作成 第9講　報告書の発表 第10講　学外での環境調査の実施 第11講　学外での環境調査の実施 第12講　学外での環境調査の結果の分析 第13講　伊勢湾の水質環境の学習 第14講　伊勢湾の海洋ゴミ問題の学習 第15講　まとめ						
テキスト・教材（参考文献含む）	必要に応じてプリントを配布する。						
事前・事後学習	その時のテーマに応じて、自分から積極的に図書館やネット等で調べて事前学習（90分）や復習（90分）を行うこと。受動的な態度ではゼミについて行くことはできない。						
成績評価方法	ゼミ活動への積極参加姿勢（50%）、発表（25%）、提出物（25%）。ゼミなので対話を通じて学習進度をフィードバックする。						
授業内の課題・提出方法	数回、提出物を予定している。大学のゼミのフォルダに提出する。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	ゼミなので対話を通じて学習進度をフィードバックする。						
担当者から一言	自然環境分野のセミナーですが、パソコンや情報機器をかなり使うので、その意識を持って参加してください。調査中心になるので、基礎学問は他の授業でしっかり学んでください。このゼミでは利他主義を大切にします。						

授業科目名	専門演習 a			科目コード	371103	授業コード	415404
担当教員	野呂　達哉			科目ナンバリング	ESS3001		
配当年次	3	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	専門技術者に求められる倫理観を身につけている。 環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる。						
授業のねらい	生物多様性を把握するための多様な調査手法や標本などの記録に残す方法を学び、調査研究を進める上での基礎となる技術を身につける。						
到達目標	自身の研究対象やテーマを定め、調査手法の検討や調査地を選定し、事前準備などを通して実際に調査計画を立てる。目的に沿って調査と分析を実施し、結果をまとめる。						
授業計画	第１講　ガイダンス 第２講　研究目的の明確化、研究テーマを考える 第３講　事前の情報収集（文献およびインターネットによる検索） 第４講　調査計画の作成 第５講　調査機器や調査票の事前準備 第６講　フィールドワーク① ルートセンサスによる生物調査 第７講　フィールドワーク② ルートセンサスによる生物調査 第８講　データの整理と報告書の作成 第９講　なごや生物多様性センター見学＊ 第10講　フィールドワーク③ ため池における生物調査 第11講　フィールドワーク④ ため池における生物調査 第12講　データの整理と報告書の作成 第13講　フィールドワーク⑤ 音声によるコウモリ類調査 第14講　データの整理と報告書の作成 第15講　調査結果のまとめ フィールドワークの日程は天候などの理由で変更することがあります。 ＊見学先と調整の上、別日に実施します。						
テキスト・教材（参考文献含む）	プリントおよび関連資料を配布します。参考図書：「ミシシッピアカミミガメ防除マニュアル（日本カメ自然誌研究会監修）なごや生物多様性保全活動協議会，2014」、「ため池と水田の生き物図鑑 動物編（近藤繁生ら）トンボ出版，2005」など						
事前・事後学習	日頃から書籍や新聞、テレビ、インターネットなどで野生動物の情報をチェックし、必要な情報は保存してください（１日平均20分）。演習の後は、内容についての振り返りを行ってください（毎週40分）。日常生活の中で生物を見つけた際は、日時や場所、写真などの記録をとることを心がけてください。						
成績評価方法	レポート提出を課します。演習における調査、分析、見学に対する姿勢と提出されたレポートの内容から総合的に評価します（100%）。						
授業内の課題・提出方法	演習の内容に即した題材から出題します。課題は基本的に授業内の提出とします。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出物のフィードバックは必要に応じて行います。提出課題の中からいくつかの題材を選び、講義のはじめでディスカッションします。質問や意見など遠慮せず積極的に発言してください。						
担当者から一言	野生動物の調査では対象とする動物だけではなく、その動物が生活する生息環境を知ることも大切です。日頃から観察する目を養ってください。また、フィールドワークには思わぬ危険が潜んでいます。細心の注意を払って行動しましょう。						

授業科目名	専門演習 a			科目コード	371103	授業コード	413106
担当教員	廣住　豊一			科目ナンバリング	ESS3001		
配当年次	3	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	専門技術者に求められる倫理観を身につけている。 環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組ことができる。						
授業のねらい	土壌の性質を把握するための土壌断面調査および基本的物理性の測定法を学ぶ。						
到達目標	土壌調査を計画し、実施することができる。土壌の基本的物理性を測定することができる。調査結果をまとめ、正しく報告することができる。						
授業計画	第１講　ガイダンス、土壌調査法の解説 第２講　土壌調査の計画立案 第３講　土壌調査の実施 第４講　三相分布①　乾熱法 第５講　三相分布②　結果のまとめ 第６講　土粒子密度①　土粒子の密度試験 第７講　土粒子密度②　結果のまとめ 第８講　粒度分布①　篩別法 第９講　粒度分布②　沈降法 第10講　粒度分布③　結果のまとめ 第11講　飽和透水係数①　変水位透水試験 第12講　飽和透水係数②　結果のまとめ 第13講　土壌有機物①　強熱減量試験 第14講　土壌有機物②　結果のまとめ 第15講　土壌調査結果のまとめ 調査・実験の進捗状況に応じて内容は変更されることがある。 全体を通してアクティブ・ラーニングの要素が含まれる。						
テキスト・教材（参考文献含む）	なし。必要に応じて資料を配布する。 参考文献：日本ペドロジー学会編「土壌調査ハンドブック改訂版」博友社(1997年)、地盤工学会編「土質試験―基本と手引き―第二回改訂版」丸善(2010年)、宮崎毅・西村拓編「土壌物理実験法」東京大学出版会(2011年)						
事前・事後学習	調査および各実験の前に測定の方法と原理を確認し、手順書を作成する(90分)。分析結果をまとめた報告書を作成する(90分)。						
成績評価方法	調査および各実験における実施態度・習熟度、調査結果をまとめた報告書などをもとに総合的に評価する(100%)。						
授業内の課題・提出方法	各講で実施した調査および分析の結果をまとめた報告書を作成する。作成した報告書は印刷し、次講開始時に提出する。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出された報告書は添削し、次講開始時に返却する。						
担当者から一言	野外での調査や実験室での分析ではささいな油断や不注意がけがや事故につながります。細心の注意をもって調査・実験に臨んでください。調査では長靴・作業服、実験では白衣を必ず着用してください。						

授業科目名	専門演習 a			科目コード	371103	授業コード	412307
担当教員	前川　督雄			科目ナンバリング	ESS3001		
配当年次	3	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる 専門技術者に求められる倫理観を身につけている 多様な社会の価値観を理解し、自分の考えを的確に表現し、伝えることができる						
授業のねらい	実環境そしてサイバースペースでメディア情報を制御するための専門的な活性の構築をめざします。 基礎演習での成果をふまえ、対象を見る力、ものをつくる力、メッセージを伝える力、メディアを操る技術をより深め、広げていきます。 また、より本格的な調査・研究を行える活性の構築をめざします。						
到達目標	各個で目標を定めて、アプローチを探索するとともに自学自習を開始する。						
授業計画	第１講　ガイダンス／面談 第２講　目標提案／面談 第３講　目標設定／面談 第４講　アプローチ探索／面談 第５講　アプローチ探索／面談 第６講　アプローチ探索／面談 第７講　自学自習／面談 第８講　自学自習／面談 第９講　自学自習／面談 第10講　見直し／面談 第11講　自学自習／面談 第12講　自学自習／面談 第13講　自学自習／面談 第14講　進捗発表 第15講　面談 （各自の方向性・進捗にあわせて異なります） 制作した作品、研究調査した論文で学内コンペに参加します。						
テキスト・教材（参考文献含む）	テキストはありません。						
事前・事後学習	試行錯誤の数だけ視野が広がり、実感・理解が深まります。思いついたらまず試してみましょう（180分）。 夏休みに課題を出します。						
成績評価方法	定期試験を行いません。 課題への取り組み、進捗等によって総合評価します。						
授業内の課題・提出方法	毎週、進捗報告と次週に向けた目標設定をしてもらい、個別指導します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	毎週、進捗報告と次週に向けた目標設定をしてもらい、個別指導します。						
担当者から一言	広く深く探求してください。 後輩の指導に関与してもらう場合もあります。教えることを通じて自分の理解・技能を深めて下さい。						

授業科目名	専門演習 a			科目コード	371103	授業コード	415204
担当教員	牧田　直子			科目ナンバリング	ESS3001		
配当年次	3	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	専門技術者に求められる倫理観を身につけている 地域の持続的発展のために貢献できる 多様な社会の価値観を理解し、自分の考えを的確に表現し、伝えることができる 環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組ことができる						
授業のねらい	専門演習aでは、基礎演習で習得した実験技術や知識などを基盤とし、野外調査やプランクトンの観察と分類、結果のまとめ方を練習する。実践を繰り返すことにより、顕微鏡操作や分類、記録の取り方、まとめ方を身につけることが目標である。また、学術論文を輪読し、プランクトン研究について学びながら、卒業研究のテーマを決め、卒業研究の研究計画を立てる。						
到達目標	「自主的に実習に取り組める」 自分で考え、積極的に実習を進めよう。 「実習の記録を取り、報告する習慣をつける」 実習をしたらその日のうちに記録し、報告する習慣を身につけよう。						
授業計画	第1講　ガイダンスと図鑑の見方 第2講　野外調査の準備と練習（ビオトープ） 第3講　溜池でのプランクトン採集（フィールドワーク） 第4講　水田でのプランクトン採集（フィールドワーク） 第5講　プランクトンの観察と分類方法 第6講　溜池のプランクトンの分類実習 第7講　水田のプランクトンの分類実習 第8講　分類結果のまとめ方 第9講　結果の文章の書き方 第10講　付着藻類の観察準備 第11講　付着藻類の観察 第12講　プランクトンの計数方法 第13講　研究倫理 第14講　プランクトンの分類報告 第15講　野外調査のまとめと今後の研究計画 調査・研究には、実験実習やフィールドワークを含む。						
テキスト・教材（参考文献含む）	田中 正明「日本淡水産動植物プランクトン図鑑［第2版］」名古屋大学出版会（2022年） 定価：11，000円（税込） 適宜、プリントを配布する。						
事前・事後学習	(1) 毎日図鑑を見て、プランクトンの図と学名に慣れる（60分以上）。 (2) プランクトンを分類し、結果をノートや表にまとめる（90分以上）。 (3) レポートは実習と平行して、書ける部分から書き進めておく（30分）。						
成績評価方法	実験ノート（実習の記録）：75%、課題：15%、レポート：10% 実験ノートは毎回確認し、評価する。課題は3回課し、取り組みを評価する。レポートは減点方式で採点する。						
授業内の課題・提出方法	(1) 実験ノート：フィールドワーク、実験方法、実習、学名の書き方等、授業でやったことや自習したことは全て実験ノートに書き込む。 提出方法−授業の最後に提出して確認を受ける。 (2) 課題：プランクトンに関する課題を課す。実験ノートに書き込む、印刷物を提出する等、課題によって指示する。 提出方法−授業中に提出する。 (3) レポート：プランクトン採集と分類結果についてまとめたレポートを作成する。 提出方法−印刷して授業中に提出する。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	(1) 実験ノート：授業の最後に確認し、不備があれば指摘して加筆させる。 (2) 課題：授業中に添削もしくは解答例を示す。 (3)レポート：完成までに最低3回は添削し、返却する。未完成のレポートは受け取らない。						
担当者から一言	必ず実験ノートを用意してください。実習や学習した内容は、すべて実験ノートに記録しましょう。						

授業科目名	専門演習 a			科目コード	371103	授業コード	414302
担当教員	柳瀬　元志			科目ナンバリング	ESS3001		
配当年次	3	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	専門技術者に求められる倫理観を身につける メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる						
授業のねらい	2年生の基礎演習でえたスキルや経験を活かし、映像制作を通して「表現する能力」を発展させます。ゼミ生として共通テーマをもとに、企画・脚本・撮影・編集を行い10分程度の作品を制作します。 また個人でも専門演習aを履修中に2～3本の自主製作作品を完成させます。						
到達目標	ベーシックな企画書の作成から脚本・構成案への落とし込み、また撮影、編集をスムーズに行うなど、企画から完成まで、自力でやり遂げることが到達目標です。 またチームで制作する際のコミュニケーションやコーディネート力、個人で制作する際のオリジナリティなどを身につけます。 特に「書く」ことのスキルアップを目指します						
授業計画	第1講　ガイダンス　～制作テーマ決定～ 第2講　企画書作成 第3講　脚本① 第4講　脚本② 第5講　脚本プレゼンテーション 第6講　個人作品チェック＆撮影① 第7講　撮影② 第8講　撮影③ 第9講　編集① 第10講　編集② 第11講　編集③ 第12講　個人作品チェック＆試写＆手直し 第13講　手直し＆MA　NA録音 第14講　テロップ 第15講　合評 ※進捗状況により、内容の変更入れ替えがあります。						
テキスト・教材（参考文献含む）	必要に応じて資料を配布						
事前・事後学習	普段からあらゆるメディアに積極的に触れ、自ら成長することを意識して事前事後学習とする。						
成績評価方法	課題への取り組み、完成度、コミュニケーション力、チームワークなど多岐にわたって評価します。 また各自で制作する作品の完成度や本数も評価の対象です。 欠席遅刻は大きくマイナスとします。						
授業内の課題・提出方法	決められた期限までに正しく教員に直接提出						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	ゼミ生同士のプレゼンテーションを中心に 授業・課題への取り組み：７０％ 制作への貢献度：３０％						
担当者から一言	欠席遅刻は不可。チームで行動することに対して個人個人が責任を持ってください。 自覚をもって作品制作に取り組むこと 特に今年度は「書く」ことに力を入れます						

授業科目名	専門演習 b			科目コード	371104	授業コード	412703
担当教員	足立　明信			科目ナンバリング	ESS3002		
配当年次	3	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	専門技術者に求められる倫理観を身につけている。メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる。						
授業のねらい	スタジオ、ステージと音響機器を活用して前年次より更に高度なスタジオワークの実際を訓練し会得する。パッケージとしての最終商品(例えばCD、DVD等)の完成までのプロセスを学びその制作過程を体験する。常に進歩するデジタル音響処理技術の情報を得ると共に、それらを評価する力をつける。行事のPA運用を実践して全体の流れを把握する。						
到達目標	・大学祭に向けてPA機器の操作や進行の流れを理解する。 ・下級生に指導できるようなコミュニケーション能力を得る。 ・4年次の卒業制作・論文の前段階として、学内コンペ向けの作品を制作・発表する。						
授業計画	第1講 ガイダンス、ゼミの進め方 第2講 DTMとDAW 第3講 様々なDAW 第4講 ProTools基本セッティング 第5講 ProTools打ち込み 第6講 ProToolsオーディオ録音 第7講 ProToolsエフェクターのセッティング 第8講 ProToolsミキシング 第9講 X32(デジタル音響調整卓)のセッティング 第10講 X32とアナログコンソールとの違い 第11講 エフェクターEQ 応用 第12講 エフェクター リバーブ 応用 第13講 エフェクター コンプレッサー 応用 第14講 PA仕込み図などの資料作成法 第15講 PA企画 授業は全体的にほぼ実習で行われます。セミナー内発表会						
テキスト・教材（参考文献含む）	配布するプリント。						
事前・事後学習	日頃から自分の好きなジャンルの音楽だけではなく、様々な音楽を意識して聞くようにすること(毎日30分程度)実習が中心になるので、毎回の授業で学んだ内容は、次回の授業でその通りに実行できるように、手順などを各自復習をする。(実習時にとったメモなどを参考にして、不明な点は参考文献やマニュアルなどで調べておくこと−60分)						
成績評価方法	課題への取り組みや提出等によって総合評価する。						
授業内の課題・提出方法	制作物の場合はUSBメモリなどで直接に手渡しで、またはメールに添付などの方法で提出する。 レポート課題の場合は、紙に印刷もしくは手書きで書いたものを直接に手渡しで、またはメールに 添付などの方法で提出する。 課題によって提出方法が異なる場合は随時、指示をします。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	すぐに評価できる課題などはその場でフィードバックをし、評価に時間のかかるものは後日コメントを含めた形でフィードバックする。						
担当者から一言	基礎演習より一歩進んだ形でレコーディングとPAのエンジニアリングを学びます。また自分のセミナーに新たに加わった後輩とも積極的にコミュニケーションをとり、後輩にとって人間的にも、技術的にも尊敬できる先輩になれるように学修してください。						

授業科目名	専門演習ｂ			科目コード	371104	授業コード	412704
担当教員	大八木　麻希			科目ナンバリング	ESS3002		
配当年次	3	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し、自分の考えを的確に表現し、伝えることができる。 環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる。 専門技術者に求められる倫理観を身につけている。						
授業のねらい	調査結果を検討するにあたり、文献が大きなウェイトを占めるため、既往の文献にとらわれることなく、しかしじっくり吟味して考察することが重要である。専門性の高い作業であるが卒業研究で大切なポイントであるために、そのためのスキルを身につけてもらいたい。						
到達目標	本セミナーでは調査地での分析結果からデータ整理を行うための専門知識を深める。						
授業計画	第1回　ガイダンス、 第2回　水圏関連文献（邦文）検索 第3回　水圏関連文献（邦文）講読 第4回　水圏関連文献（邦文）発表 第5回　研究・調査進捗中間報告会 第6回　卒論研究テーマに関する文献検索 第7回　卒業研究テーマに関する文献講読 第8回　卒業研究テーマに関する文献発表 第9回　フィールドワーク（施設見学） 第10回　施設見学のまとめ、プレゼン 第11回　フィールドワーク（調査地見学） 第12回　調査地見学のまとめ、プレゼン 第13回　卒業研究対象地の概要まとめ 第14回　卒業研究ポスター作製 第15回　研究・調査進捗報告会② 簡易な実習後、添削し返却を行うため、アクティブラーニング要素を含む科目である。						
テキスト・教材（参考文献含む）	テキストなし 資料配布						
事前・事後学習	参考文献などで予習して、重点、問題点等を検討した上で授業に臨むことを推奨する（90分）。また、関連するニュースや書籍に日頃から関心を持ち、講義の理解に役立ててもらいたい。さらに、講義後には復習し講義内容の定着化を心掛けること（90分）。						
成績評価方法	受講態度50%、レポート50%。						
授業内の課題・提出方法	moodleを利用して提出する。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	レポートは採点後、返却する。						
担当者から一言	分析には責任を持ち、真摯な姿勢で取り組んでください。						

授業科目名	専門演習ｂ			科目コード	371104	授業コード	412507
担当教員	片山　清和			科目ナンバリング	ESS3002		
配当年次	3	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	専門技術者に求められる倫理観を身につけている。 メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信ができる。						
授業のねらい	自学自習で課題に取り組むことで、卒業制作・卒業研究に向けて、スマホアプリ制作やAI研究を遂行できる力を身につけます。						
到達目標	①アプリ制作やAI研究の流れを身につける ②アプリ制作やAI研究で使うツールの使い方を身につける						
授業計画	第１講　ガイダンス、制作・研究分野選択 第２講　自学自習 第３講　自学自習 第４講　自学自習 第５講　自学自習 第６講　自学自習 第７講　自学自習 第８講　自学自習 第９講　自学自習 第10講　自学自習 第11講　発表準備 第12講　発表準備 第13講　ゼミ内発表（１） 第14講　ゼミ内発表（２） 第15講　まとめ						
テキスト・教材（参考文献含む）	なし（必要に応じて配布します）						
事前・事後学習	講義後には、学習した内容を十分に復習すること（180分）						
成績評価方法	課題への取り組み姿勢や進捗状況などによって総合的に評価する。						
授業内の課題・提出方法	毎回の授業で課題に取り組んでもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題の内容や進め方などのアドバイスを授業内だけでなく、授業外でも行います。						
担当者から一言	プログラミングはバグやアルゴリズムで悩んだ経験をすればするほど上達します。ゼミの時間だけでなく、時間を作り課題に取り組んでください。 積み重ねの演習ですので、欠席はしないでください。						

授業科目名	専門演習ｂ			科目コード	371104	授業コード	415708
担当教員	黒田　淳哉			科目ナンバリング	ESS3002		
配当年次	3	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	専門技術者に求められる倫理観を身につけている。 メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信ができる。						
授業のねらい	専門演習aの経験をもとに、次のプロジェクトを進めます。専門演習aと同様にチームで目標をプロジェクト化し、実行に向けて取り組みます。目標や意義の設定から計画の立案、そしてタスクの割り振りから実行までを、チームで協力して自分たちの力で完結できるようになることを目指します。技術的な習得としては、照明コンソールの高度な使用方法を理解しながら、照明表現の幅を広げることを目指します。						
到達目標	①プロジェクトに関する計画立案ができ、計画通り実行することができる。 ②チーム運営として、仲間と適切なコミュニケーションがとれる。 ③高度な照明コンソールの使用方法が理解できる。						
授業計画	第１講　ガイダンス 第２講　プロジェクトに関する計画立案１ 第３講　プロジェクトに関する計画立案２ 第４講　発表～修正 第５講　制作・研究（グループワーク） 第６講　制作・研究（グループワーク） 第７講　制作・研究（グループワーク） 第８講　チェック～修正 第９講　制作・研究（グループワーク） 第10講　制作・研究（グループワーク） 第11講　制作・研究（グループワーク） 第12講　制作・研究（グループワーク） 第13講　中間発表 第14講　後期に向けた計画立案～まとめ 第15講　まとめ						
テキスト・教材（参考文献含む）	なし。（必要に応じてプリントを配布します）						
事前・事後学習	毎回、講義の最後に課題を提示します。 予習　課題についてインターネットや書籍で調べてくること（90分）。 復習　配布資料や講義ノートを見返すなど復習しておくこと（90分）。						
成績評価方法	ルーブリックによって評価を行います。評価基準は、第１講のガイダンスにて配布します。なお、４回以上欠席した学生には原則として単位を与えません。また、無断欠席者には減点等のペナルティーを課すことがあります。						
授業内の課題・提出方法	毎回の講義でミニッツペーパーを提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題等のフィードバックは翌週の講義で適宜コメントします。						
担当者から一言	知識や技術を積み重ねながらグループワークで進めていきますので、講義は休まないで下さい。講義内の発言や質問など、積極的な参加を期待しています。						

授業科目名	専門演習 b			科目コード	371104	授業コード	415709
担当教員	千葉　賢			科目ナンバリング	ESS3002		
配当年次	3	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	地域の持続的発展のために貢献できる 環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる 専門技術者に求められる倫理観を身につけている						
授業のねらい	積極的に地域に出て、自分で環境問題を見て感じる機会を多く設けます。また、環境問題に取り組む人々に出会う機会を多く設けます。休日に調査に出かけることもあります。多様な観測機材を使って環境を測定し、そのデータを実験室やパソコンで分析し、結果をまとめ、発表する訓練を繰り返し行います。セミナーのメンバーで協力して調査し、議論もします。このような経験を通じて、自分の卒業研究のテーマを見つけてください。						
到達目標	北勢地域の環境問題への関心と知識を高め、自分なりの見識を持てるようにします。地域の問題と世界の問題がどのように関係しているのか、そのような視点を育てることも目標とします。プレゼンテーション能力を高め、議論に慣れることも目標とします。また、環境測定に用いる情報機器の使用方法、観測結果を整理するためのPCの使い方を習得します。						
授業計画	第1講　ガイダンス、後期授業の説明と調査の打合せ 第2講　学外での環境調査の実施 第3講　学外での環境調査の実施 第4講　学外での環境調査の実施 第5講　学外での環境調査結果の分析と整理 第6講　答志島奈佐の浜の海岸清掃（別日程で実施） 第7講　答志島奈佐の浜の海岸清掃（別日程で実施） 第8講　農業体験（学外） 第9講　QGIS（地理情報システム）の学習 第10講　QGIS（地理情報システム）の学習 第11講　QGIS（地理情報システム）の学習 第12講　論文・報告書の書き方 第13講　論文・報告書の書き方 第14講　論文・報告書の発表 第15講　卒業研究発表会への出席						
テキスト・教材（参考文献含む）	必要に応じてプリントを配布する。						
事前・事後学習	その時のテーマに応じて、自分から積極的に図書館やネット等で調べて事前学習（90分）や復習（90分）を行うこと。受動的な態度ではゼミについて行くことはできない。						
成績評価方法	ゼミ活動への積極参加姿勢（50%）、発表（25%）、提出物（25%）。ゼミなので対話を通じて学習進度をフィードバックする。						
授業内の課題・提出方法	数回の提出物を予定。大学のゼミフォルダに提出する。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	ゼミなので対話を通じて学習進度をフィードバックする。						
担当者から一言	自然環境分野のセミナーですが、パソコンや情報機器をかなり使うので、その意識を持って参加してください。調査中心になるので、基礎学問は他の授業でしっかり学んでください。このゼミでは利他主義を大切にします。						

授業科目名	専門演習ｂ			科目コード	371104	授業コード	415710
担当教員	野呂　達哉			科目ナンバリング	ESS3002		
配当年次	3	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	専門技術者に求められる倫理観を身につけている。 環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる。						
授業のねらい	調査方法の検討や野外調査の事前準備、捕獲調査や記録の残し方、データ分析等、卒業研究を進める上で必要な基礎を身に付ける。						
到達目標	調査計画を立て、目的に沿った調査を実施する。演習を通して自身の研究対象やテーマを定め、進捗状況によっては卒業研究をはじめる。						
授業計画	第１講　ガイダンス 第２講　哺乳類の調査手法とトラップや調査機器の使い方 第３講　捕獲調査計画の立て方と捕獲許可申請等の書き方 第４講　調査機器や調査票の事前準備 第５講　フィールドワーク① トラップによる哺乳類調査 第６講　フィールドワーク② トラップによる哺乳類調査 第７講　フィールドワーク③ トラップによる哺乳類調査 第８講　なごや生物多様性センター見学＊ 第９講　外部形態の計測と仮剥製の作製 第10講　哺乳類のリスト作成 第11講　調査結果資料の準備 第12講　調査報告・意見交換 第13講　卒業研究に向けた情報収集（文献およびインターネットによる検索） 第14講　卒業研究のテーマを考える 第15講　卒業研究計画とスケジュールの作成 フィールドワークの日程は天候などの理由で変更することがあります。 ＊見学先と調整の上、別日に実施します。						
テキスト・教材（参考文献含む）	自作プリント、および関連資料配布。参考文献：「アニマル・ウォッチング—日本の野生動物（安間 繁樹）晶文社，1985」、「野生動物管理のためのフィールド調査法: 哺乳類の痕跡判定からデータ解析まで」、「カメラトラップによる野生生物調査入門: 調査設計と統計解析」						
事前・事後学習	日頃から書籍や新聞、テレビ、インターネットなどで野生動物の情報をチェックし、必要な情報は保存してください（１日平均20分）。また、演習の後は、内容についての振り返りを行ってください（毎週40分）。日常生活の中で生物を見つけた際は、日時や場所、写真などの記録をとることを心がけてください。						
成績評価方法	授業、調査に対する姿勢（50%）。レポート提出を課します。レポートは採点して返却します（30%）。最終講の調査報告も評価の対象とします（20%）。						
授業内の課題・提出方法	演習の内容に即した身近な題材から出題します。課題は基本的に授業内の提出とします。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出物のフィードバックは必要に応じて行います。提出課題の中からいくつかの題材を選び、講義のはじめでディスカッションします。質問や意見など遠慮せず積極的に発言してください。						
担当者から一言	哺乳類の捕獲調査は法律に従った許可申請が必要です。罠の設置にも土地管理者の許可が必要です。事前準備の段階でこういった側面も理解しておきましょう。また、フィールドワークには思わぬ危険が潜んでいます。細心の注意を払って行動しましょう。						

授業科目名	専門演習 b			科目コード	371104	授業コード	413505
担当教員	廣住　豊一			科目ナンバリング	ESS3002		
配当年次	3	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	専門技術者に求められる倫理観を身につけている。 環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組ことができる。						
授業のねらい	土壌の性質を把握するための化学的性質の測定法を学ぶ。						
到達目標	土壌の化学的性質を測定することができる。分析結果をまとめ、正しく報告することができる。						
授業計画	第１講　ガイダンス、土壌分析法の解説 第２講　土壌試料の採取 第３講　一般化学性①　pH および EC 第４講　一般化学性②　結果のまとめ 第５講　交換性塩基①　ショーレンベルガー法 第６講　交換性塩基②　結果のまとめ 第７講　陽イオン交換容量①　ホルモル滴定法 第８講　陽イオン交換容量②　結果のまとめ 第９講　有効態リン酸①　トルオーグ法 第10講　有効態リン酸②　結果のまとめ 第11講　リン酸吸収係数①　リン酸吸収係数測定 第12講　リン酸吸収係数②　結果のまとめ 第13講　アンモニア態窒素①　水蒸気蒸留法 第14講　アンモニア態窒素②　結果のまとめ 第15講　土壌分析結果のまとめ 調査・実験の進捗状況に応じて内容は変更されることがある。 全体を通してアクティブ・ラーニングの要素が含まれる。						
テキスト・教材（参考文献含む）	なし。必要に応じて資料を配布する。 参考文献：日本土壌肥料学会「土壌標準分析・測定法」博友社(2004年)、 渡辺和彦ほか「環境・資源・健康を考えた土と施肥の新知識」農文協(2012年)、JA全農「だれにもできる土壌診断の読み方と肥料計算」農文協(2010年)						
事前・事後学習	各実験の前に測定の方法と原理を確認し、手順書を作成する(90分)。分析結果をまとめた報告書を作成する(90分)。						
成績評価方法	各実験における実施態度・習熟度、調査結果をまとめた報告書などをもとに総合的に評価する(100%)。						
授業内の課題・提出方法	各講で実施した分析の結果をまとめた報告書を作成する。作成した報告書は印刷し、次講開始時に提出する。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出された報告書は添削し、次講開始時に返却する。						
担当者から一言	実験室での分析ではささいな油断や不注意がけがや事故につながります。細心の注意をもって調査・実験に臨んでください。白衣を必ず着用してください。						

授業科目名	専門演習ｂ			科目コード	371104	授業コード	412705
担当教員	前川　督雄			科目ナンバリング	ESS3002		
配当年次	3	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる 専門技術者に求められる倫理観を身につけている 多様な社会の価値観を理解し、自分の考えを的確に表現し、伝えることができる						
授業のねらい	前期「専門演習ａ」に引き続き、実環境そしてサイバースペースでメディア情報を制御するための専門的な活性の構築、また本格的な調査・研究を行える活性の構築をめざします。						
到達目標	各個で定めた目標を実現するために必要なツール、基礎的な知の体系を見定め、それらを獲得・達成するアプローチを組み立てる。						
授業計画	第１講　ガイダンス／夏休み中の報告 第２講　目標確認／面談 第３講　自学自習／面談 第４講　自学自習／面談 第５講　自学自習／面談 第６講　見直し／面談／学内コンペ応募 第７講　自学自習／面談 第８講　自学自習／面談 第９講　自学自習／面談 第10講　進捗発表 第11講　イベント制作（卒業展準備） 第12講　イベント制作（卒業展準備） 第13講　イベント制作（卒業展準備） 第14講　イベント制作（卒業展準備） 第15講　総括／面談 （各自の方向性・進捗にあわせて異なります） 制作・開発した作品、研究調査した論文で学内コンペに参加します。						
テキスト・教材（参考文献含む）	テキストはありません。						
事前・事後学習	試行錯誤の数だけ視野が広がり、実感・理解が深まります。思いついたらまず試してみましょう（180分）。 冬休みに課題を出します。						
成績評価方法	定期試験を行いません。 課題への取り組み、進捗等によって総合評価します。						
授業内の課題・提出方法	毎週、進捗報告と次週に向けた目標設定をしてもらい、個別指導します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	毎週、進捗報告と次週に向けた目標設定をしてもらい、個別指導します。						
担当者から一言	広く深く探求してください。模索し、試行錯誤できるのはここまでです。 後輩の指導に関与してもらう場合もあります。教えることを通じて自分の理解・技能を深めて下さい。						

授業科目名	専門演習ｂ			科目コード	371104	授業コード	415609
担当教員	牧田　直子			科目ナンバリング	ESS3002		
配当年次	3	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	専門技術者に求められる倫理観を身につけている 地域の持続的発展のために貢献できる 多様な社会の価値観を理解し、自分の考えを的確に表現し、伝えることができる 環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる						
授業のねらい	専門演習ｂでは、卒業研究のための調査を本格的に開始する。自分で決めた調査対象について十分な余裕を持って調査を進める。論文紹介を通してプランクトン研究の知識を広げ、各自の調査研究に役立てる。プランクトンの分類は、とにかくたくさん観ること、図鑑に慣れることから始まる。計画を立てて自主的に取り組む姿勢を重視する。						
到達目標	「自信を持って調査・研究を進められる」 多少の失敗やうまく行かないことがあっても大丈夫。自由な発想で色々試し、自分の実力にしていこう。 「学名を読める」 プランクトンの名前を覚えるのは大変ですが、見て読めるようになりましょう。						
授業計画	第1講　ガイダンスと研究計画の確認、調査準備 第2講　試料採集（1回目） 第3講　試料採集予備（1回目） 第4講　調査・研究方法の妥当性を検討、文献調査 第5講　試料採集（2回目） 第6講　試料採集予備（2回目） 第7講　調査・研究方法の確認 第8講　調査・研究開始 第9講　調査・研究（継続） 第10講　調査・研究（継続2回目） 第11講　試料採集（3回目） 第12講　試料採集予備（3回目） 第13講　調査・研究（継続3回目） 第14講　調査・研究（継続4回目） 第15講　調査・研究のまとめ 調査・研究には、実験実習やフィールドワークを含む。						
テキスト・教材（参考文献含む）	田中 正明「日本淡水産動植物プランクトン図鑑［第2版］」名古屋大学出版会（2022年） 定価：11，000円（税込） 適宜、プリントを配布する。						
事前・事後学習	(1) 自分の調査・研究に近い分野の論文を読み、学習を進める（60分以上）。 (2) プランクトンを分類し、調査・研究を進めながらデータを整理する（90分以上）。 (3) レポートは調査・研究と平行して、書ける部分から書き進めておく（30分以上）。						
成績評価方法	実験ノート（実習の記録）：75%、課題：15%、レポート：10% 実験ノートは毎回確認し、評価する。課題は3回課し、取り組みを評価する。レポートは減点方式で採点する。						
授業内の課題・提出方法	(1) 実験ノート：授業でやったことや自習したことは全て実験ノートに書き込む。 提出方法−授業の最後に提出して確認を受ける。 (2) 課題：プランクトンに関する課題を課す。実験ノートに書き込む、印刷物を提出する等、課題によって指示する。 提出方法−授業中に提出する。 (3) レポート：プランクトン採集と分類結果についてまとめたレポートを作成する。 提出方法−印刷して授業中に提出する。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	(1) 実験ノート：授業の最後に確認し、不備があれば指摘して加筆させる。 (2) 課題：授業中に添削もしくは解答例を示す。 (3)レポート：完成までに最低3回は添削し、返却する。未完成のレポートは受け取らない。						
担当者から一言	積極的に取り組み、自分の考えで調査を進め、実現させていくことで得られる達成感、探求する楽しみを実感しましょう。自信を持って、のびのびと活動してください。						

授業科目名	専門演習ｂ			科目コード	371104	授業コード	414702
担当教員	柳瀬　元志			科目ナンバリング	ESS3002		
配当年次	3	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	専門技術者に求められる、倫理観を身につけている。 メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる。						
授業のねらい	自らテーマを設け、1人2作品の制作を目指すとともに、ゼミ内でも作品作りを行います ジャンルは問いませんが、しっかりとした企画書、構成案・撮影レベル、編集スキル、選曲センスなどを求めます。 特に企画書、構成案といった「書く」ことを重視します。						
到達目標	4年時の卒業制作に向け、各自がしっかりと自分の力だけで作品を作り上げることができるスキルを身につけることを目標とします。 また構成・撮影・編集など後輩を指導できる力を身につけます。						
授業計画	第1講　ガイダンス　～作品制作のロードマップ作製～ 第2講　個人作品テーマ発表 第3講　ゼミ作品テーマ発表 第4講　ゼミ作品企画書 第5講　ゼミ作品構成案① 第6講　ゼミ作品構成案② 第7講　個人作品①プレビュー 第8講　ゼミ作品撮影① 第9講　ゼミ作品撮影② 第10講　ゼミ作品撮影③ 第11講　個人作品②プレビュー 第12講　ゼミ作品編集① 第13講　ゼミ作品編集② 第14講　ゼミ作品MA・NA 第15講　ゼミ作品プレビュー ※授業の進捗状況により、内容の変更入れ替えがあります。						
テキスト・教材（参考文献含む）	必要に応じて配布						
事前・事後学習	自ら様々なメディアに触れ、常に最先端の情報を入手する努力を怠らないこと						
成績評価方法	授業・課題への取り組み：３０％ 作品制作への意欲・参加度：４０％ 作品の完成度・レポートの内容など：３０％ 定期試験はありません						
授業内の課題・提出方法	必要に応じて課題を出します 提出は、担当教員に直接手渡し						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	内容を吟味し、各学生ごとに採点						
担当者から一言	卒業制作に向けての大切な取り組みとなります。 時間があっという間に過ぎて、気が付けば3年生も終わってしまうという事にもなりかねません。 将来を左右する、大切な時期です。 心して取り組みましょう。						

授業科目名	専門演習 c			科目コード	371105	授業コード	412404
担当教員	足立　明信			科目ナンバリング	ESS4001		
配当年次	4	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	専門技術者に求められる倫理観を身につけている。メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる。						
授業のねらい	基礎及び専門セミナーで習得した知識、技術、技能を基に、受講生一人一人が自らの制作または研究の課題を設定し、年間を通して課題達成に向けて取り組む。音にかかわる課題を策定しその問題解決や実現に必要な知識、技術、意欲、工程管理能力などを身に付けるねらいとする。また自らの課題の達成に専念するのみではなく、他のメンバー(他のセミナーも含む)との交流を図りそのテーマの理解に努力し必要な場合はお互いに協力しあう事により他の側面からの意見や助言を得てテーマに対する理解の幅を広げる。						
到達目標	・自身の研究の成果の集大成である卒業論文(卒業制作)を立案、制作する。 ・下級生に対して模範となるコミュニケーション能力を確立する。						
授業計画	第1講 ガイダンス・履修指導 第2講 ディスカッションによる、卒業制作のためのアイディア出し 第3講 アイディアをテーマにまとめる 第4講 テーマの内容の実現性検討 第5講 ディスカッションによるテーマの評価 第6講 卒業展での発表メディアの決定 第7講 制作時に必要となる機材、消耗品などの確認 第8講 卒業展のスケジュールから逆算してのスケジュールの作成 第9講 目的を明確にする 第10講 具体的な作業を列挙して計画を立てる 第11講 各自作業を行う 第12講 作業の結果を評価し計画を修正 第13講 修正結果をもとに作業を行う 第14講 作業を行い、結果を評価し計画を修正 第15講 セミナー内でのメディアチェック						
テキスト・教材（参考文献含む）	特になし。						
事前・事後学習	卒業制作、卒業研究の取り組み方や進行状況によって、総合的に評価します。制作・研究の取り組み方・進行状況などに関しては随時フィードバックします。						
成績評価方法	課題への取り組みや提出等によって総合評価する。						
授業内の課題・提出方法	制作物の場合はUSBメモリなどで直接に手渡しで、またはメールに添付などの方法で提出する。 レポート課題の場合は、紙に印刷もしくは手書きで書いたものを直接に手渡しで、またはメールに 添付などの方法で提出する。 課題によって提出方法が異なる場合は随時、指示をします。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	すぐに評価できる課題などはその場でフィードバックをし、評価に時間のかかるものは後日コメントを含めた形でフィードバックする。						
担当者から一言	卒業論文・卒業制作は論文調査からスタジオを使用しての録音や編集まで非常に幅の広い作業になります。各自進行状況を常に担当教員に報告、相談して指導を受けるように心がけると共に、計画通り進めるよう自己管理を学んで下さい。						

授業科目名	専門演習 c			科目コード	371105	授業コード	412206
担当教員	池田　幹男			科目ナンバリング	ESS4001		
配当年次	4	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	専門技術者に求められる倫理観を身につけている メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる能力を身に付ける。						
授業のねらい	これまでの講義・演習などで獲得した知識・技術・経験を生かして、卒業研究のテーマを検討し、決定する。決定したテーマを要素に分解して研究計画が立てられるようになる。						
到達目標	①研究テーマを自分自身で設定して、研究に必要な知識を収集できるようになる。 ②研究テーマに必要となる要素や問題点を自分で検討できるようになる。 ②授業時間外でも、独自に研究が進められるようになる。						
授業計画	第１講　　ガイダンス、卒業研究テーマの検討（１） 第２講　　卒業研究テーマの検討（２） 第３講　　卒業研究テーマの検討（３） 第４講　　卒業研究の実施、全体検討（１） 第５講　　卒業研究の実施、全体検討（２） 第６講　　卒業研究の実施、全体検討（３） 第７講　　卒業研究の実施、全体検討（４） 第７講　　卒業研究の実施、全体検討（５） 第７講　　卒業研究の実施、全体検討（６） 第１０講　卒業研究の実施、全体検討（７） 第１１講　卒業研究の実施、全体検討（８） 第１２講　卒業研究の実施、全体検討（９） 第１３講　卒業研究の中間発表会の準備（１） 第１４講　卒業研究の中間発表会の準備（２） 第１５講　卒業研究の中間発表会						
テキスト・教材（参考文献含む）	なし（必要に応じて指示または配布する）						
事前・事後学習	研究の内容・進捗状況に応じて必要な知識を収集する（90分） 時間外にも、生じた問題・課題への対応策を検討して研究を進める（90分）						
成績評価方法	授業への取り組み姿勢や卒業研究の進捗状況などによって総合的に評価する。 定期試験は実施しない。						
授業内の課題・提出方法	毎回、研究の進捗レポートを書面で提出する。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	ディスカッション形式で授業を進めるので、授業時間内に口頭でフィードバックする。						
担当者から一言	卒業研究はテーマを自分で決定し、自分で考えながら進めていくので、自主性が重要になる。						

授業科目名	専門演習 c			科目コード	371105	授業コード	412405
担当教員	大八木　麻希			科目ナンバリング	ESS4001		
配当年次	4	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し、自分の考えを的確に表現し、伝えることができる。 環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる。 専門技術者に求められる倫理観を身につけている。						
授業のねらい	基礎演習ab、専門演習abで取り組んだ内容を反芻しながら、実践的に卒業論文の執筆に取り組む。卒業論文完成に向けて、必要な知識と情報の収集について身に付ける過程で研究の楽しみに気づくことが出来れば、良い研究につながる。						
到達目標	本セミナーでは調査研究を通じて、自然環境への理解の仕方を各自習得する。						
授業計画	第1回　ガイダンス 第2回　文献（英文）検索 第3回　文献（英文）講読 第4回　文献（英文）発表 第5回　卒業論文目次作成 第6回　中間発表要旨作成①タイトル及び目的 第7回　中間発表要旨作成②概要及び方法 第8回　中間発表要旨作成③結果及び考察 第9回　中間発表プレゼン作成①タイトル及び目的 第10回　中間発表プレゼン作成②概要及び方法 第11回　中間発表プレゼン作成③結果及び考察 第12回　中間発表プレゼン予備発表、添削 第13回　中間発表プレゼン修正、発表 第14回　卒業論文骨子を固める 第15回　卒業研究中間発表会 実験や野外実習を行い、アクティブラーニング要素を含む科目である。						
テキスト・教材（参考文献含む）	テキストなし 資料配布						
事前・事後学習	参考文献などで予習して、重点、問題点等を検討した上で授業に臨むことを推奨する（90分）。また、関連するニュースや書籍に日頃から関心を持ち、講義の理解に役立ててもらいたい。さらに、講義後には復習し講義内容の定着化を心掛けること（90分）。						
成績評価方法	卒業研究や演習への取り組み姿勢、研究の進捗状況、卒業研究中間発表会での発表内容などをもとに総合的に評価する（100%）。						
授業内の課題・提出方法	moodleを利用する。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	研究の進捗状況に応じて適切な助言を行う。						
担当者から一言	教員はサポート側に徹し、セミナー時間外の指導についても歓迎します。						

授業科目名	専門演習 c			科目コード	371105	授業コード	412207
担当教員	片山　清和			科目ナンバリング	ESS4001		
配当年次	4	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	専門技術者に求められる倫理観を身につけている。 メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信ができる。						
授業のねらい	卒業研究のテーマを自分で決定し、これまでの講義・演習などで獲得した知識・技術・経験を生かして、主体的に卒業研究を進めてもらいます。 また、演習時間内で行う全体検討において、自分の研究の進捗状況をプレゼンテーションしたり、他のゼミ生のプレゼンテーションを聞いて議論したりすることで、プレゼンテーション能力だけでなくコミュニケーション能力の向上も図ります。						
到達目標	①卒業研究の中間発表会の準備ができる。 ②研究の進捗状況を報告・議論できる。 ③研究内容をプレゼンテーションできる。						
授業計画	第１講　　ガイダンス、卒業研究テーマの検討・決定 第２講　　研究計画の立案 第３講　　卒業研究の実施、全体検討（１） 第４講　　卒業研究の実施、全体検討（２） 第５講　　卒業研究の実施、全体検討（３） 第６講　　卒業研究の実施、全体検討（４） 第７講　　卒業研究の実施、全体検討（５） 第８講　　ゼミ内中間発表会の準備 第９講　　ゼミ内中間発表会 第10講　卒業研究の実施、全体検討（６） 第11講　卒業研究の実施、全体検討（７） 第12講　卒業研究の実施、全体検討（８） 第13講　卒業研究の実施、全体検討（９） 第14講　卒業研究の実施、全体検討（１０） 第15講　卒業研究の中間発表会						
テキスト・教材（参考文献含む）	＜テキスト＞なし（必要に応じて指示または配布します）						
事前・事後学習	研究の内容・進捗状況に応じて必要な知識を収集すること（90分） 研究や全体検討で生じた問題・課題への対応策を検討すること（90分）						
成績評価方法	＜評価＞授業への取り組み姿勢や卒業研究の進捗状況などによって総合的に評価する。						
授業内の課題・提出方法	＜課題＞課題提出はありませんが、全体検討でのレジュメを提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	＜フィードバック＞卒業研究の内容や進め方などのアドバイスを授業内だけでなく、授業外でも行います。						
担当者から一言	卒業研究はテーマを自分で決定し、自分で考えながら進めていきます。目標に向けて主体的に行った活動は卒業後にも必ず役立ちます。教員は演習時間外でも助言します。						

授業科目名	専門演習 c			科目コード	371105	授業コード	415405
担当教員	黒田　淳哉			科目ナンバリング	ESS4001		
配当年次	4	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	専門技術者に求められる倫理観を身につけている。 メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信ができる。						
授業のねらい	専門演習cは、卒業制作や研究論文の準備です。テーマを明確にして、これまでに習得した照明技術や知識をもとに卒業研究を進めていきます。						
到達目標	①自主的に卒業研究の進め方を計画する。 ②計画に沿って卒業研究・制作を進めることができる。 ③専門演習dに向けて、研究・制作の基盤をつくる。						
授業計画	第１講　ガイダンス、研究テーマの確認 第２講　卒業研究、制作の計画書作成 第３講　卒業研究、制作の計画発表（ディスカッション） 第４講　文献の検索 第５講　卒業研究の実施 第６講　卒業研究の進行状況確認 第７講　卒業研究の実施 第８講　卒業研究の進行状況確認 第９講　卒業研究の実施 第10講　卒業研究の進行状況確認 第11講　卒業研究の実施 第12講　プレゼンテーション用資料の作成 第13講　プレゼンテーション用資料の完成 第14講　セミナー内研究報告会の準備 第15講　卒業研究の中間発表						
テキスト・教材（参考文献含む）	なし。（必要に応じてプリントを配布します）						
事前・事後学習	予習　研究論文や制作に関して必要となる知識の収集を行うこと（90分以上）。 復習　毎回の講義時に課題を与えます。その課題に取り組むこと（90分以上）。						
成績評価方法	卒業研究、制作の成果及び、進捗状況をもとに評価する（100%）。						
授業内の課題・提出方法	講義の終わりに次週までの課題を整理し、毎回の講義で成果の提出をしてもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出物や課題等のフィードバックは翌週の講義で適宜コメントします。						
担当者から一言	卒業研究は自分でテーマを見つけ、探求し、結果を追い求めていきます。毎回の講義でディスカッションを行い、課題を与えますので講義は休まないで下さい。また、セミナーの集大成として相応しい研究内容になるよう、計画的に研究を進めて下さい。						

授業科目名	専門演習 c			科目コード	371105	授業コード	415406
担当教員	千葉　賢			科目ナンバリング	ESS4001		
配当年次	4	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	地域の持続的発展のために貢献できる 環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる 専門技術者に求められる倫理観を身につけている						
授業のねらい	3年生までに経験したことを基礎に、地域の環境問題を中心に自分の研究テーマを見つけ、積極的に調査研究と卒業論文制作に取り組みます。多様な観測機材を使って環境を測定し、そのデータをパソコン等で分析し、結果をまとめ、発表する訓練を繰り返し行います。セミナーのメンバーと議論もします。このような経験を通じて、研究の方法、論理的な思考方法、図表の作成方法、論理的な文章の書き方などを身に付けてください。						
到達目標	北勢地域の環境問題への関心と知識を高め、自分なりの見識を持てるようにします。地域の問題と世界の問題がどのように関係しているのか、そのような視点を育てることも目標とします。プレゼンテーション能力を高め、議論に慣れることも目標とします。4年次は特に卒業論文を仕上げることを最大の到達目標とします。						
授業計画	第1講　ガイダンス、卒業研究テーマの検討・決定 第2講　卒業研究計画書の作成・提出 第3講　卒業研究計画のゼミ内発表（パワーポイント）、グループディスカッション 第4講　卒業研究の進捗状況の発表、卒業研究の個別指導 第5講　学外活動（3年生との共同調査など） 第6講　卒業研究の進捗状況の発表、卒業研究の個別指導 第7講　就職に関するグループディスカッション 第8講　卒業研究の進捗状況の発表、卒業研究の個別指導 第9講　卒業研究の進捗状況の発表、卒業研究の個別指導 第10講　学外活動（3年生との共同調査など） 第11講　卒業研究の進捗状況の発表、卒業研究の個別指導 第12講　就職に関するグループディスカッション 第13講　卒業研究の進捗状況の発表、卒業研究の個別指導 第14講　卒業研究の進捗状況の発表、卒業研究の個別指導 第15講　卒業研究の中間発表会						
テキスト・教材（参考文献含む）	必要に応じてプリントを配布する。						
事前・事後学習	ゼミの時間外に毎週180分以上の研究時間を持ち、自分に誇れる論文を制作すること。						
成績評価方法	成績は毎週提出するノート点（優3点、良2点、可1点、不可0点）×15回（全部良で30点）、中間発表会・最終発表会（30点）、卒業研究の内容（30点）、努力点（10点）とする。						
授業内の課題・提出方法	大学ノートに、卒業研究の作業内容と就職活動の様子を記入して、毎週の講義で提出させる。卒業研究計画書、中間発表会のレジメ、中間発表会のパワポ資料などを提出させる。提出先は大学のゼミフォルダ。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出物を適宜修正して返却する。						
担当者から一言	４年生になると就職で頭が一杯になりますが、卒業研究も進めなければなりません。今年も年度当初から温かく厳しく指導します。コピペ社会になりましたが、卒業研究では汗をかいて、手作りの論文を作成し、世の中に役立つ成果を残しましょう。						

授業科目名	専門演習 c			科目コード	371105	授業コード	415205
担当教員	野呂　達哉			科目ナンバリング	ESS4001		
配当年次	4	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	専門技術者に求められる倫理観を身につけている。 環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる。						
授業のねらい	３年次までに習得した知識や技術を参考として目的に沿った研究計画を定め、卒業研究を進める。中間発表会に向けた分かりやすい資料を作成する。						
到達目標	自身の研究対象やテーマを定め、調査計画を立て、卒業研究を実施する。資料の作成や発表の練習を通して教員や他の学生と十分議論を尽くし、中間発表を行う。						
授業計画	第１講　ガイダンス　研究の進め方 第２講　研究テーマの検討 第３講　研究計画の作成 第４講　卒業研究の実施 第５講　卒業研究の実施 第６講　卒業研究の進捗報告・議論 第７講　卒業研究の実施 第８講　卒業研究の進捗報告・議論 第９講　卒業研究の実施 第10講　卒業研究の進捗報告・議論 第11講　卒業研究論文作成　背景と目的 第12講　卒業研究論文作成　方法・途中経過 第13講　卒業研究論文　図表作成 第14講　卒業研究　中間発表会のパワーポイント作成 第15講　卒業研究　中間発表会の発表練習 卒業研究中間発表会						
テキスト・教材（参考文献含む）	文献の紹介や必要に応じて論文や資料を配布します。						
事前・事後学習	演習の時間に関係なく研究活動を進めてください。演習の時間は研究上の問題点や疑問を皆で議論する場と捉え、出席するよう心がけてください（90分）。演習後は議論した内容をふまえて研究を進めてください（90分）。						
成績評価方法	卒業研究や演習への取り組み、研究の進捗状況、中間発表会での発表内容をもとに総合的に評価します（100%）。演習の時間に関係なく質問、相談等に対応します。						
授業内の課題・提出方法	授業に対する積極性（50%）、期末試験（50%）を元に総合的に評価します。授業に対する積極性は小レポートの提出や授業内でのディスカッションへの参加、発言によって評価します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出物のフィードバックは必要に応じて行います。提出課題の中からいくつかの題材を選び、講義のはじめでディスカッションします。質問や意見など遠慮せず積極的に発言してください。						
担当者から一言	卒論研究では自らがフィールドに赴いて活動する機会が多くなります。地域とのコミュニケーションも大切にしてください。また、フィールドワークには思わぬ危険が潜んでいます。細心の注意を払って行動しましょう。						

授業科目名	専門演習 c			科目コード	371105	授業コード	412208
担当教員	廣住　豊一			科目ナンバリング	ESS4001		
配当年次	4	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	専門技術者に求められる倫理観を身につけている。 地域の持続的発展のために貢献できる。 環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組ことができる。						
授業のねらい	これまでの講義・演習・実験などで得た知識・技術・経験を駆使し、自ら設定した研究課題に対して試行錯誤を繰り返しながら自分の力で遂行する。						
到達目標	研究課題を設定できる。設定した研究課題を遂行する研究計画を立案できる。研究の進捗報告および議論ができる。研究の途中経過を適切に発表できる。						
授業計画	第１講　ガイダンス　研究の進め方 第２講　研究課題の検討 第３講　研究計画の策定 第４講　卒業研究の実施 第５講　卒業研究の進捗報告および議論 第６講　卒業研究の実施 第７講　卒業研究の進捗報告および議論 第８講　卒業研究の実施 第９講　卒業研究の進捗報告および議論 第10講　卒業研究の実施 第11講　卒業研究の進捗報告および議論 第12講　卒業研究の実施 第13講　卒業研究の進捗報告および議論 第14講　卒業研究中間発表会の準備 第15講　卒業研究中間発表会の確認 卒業研究中間発表会 作業の進捗状況に応じて内容は変更されることがある。 全体を通してアクティブ・ラーニングの要素が含まれる。						
テキスト・教材（参考文献含む）	研究課題に関するすべての文献。研究の遂行には、発生した課題や問題点に対して、自ら調査・検討する態度が求められる。						
事前・事後学習	研究の進捗状況に応じて必要となる知識の収集(90分)。研究を実施した際に発生した課題への対応策の検討(90分)。						
成績評価方法	卒業研究や演習への取り組み姿勢、研究の進捗状況、卒業研究中間発表会での発表内容などをもとに総合的に評価する（100%）。						
授業内の課題・提出方法	研究を進める際に遭遇するあらゆる問題が課題となる。発生した問題に対しては必要な対策を検討し、教員に相談・報告する。教員から与えられた指示は期限までに必ず実行する。課題への対応が遅れると、研究計画全体の遅延につながる。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	研究の進捗状況に応じて適切な助言を行う。						
担当者から一言	自ら課題を発見し、解決方法を探し出す力を身につけることは、社会に出てからも役に立ちます。卒業研究はこれまでの大学生活や研究活動の集大成です。研究室の仲間や後輩と協力しながら、見事に研究を完遂してください。がんばりましょう。						

授業科目名	専門演習 c			科目コード	371105	授業コード	412406
担当教員	前川　督雄			科目ナンバリング	ESS4001		
配当年次	4	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる 専門技術者に求められる倫理観を身につけている 多様な社会の価値観を理解し、自分の考えを的確に表現し、伝えることができる						
授業のねらい	これまでの講義・演習で培った知識・技術・経験を背景にして、卒業制作あるいは卒業研究を行います。						
到達目標	卒業制作・卒業研究の中間レポートを仕上げ、発表する。						
授業計画	第１講　ガイダンス／卒業制作・卒業研究の目標を設定 第２講　卒業制作・卒業研究 第３講　卒業制作・卒業研究／４月期総括・見直し 第４講　卒業制作・卒業研究 第５講　卒業制作・卒業研究 第６講　卒業制作・卒業研究 第７講　卒業制作・卒業研究／５月期総括・見直し 第８講　卒業制作・卒業研究 第９講　卒業制作・卒業研究 第10講　卒業制作・卒業研究 第11講　卒業制作・卒業研究／６月期総括・見直し 第12講　卒業制作・卒業研究 第13講　卒業制作・卒業研究 第14講　中間発表／中間レポート提出 第15講　夏休み・後期に向けて面談 （7月末に卒業制作・卒業研究の中間レポートを提出）						
テキスト・教材（参考文献含む）	テキストはありません。						
事前・事後学習	授業時間は教員への報告・相談の場であり、作業時間ではありません。 毎日の生活のなかで最高の優先度を置き、最大限の時間をかけて取り組んで下さい。						
成績評価方法	卒業制作・卒業研究への取り組み姿勢および進捗状況を総合的に評価します。 定期試験を行いません。						
授業内の課題・提出方法	毎週、進捗報告と次週に向けた目標設定をしてもらい、個別指導します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	毎週、進捗報告と次週に向けた目標設定をしてもらい、個別指導します。						
担当者から一言	前期でどこまで到達できるかが勝負です。頑張ってください。						

授業科目名	専門演習 c			科目コード	371105	授業コード	415407
担当教員	牧田　直子			科目ナンバリング	ESS4001		
配当年次	4	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	専門技術者に求められる倫理観を身につけている 地域の持続的発展のために貢献できる 多様な社会の価値観を理解し、自分の考えを的確に表現し、伝えることができる 環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる						
授業のねらい	専門演習 c では、卒業研究のための調査を本格的に進める。自分で決めた調査対象について自信を持って調査を進める。これまでに学んだ知識や身につけた実験技術をもとに、各自で創意工夫し、卒業研究のデータをまとめ上げる。研究の最も楽しい時期であり、自分の考えで実習を進めることで、考える力を伸ばし、実力へとつなげたい。						
到達目標	「自信を持って発表できる」 これまでに調査したデータをまとめ、他の人に分かる形で発表できるようにする。						
授業計画	第1講　ガイダンスと研究計画の確認、調査準備 第2講　各自の調査・研究 第3講　各自の調査・研究 第4講　各自の調査・研究 第5講　各自の調査・研究 第6講　各自の調査・研究の中間報告（1回目） 第7講　各自の調査・研究 第8講　各自の調査・研究 第9講　各自の調査・研究 第10講　各自の調査・研究 第11講　各自の調査・研究の中間報告（2回目） 第12講　各自の調査・研究 第13講　各自の調査・研究 第14講　分野ごとの中間発表会の準備 第15講　分野ごとの中間発表会 調査・研究には、実験実習やフォールドワークを含む。						
テキスト・教材（参考文献含む）	田中 正明「日本淡水産動植物プランクトン図鑑［第2版］」名古屋大学出版会（2022年） 定価：11，000円（税込） 適宜、プリントを配布する。						
事前・事後学習	(1) 自分の調査・研究に近い分野の論文を読み、理解を深める（60分以上）。 (2) 調査・研究を進めながら、データの整理をしておく（90分以上）。 (3) 調査・研究のまとめ方を考え、実験方法等、書けるところから報告書もしくは論文用に書き進める（30分）。						
成績評価方法	卒業研究やセミナーへの取り組み姿勢、研究の進捗状況、卒業研究中間発表会での発表内容などをもとに総合的に評価する（100%）。研究の進捗状況に応じて適切な助言を行う。						
授業内の課題・提出方法	(1) 実験ノート：授業でやったことや自習したこと、卒業研究に関する全てを実験ノートに書き込む。 提出方法−授業の最後に提出して確認を受ける。 (2) 卒業論文：実験方法と結果の大部分についてはこの授業内で完成させる。 提出方法−印刷して授業中に提出する。 (3) 卒業研究中間発表会の準備：要旨とパワーポイント資料を作り、発表準備をする。 提出方法−印刷して授業中に提出する。完成版はファイルで提出する。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	(1) 実験ノート：授業の最後に確認し、不備があれば指摘して加筆させる。 (2) 卒業論文：実験方法と、6月中旬までに得られた結果についてまとめる。 完成までに最低4回は添削し、返却する。未完成では受け取らない。 (3) 卒業研究中間発表会の準備：要旨は添削して返却する。パワーポイント資料は授業内で発表してもらい、修正箇所を指示する。						
担当者から一言	積極的に取り組み、自分の考えで計画的に調査を進め、データをまとめましょう。各自に合わせて技術面の支援、研究指導をするつもりです。						

授業科目名	専門演習 c			科目コード	371105	授業コード	414402
担当教員	柳瀬　元志			科目ナンバリング	ESS4001		
配当年次	4	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる。 専門技術者に求められる倫理観を身につけている。						
授業のねらい	専門演習abを通じて習得したスキルを活かして、大学生活の集大成となる卒業制作に向けた土台つくりを行います。 また卒業制作の他に、ゼミとしてコンテストに参加することを前提に作品制作にトライします、 特に企画書・構成案といった、撮影に入る前の「書く」ことを重視します。						
到達目標	自ら定めたテーマに沿って作品制作、方向性を定める。 しっかり準備をしつつ、制作に取り掛かることを目標とする						
授業計画	第1講　ガイダンス～卒業制作映像作品または研究に向けてのロードマップつくり～ 第2講　作品企画書＆卒業制作検討 第3講　作品企画書＆卒業制作検討 第4講　作品　脚本 第5講　作品　構成案 第6講　卒業制作中間発表 第7講　作品制作①撮影 第8講　作品制作②撮影 第9講　作品制作③撮影 第10講　卒業制作中間チェック 第11講　作品制作④編集 第12講　作品制作⑤編集 第13講　卒業制作⑥編集 第14講　卒業制作⑦NA＆MA・テロップ 第15講　卒業制作中間発表＆作品試写 ※授業の進捗状況により、内容の変更入れ替えがあります。						
テキスト・教材（参考文献含む）	必要に応じて配布						
事前・事後学習	自ら必要と思うものに積極的に取り組むこと						
成績評価方法	定期試験なし 作品制作に対して取り組む姿勢を総合的に判断します。						
授業内の課題・提出方法	担当教員に直接提出						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	作品ごとに完成度、内容、構成演出、カメラワークなどを評価						
担当者から一言	卒業制作に向けた土台つくりになります。 ここで出遅れると自らに大きなしっぺ返しが来ることを自覚して取り組んでください。						

授業科目名	専門演習 d			科目コード	371106	授業コード	412802
担当教員	足立　明信			科目ナンバリング	ESS4002		
配当年次	4	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	専門技術者に求められる倫理観を身につけている。メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる。						
授業のねらい	基礎及び専門セミナーで習得した知識、技術、技能を基に、受講生一人一人が自らの制作または研究の課題を設定し、年間を通して課題達成に向けて取り組む。音にかかわる課題を策定しその問題解決や実現に必要な知識、技術、意欲、工程管理能力などを身に付けるねらいとする。又自らの課題の達成に専念するのみではなく、他のメンバー(他のセミナーも含む)との交流を図りそのテーマの理解に努力し必要な場合はお互いに協力しあう事により他の側面からの意見や助言を得てテーマに対する理解の幅を広げる。						
到達目標	・自身の研究の成果の集大成である卒業論文(卒業制作)を立案、制作する。 ・下級生に対して模範となるコミュニケーション能力を確立する。						
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 卒業研究テーマの再確認 第3講 卒業研究進行状況報告相談 第4講 卒業生の制作物視聴会 第5講 業生の制作物視聴会 第6講 卒業研究進行状況報告相談 第7講 卒業研究中間報告会、意見交換 第8講 卒業研究進行状況報告相談 第9講 卒業展の時に必要なセッティングなどの確認 第10講 卒業研究進行状況報告相談 第11講 卒業展用パワーポイントファイル作成 第12講 卒業論文・制作提出(12月末) 第13講 セミナー内発表会 第14講 最終チェック(セミナー内) 第15講 発表練習(12月末に提出)(1月に卒業展予定)						
テキスト・教材（参考文献含む)	特になし。						
事前・事後学習	毎回の授業での助言や修正点などを自分自身でよく理解し、以降の卒業研究の進行に役立ててください。(45分程度)また卒業発表会においてスムーズな発表ができるように、必要となるパワーポイントなどのツールの使い方をあらかじめ習得しておくと共に、セミナー内だけではなく自宅などでも発表のリハーサルをしてください。(45分程度)						
成績評価方法	卒業制作、卒業研究の取り組み方や進行状況によって、総合的に評価します。						
授業内の課題・提出方法	制作物の場合はUSBメモリなどで直接に手渡しで、またはメールに添付などの方法で提出する。 レポート課題の場合は、紙に印刷もしくは手書きで書いたものを直接に手渡しで、またはメールに 添付などの方法で提出する。 課題によって提出方法が異なる場合は随時、指示をします。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	制作・研究の取り組み方・進行状況などに関しては随時フィー ドバックします。						
担当者から一言	卒業論文(卒業制作)は論文調査からスタジオを使用しての録音や編集まで非常に幅の広い作業になります。各自進行状況を常に担当教員に報告、相談して指導を受けるように心がけると共に、計画通り進めるよう自己管理を学んで下さい。						

授業科目名	専門演習ｄ			科目コード	371106	授業コード	412606
担当教員	池田　幹男			科目ナンバリング	ESS4002		
配当年次	4	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	専門技術者に求められる倫理観を身につけている メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる能力を身に付ける。						
授業のねらい	設定した研究テーマをこれまでの進捗状況から再検討し、卒業研究を完成させる。研究結果をまとめて他の人にも理解できるようにプレゼンテーションできるようになる。						
到達目標	卒業研究を完成させる。						
授業計画	第１講　　ガイダンス、卒業研究テーマの再検討（１） 第２講　　卒業研究テーマの再検討（２） 第３講　　卒業研究の実施、全体検討（１） 第４講　　卒業研究の実施、全体検討（２） 第５講　　卒業研究の実施、全体検討（３） 第６講　　卒業研究の実施、全体検討（４） 第７講　　卒業研究の実施、全体検討（５） 第８講　　卒業研究の実施、全体検討（６） 第９講　　卒業研究の実施、全体検討（７） 第１０講　卒業研究の実施、全体検討（８） 第１１講　卒業研究の実施、全体検討（９） 第１２講　卒業研究発表会の準備（１） 第１３講　卒業研究発表会の準備（２） 第１４講　卒業研究発表会の準備（３） 第１５講　卒業研究発表会						
テキスト・教材（参考文献含む）	なし（必要に応じて指示または配布する）						
事前・事後学習	研究の内容・進捗状況に応じて必要な知識を収集する（90分） 時間外にも、生じた問題・課題への対応策を検討して研究を進める（90分）						
成績評価方法	授業への取り組み姿勢や卒業研究の内容などによって総合的に評価する。定期試験は実施しない。						
授業内の課題・提出方法	毎回、進捗レポートを書いて提出する。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業はディスカッション形式で行うので、毎回、口頭でフィードバックする。						
担当者から一言	卒業研究はテーマを自分で決定し、自分で考えながら進めていくので、自主性が重要になる。						

授業科目名	専門演習 d			科目コード	371106	授業コード	412803
担当教員	大八木　麻希			科目ナンバリング	ESS4002		
配当年次	4	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し、自分の考えを的確に表現し、伝えることができる。 環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる。 専門技術者に求められる倫理観を身につけている。						
授業のねらい	基礎演習ab、専門演習abで取り組んだ内容を反芻しながら、実践的に卒業論文の執筆に取り組む。卒業論文完成に向けて、必要な知識と情報の収集について身に付ける過程で研究の楽しみに気づくことが出来れば、良い研究につながる。						
到達目標	本セミナーでは調査研究を通じて、自然環境への理解の仕方を各自習得する。						
授業計画	第1回　ガイダンス 第2回　卒業論文進捗中間報告会 第3回　卒業研究データまとめ 第4回　卒業研究グラフ作成 第5回　関連文献検索 第6回　関連文献講読 第7回　卒業論文進捗報告会 第8回　関連講演会への参加 第9回　卒業論文作成①目次及び方法 第10回　卒業論文作成②概要及び目的 第11回　卒業論文作成③結果及び考察 第12回　卒業研究発表プレゼン作成①目次及び方法 第13回　卒業研究発表プレゼン作成②概要及び目的 第14回　卒業研究発表プレゼン作成③結果及び考察 第15回　卒業研究発表会 実験や野外実習を行い、アクティブラーニング要素を含む科目である。						
テキスト・教材（参考文献含む）	テキストなし 資料配布						
事前・事後学習	参考文献などで予習して、重点、問題点等を検討した上で授業に臨むことを推奨する（90分）。また、関連するニュースや書籍に日頃から関心を持ち、講義の理解に役立ててもらいたい。さらに、講義後には復習し講義内容の定着化を心掛けること（90分）。						
成績評価方法	卒業研究や演習への取り組み姿勢、研究の成果、提出された論文の内容、卒業研究発表会での発表内容などをもとに総合的に評価する（100%）。						
授業内の課題・提出方法	moodleを利用して提出する						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	修正・校閲を行ってから返却する。						
担当者から一言	最後の最後まで粘り強く取り組むことが良い卒業論文となり、人生の糧となってくれます。全力でサポートさせていただきます。						

授業科目名	専門演習ｄ			科目コード	371106	授業コード	412607
担当教員	片山　清和			科目ナンバリング	ESS4002		
配当年次	4	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	専門技術者に求められる倫理観を身につけている。 メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信ができる。						
授業のねらい	これまでの講義・演習などで獲得した知識・技術・経験を生かして、自分で決めた卒業研究を完成させます。 また、演習時間内で行う全体検討において、自分の研究の進捗状況をプレゼンテーションしたり、他のゼミ生のプレゼンテーションを聞いて議論したりすることで、プレゼンテーション能力だけでなくコミュニケーション能力の向上も図ります。						
到達目標	①卒業研究を完成させる。 ②研究の進捗状況を報告・議論できる。 ③研究内容をプレゼンテーションできる。						
授業計画	第１講　　ガイダンス、卒業研究テーマと研究計画の再確認 第２講　　卒業研究の実施、全体検討（１） 第３講　　卒業研究の実施、全体検討（２） 第４講　　卒業研究の実施、全体検討（３） 第５講　　卒業研究の実施、全体検討（４） 第６講　　卒業研究の実施、全体検討（５） 第７講　　卒業研究の実施、全体検討（６） 第８講　　卒業研究の実施、全体検討（７） 第９講　　卒業研究の実施、全体検討（８） 第１０講　卒業研究の実施、全体検討（９） 第１１講　卒業研究の実施、全体検討（１０） 第１２講　卒業研究の実施、全体検討（１１） 第１３講　卒業研究の実施、全体検討（１２） 第１４講　ゼミ内発表会 第１５講　卒業研究発表会						
テキスト・教材（参考文献含む）	＜テキスト＞なし（必要に応じて指示または配布します）						
事前・事後学習	研究の内容・進捗状況に応じて必要な知識を収集すること（90分） 研究や全体検討で生じた問題・課題への対応策を検討すること（90分）						
成績評価方法	＜評価＞授業への取り組み姿勢や卒業研究の内容などによって総合的に評価する。						
授業内の課題・提出方法	＜課題＞課題提出はありませんが、全体検討でのレジュメを提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	＜フィードバック＞卒業研究の内容や進め方などのアドバイスを授業内だけでなく、授業外でも行います。						
担当者から一言	卒業研究はテーマを自分で決定し、自分で考えながら進めていきます。目標に向けて主体的に行った活動は卒業後にも必ず役立ちます。教員は演習時間外でも助言します。						

授業科目名	専門演習ｄ			科目コード	371106	授業コード	415804
担当教員	黒田　淳哉			科目ナンバリング	ESS4002		
配当年次	4	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	専門技術者に求められる倫理観を身につけている。 メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信ができる。						
授業のねらい	これまでセミナーで得た技術や知識をもとに、卒業研究に取り組む。成果を収める為に必要なことを自ら考え行動できるようになること。						
到達目標	①卒業研究および制作を完成させる。 ②卒業展にて研究成果の発表を行う。						
授業計画	第１講　ガイダンス、研究計画の再確認 第２講　卒業研究の進行状況確認 第３講　卒業研究の実施 第４講　卒業研究の進行状況確認 第５講　卒業研究の実施 第６講　卒業研究の進行状況確認 第７講　卒業研究の実施 第８講　卒業研究発表会の資料作成 第９講　卒業研究の提出 第10講　卒業研究発表会の発表準備① 第11講　卒業研究発表会の発表準備② 第12講　卒業研究のリハーサル（プレゼンテーション） 第13講　作品、論文の修正及び調整作業 第14講　卒業研究発表会（プレゼンテーション） 第15講　資料整理						
テキスト・教材（参考文献含む）	なし。（必要に応じてプリントを配布します）						
事前・事後学習	予習　研究論文や制作に関して必要となる知識の収集をおこなうこと（90分以上）。 復習　毎回の講義時に課題を与えます。その課題に取り組むこと（90分以上）。						
成績評価方法	卒業研究、制作の成果を評価する（100%）。						
授業内の課題・提出方法	講義の終わりに次週までの課題を整理し、毎回の講義で成果の提出をしてもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出物や課題等のフィードバックは翌週の講義で適宜コメントします。						
担当者から一言	卒業研究は自分で考え、探求し、結果を追い求めていきます。毎回の講義でディスカッションを行い、課題を与えますので講義は休まないで下さい。また、セミナーの集大成として相応しい研究内容になるよう計画的に研究を進めて下さい。						

授業科目名	専門演習ｄ			科目コード	371106	授業コード	415805
担当教員	千葉　賢			科目ナンバリング	ESS4002		
配当年次	4	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	地域の持続的発展のために貢献できる 環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる 専門技術者に求められる倫理観を身につけている						
授業のねらい	3年生までに経験したことを基礎に、地域の環境問題を中心に自分の研究テーマを見つけ、積極的に調査研究と卒業論文制作に取り組みます。多様な観測機材を使って環境を測定し、そのデータをパソコン等で分析し、結果をまとめ、発表する訓練を繰り返し行います。セミナーのメンバーと議論もします。このような経験を通じて、研究の方法、論理的な思考方法、図表の作成方法、論理的な文章の書き方などを身に付けてください。						
到達目標	北勢地域の環境問題への関心と知識を高め、自分なりの見識を持てるようにします。地域の問題と世界の問題がどのように関係しているのか、そのような視点を育てることも目標とします。プレゼンテーション能力を高め、議論に慣れることも目標とします。4年次は特に卒業論文の仕上げることを最大の到達目標とします。						
授業計画	第１講　ガイダンス、卒業研究の進捗状況の発表 第２講　卒業研究の進捗状況の発表、卒業研究の個別指導 第３講　卒業研究の進捗状況の発表、卒業研究の個別指導 第４講　卒業研究の進捗状況の発表、卒業研究の個別指導 第５講　学外活動（農業体験など） 第６講　卒業研究の進捗状況の発表、卒業研究の個別指導 第７講　就職に関するグループディスカッション 第８講　卒業研究の進捗状況の発表、卒業研究の個別指導 第９講　卒業研究の進捗状況の発表、卒業研究の個別指導 第10講　卒業研究の進捗状況の発表、卒業研究の個別指導 第11講　卒業研究の進捗状況の発表、卒業研究の個別指導 第12講　卒業研究の進捗状況の発表、卒業研究の個別指導 第13講　卒業研究の進捗状況の発表、卒業研究の個別指導 第14講　卒業研究の合同発表会 第15講　卒業研究の合同発表会						
テキスト・教材（参考文献含む）	必要に応じてプリントを配布する。						
事前・事後学習	ゼミの時間外に毎週180分以上の研究時間を持ち、自分に誇れる論文や作品を制作すること。						
成績評価方法	成績は毎週提出するノート点（優3点、良2点、可1点、不可0点）×15回（全部良で30点）、中間発表会・最終発表会（30点）、卒業研究の内容（30点）、努力点（10点）とする。						
授業内の課題・提出方法	大学ノートに、卒業研究の作業内容と就職活動の様子を記入して、毎週の講義で提出させる。卒業研究の進捗報告書、卒論、卒論要旨、卒研合同発表会のパワポ資料などをゼミフォルダに提出させる。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出物を適宜修正して返却する。						
担当者から一言	４年生になると就職で頭が一杯になりますが、卒業研究も進めなければなりません。今年も年度当初から温かく厳しく指導します。コピペ社会になりましたが、卒業研究では汗をかいて、手作りの論文を作成し、世の中に役立つ成果を残しましょう。						

授業科目名	専門演習ｄ			科目コード	371106	授業コード	415610
担当教員	野呂　達哉			科目ナンバリング	ESS4002		
配当年次	4	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	専門技術者に求められる倫理観を身につけている 環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる						
授業のねらい	中間発表の結果や議論を踏まえ、研究計画を補足しながら卒業研究を進める。卒業論文発表会に向けた分かりやすい資料を作成する。						
到達目標	フィールドワーク等で得られたデータを分析し、論理的な結論を導く。研究内容に沿った分かりやすい図表を作成し、その上で卒業論文を執筆、発表を行う。						
授業計画	第１講　ガイダンス　研究の進め方 第２講　研究計画の確認と補足 第３講　卒業研究の実施 第４講　卒業研究の進捗報告・議論 第５講　卒業研究の実施 第６講　卒業研究の進捗報告・議論 第７講　卒業研究の実施 第８講　卒業研究の進捗報告・議論 第９講　卒業研究論文作成　背景と目的 第10講　卒業研究論文作成　方法・結果 第11講　卒業研究論文　図表作成 第12講　卒業研究論文作成　考察・要旨 第13講　卒業研究　発表用パワーポイント作成 第14講　卒業研究　発表練習 第15講　卒業研究　発表練習 卒業論文発表会						
テキスト・教材（参考文献含む）	文献の紹介や必要に応じて論文や資料を配布します。						
事前・事後学習	演習の時間に関係なく研究活動を進めてください。演習の時間は研究上の問題点や疑問を皆で議論する場と考え、出席するよう心がけてください（90分）。演習後は議論した内容を踏まえた上で研究を進めてください（90分）。						
成績評価方法	卒業研究や演習への取り組み姿勢、研究の進捗状況、卒業論文発表会での発表内容をもとに総合的に評価します（100%）。演習の時間に関係なく質問、相談等に対応します。						
授業内の課題・提出方法	演習の内容に即した題材から出題します。課題は基本的に授業内の提出とします。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出物のフィードバックは必要に応じて行います。提出課題の中からいくつかの題材を選び、講義のはじめでディスカッションします。質問や意見など遠慮せず積極的に発言してください。						
担当者から一言	卒業研究は学生生活の集大成です。教員や他の学生とも議論を尽くし、納得のいくものを作りあげましょう。疑問や分からないことがあれば遠慮せずに聞きに来てください。						

授業科目名	専門演習ｄ			科目コード	371106	授業コード	412608
担当教員	廣住　豊一			科目ナンバリング	ESS4002		
配当年次	4	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	専門技術者に求められる倫理観を身につけている。 地域の持続的発展のために貢献できる。 環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組ことができる。						
授業のねらい	これまでの講義・演習・実験などで得た知識・技術・経験を駆使し、自ら設定した研究課題に対して試行錯誤を繰り返しながら自分の力で遂行する。						
到達目標	中間発表会で得られた課題を整理し研究計画を改善できる。研究の進捗報告および議論ができる。得られた研究成果を論文にまとめ、わかりやすく発表できる。						
授業計画	第１講　ガイダンス　中間発表会時の議論整理 第２講　研究計画の改定 第３講　研究計画の確認と修正 第４講　卒業研究の実施 第５講　卒業研究の進捗報告および議論 第６講　卒業研究の実施 第７講　卒業研究の進捗報告および議論 第８講　卒業研究の実施 第９講　卒業研究の進捗報告および議論 第10講　卒業研究の実施 第11講　卒業研究の進捗報告および議論 第12講　卒業研究の実施 第13講　卒業研究の進捗報告および議論 第14講　卒業研究発表会の準備 第15講　卒業研究発表会の確認 卒業研究発表会 作業の進捗状況に応じて内容は変更されることがある。 全体を通してアクティブ・ラーニングの要素が含まれる。						
テキスト・教材（参考文献含む）	研究課題に関するすべての文献。研究の遂行には、発生した課題や問題点に対して、自ら調査・検討する態度が求められる。						
事前・事後学習	研究の進捗状況に応じて必要となる知識の収集(90分)。研究を実施した際に発生した課題への対応策の検討(90分)。						
成績評価方法	卒業研究や演習への取り組み姿勢、研究の進捗状況、卒業研究中間発表会での発表内容などをもとに総合的に評価する（100%）。						
授業内の課題・提出方法	研究を進める際に遭遇するあらゆる問題が課題となる。発生した問題に対しては必要な対策を検討し、教員に相談・報告する。教員から与えられた指示は期限までに必ず実行する。課題への対応が遅れると、研究計画全体の遅延につながる。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	研究の進捗状況に応じて適切な助言を行う。						
担当者から一言	自ら課題を発見し、解決方法を探し出す力を身につけることは、社会に出てからも役に立ちます。卒業研究はこれまでの大学生活や研究活動の集大成です。研究室の仲間や後輩と協力しながら、見事に研究を完遂してください。がんばりましょう。						

授業科目名	専門演習ｄ			科目コード	371106	授業コード	412804
担当教員	前川　督雄			科目ナンバリング	ESS4002		
配当年次	4	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる 専門技術者に求められる倫理観を身につけている 多様な社会の価値観を理解し、自分の考えを的確に表現し、伝えることができる						
授業のねらい	これまでの講義・演習で培った知識・技術・経験を背景にして、卒業制作あるいは卒業研究を行います。						
到達目標	卒業制作（作品＋制作レポート）あるいは卒業研究（卒業論文）の完成及び展示・発表を見事に成し遂げる。						
授業計画	第１講　ガイダンス／面談 第２講　卒業制作・卒業研究 第３講　卒業制作・卒業研究 第４講　卒業制作・卒業研究 第５講　卒業制作・卒業研究 第６講　卒業制作・卒業研究／発表様式・概要〆切（10月末） 第７講　卒業制作・卒業研究 第８講　卒業制作・卒業研究 第９講　卒業制作・卒業研究 第10講　卒業制作・卒業研究完成（11月末） 第11講　論文レポート作成 第12講　論文レポート作成／メディアチェック 第13講　論文レポート提出（12月末） 第14講　発表準備 第15講　発表準備 （12月末に提出） （１月に卒業展・卒業研究発表会での展示・発表）						
テキスト・教材（参考文献含む）	テキストはありません。						
事前・事後学習	授業時間は教員への報告・相談の場であり、作業時間ではありません。 毎日の生活のなかで最高の優先度を置き、最大限の時間をかけて取り組んで下さい。						
成績評価方法	卒業制作・卒業研究への取り組み姿勢および成果を総合的に評価します。 定期試験を行いません。						
授業内の課題・提出方法	毎週、進捗報告と次週に向けた目標設定をしてもらい、個別指導します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	毎週、進捗報告と次週に向けた目標設定をしてもらい、個別指導します。						
担当者から一言	大学生活の総決算です。頑張ってください。						

授業科目名	専門演習ｄ			科目コード	371106	授業コード	415806
担当教員	牧田　直子			科目ナンバリング	ESS4002		
配当年次	4	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	専門技術者に求められる倫理観を身につけている 地域の持続的発展のために貢献できる 多様な社会の価値観を理解し、自分の考えを的確に表現し、伝えることができる 環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる						
授業のねらい	専門演習ｄでは、卒業研究を論文にまとめ、発表する最終段階に入ります。研究データの追加や再検討を行い、納得のいく内容で、わかりやすくまとめ上げましょう。今までの経験をもとに、社会で応用できる実力へと成長させたい。						
到達目標	「わかりやすく発表し、議論（質疑応答）できる」 自分の考えをわかりやすくまとめて伝え、議論できる。						
授業計画	第1講　ガイダンスと調査・研究の現状確認 第2講　各自の調査・研究 第3講　論文の構成と必要データの照合 第4講　各自の調査・研究（追加データの取得） 第5講　卒業研究論文の下書き完成、確認 第6講　卒業研究論文の下書きの修正 第7講　写真の画像処理 第8講　卒業研究論文の論旨の確認 第9講　卒業研究論文の図表、体裁の修正 第10講　卒業研究論文の読み直し 第11講　卒業研究論文の要旨作成 第12講　卒業研究論文と要旨の完成 第13講　発表原稿とパワーポイント資料の完成 第14講　卒業研究発表会の準備 第15講　卒業研究発表会 調査・研究には、実験実習やフォールドワークを含む。						
テキスト・教材（参考文献含む）	田中 正明「日本淡水産動植物プランクトン図鑑［第2版］」名古屋大学出版会（2022年） 定価：11，000円（税込） 適宜、プリントを配布する。						
事前・事後学習	(1) データの整理、作図（90分以上）。 (2) 論文の執筆、発表資料等の作成（90分以上）。						
成績評価方法	卒業研究や演習への取り組み姿勢、研究の成果、提出された論文の内容、卒業研究発表会での発表内容などをもとに総合的に評価する（100%）。研究の進捗状況に応じて適切な助言を行う。						
授業内の課題・提出方法	(1) 実験ノート：授業でやったことや自習したこと、卒業研究に関する全てを実験ノートに書き込む。 提出方法−授業の最後に提出して確認を受ける。 (2) 卒業論文：卒業研究を論文にまとめ、完成させる。 提出方法−印刷して授業中に提出する。完成版は提出期間中に教学課へ提出する。 (3) 卒業研究発表会の準備：要旨とパワーポイント資料を作り、発表準備をする。 提出方法−印刷して授業中に提出する。完成したらファイルで提出する						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	(1) 実験ノート：授業の最後に確認し、不備があれば指摘して加筆させる。 (2) 卒業論文：実験方法と、6月中旬までに得られた結果についてまとめる。 完成までに最低4回は添削し、返却する。未完成では受け取らない。 (3) 卒業研究発表会の準備：要旨は添削して返却する。パワーポイント資料は授業内で発表してもらい、修正箇所を指示する。						
担当者から一言	誰が読んでもわかりやすい論文に仕上げ、発表しましょう。						

授業科目名	専門演習ｄ			科目コード	371106	授業コード	414803
担当教員	柳瀬　元志			科目ナンバリング	ESS4002		
配当年次	4	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必　修
授業の位置づけ	専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる。 専門技術者に求められる倫理観を身につけている。						
授業のねらい	卒業制作の作品・研究の完成を目指します。 どちらも第三者の鑑賞、批評の耐えうる作品とします。 卒業制作は、その作品のデータや企画書、構成案台本、制作過程の記録なども併せて提出します。 作品・研究とも卒業展で発表を行います。						
到達目標	大学生活の集大成として誇りの持てる作品、研究を目指します。 内容と共にクオリティの高い作品・研究を完成させます。						
授業計画	第1講　卒業作品・研究の見直し 第2講　卒業制作 第3講　卒業制作 第4講　卒業制作 第5講　卒業制作中間チェック 第6講　卒業制作 第7講　卒業制作 第8講　卒業制作 第9講　卒業制作最終確認 第10講　卒業制作全員プレビュー 第11講　卒業制作手直し 第12講　卒業制作完成度チェック 第13講　メディアチェック 第14講　最終仕上げ 第15講　卒業展シミュレーション						
テキスト・教材（参考文献含む）	必要に応じて配布						
事前・事後学習	本人の自主性に任せます。 ただよりレベルアップを望むなら、最先端の映像表現や、各種展示会、映画・美術鑑賞など様々な方法で努力することを望みます。						
成績評価方法	定期試験は行いません 各自の取り組む姿勢４５％、作品の完成度４５％を中心に、そのほかの要素も加味して評価します。						
授業内の課題・提出方法	特になし						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	特になし						
担当者から一言	四日市大学で学んだ4年間の集大成として、完成目指して制作に励んでください。 また、自分だけでなく周囲の評価も大切です。 作るだけで満足せず、より高みを目指したください。 なにより、時間管理が大切なことをお忘れなく。						

授業科目名	地球環境学総論			科目コード	371201	授業コード	412407
担当教員	廣住　豊一			科目ナンバリング	ENE2001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	専門技術者に求められる倫理観を身につけている 地域の持続的発展のために貢献できる						
授業のねらい	地球温暖化・気候変動・自然災害・海洋汚染・大気汚染などを含めた地球規模の環境問題について、地球科学的な観点から学ぶ。						
到達目標	現在の生じている地球規模の環境問題について、地球科学的な側面からその発生メカニズムを理解し、対策を考えることができる。						
授業計画	第１講　ガイダンス、地球環境とその成り立ち 第２講　地球環境の基礎知識①　大気の構造と流れ 第３講　地球環境の基礎知識②　海水と海洋の動き 第４講　地球環境の基礎知識③　地球規模の水循環 第５講　地球環境の基礎知識④　生物と生態系 第６講　地球温暖化と気候変動①　気候変動と異常気象 第７講　地球温暖化と気候変動②　地球温暖化の原因 第８講　地球温暖化と気候変動③　地球温暖化の対策 第９講　大気に関する環境問題①　オゾン層とオゾンホール 第10講　大気に関する環境問題②　大気環境と大気汚染 第11講　大気に関する環境問題③　酸性雨とその被害 第12講　水と海洋に関する環境問題①　海洋の汚染 第13講　水と海洋に関する環境問題②　水資源の枯渇と汚染 第14講　自然環境に関する環境問題①　森林破壊と砂漠化 第15講　自然環境に関する環境問題②　地球環境と自然災害 定期試験						
テキスト・教材（参考文献含む）	なし。各講の講義内容に関連した書き込み式の資料を配布する。						
事前・事後学習	シラバスの授業計画をよく確認し、関連する内容を参考文献などで予習する(90分)。確認テストで添削された内容をよく見直し、各回の講義で配布した資料で復習する(90分)。						
成績評価方法	毎回の授業内で行うミニレポートの合計点と定期試験のどちらか低い方を最終評定とする。正当な理由なく欠席した場合は1回ごとに最終評定から10点減点する。遅刻・早退・私語等には減点等の処置を講じる。						
授業内の課題・提出方法	毎回の授業内で理解度をはかるための確認テストを実施する。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業内で実施した確認テストは次の講義までに添削して返却する。授業冒頭で前回の確認テストの解説を行う。						
担当者から一言	この授業では地球規模の環境問題について扱います。「地球をまるごとひとつ」というと、とてつもなく大きく感じますが、この機会に視野を世界まで大きく広げてみてください。						

授業科目名	生態学			科目コード	371202	授業コード	412209
担当教員	大八木　麻希			科目ナンバリング	ENE2002		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	分野必修
授業の位置づけ	地域の持続的発展のために貢献できる 環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる						
授業のねらい	人類誕生の遥か昔から途切れることなく続いてきた生物活動の営みを理解するとともに、人間とのかかわりで生物多様性や保全活動が重要視されている。そこで、環境分野を学ぶための基礎となる科学的視点を身に着けてもらいたい。						
到達目標	生物基礎と社会情勢の両面から生態系を考える多角的な視点を養う。						
授業計画	第１講　ガイダンス、生態学とは 第２講　生物圏と生態学 第３講　生物種の系統と進化 第４講　生物の生活資源と個体群 第５講　個体群の成長過程と密度効果 第６講　生物群集と生態系 第７講　種間競争と種の共存 第８講　生活史の進化と多様性 第９講　生態系における物質循環 第10講　バイオドーム森林の地理的植生 第11講　植生の遷移 第12講　生物多様性 第13講　人間活動とのかかわり 第14講　バイオマニュピレーション 第15講　伊勢湾の生態系						
テキスト・教材（参考文献含む）	参考文献 原登志彦「大学生のための生態学入門」共立出版、2017年、2640円						
事前・事後学習	授業計画に示した各回のテーマを、参考文献などで予習して、重点、問題点等を検討した上で授業に臨むことを推奨する（90分）。また、関連するニュースや書籍に日頃から関心を持ち、講義の理解に役立ててもらいたい。さらに、講義後には復習し講義内容の定着化を心掛けること（90分）。						
成績評価方法	小レポート３０％、試験７０％						
授業内の課題・提出方法	講義の最後に関連する問題や課題を解き、その時間内で提出する。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小レポートは毎回添削後、本人へ返却します。						
担当者から一言	日頃から関連するニュースや事象に興味関心を持ち、積極的な受講を望みます。						

授業科目名	環境保全学			科目コード	371203	授業コード	413807
担当教員	野呂　達哉			科目ナンバリング	ENE2003		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	分野必修
授業の位置づけ	環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる						
授業のねらい	生物多様性の消失や気候変動が引き起こす問題とその背景を理解するとともに、問題解決のために現在行われている取り組みについて知識を深める。						
到達目標	環境問題の原因や背景とそれらについての多様な考え方や取り組みについて理解すると同時に、授業内でのディスカッションを通して、環境問題を身近な問題として捉える契機とする。						
授業計画	第１講　ガイダンス 第２講　生物にとっての環境とは 第３講　人による環境改変の歴史 第４講　生物の絶滅、その歴史と現在 第５講　生物多様性とは 第６講　生物多様性を脅かす危機 第７講　生物資源と遺伝資源 第８講　生態系サービスの概念 第９講　生物多様性条約とCOP10 第10講　気候変動と生物多様性 第11講　持続可能な社会に向けた取り組み- ESDとSDGs、ネイチャーポジティブ 第12講　保全生物学の考え方 第13講　環境アセスメント 第14講　環境保全のために私たちができること 第15講　まとめ 定期試験						
テキスト・教材（参考文献含む）	自作プリント、および関連資料配布。また、映像、スライドなども併用する。参考文献：「生物多様性という名の革命（デヴィッド・タカーチ）日経BP社，2006」、「最新 日本の外来生物（自然環境研究センター）平凡社，2019」など						
事前・事後学習	前回までの内容を復習した上で講義に臨んでください（毎週30分）。また、講義後に分からないことや関心を持ったことについては書籍やインターネットなどで調べ、自分の中で整理してください（１日平均30分）。						
成績評価方法	授業に対する積極性（50%）、期末試験（50%）を元に総合的に評価します。授業に対する積極性は小レポートの提出や授業内でのディスカッションへの参加、発言によって評価します。						
授業内の課題・提出方法	講義の内容に即した身近な題材から出題します。課題は基本的に授業内の提出とします。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出物のフィードバックは必要に応じて行います。提出課題の中からいくつかの題材を選び、講義のはじめでディスカッションします。質問や意見など遠慮せず積極的に発言してください。						
担当者から一言	環境保全は社会や他人に任せるだけではなく、自身の参加が不可欠です。保全の取り組みへの学生の積極的な参加を期待します						

授業科目名	環境化学			科目コード	371204	授業コード	414804
担当教員	牧田　直子			科目ナンバリング	EEB2001		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	環境情報学を構成する環境科学と情報技術とメディア表現の基礎を修得したうえで、専門分野に求められる深い学識と技術を身に付けている 正しい科学的知識に基づく環境問題への対処や、社会に役立つ創造的な情報コンテンツの提供ができる						
授業のねらい	物質の成り立ちや化学反応を理解し、環境に関する事柄を化学的に考える力を養うことを目標とする。具体的には、大気汚染、オゾン層破壊、地球温暖化等の化学について学ぶ。物質を構成している原子や化学反応における量の関係、エネルギーの出入りなどを学び、各種の反応へと発展させる。内容には物理化学および有機化学の基礎も含む。 関連科目は「化学概論」、「環境化学実験」など。						
到達目標	(1) 構造式や分子の形から、その物質の性質が考えられる。 (2) 燃焼反応などの化学反応式が書ける。 (3) オゾンや酸素の役割、温室効果のメカニズムなどが化学的に説明できる						
授業計画	第1講　ガイダンス、化学の基礎（復習） 第2講　地球の空気 第3講　大気成分と化学変化 第4講　大気汚染と酸性雨 第5講　オゾン 第6講　光（電磁波） 第7講　成層圏オゾンの生成 第8講　オゾン層の破壊と対策 第9講　温室効果と分子の形 第10講　分子の振動と温室効果 第11講　温室効果ガスと地球への影響 第12講　燃焼とエネルギー 第13講　化学反応のエネルギー 第14講　燃料の化学 第15講　まとめ 定期試験						
テキスト・教材（参考文献含む）	教科書： A Project of the American Chemical Society編、廣瀬千秋 訳「改訂 実感する化学　上巻 地球感動編」NTS社（2015）、3850円（税込み）						
事前・事後学習	化学は積み上げ科目であり、土台（先に学習したこと）が大事になる。教科書をよく読み、わからないままにしないことが重要である。 (1) 予習・復習のために宿題プリントを配るので、解答する（90分）。 (2) 教科書を読む（60分）。各回の講義に該当する教科書のページ数を記載した講義計画を初回の授業で配布する。 (3) ノートの見直し、まとめ（30分）。						
成績評価方法	宿題プリント（13回分）：25%、定期試験：75%						
授業内の課題・提出方法	(1) 演習プリント：その日の授業の理解度と出席を確認することが目的であり、毎回授業中に取り組む。 提出方法−授業終了後に教室で提出する。 (2) 宿題プリント：授業の復習と次回の予習を含めた内容で第2講から13回分課す。 提出方法−翌週の授業開始後10分以内に教室で提出する。遅れたものは受け取らない。欠席・遅刻の予定がある者は前日までに提出すればよい。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出された演習プリントと宿題プリントは、翌週の授業で返却する。 宿題の評価は正解率ではなく、解答率（問題数に対する解答数）に準じて採点し、プリントに明記する。						
担当者から一言	ノートを用意して下さい（ルーズリーフは不可）。試験は自筆のノートと電卓のみ持ち込みを許可します。 講義で分からなかったことは聞きましょう。授業後の質問、プリントの事前提出・受取は6号館4階6412室へ。						

授業科目名	環境化学実験			科目コード	371205	授業コード	414502
担当教員	牧田　直子			科目ナンバリング	EEB2002		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	専門技術者に求められる倫理観を身につけている 環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる						
授業のねらい	化学は実験によって発展した学問であり、化学教育に実験は欠かせない。この授業では、基本的な実験器具の使用法を習得し、化学実験に慣れ、「化学」を実感できることを目標とする。また、実験を通して環境に対する意識が向上することをねらいとする。 実験系科目の基礎となる科目なので、実験系の演習科目（セミナー）を希望する学生は、ぜひ履修して欲しい。						
到達目標	(1) 実験器具を適切に取り扱える（使い方、洗い方） (2) 水溶液の成分（無機化合物）を定性反応によって判別できる (3) 水溶液の濃度を実験によって決定できる（濃度計算ができる）						
授業計画	第1講　ガイダンスと実験操作の基礎 –質量と体積の量り方 第2講　溶液の希釈とピペットの使い方 第3講　溶液の作り方と濃度 第4講　定性分析 –陰イオンの化学反応 第5講　リン酸イオンの定量分析–分光光度計の使い方 第6講　モル濃度–溶液の調整と観察 第7講　塩素イオンの定量（沈殿滴定） 第8講　酸化還元反応（１）–鉄の反応 第9講　酸化還元反応（２）–酸化還元滴定 第10講　酸化還元反応（３）–COD測定 第11講　鉄の定量（o-フェナントロリン吸光光度法 第12講　廃油のリサイクル 第13講　酸と塩基（１）–pHの測定 第14講　酸と塩基（２）–中和滴定 第15講　実験操作の復習、データ整理、まとめ 定期試験 ２人１組で協力して実験実習を進めるアクティブラーニング科目						
テキスト・教材（参考文献含む）	教科書： 自作の実習プリントを配布する。毎回すべてのプリントを持って来ること。 実習プリントは①実験テキスト、②実験ノート、③予習、④補助プリント⑤実習の記録の5種類を用意している。						
事前・事後学習	(1) 予習として実験テキストをよく読み、プリントに書き込む。マーカーで線を引く等の工夫をして、実験に必要な器具、試薬等や手順を把握しておく（80分）。 (2) 実験結果を実験ノート（プリント）にまとめ、計算しておく（90分）。完成した実験ノートは提出する。 (3) 実習の記録に記入し、授業の振り返りをする（10分） 関連科目は「環境実験・調査a」、「環境実験・調査ｂ」、「化学概論」、「環境化学」など。						
成績評価方法	実習：30%、実技：15%、予習：15%、定期試験：40% 「実習」は各回の実験結果を実験ノート（プリント）のデータ欄で確認し、評価する。 「実技」は設定された項目を達成した場合に、「予習」はプリントへの書き込み課題で評価する。						
授業内の課題・提出方法	(1) 予習：実験テキストと実験ノートへの書き込み課題、予習プリント（1回）は授業開始時に確認する。 (2) 実験ノート（プリント）：実験結果を記入して、実習終了の報告時（授業時間内）に提出する。また、授業終了後にデータ整理を行い、次回以降の授業で提出する。 (3) 実習の記録：挑戦する実技項目を選び、実習開始時に提出する。また、授業時間内に確認を受ける。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	(1) 予習：実験テキストと実験ノートへの書き込みは授業中に答え合わせをする。予習プリントは採点し、解答例を添えて返却する。 (2) 実験ノート（プリント）：実習終了の報告時は、実験結果の部分をその場で確認し、不備があれば指摘して再提出させる。データ整理が必要なものは、実習点をつけた後、授業時間内に返却する。データ整理が完了しているものは、添削して次週以降の授業で返却する。 (3) 実習の記録：毎回、授業時間内にコメントを記入して返却する。						
担当者から一言	化学実験には化学の基本的な知識が必要になるので、高校で化学を学んでいることが望ましい。危険な化学薬品も使うので、緊張感を持って取り組み、安全を意識すること。白衣着用を勧めます。						

授業科目名	自然調査法			科目コード	371206	授業コード	413808
担当教員	大八木　麻希			科目ナンバリング	EEB2003		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	地域の持続的発展のために貢献できる 環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる						
授業のねらい	２０世紀後半の高度経済成長期の負の遺産として浮上してきた環境問題。２１世紀には環境問題を改善する手法の確立や環境負荷を減らす産業の試みが行われている。その中で、環境そのものの現状把握として、生物調査を含めた環境調査が行われている。さまざまな開発に伴う自然環境についての生物調査は注目される分野であり、これらへの理解は社会環境へも応用的理解も有している。。現代の問題に、生物調査法を通じて、幅広く対応できる人材を育成していきたい。						
到達目標	本講義では、自然調査法についての理論及び実際の方法について、生物学・生態学の知識をふまえて学ぶ。そこで、自然調査法について、自身で柔軟的な視野で考え、科学的に理論を組み立てることが出来ることを目標とする。						
授業計画	第１講　ガイダンス、生物季節観測 第２講　森林①　植生調査 第３講　森林②　森林管理 第４講　森林③　竹林問題 第５講　森林④　シカ害 第６講　森林⑤　土壌生物調査 第７講　淡水圏①　湖沼の水生植物 第８講　淡水圏②　湖沼の動植物プランクトン 第９講　淡水圏③　水生昆虫分類 第10講　淡水圏④　生物学的水質判定法 第11講　海洋①　海洋生物調査 第12講　海洋②　音響機器 第13講　海洋③　魚類形態と観察 第14講　海洋④　干潟調査 第15講　海洋⑤　化学的特性 レポート試験 簡易な実習後、添削し返却を行うため、アクティブラーニング要素を含む科目である。						
テキスト・教材（参考文献含む）	なし 参考文献 柴田英昭「生態学フィールド調査法シリーズ１森林集水域の物質循環調査法」共立出版（２０１５）2000円 小池伸介ほか「生態学フィールド調査法シリーズ９大型陸上哺乳類の調査法」共立出版（２０１７）2600円						
事前・事後学習	授業計画に示した各回のテーマを、参考文献などで予習して、重点、問題点等を検討した上で授業に臨むことを推奨する（90分）。また、関連するニュースや書籍に日頃から関心を持ち、講義の理解に役立ててもらいたい。さらに、講義後には復習し講義内容の定着化を心掛けること（90分）。						
成績評価方法	小レポート３０％、試験７０％						
授業内の課題・提出方法	講義の最後に課題を提示して、時間内に回答して提出する。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小レポートは毎回添削後、本人へ返却します。						
担当者から一言	重要語句の暗記ではなく、多角的・柔軟的な科学的視点を持つという意識を持って取り組んでほしい。簡易な実習を実施予定。						

授業科目名	地域環境論			科目コード	371207	授業コード	415206
担当教員	千葉　賢			科目ナンバリング	EEP2001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	地域の持続的発展のために貢献できる						
授業のねらい	現実の環境問題に対処してきた多数の専門家を招聘して講義を行う。本講義に参加することで、自然環境、社会環境、地域環境、環境教育、環境とエネルギーの問題などについて、幅広い知識を得られる。多分野の専門家に会うことが出来、その経験談・苦労話を聞けることが本講義の魅力である。専門家の話を聞き、今後、自分としてどのように環境問題に対処してゆけば良いのかを考える機会にして欲しい。自分の進路を考える機会にもなる。						
到達目標	毎週異なる講師から環境問題に関する講義を聞き、それに対する自分の見識を簡潔にレポートにまとめる訓練を行う。幅広い環境問題に関する知識を身に付け、それに対する自分の意見を持つことが到達目標である。						
授業計画	（各講義のタイトルは仮題。講師の都合でタイトルと順番の変更あり。） 第1講　ガイダンス、北勢地域の環境問題、千葉 第2講　四日市市の廃棄物問題、（外部講師） 第3講　三重県の廃棄物問題、（外部講師） 第4講　伊勢湾のプラスチックゴミ問題、千葉 第5講　藤前干潟の保全とゴミ問題、（外部講師） 第6講　SDGsとESD、（外部講師） 第7講　SDGsと食品ロス、（外部講師） 第8講　三重県の地球温暖化対策、（外部講師） 第9講　四日市市周辺の自然環境、（外部講師） 第10講　企業と環境対策（外部講師） 第11講　三重県の林業と今後、（外部講師） 第12講　四日市における地域農業の展開、（外部講師） 第13講　吉崎海岸の清掃活動とウミガメ保存、（外部講師） 第14講　伊勢湾の貧栄養問題と下水処理場の管理運転、（外部講師） 第15講　伊勢湾の水質環境、千葉						
テキスト・教材（参考文献含む）	なし。毎回の講義で資料を配布する。						
事前・事後学習	シラバスを参照して次回の講義内容を確認し、インターネット等を利用して、予備的な知識を得ること（180分）。予備的に調べたサイトや図書があれば、その名称と内容の両方をレポートに書くことで加点する。						
成績評価方法	毎回の講義後に、自分と環境問題の関係性（自分の生活とどのように関わっているか）を考慮した講義内容評価のミニレポートを作成して提出させる。1回6点満点×15回＝90点（優秀レポートには加点）して成績評価する。レポートを採点してフィードバックする。遅刻者は減点する。期末試験はない。						
授業内の課題・提出方法	上記の通り						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	上記の通り						
担当者から一言	話題を提供していただく講師の皆様に感謝する気持ちを持って講義に参加してください。本講義は公開授業のため、一般市民の方々も聴講されます。履修する人は、マナーに気を付けてください。						

授業科目名	環境エネルギー論			科目コード	371208	授業コード	416501
担当教員	森　康則			科目ナンバリング	ENE3001		
配当年次	3	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	地域の持続的発展のために貢献できる。 環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる。						
授業のねらい	現代の生活になくてはならないエネルギーの原理や歴史を学び、身のまわりにあるエネルギーの価値について理解を深めます。また、カーボンニュートラルを目指す中で、利用拡大が求められている再生可能エネルギーなどについても、その原理や課題について学びます。講義の最後には、将来の日本が、どのような電源構成が理想形として望まれるか、自分なりの意見を持てることを目指します。						
到達目標	・エネルギーとは何か、その歴史的背景を理解する。 ・エネルギー技術の原理について、理解する。 ・再生可能エネルギー、新エネルギーとは何かを理解する。 ・将来的なエネルギー問題について関心を持つことができる。						
授業計画	第１講　ガイダンス・エネルギーとは 第２講　エネルギー論の基礎 第３講　エネルギーの歴史 第４講　火力発電１ 第５講　火力発電２ 第６講　原子力発電１ 第７講　原子力発電２ 第８講　再生可能エネルギー１ 第９講　再生可能エネルギー２ 第１０～１５講　施設見学・グループワーク等 2023年12月中～下旬の週末（土日）に、四日市市近辺の施設で開講予定です。 現時点では、2023年12月16日（土）、12月17日（日）、12月24日（日）の3日間（全日）開講の予定です。 基本的に開講場所での現地集合、現地解散となりますので、若干の費用あるいは交通手段が必要になる場合があります。 開講日時・場所は、履修登録人数等によって変更の可能性がありますので、確定後、履修登録者に履修申告時の9月下旬にアナウンスします。						
テキスト・教材（参考文献含む）	特になし						
事前・事後学習	講義前に次回の講義内容を確認し、その講義内容に関する予習を行い（90分）、講義終了後は、講義資料をもとに内容を復習してください（90分）。						
成績評価方法	（１）講義中における小テスト 20点×3日=60点 （２）レポート課題 40点						
授業内の課題・提出方法	講義の各日で小テストを行い、提出を求めます。その際、講義内容に関する質問なども受け付け、評価の対象とします。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小テストを行った次の回の講義の最初に、採点された小テストを返却し、答え合わせを行うとともに、質問に対する回答やコメントを行います。						
担当者から一言	３日間の集中講義になります。受講生には、エネルギー問題に関係する施設見学などを通じて、大学の中だけでは得られない様々な刺激を感じていただきたいと考えています。						

授業科目名	資源循環論			科目コード	371209	授業コード	415502
担当教員	村田　静昭			科目ナンバリング	ENE3002		
配当年次	3	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	地域の持続的発展のために貢献できる 環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる						
授業のねらい	我々の生活に不可欠な資材やエネルギーの基盤となる多様な資源について、その獲得・品質・加工・貯蔵・利用・廃棄・自然界での循環とそれらに関わる諸問題を、地域（自身の生活圏）から地球規模レベルに至るさまざまな視点で学ぶことにより、持続的な資源の活用や生活の向上に関係するさまざまなSDGs活動の目標や課題の達成について理解し、社会・地域を持続的に維持発展させていくための知識や考え方を学びます。						
到達目標	我々の生活・社会を支えている資源とその品質について理解する。 資源の獲得・加工・貯蔵・利用・再生・廃棄という一連の流れと付随する問題を理解する。 物質収支・物質循環の基礎について理解する。 SDGsの目標から資源利用と物質循環が関わる問題を整理する。 都市や地域の生活における安全・安心と持続的な資源利用について理解する。						
授業計画	第 1 講 ガイダンス　資源とは何か 第 2 講 基幹資源の獲得 第 3 講 資源の品質 第 4 講 資源の加工・貯蔵 第 5 講 資源の利用・廃棄 第 6 講 自然界における物質循環 第 7 講 資源利用と環境負荷 第 8 講 再生可能資源と問題 第 9 講　再生可能資源利用の限界 第 10 講　廃棄物と廃棄物処理 第 11 講 3R（Reduce， Reuse， Recycle） 第 12 講 リサイクルとそれに伴う諸問題 第 13 講 持続可能な都市のデザイン 第 14 講 授業に関連するSDGsの目標と取り組み 第 15 講 まとめ 定期試験						
テキスト・教材（参考文献含む）	テキストはありません。参考書として次の本を上げておきます。 「地図とデータで見る資源の世界ハンドブック」ベルナデット・メレンヌ＝シュマルケル著，蔵持不三也訳　原書房　2022年						
事前・事後学習	授業では皆さんとのディスカッションをできるだけ取り入れていきます。授業中に課題を出しますので次回の授業にはレポートとして提出してください。一部の学生さんには授業中に内容を発表してもらいディスカッションします。この授業では日々の生活そのものも教材になりますから、授業中に扱った内容だけでなく関連するニュースや話題にも注意を払い考察を深めそれを自分の言葉（口頭・文章）で説明できるように心がけて下さい。						
成績評価方法	授業中での口頭による課題発表とレポート提出　50% 定期試験 50%						
授業内の課題・提出方法	課題・提出方法・締め切りなどはその都度パワーポイントスライドにて伝えます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出された課題に関するコメントはその一部を授業時間中に説明します。						
担当者から一言	SDGsに取り組んでいく上での重要なベースとなる授業です。関連してCSRの重要性についても言及します。本学の取り組みはホームページで確かめてください。高等学校の理科（化学・物理・生物）の基本的な内容が出てきますが、分からないことがあったらその場で質問するようにしてください。						

授業科目名	地理情報システム論			科目コード	371210	授業コード	411410
担当教員	井岡　幹博			科目ナンバリング	ENE3003		
配当年次	3	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	地域の持続的発展のために貢献できる。 環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる。						
授業のねらい	地理空間情報の基本的な概念を修得し、データの入手方法、生成方法、分析手法、結果の表示方法などを学びます。セミナー等で取得している環境情報が、地理情報システムで解析をすると、どのような事柄が見えてくるのかを修得します。						
到達目標	環境情報を地理情報システムで解析できる。						
授業計画	第１講　ガイダンス、地理空間情報の概要 第２講　測地系と座標系 第３講　基盤地図情報 第４講　国勢調査データ 第５講　標準地域メッシュ統計 第６講　ArcGISによる実例解析 第７講　国土数値情報 第８講　地図画像データ 第９講　座標変換と空間データの結合 第10講　地図データと属性データ 第11講　属性検索 第12講　空間データの抽出とオーバーレイ 第13講　実例解析　農業の空間分析 第14講　実例解析　衛星画像の分析 第15講　実例解析　ハンディGPSを用いたデータ作成 授業はコンピュータによる演習と座学により進めます。						
テキスト・教材（参考文献含む）	プリント配布。						
事前・事後学習	授業内で提示するプリント類の熟読（予習90分）。毎回課される課題作成（復習90分）						
成績評価方法	提出物100%。						
授業内の課題・提出方法	毎回、成果物を印刷物、もしくはファイルとして提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出物は、コメントを付して返却します。						
担当者から一言	地理空間情報の扱いは、いままでの点での環境情報収集とは違って、巨視的、空間的な見方を与えてくれます。データ解析を楽しんでください。						

授業科目名	環境倫理学			科目コード	371211	授業コード	411713
担当教員	廣住　豊一			科目ナンバリング	EEP2002		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	専門技術者に求められる倫理観を身につけている 地域の持続的発展のために貢献できる 多様な社会の価値観を理解し、自分の考えを的確に表現し、伝えることができる						
授業のねらい	環境科学専攻で開講されるより専門的な各科目の内容に円滑に接続できるようにするため、環境問題やSDGsについて全般的な内容を幅広く学ぶ。環境問題に対する基本的な考え方を身につけ、自然環境分野で開講されるより専門的な各科目の内容に円滑に接続できるようにする。						
到達目標	現在の環境問題に関する概略を知り、その解決策について考えることができる。自分の考えをまとめ、正確に伝えることができる。						
授業計画	第１講　ガイダンス、環境問題の歴史と環境科学 第２講　地球環境に関する基礎知識 第３講　世界的な人口増加と経済活動の拡大による環境負荷 第４講　地球温暖化対策と低炭素社会 第５講　エネルギーと環境のかかわり 第６講　生物多様性と自然共生社会 第７講　オゾンホールとオゾン層の保護 第８講　水資源の枯渇と汚染 第９講　海洋汚染と海洋環境保全 第10講　酸性雨と国際的な大気汚染問題 第11講　急速に進行する森林破壊 第12講　土壌劣化と砂漠化 第13講　廃棄物の処理と循環型社会 第14講　生活環境と地域環境問題 第15講　持続可能な社会に向けた取り組み 定期試験						
テキスト・教材（参考文献含む）	なし。授業内容の理解を助けるため、各回の講義内容に関連した書き込み式の資料を配布する。自習用教材には、環境社会検定試験(eco検定)、環境学・環境科学・地球環境に関する書籍などを推奨する。						
事前・事後学習	シラバスの授業計画をよく確認し、書籍・テレビ・新聞・インターネットなどの関連する記事・ニュースで予習する(90分)。確認テストで添削された内容をよく見直し、各回の講義で配布した資料で復習する(90分)。						
成績評価方法	毎回の授業内で行うミニレポートの合計点と定期試験のどちらか低い方を最終評定とする。正当な理由なく欠席した場合は1回ごとに最終評定から10点減点する。遅刻・早退・私語等には減点等の処置を講じる。						
授業内の課題・提出方法	毎回の授業内で理解度をはかるためのミニレポートを実施する。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業内で実施したミニレポートは次の講義までに添削して返却する。授業冒頭で前回のミニレポートの解説を行う。						
担当者から一言	ある一面からの視点では地球環境問題の全体像は把握できません。問題解決にはさまざまな立場から捉えることが重要です。各回の授業で課すミニレポートではその点に注意して書いてみてください。						

授業科目名	環境政策			科目コード	371212	授業コード	411205
担当教員	鬼頭　浩文			科目ナンバリング	EEP2003		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	地域の持続的発展のために貢献できる						
授業のねらい	環境を守ることはとても大切なことだが、環境改善の努力が他の環境破壊を生んだり、資源の無駄づかいを発生させたりすることがある。環境政策を考える場合、ある環境問題を解決する対策のメリットとデメリットを、総合的に冷静に比較することが求められる。この講義はオムニバス形式で進め、地元や海外のローカルな環境問題からグローバルな問題まで多面的に取り上げ、環境政策について学習していく。						
到達目標	環境問題の持つ難しさや環境改善の手法を多面的に理解することを通し、環境政策に関する問題を総合的に考える力を身につけ、最終的には地域の持続的発展に貢献する力を身に着けることが到達目標である。						
授業計画	4/10第1講　ガイダンス・ゴミ問題から環境政策を考える（岡） 4/17第2講　循環型社会とリサイクル①（岡） 4/24第3講　循環型社会とリサイクル②（岡） 5/8第4講　災害ゴミの処理（鬼頭） 5/15第5講　四日市公害と中国の大気汚染対策①(鬼頭) 5/22第6講　四日市公害と中国の大気汚染対策②(鬼頭) 5/29第7講　四日市公害と夜景クルーズ(ゲスト講師＝寺本) 6/5第8講　ICETTの取り組み（ゲスト講師＝ICETTより) 6/12第9講　地球温暖化の仕組みと現状(鬼頭) 6/19第10講　三重の地球温暖化対策(ゲスト講師＝三重県) 6/26第11講　映像で観る今日の環境政策の課題①(鬼頭) 7/3第12講　映像で観る今日の環境政策の課題②(鬼頭) 7/10第13講　映像で観る今日の環境政策の課題③(鬼頭) 7/17第14講　映像で観る今日の環境政策の課題④(鬼頭) 7/24第15講　まとめと講義の振り返り(鬼頭) ＊オムニバスのため、変更が予想されます。ユニパや掲示板に注意してください。						
テキスト・教材（参考文献含む）	講義でプリントを配布する						
事前・事後学習	シラバスをもとにインターネットなどで事前に情報収集（毎回1時間程度）しておくことが望ましい。小レポートでは、講義を振り返るだけでなく、各自で事前に調べたこと、考えたことも踏まえ、書いてほしい。						
成績評価方法	小レポート5点×15回として全体の75%、学期末試験25%の配分で、総合的に評価する。						
授業内の課題・提出方法	テーマごとに完成させた小レポートをMoodleなどで提出する。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題に対してコメントを書き、学生に届ける。						
担当者から一言	仕事の上でも、生活でも、とても大切な環境問題と政策を、多面的に学ぶのがこの講義の目的である。講義では、環境問題を冷静に幅広い視点で考える方法を身につけていく。						

授業科目名	環境保全とツーリズム			科目コード	371213	授業コード	416102
担当教員	千葉　賢、岡　良浩			科目ナンバリング	EEP2004		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	地域の持続的発展のために貢献できる 多様な社会の価値観を理解し、自分の考えを的確に表現し、伝えることができる						
授業のねらい	総合政策とは、経済学や法学といった特定の学問領域のことではなく、まず社会的な課題があり、それを色々な人や組織がそれぞれに持てる力を合わせて解決する、あるいはその解決策を見出していこうとすることです。 この講義では、総合政策学部の各教員が、それぞれ専門としている領域を念頭に、その内容を講義するものです。なおこの講義は、事前に収録された動画を視聴するオンデマンド方式で行います。						
到達目標	以下の３つを掲げています。 1. それぞれの教員の領域を理解すること 2. 総合政策のもつ分野の多様性を理解すること 3. 今後自らが専攻する分野や指導教員などを見定めること						
授業計画	第1講　ガイダンス／未来を拓く中小企業の役割（岡良浩） 第2講　会計情報と株価（奥原貴士） 第３講　人生の抽象化−学問する意味−（川崎綾子） 第４講　選挙・代表制民主主義と「くじ引き民主主義」（小林慶太郎） 第５講　文学作品や文学現象、文化現象を解明するということ（高田晴美） 第６講　自由貿易がもたらす効果について（鶴田利恵） 第７講　リアリティの境界（富田与） 第８講　環境基本法のとらえ方（中西紀夫） 第９講　正義とは何か（フェリペフェハーリ） 第10講　未婚化のゆくえ（三田泰雅） 第11講　米国野球界の人材育成（若山裕晃） 第12講　まちづくりのプロデュース（鬼頭浩文） 第13講　地域の学びと文化（浅井雅） 第14講　地域の歴史・文化とまちづくり（倉田英司） 第15講　公共政策と価値の多様性（吉川和挟） ※日程・内容などは変更する場合があります。						
テキスト・教材（参考文献含む）	特に使用しません。（講義中に教員がプリントを配布することがあります。）						
事前・事後学習	事前学習：新聞やニュースに目を通しておくこと（90分） 事後学習：各講で課された小レポートを作成すること（90分）						
成績評価方法	各講で課す小レポート（75%）期末試験（25%）						
授業内の課題・提出方法	オンデマンドで配信された動画を視聴後に、各講で課された小レポートを作成し、提出いただきます。提出は学内の教育支援システムMoodleで提出いただく予定です。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出された小レポートの点数を各自に採点するとともに、全体の講評をMoodle内で掲示します。						
担当者から一言	この講義は、総合政策学部の教員がオムニバスに毎回登壇し、それぞれの専門領域について総合政策の観点から講義するものです。この講義を通じて、ご自身の専攻分野や関心領域を見定めてください。						

授業科目名	環境社会学			科目コード	371214	授業コード	415607
担当教員	村田　静昭			科目ナンバリング	EEP2005		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	地域の持続的発展のために貢献できる 環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる						
授業のねらい	人類は、優れた科学技術を生み出し大量の資源とエネルギーを使うことで、今ある安全・快適・便利な生活を享受してきました。しかしこのような光に照らされた繁栄に対する闇の側面として、自らが地球に働きかけた結果として生じた環境破壊が未来に深刻な影を落としています。授業では現在も継続・複雑化している環境破壊について学び、被害の軽減と新たな発生を防ぎ繁栄を持続・拡大させていくための知識を学びます。						
到達目標	公害を始めとする環境破壊の歴史（原因・広がり・加害者／被害者などの変遷）を知る。 環境破壊抑制への取り組みと成果の歴史について理解する。 現在進行中で今後も拡大し得る環境破壊について回復と抑制を考察する。 より良い生活の獲得といった視点から環境破壊と開発とのバランスを考察する。 新たな環境破壊の発生について考え、未然抑止に必要な知識やプロセスを考察する。						
授業計画	第 1 講　ガイダンス　（快適な環境とはどのようなものか） 第 2 講　環境破壊の歴史１　公害の発生源・被害とその変遷 第 3 講　環境破壊の歴史２　公害の背景にある時代的・社会的背景とその変遷 第 4 講　環境破壊の歴史３　ローカルからグローバルへと被害の拡大と変遷 第 5 講　環境破壊の歴史４　時間と世代を超えた被害の拡大 第 6 講　人類生存の脅威１　淡水の確保 第 7 講　人類生存の脅威２　疾病との戦いと薬 第 8 講　人類生存の脅威３　食料と農業 第 9 講　人類生存の脅威４　気候変動 第 10 講　便利で安全な生活を支える新材料１　有機塩素化合物 第 11 講　便利で安全な生活を支える新材料２　合成樹脂・合成繊維 第 12 講 科学技術の光と闇 第 13 講 未来への責任１　地球温暖化との戦い 第 14 講 未来への責任２　使う責任／使わない責任 第 15 講　まとめ 定期試験						
テキスト・教材（参考文献含む）	テキストはありません。参考書として次の本を上げておきます。 「地図とデータで見る資源の世界ハンドブック」ベルナデット・メレンヌ＝シュマルケル著，蔵持不三也訳　原書房　2022年						
事前・事後学習	授業では皆さんとのディスカッションをできるだけ取り入れていきます。授業中に課題を出しますので次回の授業にはレポートとして提出してください。一部の学生さんには授業中にその内容を発表してもらいディスカッションします。この授業では日々の生活そのものも教材になりますから、授業中に扱った内容だけでなく関連するニュースや話題にも注意を払い考察を深めそれを自分の言葉（口頭・文章）で説明できるように心がけて下さい。						
成績評価方法	授業中での口頭による課題発表とレポート提出　50% ・・・ 授業中に解説します 定期試験 50%　・・・　終了後講評します						
授業内の課題・提出方法	課題・提出方法・締め切りなどはその都度パワーポイントスライドにて伝えます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出された課題に関するコメントはその一部を授業時間中に説明します。						
担当者から一言	四日市市には四日市ぜんそくの克服に取り組んだ貴重な歴史があります。現在深刻化している環境問題に取り組むためにこのような歴史を学びます。関連してSDGsやCSRについても言及します。授業では高等学校における化学・物理・生物の基本的な内容が出てきますが、分からないことがあったらその場で質問してください。						

授業科目名	環境法			科目コード	371215	授業コード	415202
担当教員	中西　紀夫			科目ナンバリング	EEP3004		
配当年次	3	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる。 　系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。						
授業のねらい	本講義のねらいは、都市の公害・環境に関係すると法の基礎を学ぶことです。つまり、国民に安全かつ健康で文化的な生活ができる快適な環境の都市をつくるための学びです。これは憲法25条の「生存権」や13条の「幸福追求権」との関係でも重要です。また、都市計画上必要となる環境対策については現代社会の変化を踏まえながら、分かりやすく解説します。						
到達目標	本講義では、都市の公害・環境対策の関連法を体系的に理解することを目標としています。具体的には、時代別に学んでいくことにより、法の制定経緯および骨子を概観することにつながります。最終的には、都市の公害・環境対策に関わる仕事の実践的な法処理技術の取得まで対応できる人材育成を目指しています。						
授業計画	第１講　ガイダンス 第２講　公害と法 第３講　環境法の伝統的な法体系 第４講　憲法との関係 第５講　行政法との関係 第６講　民法との関係 第７講　刑法との関係 第８講　都市の環境対策と法規制 第９講　公害・環境規制法 第１０講　都市開発と環境アセスメント 第１１講　廃棄物・リサイクル対策 第１２講　私法的な救済方法 第１３講　条例による規制とその問題点 第１４講　環境のための３Ｒ 第１５講　まとめ 定期試験						
テキスト・教材（参考文献含む）	下記の著書のこの科目の部分を最新版に編集したものと、必要に応じて新聞などを印刷して配布します。なお、ほかに補足資料が必要な部分は、対応しますので安心してください。 参考文献：中西紀夫著『社会環境と法』嵯峨野書院（2010年11月30日）						
事前・事後学習	毎回、予習90分と復習90分はお願いします。内容は、テキストを読むこと及び自筆ノートや確認問題のチェックなどです。また、発展的な学び方を希望される方は、上述の参考文献や自分に合った六法を購入しておくとよいでしょう。						
成績評価方法	成績は、次のような評点配分です。 受講態度　30%：授業中に行うテキストの講読の出来や質問の受け答えはもとより、小テストの結果も含む。 定期試験　70%：すべて持込可						
授業内の課題・提出方法	課題のある場合は、Moodleを使用する予定です。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業中に小テストを実施した場合は、５段階評価を付けて２週間以内に返却します。						
担当者から一言	授業中は私語厳禁とします。また、こちらの許可を得ない中座や勝手にスマホを見ることなども、もちろん禁止です。学生さんも体調等の問題や諸活動で、こちらも臨機応変な対応が必要となることもありますが、中座や退室は私の許可を取ってください。出席する以上は、集中して受講しましょう。						

授業科目名	都市計画論			科目コード	371216	授業コード	415102
担当教員	本部　賢一			科目ナンバリング	EEP3005		
配当年次	3	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる。						
授業のねらい	都市にかかわる様々な課題を把握し、よりよい将来を実現するために、都市そのものや、そこで暮らす入たちに対して働きかけを行う行為が「都市計画」です。 本講義では、都市計画に関連する制度ならびに都市環境計画について学びます。目まぐるしく変化していく社会や自然環境に対応するためには、都市計画に対する「考え方」そのものを変えていく必要があります。その手掛かりをどうつかむのか、ヒントを探るために、必ずしも成功例とはよべない事例も含め、具体的な事例を多く交えて学習していきます。						
到達目標	授業を受けた皆さんが、今後生活の拠点とされる地域での地域づくりまたはまちづくりに参加した際、既存の都市計画制度を活用できたり、変化する社会に対応できるよう、必要に応じて制度の改革にも取り組んでいくことができるような力を身につけることを到達目標としています。						
授業計画	第01講　ガイダンス、授業の概要 第02講　都市形成のメカニズム(1) 第03講　都市形成のメカニズム(2) 第04講　現代都市の問題 第05講　都市の進化とプランニング(1) 第06講　都市の進化とプランニング(2) 第07講　計画概念とプランナー(1) 第08講　計画概念とプランナー(2) 第09講　暮らしを支える都市 第10講　豊かな都市空間を考える(1) 第11講　豊かな都市空間を考える(2) 第12講　都市環境計画(1) 第13講　都市環境計画(2) 第14講　都市環境計画(3) 第15講　まとめ ※本講義は、全講オンデマンド（ビデオ）授業で行います。 ※四日市大学教育支援システムMoodle上にコースを用意します。そこに出欠ボタン（各講、時間割通りの時間帯に受講することを原則とする）、視聴ビデオ（Stream）のリンク、教材プリント＆参考資料のダウンロード、テストレポートの内容＆提出方法等が掲示されています。						
テキスト・教材（参考文献含む）	・テキストなし ・単元毎に教材プリント＆参考資料を配布→各自でMoodle上のコース画面よりダウンロード、印刷して使用。 ・教材プリントはところどころ空白になっており、未完成の状態となっています。ビデオを見ながら空白部分を埋める作業を行うとともにメモを取りましょう。教材プリントを完成させるためにはビデオをすべて見る必要があります。						
事前・事後学習	事前学習：　教材プリント、参考資料には全て目を通し、疑問点を整理しておきましょう（90分程度）。 事後学習：　教材プリントを完成させるとともに、不明なキーワードをインターネットで検索しましょう。（90分程度）						
成績評価方法	成績は次のような配分により総合的に評価します。※詳細はガイダンス時に説明します。 ・単元毎のミニテストレポート等：70% ・最終テストレポート：30%						
授業内の課題・提出方法	授業内の課題： ・単元毎のミニテストレポート ・最終テストレポート の２つがあります。どちらも試験スタイルのプリント原稿をMoodle上のコース画面よりダウンロードし、解答を記入したものを提出してもらいます。 提出方法： 共に教学課に用意された提出箱へ提出。提出期限はMoodleのコース画面上で確認の上、厳守してください。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	・単元毎のミニテストレポートは点数＆総評を各自にメールでお知らせします。 ・最終テストレポートは定期試験の代わりですので点数＆総評はお知らせしません。						
担当者から一言	・オンデマンド授業ですが時間割通りの時間帯に受講してください。Moodle上のコース画面に用意された「出欠ボタン」で出席状況（出席、遅刻、欠席）を把握します。 ・ビデオは各講授業開始時以後、第15講授業終了時まで視聴可能ですので、欠席時でも受講できますし、何度でも見直すことができます。						

授業科目名	海洋学			科目コード	371217	授業コード	412706
担当教員	千葉　賢			科目ナンバリング	EEE2001		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	地域の持続的発展のために貢献できる 環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる。						
授業のねらい	最初に、地球規模の大気と海洋の現象を物理的な観点から学ぶ。それに基づき、地球温暖化の仕組みや海流の発生原理などを学ぶ。続いて、沿岸海洋の物理として、潮汐や潮汐流の発生原理を学ぶ。次に水中光の物理に触れながら、それに左右される基礎生産と、基礎生産を底辺とした海洋生態系の仕組みと変動機構について学ぶ。海洋生物群については、分類学的な観点から理解を進め、その生態と生活史などを学ぶ。また、その応用として沿岸環境学についても学び、地域の持続的発展に繋がる伊勢湾の現状とその将来について考える。大気科学、海洋物理・化学・生態学・生物学の基礎を学ぶ。その上で、現実の問題として伊勢湾の海洋学的な特性を学び、環境悪化の状況を知るとともに改善方法を考える。						
到達目標	大気科学と海洋学の基礎知識を得て、地球温暖化、魚類資源の減少などの地球規模の環境問題とともに、沿岸域の水質などの環境問題などが理解できるようになる。2年次配当の「伊勢湾海洋実習」を履修するために必要な知識を得る。						
授業計画	第1講　ガイダンス、海洋学とは 第2講　海洋の大きさと海水の物性 第3講　大気と海洋（大気の熱力学） 第4講　大気と海洋（大気中の水循環と温室効果） 第5講　大気と海洋（コリオリカとエクマン輸送） 第6講　大気と海洋（風成循環と海流） 第7講　潮汐と潮汐流 第8講　水中の光環境と基礎生産 第9講　水中の光環境と基礎生産 第10講　海洋生態系と栄養段階 第11講　海洋生態系と栄養段階 第12講　海洋生物の分類と特徴 第13講　海洋生物の分類と特徴 第14講　海洋生物の分類と特徴 第15講　伊勢湾の環境問題と伊勢湾実習紹介						
テキスト・教材（参考文献含む）	担当教員が作成した教材を配布する。 【参考文献】 横瀬久芳、「はじめて学ぶ海洋学」、朝倉書店、1800円＋税 日本生態学会編、「海洋生態学」、共立出版、3400円＋税						
事前・事後学習	シラバスを読み、授業週の翌週の内容を把握し、教科書やネットで予備知識を得る（90分）。授業を聴いたら、内容を復習（90分）し、理解できなかった部分を教科書やネットで調べる。						
成績評価方法	講義毎のレポート（40%）と期末試験（60%）。毎週小レポートを課すので少し大変だが、その積み重ねで知識がつく。期末試験もレポートの問題の中から主に出題する。積極的にレポートに取り組んだ者は加点する。レポートは採点して返却する。						
授業内の課題・提出方法	教員の配布する課題の用紙を提出する。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	次の授業までに提出された課題を評価して学生に返却する。						
担当者から一言	地球温暖化や海洋プラスチック汚染などの地球規模の環境問題を理解する上で、海洋学の知識は必須です。2年次配当の「伊勢湾海洋実習」で役立つ知識を教えるので、履修予定の人は、この科目を先に学んでください。						

授業科目名	生物分類学			科目コード	371218	授業コード	412610
担当教員	大八木　麻希			科目ナンバリング	EEE2002		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	地域の持続的発展のために貢献できる 環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる						
授業のねらい	分類学は17世紀ごろに始まり、博物学が盛んになる18世紀にはリンネによって整理された。日本の動植物はシーボルトによって西洋に広められた。近年では分子生物学によって、分類学の新たな知見が得られてきた。これまでの分類学の歴史を理解するとともに、生物同定の技術を確立する。						
到達目標	本講義では、生物分類について生物学・博物学の知識をふまえて学ぶ。そこで、生き物の分類の仕方や名づけについて、体系的に理解し、技術として獲得することを目標とする。						
授業計画	第１講　ガイダンス 第２講　分類学の研究史 第３講　博物学の研究史 第４講　生物世界の分類体系 第５講　生物世界の階層構造 第６講　生物学の種の概念 第７講　生物標準和名 第８講　国際命名規約 第９講　外来生物との交雑 第10講　学名とタイプ標本 第11講　種の構造と多様性 第12講　無セキツイ動物 第13講　新種の発見と記載 第14講　進化学との関連性 第15講　分子生物学との関連性 定期試験 簡易な実習後、添削し返却を行うため、アクティブラーニング要素を含む科目である。						
テキスト・教材（参考文献含む）	テキストは無し 参考文献 馬渡峻輔（2008）動物分類学30講、朝倉書店、3400円＋税						
事前・事後学習	授業計画に示した各回のテーマを、参考文献などで予習して、重点、問題点等を検討した上で授業に臨むことを推奨する（90分）。また、関連するニュースや書籍に日頃から関心を持ち、講義の理解に役立ててもらいたい。さらに、講義後には復習し講義内容の定着化を心掛けること（90分）。						
成績評価方法	小レポート３０％、試験７０％						
授業内の課題・提出方法	講義の最後に課題を提示し、時間内に回答して提出する。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小レポートは毎回添削後、本人へ返却します。						
担当者から一言	普段の身の回りの何気ない生物にもそれぞれ名づけが行われてきた過去の歴史や研究者の情熱を感じ取って、皆さんが学ぶ意識の向上に役立てることができればと考えています。						

授業科目名	海洋調査法			科目コード	371219	授業コード	416103
担当教員	千葉　賢			科目ナンバリング	EEE2003		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	地域の持続的発展のために貢献できる 環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる						
授業のねらい	三重大学の勢水丸を借りて、2泊3日で伊勢湾や周辺の海域に出て、水質・底質・生物調査などを行う。そのような実習と事前事後授業を通じて、伊勢湾の環境問題についての知識を増やし、伊勢湾の環境保全の大切さを理解できるようにする。海洋調査法の基本を体験し、その後のゼミ活動や他授業で役立てられるようにします。船内で規律ある団体生活（ラジオ体操、船内清掃、配膳皿洗い等）を体験し、班分けで活動することで、社会人基礎力も養成する。						
到達目標	伊勢湾の環境問題を理解できるようになる。海洋調査とデータ整理の基本技術を知る。観測内容を報告書にまとめる。						
授業計画	第1講　ガイダンス、伊勢湾の地形・流動・水質の特徴（学内教室・事前授業） 第2講　伊勢湾の地形・流動・水質の特徴（学内教室・事前授業） 第3講　実習オリエンテーション（実習開会式含む）（勢水丸船内・実習1日目） 第4講　海洋調査実習（勢水丸船内・実習1日目） 第5講　海洋調査実習（船内実習1日目） 第6講　海洋調査実習（船内実習1日目） 第7講　観測データ分析（船内実習1日目） 第8講　海洋調査実習（勢水丸船内・実習2日目） 第9講　海洋調査実習（船内実習2日目） 第10講　海洋調査実習（船内実習2日目） 第11講　海洋調査実習（船内実習2日目） 第12講　海洋調査実習（船内清掃など）（船内実習3日目） 第13講　海洋調査実習（実習終了式含む）（船内実習3日目） 第14講　実習報告書の書き方（学内教室・事後授業） 第15講　実習報告書の書き方（学内教室・事後授業）						
テキスト・教材（参考文献含む）	なし。資料を配布する。						
事前・事後学習	事前授業資料を授業に先立ち配布するので予習すること（180分）。事前授業では反転授業の形式を採用して、学生に予習したことを発表させるので、予習しないと困ることになる。						
成績評価方法	実習への取組み姿勢（70%）と実習報告書（30%）により評価する。実習に参加しない者、実習報告書を提出しない者には単位を与えない。事前事後授業についても、特別の事情がある場合を除いて、出席を必須とする。実習なのでフィードバックは現場で行う。						
授業内の課題・提出方法	事後授業で課題を提出させる。事前授業では予習を求める。それ以外は無し。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	上記の通り						
担当者から一言	伊勢湾の水産資源が減少し、コウナゴは6年連続で禁漁になりました。伊勢湾の環境に異変が起きています。海の環境問題を知りたい人、海洋調査の手法を学びたい人は履修してください。「海洋学」をあわせて履修することを強く勧めます。						

授業科目名	環境実験・調査ａ			科目コード	371220	授業コード	414703
担当教員	廣住　豊一、大八木　麻希			科目ナンバリング	EEE2004		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	専門技術者に求められる倫理観を身につけている 地域の持続的発展のために貢献できる 多様な社会の価値観を理解し、自分の考えを的確に表現し、伝えることができる						
授業のねらい	この授業では、河川・湖沼・海洋などの陸域・海域に広がる水圏環境、森林・農地・都市などを支える基盤となる地圏環境に関する基礎的な調査・測定の方法を学ぶ。						
到達目標	調査・実験を実施する上での安全管理の考え方、基本的な調査器具・実験器具の取り扱いや、試薬の調整方法について身につける。調査・実験の結果をまとめ、 正しく報告することができる。						
授業計画	第１講　ガイダンス　安全指導・レポート書き方・実験器具の使い方 （廣住） 第２講　水圏環境①　物理指標　水温・pH（大八木） 第３講　水圏環境②　物理指標　浮遊懸濁物質（大八木） 第４講　水圏環境③　生物指標　BOD（大八木） 第５講　水圏環境④　化学指標　窒素（大八木） 第６講　水圏環境⑤　化学指標　リン（大八木） 第７講　水圏環境⑥　化学指標　COD（大八木） 第８講　水圏環境⑦　分析演習　塩水と砂糖水の水質比較（大八木） 第９回　地圏環境①　野外での土壌調査（廣住） 第10回　地圏環境②　土壌のpHとEC（廣住） 第11回　地圏環境③　三相分布（廣住） 第12回　地圏環境④　有機物量（廣住） 第13回　地圏環境⑤　窒素（廣住） 第14回　地圏環境⑥　リン（廣住） 第15回　地圏環境⑦　カリウム（廣住） 全体を通してアクティブ・ラーニングの要素が含まれる。						
テキスト・教材（参考文献含む）	なし。各講の講義内容に関連した資料を配布することがある。						
事前・事後学習	シラバスの授業計画をよく確認し、関連する内容を予習する(90分)。実験内容をよく見直し、それぞれの実験で配布した資料で復習する(90分)。「環境化学」・「環境化学実験」を履修することが望ましい。						
成績評価方法	それぞれの実験における実施態度・習熟度、分析結果をまとめたレポートなどをもとに総合的に評価する(100%)。						
授業内の課題・提出方法	各実験ごとに実験レポートを作成する。提出方法は担当教員ごとに指示する。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出されたレポートは添削し、返却する。						
担当者から一言	実験室での分析ではささいな油断や不注意がけがや事故につながります。細心の注意をもって調査・実験に臨んでください。白衣を必ず着用してください。						

授業科目名	陸水学			科目コード	371221	授業コード	413506
担当教員	大八木　麻希			科目ナンバリング	EEE3001		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	専門技術者に求められる倫理観を身につけている 地域の持続的発展のために貢献できる 環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる						
授業のねらい	陸水学は、内陸部に存在する陸水（湖沼、河川、ダム湖、河口域、地下水、湿地、雪氷など）に関する総合科学である。日本は古来から水資源が豊かな国であり、恵まれた水環境の中で歴史を刻んできた。しかし、高度経済成長期には公害問題、80年代には富栄養化問題、そして現在ではダム建設の必要性の有無が問われているなど水環境と人との関わりの中で、さまざまな現状と直面している。そこで、学問的な自然科学である陸水学を通じて、理解を深めていきたい。						
到達目標	本講義では、湖沼や河川の物質循環を理解するとともに、水域環境の現状と問題点を整理し、環境保全・環境再生や復元のための基礎理論や技術を学ぶことを目標とする。						
授業計画	第１講　ガイダンス、陸水学の歴史 第２講　陸水の環境科学 第３講　河川管理 第４講　河川水質 第５講　河川生態系 第６講　湖沼成因 第７講　湖沼分類 第８講　湖沼の理化学的性質 第９講　古陸水学的手法 第10講　水田 第11講　ダム湖 第12講　地下水 第13講　都市の水処理 第14講　陸水域の災害 第15講　陸水環境の保全と管理 レポート試験 簡易な実習後、添削し返却を行うため、アクティブラーニング要素を含む科目である。						
テキスト・教材（参考文献含む）	テキスト 松本嘉孝ほか、身近な水の環境科学（第2版）、朝倉書店、2022、2600円＋税 参考文献 西條八束・三田村緒佐武「新編湖沼調査法」講談社（２０１６）3400円						
事前・事後学習	授業計画に示した各回のテーマを、参考文献などで予習して、重点、問題点等を検討した上で授業に臨むことを推奨する（90分）。また、関連するニュースや書籍に日頃から関心を持ち、講義の理解に役立ててもらいたい。さらに、講義後には復習し講義内容の定着化を心掛けること（90分）。						
成績評価方法	小レポート　３０％ レポート　７０％						
授業内の課題・提出方法	講義の最後に課題を提示して、時間内に回答して提出する。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小レポートについては、毎回採点し返却する。						
担当者から一言	各講義では計算や簡易な実習を行うので積極的な学生の履修を望む。						

授業科目名	森林学			科目コード	371222	授業コード	412609
担当教員	田中　伊知郎			科目ナンバリング	EEE3002		
配当年次	3	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる。						
授業のねらい	日本の国土の7割を占める森林がどのような特徴を持ち、環境保全にどのように関連するかを明らかにしていきます。次に、経済的な問題を説明します。						
到達目標	日本の環境保全を考える上で、土台となる森林に関する知識を養うこと、人間とのかかわり(森林からどのように財を生み出すかを含む)を生物学の視点から明らかにすることをこの講義の到達目標とします。						
授業計画	第１講　ガイダンス・四日市本来の自然林と人工林： 大学周辺の森の見学(フィールドワーク) 第2講　森林生態系の基礎：植物の光合成 第３講　植物同士の競争と遷移 第４講　西日本の極相：照葉樹林(mast fruitingの確認のフィールドワーク) 第５講　東日本の極相：夏緑樹林(落葉広葉樹林) 第６講　二次林：どんぐり食糧から薪炭利用へ 第７講　貧栄養土壌と松林(二次林のなれの果て) 第８講　人工林：技術発展による木材利用の変化(イケアなどの集成材) 第９講　スギ植林の問題点(挿し木杉植林について意見を述べる実習) 第10講　森林(ブナ極相林)における動物相 第11講　獣害(人を食い殺すツキノワグマやオオカミ) 第12講　コアエリア計画(積雪地のブナ林で) 第13講　二ホンジカ管理計画(非積雪地のブナ林で) 第14講　二ホンジカの利用：東京におけるジビエ料理の進展 第15講　持続可能な森林に向けて：天然更新 定期試験　持ち込み不可						
テキスト・教材（参考文献含む）	なし						
事前・事後学習	授業当日に講義内容のノートを見返して、メモした疑問点を調べてください(60分)。2・3日後に、ノートを再度読んで (30分)、その次に当たることを考えてください (30分)。講義の前日に、ノートを読み返して、ノートの空白に書き込み整理してください(60分)。						
成績評価方法	講義の各回の終わりに練習問題(実践課題)をやります。講義中の課題は、コメントして合格するまでやり直してもらいます。 実践課題60%　定期試験　40%						
授業内の課題・提出方法	授業内容を理解したかを測る課題を授業末に出し、すぐにはできないので、1週間以内にメールなどで教員に送ってもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	送られた課題に対する回答を採点し、単に評価だけでなく、理解できていないところを指摘して、ノートを見直して、再学習してもらい、再提出します。						
担当者から一言	できるだけ日常的な言葉で説明します。						

授業科目名	土壌学			科目コード	371223	授業コード	414403
担当教員	廣住　豊一			科目ナンバリング	EEE3003		
配当年次	3	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	専門技術者に求められる倫理観を身につけている 地域の持続的発展のために貢献できる 多様な社会の価値観を理解し、自分の考えを的確に表現し、伝えることができる						
授業のねらい	土壌は、農業・林業などによる生産機能だけでなく、環境変化に対する緩衝機能や環境汚染に対する浄化機能など、有益で重要なさまざまな機能を持っている。この講義では、土壌の基本的な性質や機能を学ぶだけでなく、土壌が地球環境や生態系のなかでどのような地位を占め、どのような役割を果たしているかを学ぶ。また、三重県の土壌についても紹介する。						
到達目標	土壌の成り立ちや構造、土壌のもつ性質や機能を理解する。土壌を地球にある有限な資源のひとつとして捉え、地球環境のなかで土壌が果たす役割について考えることができる。						
授業計画	第１講　ガイダンス　土壌とは何か？ (土壌の成り立ち) 第２講　土壌の生成　──月に土壌はあるか？ 第３講　土壌の分類　──世界の土、日本の土、三重の土 (土壌のつくり) 第４講　土壌の構造　──土は何でできている？ 第５講　土壌生物と土壌有機物　──土のなかの生き物たち 第６講　土壌のpHと温度 ──住み心地はいかが？ (土壌のはたらき) 第７講　土壌の保水性　──水もちの良さはどう決まる？ 第８講　土壌の排水性　──水はけのよい土わるい土 第９講　土壌の保肥性　──土はどうやって栄養を蓄える？ (土壌の種類と特徴) 第10講　いろいろな土壌①　森林の土壌 第11講　いろいろな土壌②　水田の土壌 第12講　いろいろな土壌③　畑地の土壌 第13講　いろいろな土壌④　施設・草地・樹園地の土壌 (環境と土壌) 第14講　土壌の浄化機能と土壌汚染　──土壌を守る 第15講　土壌の劣化と保全　──土壌を育む 定期試験						
テキスト・教材（参考文献含む）	なし。各講の講義内容に関連した書き込み式の資料を配布する。 参考文献：松中照夫著「土壌学の基礎」農文協(2004年)、久馬一剛編著「最新土壌学」朝倉書店(1997年)、安西徹郎・犬伏和之編「土壌学概論」朝倉書店(2001年)などを推奨する。						
事前・事後学習	シラバスの授業計画をよく確認し、関連する内容を参考文献などで予習する(90分)。確認テストで添削された内容をよく見直し、各回の講義で配布した資料で復習する(90分)。 「化学概論」・「生物学概論」・「地学概論」・「環境化学」・「生態学」・「食糧生産学」を履修していることが望ましい。						
成績評価方法	毎回の授業内で行う確認テストの合計点と定期試験のどちらか低い方を最終評定とする。正当な理由なく欠席した場合は1回ごとに最終評定から10点減点する。遅刻・早退・私語等には減点等の処置を講じる。						
授業内の課題・提出方法	毎回の授業内で理解度をはかるための確認テストを実施する。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業内で実施した確認テストは次の講義までに添削して返却する。授業冒頭で前回の確認テストの解説を行う。						
担当者から一言	私たちの足もとにある土壌は地球の歴史とともに育まれてきました。長い時間の流れに想いを馳せながら、これから土壌とどう付き合っていくのか考えてみてください。なお、本科目は三重創生ファンタジスタ（ベーシック）資格の認定対象科目です。						

授業科目名	食糧生産学			科目コード	371224	授業コード	411807
担当教員	廣住　豊一			科目ナンバリング	EFE2001		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	専門技術者に求められる倫理観を身につけている 地域の持続的発展のために貢献できる						
授業のねらい	世界人口の増加による食糧需要の増大、気候変動やバイオエネルギーとの競合などによる食糧供給の不安定化、生産にともなう環境の汚染や破壊など食糧への関心が高くなっている。この講義では、農業・水産業・畜産業などの食糧生産の基礎を学ぶ。						
到達目標	世界の食糧事情と食糧生産システムについて理解する。農業・水産業・畜産業など食糧生産に関する産業の基礎を理解する。食糧生産に関する環境問題について考えることができる。						
授業計画	第１講　ガイダンス、現在の食糧事情と生産体系 第２講　農業①　農耕の起源と作物 第３講　農業②　日本の農業と作物生産の特徴 第４講　農業③　作物生育と栽培環境・栽培管理 第５講　農業④　稲作と水田農業 第６講　農業⑤　野菜・果樹・花の生産 第７講　水産業①　日本の漁業の歴史と特徴 第８講　水産業②　漁業の仕事と制度 第９講　水産業③　養殖と栽培漁業 第10講　水産業④　海洋の資源と環境の保全 第11講　畜産業①　畜産業と畜産物 第12講　畜産業②　世界と日本の畜産業 第13講　食糧生産と環境問題 第14講　新しい食糧生産技術 第15講　これからの食糧生産 定期試験						
テキスト・教材（参考文献含む）	なし。各講の講義内容に関連した書き込み式の資料を配布する。 参考文献：八木宏典監修「知識ゼロからの現代農業入門」(2018年)、濱田武士監修「知識ゼロからの現代漁業入門」(2017年)、八木宏典監修「知識ゼロからの畜産入門」(2018年)などを推奨する。						
事前・事後学習	シラバスの授業計画をよく確認し、関連する内容を参考文献などで予習する(90分)。確認テストで添削された内容をよく見直し、各回の講義で配布した資料で復習する(90分)。						
成績評価方法	毎回の授業内で行う確認テストの合計点と定期試験のどちらか低い方を最終評定とする。正当な理由なく欠席した場合は1回ごとに最終評定から10点減点する。遅刻・早退・私語等には減点等の処置を講じる。						
授業内の課題・提出方法	毎回の授業内で理解度をはかるための確認テストを実施する。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業内で実施した確認テストは次の講義までに添削して返却する。授業冒頭で前回の確認テストの解説を行う。						
担当者から一言	毎日の食卓に並ぶ料理の食材は、化学・物理学・生物学・地球科学の科学的知識と現場で培われた実践的経験を駆使して栽培・飼育・採取・捕獲されたものです。普段から、ひとつひとつの食材をよく観察し、どのようにして食卓に並んだのか考えながら、感謝しておいしくいただきましょう。						

授業科目名	食品微生物学			科目コード	371225	授業コード	414303
担当教員	大八木　麻希			科目ナンバリング	EFE2002		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	専門技術者に求められる倫理観を身につけている 環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる						
授業のねらい	人の生活に欠かせない「食」。お酒やしょうゆのように食品を作り出す役割、感染症や食中毒を引き起こす健康を損なう存在、抗生物質など健康に役立つ存在など様功罪両面を持つ微生物を知るとともに、基礎事項について学ぶ。						
到達目標	本講義では、食品微生物について、多角的に捉え、理解を深めていくことを目的とする。						
授業計画	第1回　ガイダンス、微生物学の歴史 第2回　微生物と病気 第3回　微生物の取り扱い法 第4回　微生物の種類と分類 第5回　微生物の構造 第6回　微生物の栄養と増殖 第7回　微生物の代謝 第8回　微生物の増殖制御と殺菌 第9回　微生物と生鮮食品の腐敗 第10回　微生物と加工食品の腐敗 第11回　微生物と酒類製造 第12回　微生物と調味料製造 第13回　予測微生物学 第14回　食品に関する微生物試験 第15回　微生物とプロバイオティクス 定期試験						
テキスト・教材（参考文献含む）	テキスト指定無し、毎回関連プリント配布 予習復習用 村田容常・渋井達郎「食品微生物学」東京化学同人（２０１５）2700円						
事前・事後学習	授業計画に示した各回のテーマを、参考文献などで予習して、重点、問題点等を検討した上で授業に臨むことを推奨する（90分）。また、関連するニュースや書籍に日頃から関心を持ち、講義の理解に役立ててもらいたい。さらに、講義後には復習し講義内容の定着化を心掛けること（90分）。						
成績評価方法	小レポート３０％、定期試験７０％						
授業内の課題・提出方法	毎回講義の終わりに小レポートを課し、時間内に回答して提出する。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	添削後次回返却し講評を行う。						
担当者から一言	ノートテイクのみでは試験通過は難しいため、理解を深めるため積極的な姿勢で取り組む学生を望む。						

授業科目名	食品衛生学			科目コード	371226	授業コード	414607
担当教員	廣住　豊一			科目ナンバリング	EFE2003		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	専門技術者に求められる倫理観を身につけている 環2　地域の持続的発展のために貢献できる						
授業のねらい	風通しや日当たりなどの住まいの快適さ、水や食事など食生活の質といった生活環境が、私たちの生命や健康に影響を与えることは古くから知られていた。この講義は生活者側の視点から、生活環境が人の健康やくらしにどのような影響を与えるかを学ぶ。						
到達目標	人の健康と病気のしくみについて理解する。安全で快適な住まいや労働環境について理解する。水や食事等の食生活が健康に与える影響を理解する。わが国において健康と生活を守るしくみがどのように成り立っているか理解する。生活に関わる地域環境問題について理解する。						
授業計画	授業計画 第１講　ガイダンス、安全で快適な暮らしと生活環境 第２講　人の健康と病気①　恒常性と病気 第３講　人の健康と病気②　有害物質の影響と蓄積 第４講　住環境・労働環境と健康①　大気や空気と健康 第５講　住環境・労働環境と健康②　人の生活や労働に適した温熱条件 第６講　水と生活のかかわり①　水と健康 第７講　水と生活のかかわり②　安全な水を供給するしくみ 第８講　食の安全性と健康①　食品の腐敗・変質と食中毒 第９講　食の安全性と健康②　有害物質による食品の汚染 第10講　汚水と廃棄物の処理①　下水道と汚水処理 第11講　汚水と廃棄物の処理②　廃棄物と適正な廃棄物処理 第12講　生活に関わる地域環境問題①　大気汚染 第13講　生活に関わる地域環境問題②　水質汚濁 第14講　生活に関わる地域環境問題③　土壌汚染と地盤沈下 第15講　生活に関わる地域環境問題④　騒音・振動・悪臭 定期試験						
テキスト・教材（参考文献含む）	なし。各講の講義内容に関連した書き込み式の資料を配布する。						
事前・事後学習	シラバスの授業計画をよく確認し、関連する内容を参考文献などで予習する(90分)。確認テストで添削された内容をよく見直し、各回の講義で配布した資料で復習する(90分)。						
成績評価方法	毎回の授業内で行う確認テストの合計点と定期試験のどちらか低い方を最終評定とする。正当な理由なく欠席した場合は1回ごとに最終評定から10点減点する。遅刻・早退・私語等には減点等の処置を講じる。						
授業内の課題・提出方法	毎回の授業内で理解度をはかるための確認テストを実施する。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業内で実施した確認テストは次の講義までに添削して返却する。授業冒頭で前回の確認テストの解説を行う。						
担当者から一言	近な話題も交えながら生活環境と健康の関係についてお話したいと思います。これをきっかけに自分たちの生活についても見直してみてください。						

授業科目名	環境実験・調査ｂ			科目コード	371227	授業コード	414104
担当教員	大八木　麻希、廣住　豊一			科目ナンバリング	EFE2004		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	専門技術者に求められる倫理観を身につけている 環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組ことができる。						
授業のねらい	食生活は多くの分野と関連し、食の安全を担保するうえで重要な分野の一つである。基礎実験を中心として、食品の栄養特性及び機能性を理解する。						
到達目標	本実験では、知識のみでなく自身で正しい判断をできる応用力を身に付けることを求める。						
授業計画	第1回　ガイダンス、実験の心構え・準備 第2回　洗浄実験①　合成洗剤の働き（大八木） 第3回　食品の分析①　牛乳の鮮度（大八木） 第4回　食品の分析②　清涼飲料水の糖度・酸度測定(大八木） 第5回　食品の分析③　溶液の密度測定（大八木） 第6回　食品の分析④　鶏卵の鮮度（大八木） 第7回　食品の分析⑤　変性（熱・塩）（大八木） 第8回　食品の分析⑥　ミネラルウォーターの硬度測定（大八木） 第9回　農地の調査①　野外での農地調査（廣住） 第10回　農地の調査②　農地土壌の pH と EC（廣住） 第11回　農地の調査③　農地の養分分析（廣住） 第12回　農作物の分析①　果実の糖度と酸度（廣住） 第13回　農作物の分析②　野菜や果物の水分量と灰分（廣住） 第14回　農作物の分析③　果汁中のリン（廣住） 第15回　農作物の分析④　果汁中のミネラル分（廣住） 実験を行い、アクティブ・ラーニングの要素が含まれる。						
テキスト・教材（参考文献含む）	テキストなし 参考文献 谷口亜樹子ほか「基礎から学ぶ食品科学実験テキスト」建帛社（２０１６）2300円						
事前・事後学習	授業計画に示した各回のテーマを、参考文献などで予習して、重点、問題点等を検討した上で授業に臨むことを推奨する（90分）。また、関連するニュースや書籍に日頃から関心を持ち、講義の理解に役立ててもらいたい。さらに、講義後には復習し講義内容の定着化を心掛けること（90分）。						
成績評価方法	実験レポート１００％						
授業内の課題・提出方法	毎回の実験レポートを実験終了後に提出し、再提出の場合は合格するまで提出すること。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	レポートの不備について、適切な指導を実施する。						
担当者から一言	実験は危険を伴うため、慎重な行動と適切な判断が必要となります。責任を持ち取り組むこと。						

授業科目名	農産物流論			科目コード	371228	授業コード	414301
担当教員	川崎　綾子			科目ナンバリング	EFE3001		
配当年次	3	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	系統的に学修し，進路に即した人間力の根幹を形成する。						
授業のねらい	本講義では流通論の概念や論理を理解した上で，小売企業の流通活動について考察する。 考察を通じて流通論の理解を深めることを，本講義のねらいとする。						
到達目標	流通論の論理や枠組みについて理解した上で，企業の流通活動に対する改善案や新たな流通戦略を提示できる。 流通論の用語を駆使した，論理的なレポートの作成能力をもつ。 資料から必要な証拠を収集し，説得力のあるレポートを書く力を有する。						
授業計画	1　ガイダンス ／単位取得に関する注意事項 2　流通とは　／生産者，商業者，消費者の視点 3　百貨店と総合スーパー　／チェーン・オペレーション 4　食品スーパー　／日本市場特有のニーズ 5　コンビニエンス・ストア ／立地・時間・品揃えという価値 6　ディスカウント・ストア ／規模の経済 7　SPA　／伝統的な分業体制とのちがい 8　商店街とショッピングセンター　／開発業者とテナントの関係 9　流通構造と日本型取引慣行 ／映画産業の事例 10　日本型の商慣行と，その崩壊 ／流通系列化 11　農産物流通　／卸売市場とは 12　青果物の流通・マーケティング 13　食品の流通（１）／生産から消費へ 14　食品の流通（２） 15　Amazonの流通システム，イオンの歴史						
テキスト・教材（参考文献含む）	石原武政・竹村正明・細井謙一編著『1からの流通論（第2版）』碩学舎.						
事前・事後学習	レポートへの解答，書籍やインターネットの閲覧などを通して，用語の予習や復習， 流通戦略の立案練習に取り組むことが望ましい（毎週３時間程度）。						
成績評価方法	中間レポート　50% 最終レポート（レポート試験）50%						
授業内の課題・提出方法	■オンデマンド授業の場合 ①毎回の出席確認の質問への解答，②中間レポート，③最終レポートは全て moodleから提出すること ■対面授業の場合 ①は講義内で紙かmoodle（ネット接続可能な教室の場合）で提出してもらう予定. ②と③はmoodleで提出してもらう予定.						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	中間レポートについては，講義動画内（オンデマンド講義の場合）でコメントする. 対面講義の場合は，講義内でコメントする ■出席確認の質問への解答 優秀な解答は，講義動画内あるいは講義中に紹介する場合がある. ■中間レポート 優秀なレポートは，講義動画内あるいは講義中に紹介する場合がある.						
担当者から一言	中間レポートと最終レポートでは院生レベルを要求しますが，講義では１から教えますので安心してください．ただし分量が少なすぎたり，自分の意見と外部情報の境界が分かりづらいレポートは，大幅な減点となります. If you like studying and are willing to work hard，please take this course.						

授業科目名	農業経営論			科目コード	371229	授業コード	415608
担当教員	鶴田　利恵、杉谷　克芳			科目ナンバリング	EFE3002		
配当年次	3	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。						
授業のねらい	この講義では、前半（杉谷担当）において主に日本の農業問題に焦点を当て、後半（鶴田担当）では国際的な視点から農業問題を考えます。 日本の農業問題では第二次世界大戦後の改革から始まり、高度経済成長期やグローバル化が進む中で、日本の農業問題やビジネスががどのように進展していったのかを学びます。 国際的な視点からはGATT（貿 易と関税に関する一般協定）やTPPなどの自由貿易協定の中で農業問題がどのように捉えられてきたのかを理解します。皆さんの意見や疑問もぶつけ合いながら、活発なディスカッションを行いながら進めます。						
到達目標	日本及び世界における農業の経済的側面に関する基本的な知識と問題点を理解し、将来の展望を考える力を培う。						
授業計画	第１講　ガイダンス 第２講　日本の農業の現状①：農地、農家、農業産出額 第３講　日本の農業の現状②：農業生産の縮小と食糧自給率の低下 第４講　日本の農政①：戦後改革と農業、食管制度 第５講　日本の農政②：高度成長と農業、農業基本法、総合農政 第６講　日本の農政③：グローバル化と農業、食料・農業・農村基本法 第７講　鈴鹿市のある農家のコメ作り 第８講　前半のまとめ 第９講　世界の食糧事情と問題点 第10講　穀物貿易の特質 第11講　農業保護政策 第12講　輸出競争とGATT農業交渉 第13講　WTO農業協定とドーハ開発アジェンダ 第14講　FTA（自由貿易協定）と農業問題 第15講　後半のまとめ						
テキスト・教材（参考文献含む）	プリントを配布します。						
事前・事後学習	日頃からテレビ、新聞、インターネットなどなんでも良いので経済ニュースに触れておくこと（毎日１時間以上。まとめてでも小刻みでも構いません。電車の中でネットでニュースを見るのもOKです）。講義後は、その日のテキストを必ず読み返す（９０分以上）。						
成績評価方法	前半のレポート50%と後半の試験50%により評価します。						
授業内の課題・提出方法	前半は講義の最後に簡単な小テストを行います。 後半は毎回Moodleで小テストを行います。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小テストの結果や、講義中及び講義終了後の質問には適宜コメントします。						
担当者から一言	質問や意見はおおいに歓迎です。ただし、私語、携帯電話の使用は禁止します。特に、注意をしても私語や携帯電話の使用をやめない場合には、退出（もちろん欠席扱い）を命じるか、もしくは携帯電話を没収します。						

授業科目名	メディア情報と文化			科目コード	371301	授業コード	411808
担当教員	前川　督雄			科目ナンバリング	EMI2001		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	分野必修
授業の位置づけ	メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる						
授業のねらい	私たちにとって最古であり、かつ根本をなすメディアは、自身の身体である。目で見て、耳で聴き、手で触り、空気を感じた情報から心・表情・言葉・コミュニケーションが生まれ、文化が育った。人間固有の文化である祈り・祭りから様々な表現が分化して、歌・音楽・舞踊・美術・文芸などの芸術として発展して、多様なメディアとその上に載る感性情報の展開を導いた。 本授業では、人類社会の基層にある文化について学び、メディア情報と文化との連関性を理解するとともに、人間にとってメディアとは何なのかを考える。						
到達目標	メディア情報の歴史、人間文化の歴史の中で自分の立つ位置、現代のメディア情報の世界の中で自分の立つ位置について考えを深める。						
授業計画	第１講　ガイダンス 第２講　人間と文化　人間と動物の違 第３講　人間と文化　人類はどのように世界にひろがったのか 第４講　人間と文化　文化をつくる脳の働き 第５講　人間と文化　神と祭り 第６講　人間と文化　祝祭のなかのメディア情報 第７講　人間と文化　祝祭から生まれたメディア情報 第８講　文化の諸相　文化の多様性 第９講　文化の諸相　文化の伝播と発展 第10講　文化の諸相　文明の生態史観 第11講　文化の諸相　文化の衝突 第12講　文化の諸相　文化相対主義 第13講　メディア情報と文化　伝統の智慧 第14講　メディア情報と文化　技術が造る現代の祭り 第15講　まとめ 定期試験 （内容・順序を必要に応じて変更することがあります）						
テキスト・教材（参考文献含む）	テキストはありません。 必要に応じて資料を配付します。また、講義中に参考とする音楽・映像の視聴を行います。						
事前・事後学習	毎回の講義で提示した事例・理論を振り返り（90分）、鵜呑みにすることなく自分でも調べ直して、理解を深めるとともによく考えて下さい（90分）。						
成績評価方法	次の配分で総合評価します。 受講態度、学習意欲、小レポート等（40%） 定期試験（60%）						
授業内の課題・提出方法	小レポートを課すことがあり、教室で提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小レポートで示された重要な論点をその後の講義で採り上げます。						
担当者から一言	この講義では知識の獲得よりも、自分で感じ、考えることを特に重視します。						

授業科目名	脳・音・光の科学Ⅰ			科目コード	371302	授業コード	412210
担当教員	前川　督雄			科目ナンバリング	EMI2002		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	分野必修
授業の位置づけ	メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる 環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組ことができる						
授業のねらい	私たちが見、聴き、感じ、話し、表現する諸活動について学びます。 感覚と脳は、生物が環境の様子をうかがい、環境に働きかける仕組みが進化するなかで育まれてきました。 （１）感覚と脳の仕組みと機能の概要を学びます。 （２）音楽を含めた環境音が現代の人間にどのような影響をもたらすか、更にこれ等を理解するのに必要な音についての物理的側面を学びます。 （３）光の物理、視覚の生理・心理の基礎を学びます。						
到達目標	（１）見、聴き、感じ、話し、表現する諸活動の根源にある脳について、基礎的な知識を得る。 （２）音の基本的な性質を理解し、音楽の基礎的な知識を理解する。 （３）光と視覚に関わる学問・技術の基盤となる知識を得る。						
授業計画	第1講　ガイダンス／五感と脳 第2講　脳　脳の構造と機能（１） 第3講　脳　脳の構造と機能（２） 第4講　音・光　物理（１）　音とは？ 第5講　音・光　物理（２）　光とは？ 第6講　音・光　物理（３）　伝播・反射・吸収・屈折 第7講　音・光　物理（４）　回折・干渉ほか 第8講　音　楽器　弦楽器・管楽器 第9講　音　生理（１）　聴覚のしくみ① 第10講　音　生理（２）　聴覚のしくみ② 第11講　音　心理　音の三要素 第12講　光　生理（１）　眼球構造 第13講　光　生理（２）　視細胞／視神経 第14講　光　心理（１）　視力 第15講　光　心理（２）　色覚 定期試験 （内容・順序を必要に応じて変更することがあります）						
テキスト・教材（参考文献含む）	テキストはありません。 講義中にプリントを配付します。 〈参考文献〉 山内昭雄・鮎川武二「感覚の地図帳」講談社（2001年） 池谷裕二監修「脳と心のしくみ」新星出版社（2016年） 仁科エミ・河合徳枝「音楽・情報・脳」（2013年）						
事前・事後学習	授業中に演習問題を出し、次回の最初に答え合わせをします。授業内容を復習する（90分）とともに、配布した資料を熟読し、不明点を自分で調べて理解を深めて下さい（90分）。 後期の「脳・音・光の科学II」で継続した内容の授業を行います。						
成績評価方法	次の配分で総合評価します。 受講態度、学習意欲、授業中の演習問題等（45%） 定期試験（55%）						
授業内の課題・提出方法	授業内に復習課題を課し、教室で提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業中の演習問題等について、事後（次回など）に解説を行います。						
担当者から一言	学際的・総合的な内容になります。復習をしながら授業を進めますが、続けて休むとついて行くのが大変になります。授業はインタラクティブで受講生と議論しながら進めますので積極的に議論に参加してください。参考となる音楽・映像の視聴を行うことがあります。						

授業科目名	ソフトウエア論			科目コード	371303	授業コード	414704
担当教員	池田　幹男			科目ナンバリング	EMI2003		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる。						
授業のねらい	コンピュータソフトウェアの役割について学びます。ソフトウェアについて理解するにはその動作原理であるアルゴリズムを理解する必要があります。実際にソフトウェア作成するためにはプログラミング言語について理解する必要があります。また、ソフトウェアの基盤を担っている基本ソフトウェア（オペレーティングシステム）についても理解していることが望ましいです。この授業ではアルゴリズム、基本ソフトウェアの基礎について理解することを目指します。						
到達目標	ソフトウェアの動作原理を理解する。基本ソフトウェアであるOSの基本について理解する。ITパスポートのテクノロジ分野のソフトウェアに関する項目を理解する。						
授業計画	第1講　ガイダンス 第2講　ソフトウェアは何ができるか 第3講　応用ソフトウェアと基本ソフトウェアとデバイスドライバ 第4講　応用ソフトウェアの実行 第5講　プログラミング言語 第6講　コンパイラとインタプリンタ 第7講　アルゴリズム 第8講　アルゴリズムとフローチャート（1） 第9講　アルゴリズムとフローチャート（2） 第10講　アルゴリズムとフローチャート（3） 第11講　基本ソフトウェアとは 第12講　基本ソフトウェアの働き（ファイルシステム） 第13講　基本ソフトウェアの働き（マルチタスク） 第14講　デバイスドライバ 第15講　まとめ 定期試験						
テキスト・教材（参考文献含む）	指定しない。教材はMoodleを通じて呈示します。						
事前・事後学習	教育支援システム(Moodle)に呈示されている資料や参考サイトを見て予習(90分)し、インターネットを通じて関連項目を調査して復習(90分)します。						
成績評価方法	Moodleでの課題と小テストなど40%、定期試験60%で評価します。						
授業内の課題・提出方法	Moodleを通じて、課題を提出します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	Moodleを通じて評価等をフィードバックします。						
担当者から一言	「情報科学概論」をあわせて履修することを勧めます。						

授業科目名	メディアの歴史			科目コード	371304	授業コード	415310
担当教員	黒田　淳哉			科目ナンバリング	EMS2001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	メディアに関する専門知識を習得して、独自の視点で情報発信ができる						
授業のねらい	テレビやラジオ、新聞といった従来のメディアは、インターネットの普及後、SNSなどのインターネットメディアが誕生することで多様化してきました。さらには、人工知能（AI）やVR技術をはじめとするテクノロジーの急速な進化によって人々の情報伝達やコミュニケーションも進化・変化を続けています。本講義は、文字の発明から現在のメディア社会に至るまで、メディアの歴史を学ぶと同時に、これからのメディアと私たちの未来を展望します。						
到達目標	私達は何を望んで今のメディア環境があるのか？また、メディアの進化によって私達の生活や社会はどう変わったか？など、メディアと私達の関りについて歴史から紐解き理解すると共に、変化を続けるメディア環境を生きる私達の今や、未来について考察できるようになることが目標。変遷のあらましを把握することが目的ではなく、過去や現状を理解しつつ、未来に向けて考えを掘り下げることが本講義の最も重要なポイントです。						
授業計画	第１講　ガイダンス、授業の概要 第２講　文字 第３講　印刷 第４講　ラジオ 第５講　写真 第６講　映画 第７講　プロパガンダ 第８講　テレビ 第９講　モバイルデバイス 第10講　コンテンツメディア 第11講　デジタルコンテンツ 第12講　メディアと芸能 第13講　現在のメディア社会 第14講　メディアと人々のつながり 第15講　情報社会とインターネット 定期試験						
テキスト・教材（参考文献含む）	なし。（必要に応じてプリントを配布します）						
事前・事後学習	毎回、講義の最後に課題を提示します。 予習　課題についてインターネットや書籍で調べてくること（90分）。 復習　配布資料や講義ノートを見返すなど復習しておくこと（90分）。						
成績評価方法	小テスト及び課題（40%）、定期試験（60%） なお、４回以上欠席した学生には原則として単位を与えません。また、遅刻も減点となります。						
授業内の課題・提出方法	授業の理解度を把握するために、毎回、授業の最後に小テストか小レポートを実施します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小レポート、小テストの解説は翌週の授業で適宜コメントします。						
担当者から一言	必要な情報収集以外で授業中にスマートフォンを使用することを原則禁止します。講義内での発言や質問など、積極的な参加を期待します。						

授業科目名	音楽とまちづくり			科目コード	371306	授業コード	414501
担当教員	鬼頭　浩文、前川　督雄			科目ナンバリング	EMS2003		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる						
授業のねらい	四日市市では、「街は劇場、通りは舞台　主役はあなた♪」の合言葉のもと、2012年から、市民ボランティアが中心になって「四日市JAZZフェスティバル」が開催されています。この授業では、「四日市JAZZフェスティバル」を通じて街のにぎわいを創り出そうと取り組んでいる方々を講師に迎えて話を聞いたり、実際に現場に出かけて行ってボランティアスタッフとしてこの活動のお手伝いをしたりする予定です。学生諸君が、音楽イベントを通じたまちづくり活動の実際を五感を通して学び感じ取ってくれることを、ねらいとしています。						
到達目標	音楽フェスの運営方法を実践的に学ぶとともに、音楽をまちづくりにつなげる仕組みや市民の活動について学び、ここで得た知識を使って、将来地域社会で活躍できる人材になることが目標である。						
授業計画	第１講（9／28）ガイダンス（鬼頭・前川） 第２講（10／5）JAZZフェスとまちづくり（実行委員長柳川さん）① 第３講（10／12）イベントに向けた心構えと詳細打ち合わせ（実行委員会 山川さん、鬼頭・前川）② （10／19は休みです） 第４～６講（10／21）現地実習（イベントの見学・スタッフ参加を３コマとしてカウント） 第７～１０講（10／22）現地実習（イベントにスタッフとして参加＝４コマとしてカウント） 第１１講（10／26）四日市JAZZフェスティバルの会場設営（実行委員会 堀木さん）③ 第１２講（11／2）四日市JAZZフェスティバルの経費と協賛（実行委員会 阪さん）④ 第１３講（11／9）四日市JAZZフェスティバルの発信とメディア（実行委員会 山川さん）⑤ 第１４・１５講（11／16・23） 人間と音、まつりによる伝統的共同体の組織化、環境音とまちづくりの内容を2コマで（前川）⑥⑦ （11／30以降は予備日） 定期試験（レポート提出） ※都合により講義計画が変更になる可能性があります。掲示等を注意して見るようにしてください。なお、現地実習を遅刻・欠席した者には、クラブの試合等が理由であっても、原則として単位は与えません。忌引きや伝染病などの公欠にあたる理由が発生した場合は、課題などで代替することを検討します。						
テキスト・教材（参考文献含む）	JAZZフェスのパンフレットと配布資料						
事前・事後学習	座学は必ず講義を1時間ほどかけて振り返り、7回の小レポートに取り組むこと。また、フィールドワークについて、記憶が消えないうちにパンフレットを見ながらイベントを数時間かけて振り返ること。						
成績評価方法	現地実習に取り組む姿勢・パフォーマンス30%、講義で課す課題40%（①～⑦）、定期試験（レポート）30%で総合評価する。						
授業内の課題・提出方法	7回の課題を提出してもらう						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題に対するコメントを学生に返す						
担当者から一言	最も重要な現地実習に参加できない学生は、単位の修得が極めて困難になります。						

授業科目名	脳・音・光の科学Ⅱ			科目コード	371307	授業コード	412611
担当教員	前川　督雄			科目ナンバリング	EMS2004		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる 環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組ことができる						
授業のねらい	「脳・音・光の科学I」に引き続き、私たちが見、聴き、感じ、話し、表現する諸活動について学びます。 感覚と脳は、生物が環境の様子をうかがい、環境に働きかける仕組みが進化するなかで育まれてきました。 （１）感覚・認識に限界があることを学びます。また、脳の諸機能について学び、心の動き・文化の役割について理解を深めます。 （２）音の様々な心理的効果とその応用例について学びます。 （３）目に映る光と影から世界を把握する仕組みを学び、ものが見えるとはどういうことなのかを考えます。						
到達目標	（１）見、聴き、感じ、話し、表現する諸活動の根源にある脳について、基礎的な知識を得る。 （２）音の基本的な性質を理解し、音楽の基礎的な知識を理解する。 （３）光と視覚に関わる学問・技術の基盤となる知識を得る。						
授業計画	第1講　ガイダンス／脳　生き物と環境（１） 第2講　脳　生き物と環境（２） 第3講　脳　言語と意識 第4講　脳　記憶 第5講　脳　文化と社会 第6講　脳　生命活動の制御 第7講　脳　感性の源 第8講　音　心理　なぜ人間の耳は左右についているのか？ 第9講　音　心理　心理的効果と応用（１） 第10講　音　心理　心理的効果と応用（２） 第11講　光　心理（３）　輪郭／錯視 第12講　光　心理（４）　図と地／不思議絵 第13講　光　心理（５）　三次元知覚と立体視 第14講　音・光　心理　その他関連分野 第15講　コミュニケーションとは？ 定期試験 （内容・順序を変更することがあります）						
テキスト・教材（参考文献含む）	テキストはありません。 講義中にプリントを配付します。 〈参考文献〉 山内昭雄・鮎川武二「感覚の地図帳」講談社（2001年） 池谷裕二監修「脳と心のしくみ」新星出版社（2016年） 仁科エミ・河合徳枝「音楽・情報・脳」（2013年）						
事前・事後学習	前期の「脳・音・光の科学I」を先行して履修していることが望ましい。 授業中に示す次回のキーワードを事前に調べて予習して下さい（90分）。 授業内容を復習するとともに、配布した資料を熟読し、不明点を自分で調べて理解を深めて下さい（90分）。						
成績評価方法	次の配分で総合評価します。 受講態度、学習意欲、授業中の演習問題等（45%） 定期試験（55%）						
授業内の課題・提出方法	授業内に復習課題を課し、教室で提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業中の演習問題等について、事後（次回など）に解説を行います。						
担当者から一言	学際的・総合的な内容になります。復習をしながら授業を進めますが、続けて休むとついて行くのが大変になります。授業はインタラクティブで受講生と議論しながら進めますので積極的に議論に参加してください。参考となる音楽・映像の視聴を行うことがあります。						

授業科目名	コミュニケーションデザイン論			科目コード	371309	授業コード	414608
担当教員	木村　眞知子			科目ナンバリング	EMS3001		
配当年次	3	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し、自分の考えを的確に表現し、伝えることができる メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる						
授業のねらい	近年、「広告」は単に何かを“広告”するだけでなく、コンサルタント業務から商品企画まで、その領域は拡大し「コミュニケーションデザイン」という捉え方が、今の「広告」に最も近いと言えます。 多くの企業が様々なメッセージを発信し続け、そのメッセージは時には私たちの暮らしや考え方にも影響を与えています。それを仕掛ける「コミュニケーションデザイン」の現場の様々な活動を実践的に学ぶことで、今という時代を、社会を見つめます。						
到達目標	「広告」を本来の姿である「コミュニケーションデザイン」ととらえると、その企業について別の見方が出来るようになります。「コミュニケーションデザイン」という切り口で様々なモノを様々な角度から見つめる姿勢をもつことを目標とします。						
授業計画	第１講　ガイダンス　　コミュニケーションデザインとは何か 第２講　広告の始まり・広告の役割 第３講　広告とコミュニケーション 第４講　広告と消費者 第５講　広告とマーケティング 第６講　コミュニケーションデザインの実践１――製品企画＆販促企画 第７講　コミュニケーションデザインの実践１――製品企画発表（プレゼンテーション） 第８講　ブランディング 第９講　コミュニケーションデザインの実践２――ブランド研究発表（プレゼンテーション） 第10講　企業メッセージ 第11講　コミュニケーションデザインの実践３――コピーライティング（プレゼンテーション） 第12講　広告と政治 第13講　ＣＭから今を考える――カンヌライオンズ＆ＡＣＣ賞 第14講　広告表現と多様性 第15講　コミュニケーションデザイン――今日から明日へ　　課題に向けて						
テキスト・教材（参考文献含む）	なし。テキストとなるプリントおよび資料を配付します。						
事前・事後学習	様々な課題について考察し発表してもらうことが多々あり、それへの取組みを事前学習とします。そのため、毎日30分以上、看板やポスター、ＣＭ、ちらしなど、身の回りの様々なコミュニケーションデザイン（広告）の作品に注目し、その傾向などの分析をすること。講義後には毎回30分程度、ノートやプリント等を確認し内容を振り返り理解を深めること。不明な点は次回の講義で質問できるように準備をすること。						
成績評価方法	成績評価は次の通りとします。 授業への取組み姿勢：30 % 課題：30% 試験に代わる課題レポート：40%						
授業内の課題・提出方法	毎回の授業でレポートや課題を提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	次回の授業でコメント等、対応していきます。						
担当者から一言	コミュニケーションデザイン（広告）について、単に知識を得るのでなく、事例をもとにした様々な課題に取り組んでもらいます。 発信側、受信側の中間にある「コミュニケーションデザイン」、その立ち位置から自分の目で両者をしっかり見てください。今の日本、今の世界が見えてくるかもしれません。						

授業科目名	次世代メディア社会			科目コード	371310	授業コード	411111
担当教員	前川　督雄			科目ナンバリング	EMS3002		
配当年次	3	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる 専門技術者に求められる倫理観を身につけている						
授業のねらい	メディアを造る人の心、作品を創る人の心を考える講義です。 現代日本人は様々なメディアの存在が不可欠な日常生活を送っています。次々と新しいメディア製品・サービスが発売され、作品群が発表されます。次に何が来ようとしているのか、時代の変遷に関わらず大切なことは何なのでしょうか。偉大な先人たちは何を求めて、何に努めていて、何を守っていたのでしょうか。次世代のメディア社会について、ユーザとして、観客・視聴者として、読者として、あるいはクリエイター・アーティストとして、よく考えましょう。						
到達目標	一流のプロフェッショナルが持つクリエイティビティの有り様を知り、自分の次の一歩を考察する。						
授業計画	第１講　ガイダンス／講義の概要 第２講　映画制作現場 第３講　コンピュータグラフィックス 第４講　音楽の楽しみ方 第５講　ジョブズは世界を変えた 第６講　制作プロデューサー 第７講　アニメーション制作現場 第８講　サラウンド音響 第９講　炎と花火 第10講　メディアの発達要因 第11講　メディアアート 第12講　バーチャルリアリティ（VR） 第13講　庭づくり 第14講　近未来予測 第15講　まとめ 定期試験 （内容・順序を必要に応じて変更することがあります）						
テキスト・教材（参考文献含む）	テキストはありません。 講義中に、参考にする映像・音楽を視聴します。						
事前・事後学習	毎回の講義で示す事例を振り返るとともに調べて（90分）、自分自身の課題にどう活かしていけるか考えて下さい（90分）。 前後して「メディア情報産業論」（３年次後期開講）とあわせて受講することで、より多面的な理解が得られるでしょう。						
成績評価方法	次の配分で総合評価します。 受講態度、学習意欲、小レポート等（40%） 定期試験（60%）						
授業内の課題・提出方法	小レポートを教室で提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	講義中に、小レポートの内容などについて意見交換を行います。						
担当者から一言	「次世代メディア社会」では主に個人の視点から、「メディア情報産業論」（３年次後期開講）では主に社会的な見地からメディア情報を捉えます。						

授業科目名	コンピュータ音楽論			科目コード	371311	授業コード	414201
担当教員	柳澤　翔士			科目ナンバリング	EMS3003		
配当年次	3	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる						
授業のねらい	コンピュータ音楽の歴史や技術面の理解、コンピュータによる作品制作時において、オリジナルの音を創作し、音作品や映像作品に行かせる知識と技術について座学と実習で学ぶ。						
到達目標	コンピュータを利用した音楽制作の歴史、作品制作のための技術や技法を、作品鑑賞や座学と実習の中で理解し、自分の音楽作品や映像作品等に活かせる、シンセサイザー音のeditや、録音素材の加工技術を習得することを目指す。						
授業計画	・講義ではMac(Logic Pro X)を用いた実習を行います。 (※はMac実習) 1.ガイダンス・基礎知識 2.コンピュータ音楽とMIDI 3.音楽を聴きこむ 4.作品を作るという事とは 5.デジタル信号処理・メディアの変容 6.エフェクターの基礎※ 7.シンセサイザーの仕組みと音作り1※ 8.シンセサイザーの仕組みと音作り2※ 9.Vocalの録音と処理1※ 10.Vocalの録音と処理2※ 11.効果音を作る※ 12.サンプリングとは1※ 13.サンプリングとは2※ 14.音作品制作1※ 15.音作品制作2※ 定期試験 ※※授業計画は受講者の理解・技術習得に合わせて内容・順序を変更することがあります。						
テキスト・教材（参考文献含む）	※必ずUSBメモリーや外付けSSD等を用意する事。(16GB以上　USB3.0規格推奨) テキストは適時配布。						
事前・事後学習	実習ではMacを使用します。Macのある教室(5201)が空いている時に、授業時間内にできなかった課題を進めたり、操作予習をしてMacの操作を理解しておくこと(90分) 日ごろから音楽に触れておくことで実習の際のアイデアを作っておくこと(90分)						
成績評価方法	受講態度30%(授業中の課題状況、受講態度) 作品提出30% レポート・定期試験40%						
授業内の課題・提出方法	学内サーバーの指定フォルダに提出 授業時間外は、Moodleやメールにて提出。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	講評が必要なもので、当日中に講評できるものは当日授業中に講評。 基本的には翌週に講評を行う。 質問などのフィードバックはその都度行う。						
担当者から一言	本講義で応用的なサウンドメイクを学び、製作作品にさらなるオリジナリティを与えられるようになりましょう。 メディアツールD受講後の履修が一番スムーズに理解に繋がります。 共に音を学びましょう。 ※20名の受講制限あり。初回授業で抽選をするので欠席・遅刻をしないように。						

授業科目名	コンピュータグラフィックス			科目コード	371312	授業コード	411811
担当教員	山本　努武			科目ナンバリング	EMS3004		
配当年次	3	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる						
授業のねらい	CG映像やアニメーション、モーショングラフィックス、VFXの定番ソフトウェア、Adobe After Effectsの基本操作を習得しながら、短編映像作品を制作します。毎回サンプルデータを用いて操作方法や効果を説明し、それを元に各自が工夫して習作を制作します。						
到達目標	After Effectsの習得を通して、CG映像やアニメーション、モーショングラフィックス、VFXの基礎を身につけ、多様な映像表現能力を獲得する。						
授業計画	0. オリエンテーションとキーフレームアニメーション 1. 多層的なキーフレームアニメーション 2. シーケンシャルアニメーション 3. 関節アニメーション 4. 3Dレイヤーアニメーション 5. 動画素材を使ったエフェクト1 6. 動画素材を使ったエフェクト2 7. クロマキー合成入門 8. マッチムーブアニメーション1 9. マッチムーブアニメーション2 10. 作品企画、絵コンテ作成 11. 作品企画、素材準備、制作 12. 作品制作 13. 作品制作 14. 作品鑑賞会						
テキスト・教材（参考文献含む）	教員が用意します。						
事前・事後学習	この授業ではAdobe PhotoshopやIllustratorも併用しながら進行しますので、メディアツールa, b, cの受講を強く勧めます。						
成績評価方法	授業姿勢：80% 作品課題：20%						
授業内の課題・提出方法	学内ファイルサーバへデータを提出						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	LINE、Zoomなどを用いて適宜質問やフィードバックに応じます。						
担当者から一言	After EffectsはAdobe Creative Cloudの中でも難易度の高いソフトウェアのひとつですが、習得することによって映像表現の幅がグンと広がります。是非積極的に取り組んでください。						

授業科目名	ポップカルチャー論			科目コード	371313	授業コード	412612
担当教員	山本　伸			科目ナンバリング	EMS3005		
配当年次	3	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し、自分の考えを的確に表現し、伝えることができる メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる						
授業のねらい	学習時に度々目や耳にする「うちなーぐち（沖縄方言）」のいくらかは意味がわかるようになること、沖縄の風習や考え方を通して現代社会全般を考える発想力を身に着けること、さらには逆に現代社会が抱える課題とは何かを思考できる能力を身に着ける、などを目標とします。						
到達目標	メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる。						
授業計画	第１講　ガイダンス／沖縄に関する概略、ポップカルチャーの社会学的側面等 第２講　『琉神マブヤー』（１） 第３講　『琉神マブヤー』（２） 第４講　『琉神マブヤー』（３） 第５講　『オキナワノコワイハナシ』（１） 第６講　『琉神マブヤー』（４） 第７講　『琉神マブヤー』（５） 第８講　『琉神マブヤー』（６） 第９講　『オキナワノコワイハナシ』（２） 第10講　『琉神マブヤー』（７） 第11講　『琉神マブヤー』（８） 第12講　『琉神マブヤー』（９） 第13講　沖縄映画 第14講　『ウルトラマン』 第15講　まとめ／試験についての説明						
テキスト・教材（参考文献含む）	山本　伸著　『琉神マブヤーでーじ読本：ヒーローソフィカル沖縄文化論』（三月社） 定価：2，200円（税込）						
事前・事後学習	前週に出された課題（テキストの熟読／わからない用語の検索等）に90分、学習した箇所の復習（テキストのおさらい／ノート整理等）に90分をそれぞれかけて準備学習をしてください。						
成績評価方法	平常点（積極的に授業を受けているか等の授業態度、確認テスト等）50%、定期試験50%で総合的に判断します。						
授業内の課題・提出方法	メールにWORDファイルを添付して提出。提出先メールアドレスは、 yamamoto-s@tokaigakuen-u.ac.jp						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業内におけるフロアとの質疑のインターアクションをもってアクティブラーニングとする。						
担当者から一言	一般的にはツーリズムの対象でしかない沖縄ですが、一歩踏み込んだ沖縄の社会、歴史、文化の理解の意義を知ると同時に、ポップカルチャーがその理解を促進する力を強く保持していることを講義を通して体感してくれることを期待します。						

授業科目名	感性と創造			科目コード	371314	授業コード	415606
担当教員	黒田　淳哉			科目ナンバリング	ESP2001		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信ができる。						
授業のねらい	文化が生まれるところには、はじめに「遊び」があります。その遊びが社会的に評価され、継続することにより文化として定着していきます。音楽の文化や、現在のSNS文化も元を正せば、ちょっとした工夫や遊びの延長線上に花開いたものです。本講義では、遊びの感覚でメディア作品制作を体験することから始め、最終的には作品制作を通して自分自身の感性と向き合い、個々の創造力を育むことを目的としています。						
到達目標	①メディアの作品制作に必要な各ステップを経験する。 ②作品の完成に向け建設的な取り組みができる。 これらを到達目標としながら、自分の中にある隠れた一面や才能の発見を目指します。						
授業計画	第１講　ガイダンス、授業の概要 第２講　写真を読む 第３講　写真を撮る 第４講　発表～ディスカッション 第５講　作品鑑賞～分析 第６講　映像の構成について 第７講　ストップモーションムービー(構成) 第８講　ストップモーションムービー(撮影１) 第９講　ストップモーションムービー(撮影２) 第10講　ストップモーションムービー(編集１) 第11講　ストップモーションムービー(編集２) 第12講　発表～ディスカッション 第13講　作品鑑賞～分析 第14講　AIで作品づくり 第15講　発表～まとめ						
テキスト・教材（参考文献含む）	なし。（必要に応じてプリントを配布します）						
事前・事後学習	毎回、講義の最後に課題を提示します。 予習　課題についてインターネットや書籍で調べてくること（90分）。 復習　配布資料や講義ノートを見返すなど復習しておくこと（90分）。						
成績評価方法	ルーブリックによって評価を行います。評価基準は、第１講のガイダンスにて配布します。なお、４回以上欠席した学生には原則として単位を与えません。また、遅刻も減点となります。						
授業内の課題・提出方法	講義でいくつか作品をグループに分かれて制作します。それぞれの作品を完成させることが課題です。また、完成した作品は、講義内で発表してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出した作品は、講義内の発表時に講評を行います。						
担当者から一言	毎回の講義で習得する知識や技術を積み上げて進めていきますので、講義は休まないで下さい。また、本講義は、スマートフォンを利用する機会が多々ありますが、必要な作業以外での使用を禁止します。講義内での発言や質問など、積極的な参加を期待します。						

授業科目名	表現と思想			科目コード	371315	授業コード	414202
担当教員	木村　眞知子			科目ナンバリング	ESP2002		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し、自分の考えを的確に表現し、伝えることができる						
授業のねらい	常に変化し進化するメディア環境の中、情報の送り手、受け手という構造は崩れ、「誰でもメディア」の時代になってしまいました。そんな今こそ、コミュニケーションとは何かを問い直し、自分自身を表現することの意味を考えなければなりません。 時代を読み解き人間を深く探ろうとしたこれまでの思想家たちの考えを学び、私たちの今を生きる力、表現する力を養います。授業に沿った課題とその発表に重きをおいています。特に、詩作する課題は最終週に作品発表として「詩のボクシング」を行います。						
到達目標	考えること、言葉を発すること、行動すること…すべて自分を表現することです。自分自身が発信者であることを自覚し、自己表現できる存在となることを目指します。						
授業計画	第１講　ガイダンス　　メディアコミュニケーションの今 第２講　コミュニケーションの領域 第３講　身体メディアである自分の確認（プレゼンテーション） 第４講　ポスト構造主義――今という時代を見つめる 第５講　言語とは何か①伝えるために　言語と非言語（プレゼンテーション） 第６講　言語とは何か②表現するために　記号論 第７講　詩をよむ・詩をかく（プレゼンテーション） 第８講　詩とコピー 第９講　考えるということ・意見を持つということ（ディベート） 第10講　メッセージソング（プレゼンテーション） 第11講　物語を組み立てる 第12講　みんなで作るモノガタリ（プレゼンテーション） 第13講　詩作を巡って――書くこと・推敲すること 第14講　ワークショップ 第15講　「詩のボクシング」作品発表（プレゼンテーション） 自らを表現することの意味とは――課題に向けて						
テキスト・教材（参考文献含む）	なし。テキストとなるプリントおよび資料を配付します。						
事前・事後学習	授業の中で様々なテーマの課題を出します。その課題に取り組むためには、１日最低30分程度、詩や小説、エッセイなどを読むこと、また音楽なども聴くこと。そして、その感想を文章でまとめるなど、言語化できるようにすること。講義後には毎回30分程度、ノートやプリント等を確認し内容を振り返り理解を深めること。不明な点は次回の講義で質問できるように準備をすること。						
成績評価方法	成績評価は次の通りとします。 授業への取組み姿勢：30% 課題への取組み姿勢：30% 試験に代わる課題レポート：40%						
授業内の課題・提出方法	毎回の授業でレポートや課題を提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	次回の授業でコメント等、対応していきます。						
担当者から一言	本授業は、講義だけでなく、詩作など様々な形で自分を見つめ表現することに取り組み、それを人前で発表するなど、実践的な学びの場面が多々あります。苦手だからといって特別扱いはしません。チャレンジする気持ちで受けてください。						

授業科目名	映像概論			科目コード	371316	授業コード	413408
担当教員	柳瀬　元志			科目ナンバリング	ESP2003		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信ができる。						
授業のねらい	映像の歴史や現在地、そして新たな方向性など、映像の大枠をつかむことを軸に、様々な角度から映像を追求していきます。座学はもちろん、各界で活躍するクリエイター（脚本家・ドキュメンタリストなど）を招いて講義を行い、演習や映像制作、プレゼンテーションなどを通じて、映像のリアルを学びます。						
到達目標	①映像に関する基礎知識や最新情報を身につけ、日常生活でも常に映像に反応できるアンテナが晴れるようになる。 ②授業を通じて、一通りの映像制作のノウハウを学び、スキル向上させる						
授業計画	第１講　ガイダンス　～映像概論のススメ方～ 第２講　映像の歴史　～世界で評価される日本の映画を鑑賞～ 第３講　映像の歴史　～世界で評価される日本の映画の感想～ 第４講　みんなのGWを見てみよう　～プレゼン大会～ 第５講　映像作品ができるまで　～企画・制作・編集・OA～ 第６講　映像技術　～前川先生による講義・映像を実現するテクノロジー～ 第７講　映像の新しい可能性　～Gopro/ドローン操作演習～ 第８講　報道記者になった留学生　～モンゴルから来た学生が報道記者になるまで～ 第９講　映像ビブリオバトル① 第10講　映像ビブリオバトル② 第11講　ローカルメディアの使命と役割 第12講　新聞はオワコンか　～賛否両論ディベート大会～ 第13講　落語が描く脳内映像 第14講　放送と配信 第15講　絵コンテを描こう ※授業の進捗状況により、内容の変更入れ替えがあります						
テキスト・教材（参考文献含む）	必要に応じて、テキストや資料を配布						
事前・事後学習	ジャンルを問わず、毎日映像に触れる時間を持つ。 見ることすなわち学習です。 さらに読書にも親しむこと。文字情報を脳内で映像に変換し、それを実作業に落とし込む練習を積んでください。 とにかく、よく見てよく読む。 これが映像制作の事前・事後学習です。						
成績評価方法	授業への取り組む姿勢：３０％ 課題への取り組み：３０％ 定期試験もしくは試験に代わるリポート：４０％ 必要に応じてフィードバックします。						
授業内の課題・提出方法	必要に応じて課題を出します。 提出方法は教員に直接手渡し、教学課の提出用レターケース、MOODLEのなかで、最も効率よく提出できる方法を、課題ごとに選択します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	必要に応じてフィードバックします。 授業内で合評することもあります。						
担当者から一言	現役ディレクターとして、映像の面白さ奥深さを伝えていきます。また希望者にはテレビ局の見学ツアーも行っています。 生放送直前の緊張感あるスタジオや、プロ集団による放送テクニック、皆さんと同じくらいの年齢のスタッフが働く現場など、リアルに体験する場を設けます。						

授業科目名	照明概論			科目コード	371317	授業コード	415207
担当教員	黒田　淳哉			科目ナンバリング	ESP2004		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信ができる。						
授業のねらい	照明と我々の生活は切り離すことのできない関係にあります。光は我々に視覚を与えるだけでなく、快適な空間の演出や、物を印象的に見せるなど、様々な力があります。この講義では光の性質を知ることから始まり、照明演出の基礎知識や技術までを広く学びます。						
到達目標	①光の性質を理解する。 ②暮らしと照明の関係について理解する。 ③光を使用した演出方法や、その為の知識を習得する。						
授業計画	第１講　ガイダンス、授業の概要 第２講　光源 第３講　光環境 第４講　光の単位と電気の基礎 第５講　視覚と照明 第６講　色彩と照明 第７講　色温度と演色性 第８講　光と素材の関係 第９講　照明配光と陰影効果 第10講　映像照明1 第11講　映像照明2 第12講　舞台照明1 第13講　舞台照明2 第14講　光のコントロール 第15講　まとめ 定期試験						
テキスト・教材（参考文献含む）	なし。（必要に応じてプリントを配布します）						
事前・事後学習	毎回、講義の最後に課題を提示します。 予習　課題についてインターネットや書籍で調べてくること（90分）。 復習　配布資料や講義ノートを見返すなど復習しておくこと（90分）。						
成績評価方法	小レポート及び課題（40%）、定期試験（60%）により評価します。なお、４回以上欠席した学生には原則として単位を与えません。また、遅刻も減点となります。						
授業内の課題・提出方法	授業の理解度を把握するために、毎回、授業の最後に小テストか小レポートを実施します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小レポート、小テストの解説は翌週の授業で適宜コメントします。						
担当者から一言	必要な情報収集以外で授業中にスマートフォンを使用することを原則禁止します。講義内での発言や質問など、積極的な参加を期待します。						

授業科目名	音響概論			科目コード	371318	授業コード	413810
担当教員	黒田　淳哉、足立　明信			科目ナンバリング	ESP2005		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信ができる。						
授業のねらい	現在の舞台芸術やメディアコンテンツの制作は、専門的な技術を駆使しています。メディア表現において、技術を使いこなすことは重要な要素ですが、その前に基礎を理解することで、多様なメディア分野に適応することができます。本講義では、音響と照明に関するそれぞれの基礎知識や効果、理論について広く学びます。音響・照明を用いたメディア表現を目指す学生にとって、この講義は基礎となるものであり、それぞれの入門として位置づけられます。						
到達目標	光と音の性質や理論に関する基礎知識、また、機材の構造や原理が理解できるようになること。さらには、音響や照明の専門用語や単位、計算方法について理解できるようになること。						
授業計画	第１講　ガイダンス、授業の概要 第２講　照明１「光源」 第３講　照明２「光の単位」 第４講　音響１「音とは」 第５講　音響２「マイクとスピーカー」 第６講　照明３「色彩と照明」 第７講　照明４「色温度と演色性」 第８講　音響３「電気の基礎」 第９講　音響４「音を制御する機器」 第10講　照明５「照明配光と陰影効果」 第11講　照明６「３点照明」 第12講　音響５「音のデジタル処理」 第13講　音響６「PA（コンサート・舞台音響）」 第14講　照明７「照明制御システム」 第15講　音響７「録音（コンテンツ制作）」 定期試験						
テキスト・教材（参考文献含む）	なし。（必要に応じてプリントを配布します）						
事前・事後学習	毎回、講義の最後に課題を提示します。 予習　課題についてインターネットや書籍で調べてくること（90分）。 復習　配布資料や講義ノートを見返すなど復習しておくこと（90分）。						
成績評価方法	小レポート及び課題（40%）、定期試験（60%）により評価します。なお、４回以上欠席した学生には原則として単位を与えません。また、遅刻も減点となります。						
授業内の課題・提出方法	授業の理解度を把握するために、毎回、授業の最後に小テストか小レポートを実施します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小レポート、小テストの解説は翌週の授業で適宜コメントします。						
担当者から一言	必要な情報収集以外で授業中にスマートフォンを使用することを原則禁止します。講義内での発言や質問など、積極的な参加を期待します。						

授業科目名	クリエイティブワークⅠ			科目コード	371319	授業コード	413809
担当教員	柳瀬　元志			科目ナンバリング	ESP3001		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる						
授業のねらい	プロが現場で使用する機材を使ったロケや、グループを作って企画・録音・編集を行うラジオCM制作などを行います。 まずは映像・音響・照明などの基礎を学び、それらを実際の作品作りに落とし込んでいく過程を学び、自らのものとすることを狙いとします。 これまで以上に「書く」こと（企画書・脚本など）を重視します。 また、どのような現場でも要求される「プレゼンテーション」の場を数多く設け、人前で自分の考えや表現したいことなどを的確に、わかりやすく伝える練習を行います。						
到達目標	プロの方法論による作品制作の実習・演習を通じて、ものづくりの楽しさやむつかしさを体験するとともに、専門課程につながる知識や技術の習得、自己表現のスキルアップを目指します。						
授業計画	第１講　ガイダンス　～クリエイティビティとは何か～ 第２講　照明基礎 第３講　照明実習 第４講　照明作品プレゼンテーション 第５講　音響作品　ラジオCM　企画・原稿作成 第６講　音響作品　ラジオCM　録音 第７講　音響作品　ラジオCM　整音 第８講　音響作品　ラジオCM　発表プレゼンテーション 第９講　映像企画書 第10講　映像脚本 第11講　撮影基礎①　機材の扱い方 第12講　撮影基礎②　撮影実習 第13講　撮影① 第14講　撮影② 第15講　映像制作作品プレゼンテーション ※授業の進捗状況により、内容の前後、入れ替えがあります						
テキスト・教材（参考文献含む）	必要に応じてプリント・資料を配布						
事前・事後学習	日々メディアを通して、話題となっている番組、映画、書籍、音楽、ゲーム、舞台など作品制作に参考となるものをどん欲に吸収することを心がけてください。 スキルアップの鍵は自分自身が握っています。						
成績評価方法	授業・課題への取り組み：３０％ 課題政策への意欲・取り組む姿勢：３０％ 作品の内容・完成度：２０％ 試験に代わる課題もしくはレポート：２０％						
授業内の課題・提出方法	必要に応じて課題を出します 提出方法は教員への手渡しの他、その都度指示						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	必要に応じてフィードバック、もしくはプレゼンテーション等による合評						
担当者から一言	ものつくりのいろは（ABC）を学びます。 ここでしっかりと基本的なことを学んで、各自が先行する分野のスキルアップに役立ててください。 また様々なものに触れ、自分自身のレベル＆スキルアップに励んでください。 チームで作品制作を行うので、遅刻欠席は厳禁です						

授業科目名	クリエイティブワークⅡ			科目コード	371320	授業コード	413107
担当教員	柳瀬　元志			科目ナンバリング	ESP3002		
配当年次	3	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる。						
授業のねらい	演習・制作を軸とする授業で、映像・音響・照明を学びながら作品を作ります。 講義、演習、プレゼンテーションを通じて、2年次よりもさらにレベルアップした表現方法や知識、技術を習得する。 作品制作を体験することで、様々なものつくりやクリエイティブの本質に触れ「何を表現し、どのように個性を出すか」など、クリエイターとしての知識や感性を磨き上げていきます。						
到達目標	クリエイティブワークにおける三大要素「映像」「音声」「照明」の各分野を、作品制作の経験を通して特性を理解し、身につけることを目標とします。 また第三者が見て「納得」と「満足」のいく作品を作り上げることができる人材となることを目指します。						
授業計画	第１講　ガイダンス　～実践的クリエイティブワークとは～ 第２講　作品制作に向けて企画書作成 第３講　作品制作に向けて企画書作成＆プレゼンテーション 第４講　構成案つくり 第５講　構成案つくり 第６講　音響演習 第７講　照明演習 第８講　撮影演習 第９講　撮影実習 第10講　撮影実習 第11講　撮影実習・編集作業 第12講　編集作業 第13講　MA 第14講　ナレーション収録 第15講　合評 ※授業の進捗状況により、内容の入れ替えや変更があります						
テキスト・教材（参考文献含む）	必要に応じて、テキスト・資料等を配布します。						
事前・事後学習	作品制作の成功の可否は、事前準備や情報収集によるところ大です。 毎日の生活の中に、映像を見る、本を読む、新聞に目を通す、様々な音楽を聴く、舞台を鑑賞するなど、日常生活とクリエイティブが密接な関係を持っていることが大切です。 感性を磨き、一般的な科目の予習復習とは違う、生活レベルでの事前事後学習を心がけてください。						
成績評価方法	授業への取り組み：４０％ 課題への取り組み：４０％ 試験に代わる課題リポート：２０％						
授業内の課題・提出方法	必要に応じて、授業内で課題を出します。 提出は担当教員への手渡し、MOODLEなど						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	評価、採点し成績に反映、もしくは返却						
担当者から一言	映像・音響・照明のクリエイティブ3大要素を学びます。 その中で作る楽しさ、大変さ、完成させる喜びを体験してほしいと思います。 共同制作が多くなるので、遅刻・欠席はできません。 「クリエイティブワークⅠ」を受講していることが望ましいです。						

授業科目名	イベント制作演習			科目コード	371322	授業コード	413507
担当教員	黒田　淳哉			科目ナンバリング	ESP3004		
配当年次	3	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	・専門技術者に求められる倫理観を身につけている。 ・メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信ができる。						
授業のねらい	この講義のターゲットは、メディア情報分野の4年生が卒業研究・制作を発表する卒業展を制作することです。その中で、イベントの制作に関する知識や技術、取り組む姿勢を身につけてもらうことを目的としています。演習の前半には、イベント制作に関する座学を行い、イベント企画の演習を行います。後半には、全員で共同して卒業展を制作します。						
到達目標	①イベント制作に必要な各ステップを把握し、経験する。 ②満足度の高いイベントなるようチームで考え、実現に向けた自発的行動ができる。 ③プロジェクトの全体像を十分に把握し、課題を発見することができる。						
授業計画	第１講　ガイダンス～イベント制作立案１ 第２講　イベント制作立案２ 第３講　イベント制作立案３ 第４講　卒業展について１　（企画立案） 第５講　卒業展について２　（ 資料制作） 第６講　卒業展について３　（ディスカッション） 第７講　昨年度実績伝達 第８講　進行演出立案１ 第９講　進行演出立案２　（プレゼンテーション） 第10講　部門ごとの準備１（グループワーク） 第11講　部門ごとの準備２（グループワーク） 第12講　メディアチェック 第13講　テクニカルリハーサル 第14講　最終リハーサル（実習） 第15講　卒業展（実習）						
テキスト・教材（参考文献含む）	講義中に資料やワークシートを配布します。配布資料が多いため、専用のファイルを準備してください。						
事前・事後学習	年末年始の休暇期間を含め、プランニングや資料作成、連絡調整等が持ち帰り課題となります（180分程度）。						
成績評価方法	ルーブリックによって評価を行います。評価基準は、第１講のガイダンスにて配布します。なお、４回以上欠席した学生には原則として単位を与えません。また、無断欠席や遅刻も減点となります。						
授業内の課題・提出方法	本講義の殆どは、課題に向けて取り組む制作です。取り組んだ課題は、講義内で発表してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出した課題は、講義内の発表時に講評を行います。						
担当者から一言	卒業展当日までグループワークで制作を進めていきますので、特別な理由以外は講義を休まないで下さい。講義内での発言や質問など、積極的な参加を期待します。						

授業科目名	ハードウエア論			科目コード	371323	授業コード	411411
担当教員	片山　清和			科目ナンバリング	EIF2001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信ができる。						
授業のねらい	コンピュータシステムはハードウェアとソフトウェアから成り立っています。この講義ではコンピュータシステムのハードウェア部分について仕組みを解説します。また、情報系の国家資格であるITパスポート取得を念頭に置いて行います。						
到達目標	①コンピュータシステムの仕組みを説明できる ②入力装置の機器と仕組みを説明できる ③出力装置の機器と仕組みを説明できる ④記憶装置の機器と仕組みを説明できる ⑤インターフェースの種類と特徴を説明できる ⑥インターネットの機器を説明できる						
授業計画	第１講　ガイダンス、コンピュータの五大装置 第２講　入力装置（ポインティングデバイス） 第３講　入力装置（キーボード、スキャナ、バーコードリーダー） 第４講　出力装置（ディスプレイ） 第５講　出力装置（プリンタ） 第６講　小テスト、中央処理装置 第７講　ＧＰＵ 第８講　記憶装置（メインメモリ） 第９講　小テスト、補助記憶装置（磁気ディスク） 第10講　補助記憶装置（ＲＡＩＤ、ＳＳＤ、フラッシュメモリ） 第11講　補助記憶装置（光ディスク、光磁気ディスク、磁気テープ） 第12講　小テスト、インタフェース（パラレルインタフェース） 第13講　インタフェース（シリアルインタフェース） 第14講　小テスト、ネットワーク（イーサネット、ルータ、ハブ） 第15講　まとめ 定期試験						
テキスト・教材（参考文献含む）	＜テキスト＞ なし（必要に応じて配布します） ＜参考文献＞ 春日健、舘泉雄治　「計算機システム（改訂版）」　コロナ社						
事前・事後学習	講義前には、これまでに学習した内容を復習しておくこと（30分）。 講義後には、学習した内容を復習し、課題を行うこと（150分）。 「情報科学概論」を履修していることが望ましい。						
成績評価方法	＜評価＞「小テスト」（４０％）、「定期試験」（６０％）						
授業内の課題・提出方法	＜課題＞４回小テストを実施して提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	＜フィードバック＞小テストを実施した翌週の授業で内容の解説を行います。						
担当者から一言	ハードウェアは基本を理解できていると、仕組みはとても簡単です。しっかり復習を行って理解してください。 また、出席状況が悪い場合には減点します。						

授業科目名	プログラミング			科目コード	371324	授業コード	412613
担当教員	足立　明信			科目ナンバリング	EIF2002		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる						
授業のねらい	ほぼすべてのアプリケーション・プログラムは、プログラミング言語で記述されています。プログラミング言語の中でも、Ｃ言語はオペレーティングシステムから携帯電話など末端の応用プログラムまで、広い範囲で使用されています。このＣ言語を学ぶことで、アプリケーション・プログラムの動作をより理解することができます。 この講義では、Ｃ言語を用いてプログラミングの基礎を学び、アプリケーション・プログラムの動作の理解を深めると同時に、プログラム作成と通じて、論理的思考を身につけることを目指しています。						
到達目標	Ｃ言語で基本的なプログラミングができるようになること。						
授業計画	第１講 ガイダンス、プログラミングとは 第２講 Ｃプログラムの入力・コンパイル・実行 第３講 変数・定数とデータ型と演算子 第４講 入力と出力 第５講 ifによる条件分岐 第６講 switchによる分岐 第７講 forによる繰り返し 第８講 whileによる繰り返し 第９講 関数（１） 第10講 関数（２） 第11講 配列 第12講 ポインタ 第13講 構造体 第14講 共用体 第15講 まとめ 定期試験 （講義の順番・内容を変更することがあります。第９講以降の内容は、進度に応じて概略の講義となる場合があります）						
テキスト・教材（参考文献含む）	テキストはありません。必要に応じて資料を配布します。 詳しく学びたい人のために、参考文献として次の書籍を推薦します。 B.W.カーニハン、D.M.リッチー 著 石田晴久 訳 「プログラミング言語Ｃ 第２版 ANSI規格準拠」 共立出版 ￥3,024						
事前・事後学習	講義前には、これまでに学習した内容を復習すること（60分） 講義後には、演習問題を行うこと（120分）						
成績評価方法	「提出物」（40%）、「定期試験」（60%）						
授業内の課題・提出方法	授業中に課題を示し、教育支援システム（Moodle）に提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出物は採点後、教育支援システム（Moodle）を介して返却します。 課題の個別指導を行います。						
担当者から一言	プログラミングでは積み重ねが重要ですので、欠席しないようにしてください。また、出席状況が悪い場合には減点します。 「ソフトウェア論」を履修していることが望ましい。						

授業科目名	コンピュータ動作論			科目コード	371325	授業コード	414404
担当教員	片山　清和			科目ナンバリング	EIF2003		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信ができる。						
授業のねらい	現代社会では、ほぼあらゆるところにコンピュータが使われています。われわれは漠然とコンピュータを使っているのですが、コンピュータは一体どのようにして動作しているのでしょうか？ この講義では、コンピュータがどのように動いているのかを、数の表現方法、コンピュータの内部構成について学びます。また高速化技法としてスーパパイプラインとスーパスカラとキャッシュメモリについて学びます。さらに最新のコンピュータについても学びます。						
到達目標	①コンピュータの動作原理を説明できる。 ②組み合わせ論理回路を説明できる。 ③順序回路を説明できる。 ④記憶素子の動作原理を説明できる。						
授業計画	第１講　　ガイダンス、プログラムの実行とコンピュータの五大装置 第２講　　命令サイクル、ハーバード・アーキテクチャとノイマン型アーキテクチャ 第３講　　数の表現と演算 第４講　　論理素子とCMOS 第５講　　組み合わせ回路 第６講　　順序回路 第７講　　制御方式（ハードワイヤード方式，マイクロプログラム方式） 第８講　　命令セット、RISCとCISC 第９講　　記憶素子（SRAM，DRAM） 第10講　シングルサイクルコンピュータとCPI 第11講　マルチサイクルとパイプラン処理 第12講　割り込みとプロセスの切り替え 第13講　スーパパイプラインとスーパスカラ、キャッシュメモリ 第14講　GPUと最新コンピュータの動向 第15講　まとめ 定期試験						
テキスト・教材（参考文献含む）	＜テキスト＞ なし（必要に応じて配布します） ＜参考文献＞ 馬場敬信 著「コンピュータのしくみを理解するための10章」　技術評論社 ディビット・マネー、サラ・Ｌ・ハリス 著　天野英晴、鈴木貢、中條拓伯、永松礼夫 編「ディジタル回路設計とコンピュータアーキテクチャ　第２版」　翔泳社						
事前・事後学習	講義前には、これまでに学習した内容を復習しておくこと（60分）。 講義後には、学習した内容を復習し、課題を行うこと（120分）。 「ハードウェア論」を履修していることが望ましい。						
成績評価方法	＜評価＞「レポート・小テスト」（４０％）、「定期試験」（６０％）						
授業内の課題・提出方法	＜課題＞毎回の授業で小レポートをMoodleに提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	＜フィードバック＞レポート・小テストは採点し、コメントを付加して、以降の講義で返却します。						
担当者から一言	積み重ねの講義なので、欠席しないようにしてください。 また、出席状況が悪い場合には減点します。						

授業科目名	システム管理論			科目コード	371326	授業コード	413811
担当教員	井岡　幹博			科目ナンバリング	EIF2004		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる。						
授業のねらい	本講義では、将来システム管理業務にあたる際に必要となる基礎知識と考え方を学ぶことを目標とします。また、ネットワークのセキュリティなど一般ユーザも理解しておくべき内容も学びます。						
到達目標	・システムの信頼度向上のための知識 ・システム開発とプロジェクトマネジメント ・システム運用管理 ・情報セキュリティなどに関するスキルが身につくことを目標とします。						
授業計画	第１講　ガイダンス（授業の進め方、成績評価法の説明）、関連科目履修度の確認、この後の講義で必要となる基礎理論の復習（２進数など情報に関する理論） 第２講　システムの信頼度（稼働率、冗長化） 第３講　企業活動（問題点の発見、業務分析） 第４講　第１回小テスト 第５講　第１回小テストの解説 第６講　システム開発とプロジェクトマネジメント 第７講　考え方を整理するための方法と知識 第８講　テストの方法、エラーチェック 第９講　第２回小テスト 第10講　第２回小テストの解説 第11講　パソコンとネットワーク（OSIの参照モデル、TCP/IP、インターネットで利用可能な主なサービス） 第12講　システム運用管理と情報セキュリティ 第13講　暗号化と認証 第14講　第３回小テスト 第15講　第３回小テストの解説 定期試験小テストはITパスポート過去問による演習とその解説により進めます。						
テキスト・教材（参考文献含む）	プリント配布.						
事前・事後学習	情報技術とその利用に関する新聞記事の熟読（予習90分）。毎回課されるITパスポート過去問を解くこと（復習90分）。						
成績評価方法	小テストおよび課題50%、定期試験50%。						
授業内の課題・提出方法	授業内に小テストおよび課題プリントを実施，回収.						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題提出後，次週にコメントを付して返却.						
担当者から一言	この講義ではコンピュータや情報ネットワークに関する項目が多く出てきますので、「インターネット論」、「情報システム論」、「ソフトウェア論」、「コンピュータ動作論」などの内容をよく理解しておくとよいでしょう。						

授業科目名	データベースプログラミング			科目コード	371327	授業コード	414304
担当教員	井岡　幹博			科目ナンバリング	EIF3001		
配当年次	3	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	メディアに関する専門知識・技術を修得して、独自の視点で情報発信できる。						
授業のねらい	実際のデータベース管理システム（DBMS）に触れることによって、データベースのしくみを理解する。具体的には、現在一般に使われているリレーショナルデータベース（RDBMS）のひとつであるMicrosoft SQL Serverを使用し、表の設計、データの挿入と検索を通して、データベースのしくみを理解する。						
到達目標	検索条件をSQL文で書けること データの正規化ができること データの追加、更新、削除を理解すること データベースの基本設計ができること						
授業計画	第1回　ガイダンスとデータベースの概念 第2回　データとは何か？ 第3回　リレーショナルデータモデル① 第4回　リレーショナルデータモデル② 第5回　リレーショナルデータベースにおける演算 第6回　表の結合① 第7回　表の結合②と検索 第8回　正規化① 第9回　正規化② 第10回　結合と副問い合わせ 第11回　集合演算 第12回　表の作成① 第13回　表の作成② 第14回　ER図 第15回　まとめと演習課題 定期試験						
テキスト・教材（参考文献含む）	授業内で資料を適宜与える						
事前・事後学習	配布資料の熟読（90分）。毎回課される課題提出（復習90分）。						
成績評価方法	課題提出50%、定期試験50%。						
授業内の課題・提出方法	Moodleを使用して、課題提出を行う。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題提出したものに対して、必要に応じて個別にフィードバックします。						
担当者から一言	実際のデータベース管理システムに触れて、データベースとはどんなものなのかを実感してください。						

授業科目名	情報システム論			科目コード	371328	授業コード	411810
担当教員	池田　幹男			科目ナンバリング	EIF3002		
配当年次	3	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる。						
授業のねらい	Microsoft Accessは、リレーショナル型のデータベース・ソフトウェアであり、実社会では大規模なデータベースを作成するために使われています。したがって、社会で活躍するためには、Accessを道具として使いこなす能力が必要となります。この講義では、Accessの資格試験（Microsoft Office Specialist）を受験するための演習・実習を行います。						
到達目標	MOS Access の資格試験の準備が整うようにします。						
授業計画	第１講　ガイダンス 第２講　データベースの作成と管理（１） 第３講　データベースの作成と管理（２） 第４講　データベースの作成と管理（３） 第５講　テーブルの作成（１） 第６講　テーブルの作成（２） 第７講　テーブルの作成（３） 第８講　クエリの作成（１） 第９講　クエリの作成（２） 第10講　フォームの作成（１） 第11講　フォームの作成（２） 第12講　レポートの作成（１） 第13講　レポートの作成（２） 第14講　模擬試験演習（１） 第15講　模擬試験演習（２） すべて実習です。						
テキスト・教材（参考文献含む）	「Microsoft Office Specialist Microsoft Accsess 2016 対策テキスト&問題集 (よくわかるマスター)」FOM出版　￥3，024 Office と MOS のバージョンの関係でテキストが変更になる可能性があります。						
事前・事後学習	講義前には、教科書の該当部分を読んで、操作を理解してくること（90分）講義後には、講義で学習した操作を復習して、教科書付属の模擬試験や章末問題を行っておくこと（90分）						
成績評価方法	毎回の課題（40%）、模擬試験（60%） 毎回の課題は採点し、教育支援システム（Moodle）を介してフィードバックします。						
授業内の課題・提出方法	課題は、Moodleの課題提出を使用します。毎回、提出があります。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	Moodleを通じて採点結果などをフィードバックします。						
担当者から一言	積み重ねの講義なので、欠席しないようにしてください。 「データベースプログラミング」と併せて受講することをすすめます。						

授業科目名	メディア情報産業論			科目コード	371329	授業コード	411710
担当教員	前川　督雄			科目ナンバリング	EIF3003		
配当年次	3	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる 専門技術者に求められる倫理観を身につけている						
授業のねらい	Society5.0を視野に入れた、社会のありかたを産業の側面から考える講義です。 テレビやアプリ、ゲーム、インターネットなど、私たちはメディア情報産業の恩恵に浴して暮らしています。メディア情報産業は、情報通信技術の発達によってその枠組みを大きく変化させ、また社会インフラとしてその重要性を増してきています。その歴史・背景は、また将来展望はどのようになっているのでしょうか。 この講義では、メディア情報産業の歴史・構造を概観するとともに、現代社会においてメディア情報産業が果たす役割について考えます。						
到達目標	メディア情報産業の歴史・構造を知り、それぞれのメディアが果たしている（果たしてきた）社会的役割とこれからの展望・課題とを考察する。						
授業計画	第１講　ガイダンス／講義の概要 第２講　基礎論　メディア情報が産業になるとはどういうことか 第３講　基礎論　Society5.0に向けて 第４講　産業構造　通信／インターネット／IoT 第５講　産業構造　コンピュータ／アプリ 第６講　産業構造　映画／コンテンツ 第７講　産業構造　テレビ／ラジオ 第８講　産業構造　出版 第９講　産業構造　メディア融合 第10講　産業構造　メタバース／DX／Web3.0 第11講　社会　マスメディアの責務 第12講　事例　メディア利用動向 第13講　事例　メディア情報産業の最新トピックス 第14講　事例　最新の国際展示会レポート／メディア情報技術開発について 第15講　まとめ 定期試験 （内容・順序を必要に応じて変更します）						
テキスト・教材（参考文献含む）	テキストはありません。 講義中に資料を配付します。　〈参考情報サイト〉，http://edata.jp/you/imi/ 〈参考文献〉 電通総研編「情報メディア白書2023」ダイヤモンド社（2023） 日本経済新聞社編「日経業界地図2024年版」日本経済新聞出版社（2023）						
事前・事後学習	講義内容を復習する（90分）とともに、配布した資料およびURL提示した参考情報を熟読し、不明点を自分で調べて理解を深めて下さい（90分）。 前後して「次世代メディア社会」（３年次前期開講）とあわせて受講することで、より多面的な理解が得られるでしょう。						
成績評価方法	次の配分で総合評価します。 受講態度、学習意欲、小レポート等（40%） 定期試験（60%）						
授業内の課題・提出方法	小レポートを教室で提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	講義中に、小レポートの内容などについて意見交換を行います。						
担当者から一言	「メディア情報産業論」では主に社会的な見地から、「次世代メディア社会」（３年次前期開講）では主に個人の視点からメディア情報を捉えます。						

授業科目名	環境情報特別講義Ⅲ			科目コード	371403	授業コード	413105
担当教員	前川　督雄、片山　清和			科目ナンバリング	ESL2003		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる 多様な社会の価値観を理解し、自分の考えを的確に表現し、伝えることができる 専門技術者に求められる倫理観を身につけている 地域の持続的発展のために貢献できる						
授業のねらい	情報通信技術の革命的発展にともない、私たちの住む社会はサイバー社会（ネット）とフィジカル社会（現実社会）とが一体化した新しい社会に生まれ変わろうとしています。その社会では、気づかないところで観測・集積される多様なデータを用いてAIが社会の重要な基盤として活躍します。 これからの私たちは、データサイエンスとAIについてのリテラシーをもつことが求められるようになります。 「データサイエンス概論」ではその入門編として基礎的な知識を学び、心構えの基本を身に着けてもらいます。						
到達目標	データサイエンスとAIについて基礎的な知識を獲得し、心構えの基本を身に着ける。						
授業計画	第１講　ガイダンス 第２講　社会で起きている変化①　Society5.0（前川） 第３講　社会で起きている変化②　AI（前川） 第４講　社会で起きている変化③　データ駆動型社会（前川） 第５講　社会で活用されているデータ（片山） 第６講　データ・AI利活用の最新動向（前川） 第７講　データ・AIの活用領域（片山） 第８講　データ・AIの利活用のための技術（片山） 第９講　データ・AI利活用の現場（片山） 第10講　データを読む・説明する・扱う（導入）（片山） 第11講　データを読む・説明する・扱う（演習）（片山） 第12講　データ・AI利活用における留意事項①（前川） 第13講　データ・AI利活用における留意事項②（前川） 第14講　データを守るうえでの留意事項（前川） 第15講　まとめ 定期試験 （必要に応じて内容・順序を変更することがあります）						
テキスト・教材（参考文献含む）	岡嶋ほか「はじめてのAIリテラシー」技術評論社　税別1680円 参考文献 江間「絵と図でわかる AIと社会」技術評論社　税別2000円						
事前・事後学習	授業前にテキストの該当する箇所を予習すること（60分）。授業後に復習するとともに、参考図書やインターネットを用いて疑問点を調べ、授業内容を展開する探索を行うこと（120分）。						
成績評価方法	毎回の授業で課す確認テスト及び演習課題60%、定期試験40%で総合評価する。						
授業内の課題・提出方法	授業内で実習課題や復習課題を課し、原則として教室で提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業中の課題等について、事後（次回など）に解説を行います。						
担当者から一言	本科目は、四日市大学のデータサイエンス・リテラシー（DSL）プログラムの中核科目です。 四日市大学DSLプログラムは、文部科学省から「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度リテラシーレベル」を認定されました（三重県で初めて）。						

授業科目名	生命－情報－環境			科目コード	371405	授業コード	411412
担当教員	前川　督雄			科目ナンバリング	ECF2002		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる 環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組ことができる 多様な社会の価値観を理解し、自分の考えを的確に表現し、伝えることができる						
授業のねらい	有限な地球環境と私たち人類との関係を、情報を軸に読み解いていきます。 地球生態系38億年の歴史のなかで、また700万年におよぶ人類史のなかで生命と環境とは相互作用を重ね、互いに適合するように進化してきました。私たちは有限環境に適合した遺伝子を有しているのです。 しかし現代の物質文明は進歩や発展が無限に続くことを前提としており、その矛盾は深刻な破綻を呈しつつあります。 「生命−情報−環境」では、現代日本が直面している環境問題を「物質」「エネルギー」に「情報」を加えた3つの次元から考えていきます。						
到達目標	地球生態系の一員として自分の立つ位置、そして現在の世界のなかで自分の立つ位置について考えを深める。 従来の環境観から欠落していた「情報環境」「本来性」の枠組みを得て、その観点から環境問題を捉え直す。						
授業計画	第１講　ガイダンス／講義の概要 第２講　基礎論　感覚で感じる環境の情報的側面（情報環境） 第３講　基礎論　情報中毒と情報失調 第４講　基礎論　熱帯の森が人類のふるさと 第５講　基礎論　生物−環境系の本来・適応・自己解体モデル 第６講　基礎論　棲み分けと非棲み分け 第７講　基礎論　文明化による情報環境の変容 第８講　基礎論　ハイパーソニック・エフェクト 第９講　有限環境　食糧と環境 第10講　有限環境　環境破壊・環境汚染の源 第11講　有限環境　山・森・里・川・海 第12講　事例　人類の本来の生きかたを続ける狩猟採集民 第13講　事例　豊かな情報環境をつくりだす文化 第14講　事例　情報環境の視点を現代社会に活かす試み 第15講　まとめ 定期試験 （内容・順序を必要に応じて変更します）						
テキスト・教材（参考文献含む）	テキストはありません。 〈参考文献〉 大橋　力「情報環境学」朝倉書店（1989年） 大橋　力「音と文明」岩波書店（2003年） 大橋　力「ハイパーソニック・エフェクト」岩波書店（2017年）						
事前・事後学習	毎回の講義で提示した事例・理論を振り返り復習する（90分）とともに、鵜呑みにすることなく自分でも調べ直して、理解を深めるとともによく考えて下さい（90分）。						
成績評価方法	次の配分で総合評価します。 受講態度、学習意欲、小レポート等（40%） 定期試験（60%）						
授業内の課題・提出方法	小レポートを課すことがあり、教室で提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	レポートで示された重要な論点をその後の講義で採り上げます。						
担当者から一言	学際的・総合的な講義内容になります。講義中に、参考とする映像・音楽の視聴を行います。 この講義では単に知識を獲得することよりも、自分で感じ、考えることを特に重視します。						

授業科目名	日本文化論			科目コード	371406	授業コード	415103
担当教員	永井　博			科目ナンバリング	ECF2003		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	幅広い人間力を身につける。また、多様な社会の価値観を理解し、自分の考えを的確に表現し、伝えることができる。						
授業のねらい	いわゆる「日本文化論」は、たとえばお茶やお能などの伝統芸能などを日本に独自な文化として論じる。しかし「日本」の「文化」はどのような文化なのかについて考えるのではなく、むしろ「文化」という概念のもとに何が語られているのかを考えることの方がより大きな問題であると思われる。 この講義では、いろいろな「日本文化論」を取り上げて、「日本」の「文化」がどのように語られ、どのような問題をかたちづくってきたのかについて一緒に考えてみたい。						
到達目標	「文化」という概念が含む問題を自らの中にも根付いている自分の問題としてとらえ、それをどのように克服していくかについて考える糸口を見つけることができることを目標にする。						
授業計画	第１回　ガイダンス 第２回　「文化」概念について 第３回　「日本文化論」の問題点について 第４回　ブルーノ・タウトの日本文化論について　①　「日本文化私観」 第５回　ブルーノ・タウトの日本文化論について　②　「ニッポン」 第６回　日本の食文化　お雑煮 第７回　加藤周一＜雑種文化論＞　①　その背景 第８回　加藤周一＜雑種文化論＞　②　その主張 第９回　加藤周一＜雑種文化論＞　③　その特徴と問題点 第１０回　谷崎潤一郎「陰翳礼讃」　①　その概要 第１１回　谷崎潤一郎「陰翳礼讃」　②　その問題点 第１２回　三島由紀夫「文化防衛論」　①　その特徴 第１３回　三島由紀夫「文化防衛論」　②　戦後の日本文化論 第１４回　坂口安吾「日本文化私観」　①　その内容 第１５回　坂口安吾「日本文化私観」　②その思想史的意味 定期試験						
テキスト・教材（参考文献含む）	プリントなどの資料を配布する。						
事前・事後学習	予習として、配布する日本文化論のテクストをよく読んでくること。（90分） 復習として、講義の内容を踏まえて上記のテクストをさらによく読むとともに、それらの筆者の他の文章も自分で入手して読むこと。（90分）						
成績評価方法	受講態度50%、定期試験50%を目安に総合的にする。提出物は評価をつけたうえで翌週以降の講義で返却する。						
授業内の課題・提出方法	毎回授業の終わりに、講義の内容をまとめ、自分の意見や質問を書いて提出してもらう。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出物は、全体的なコメントとともに翌週以降の講義で返却する。						
担当者から一言	日本文化論がこれまでにどのような問題を構成してきたか、現在どのような問題をはらんでいるかについて一緒に考える時間にしたいと思っている。						

授業科目名	出版文化論			科目コード	371407	授業コード	412402
担当教員	稲葉　年計			科目ナンバリング	ECF2004		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する。						
授業のねらい	本授業では、出版文化の基本として、まずは現代日本の文学を見ていくこととなります。 時代時代の諸所の文学的な作品を通じて、人々と社会の関係の上で何が表現されているかを考えます。文学やサブカルを通じての現代社会の捉え方を学んでいきます。そうした現代の社会背景を把握した上で、現在の出版文化や出版メディアの位置づけを、小さな出版社をつくる実践例を見ることで理解します。文学と出版文化を通じて、現代の文化や社会の仕組みを考えます。						
到達目標	全体性に留意しつつ、現代社会を考えることができること。 文学と経営を通じて、社会を深く把握すること。 できるだけ授業において、考える力や学ぶ力を養いたい。授業では出席カード裏で講義ごとに感想や意見を書いてもらい、出席の確認をするとともに、コミュニケーションをとっていくこととなる。よって、考え、理解し、意見する力を身に付けること。						
授業計画	１．ガイダンス ２．1960年代の文学の展開（松本清張・三島由紀夫）――全体性の喪失―― ３．三島由紀夫『美しい星』 ４．三島由紀夫『美しい星』 ５．東浩紀『動物化するポストモダン』『ゲーム的リアリズムの誕生』 ６．宇野常寛『ゼロ年代の想像力』 ７．宇野常寛『ゼロ年代の想像力』 ８．庵野秀明『ヱヴァンゲリヲン新劇場版：破』 ９．庵野秀明『ヱヴァンゲリヲン新劇場版：破』 10．大場つぐみ・小畑健『DEATH NOTE デスノート the Last name』 11．大場つぐみ・小畑健『DEATH NOTE デスノート the Last name』 12．小さな出版社のつくり方 13．高畑 勲『かぐや姫の物語』 14．高畑 勲『かぐや姫の物語』 15．全講義のまとめ 定期試験						
テキスト・教材（参考文献含む）	（テキスト） 宇野常寛著「ゼロ年代の想像力」早川書房（2011年）定価：902円 各講義において、PowerPoint資料を提示、プリントを配布します。						
事前・事後学習	本や小説、映画、漫画、ドラマ等により時事的なニュースや社会に触れること。（ 80分） 授業後には配布資料に目を通し復習すること。（10分）						
成績評価方法	成績評価は、授業への参加度40%、定期試験（レポート）60%による。 レポート試験については、希望者は返却するなどの対応をします。						
授業内の課題・提出方法	出席カード裏で、毎回の課題（感想や意見）を提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	出席カード裏での毎回の課題（感想や意見）について、次の回の授業の冒頭で質問があれば回答し、また良いもの面白いものなどがあればとり上げ、コミュニケーションしていきたいと思います。						
担当者から一言	できる限り関心が持てるように工夫をした授業となりますが、内容自体はそれなりに高度な内容を含むものです。よって、やる気がある学生を歓迎します。また授業内で、できる限りコミュニケーションがとれるように設定しています。なお、コピー&ペーストは厳禁です。						

授業科目名	アジア文化論			科目コード	371408	授業コード	411504
担当教員	加納　光			科目ナンバリング	ECF2005		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	幅広い人間力を身につける。						
授業のねらい	アジア地域・諸国の歴史・文化・社会を概観しながらアジアに対する認識を深め、アジアの特性について考えていきます。また、日本を含 むアジア地域・諸国の諸事情を学びながら、アジア地域・諸国から日本社会が学ぶべき点についても考えてみたいと思います。 　アジアに対する理解を深めるため、受講生自身がアジアに関する特定のテーマについて調べ、レポートにまとめて発表する機会も持ちたいと考えています。 　アジアに対する理解を深めながら、アジア地域の特性を明らかにすることを、この授業のねらいとします。						
到達目標	この授業では、社会・文化・宗教・言語など、ざまざまな視点からアジア諸国に対する理解を深め、学生諸君が明確なアジア像をイメージできるようになることが、到達目的です。						
授業計画	第１講：ガイダンス、講義の概要 第２講：アジアとは何か 第３講：アジアの地理学的な規定１ 第４講：　　同上　　２ 第５講：アジアの地域区分 第６講：アジアの語源 第７講：アジアの多様性 第８講：民族の多様性 第９講：言語の多様性　　グループ発表① 第10講：宗教の多様性１　グループ発表② 第11講：　　同上　　２　グループ発表③ 第12講：中国近代史１ 第13講：　　同上　２ 第14講：　　同上　３ 第15講：　　同上　４　まとめ 定期試験 注　進度および授業内容はクラスの状況に応じて変更する場合があります。						
テキスト・教材（参考文献含む）	プリント教材（適宜教材を配布します）。						
事前・事後学習	毎回のテーマに関する内容を事前に調べ授業に臨んでください（９０分）。授業後は、学習内容の理解を定着させるために再度しっかり復習してください（９０分）。事前学習の内容については、毎回の授業終了時に連絡する予定です。						
成績評価方法	定期試験60%、課題レポート40%をもとに、総合的に評価します。 授業中もしくは授業後に寄せられた質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。						
授業内の課題・提出方法	授業中の課題は、Moodle、あるいは授業内に直接手渡しで提出すること。どちらの方法で提出するのかは、そのつど指示します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業中の課題や質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。						
担当者から一言	日頃からアジア地域・諸国に関心をよせながら、その歴史・文化・社会 に対する理解を深める取り組みをしていってください。なお、 遅刻、中座、飲食、私語、携帯の使用は原則禁止します。積極的な授業参加を期待しています。						

授業科目名	欧米文化論			科目コード	371409	授業コード	412501
担当教員	山本　伸			科目ナンバリング	ECF2006		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選　択
授業の位置づけ	本講義の狙いは、カリブ海地域の視点を基軸にヨーロッパ世界の文化や哲学、宗教観などを批判的に紐解きながら、福沢諭吉の「脱亜入欧」論を基盤に構築された近代日本の歪みを浮き彫りにし、ウクライナ問題やBLM問題に象徴されるような右傾化の激しい現代世界の課題と本来あるべき姿を考えます。						
授業のねらい	近代世界がヨーロッパ中心主義的な価値観のもとで構築されてきていることをまずは理解することが第一、そして、そのことを日本の我々自身が半ば無意識のうちに影響を受けて日常を過ごしていることを意識することが第二、最後は、では「いま、ここに」いる自身が今後世界とどう関わっていくかを考えること、この三つが目標となります。						
到達目標	正確な知識と的確な分析力から導き出される幅広い人間力を身につける。						
授業計画	第１講　ガイダンス、導入「本講義で学べること」 第２講　カリブ海地域における異文化コミュニケーション 第３講　歴史と教育① 第４講　社会・人種・アイデンティティー①／アフリカ系とインド系 第５講　社会・人種・アイデンティティー②／インド系内比較 第６講　社会・人種・アイデンティティー③／中国系 第７講　台湾映画『セデック・バレ』（前半） 第８講　台湾映画『セデック・バレ』（後半） 第９講　文化とコミュニティー／カーニバルと精神文化 第10講　文化と宗教 第11講　クレオリズムとグローカリズム①／ハイチのクレオリズム 第12講　クレオリズムとグローカリズム②／ジャマイカのグローカリズム 第13講　平和第14講　カリブ文学研究の現代的意義 第15講　まとめ						
テキスト・教材（参考文献含む）	山本　伸著『カリブ文学研究入門』（世界思想社）定価：1，500円（税込）						
事前・事後学習	前週に出された課題（テキストの熟読／わからない用語の検索等）に90分、学習した箇所の復習（テキストのおさらい／ノート整理等）に90分をそれぞれかけて準備学習をしてください。						
成績評価方法	平常点（積極的に授業を受けているか等の授業態度、確認テスト等）50%、レポート（期末試験）50%で総合的に判断します。						
授業内の課題・提出方法	メールへのWORDファイル添付。メールアドレスは、 yamamoto-s@tokaigakuen-u.ac.jp						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業内におけるフロアとの質疑のインターアクションをもってアクティブラーニングとする。						
担当者から一言	カリブ（およびアジア）の視点を通しての欧米文化について広く学ぶことになるので、これら三地域への関心を高め、さまざまなメディアツールを利用してバーチャルに異文化体験をしておくことが望まれます。						